

**広島市男女共同参画社会の実現に向けた
アンケート調査
報 告 書**

**令 和 7 年 3 月
広 島 市**

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の方法.....	1
3 回収状況.....	1
4 調査結果の見方.....	1
5 回答者の属性.....	2
II 調査結果	8
1 男女平等意識について	8
問 1 各分野での男女の地位の平等.....	8
2 仕事と家庭等の両立について	21
問 2 仕事と生活との望ましいバランス.....	21
問 2-2 自分自身の現状.....	25
問 3 男性が家事等に積極的に参加するために必要なこと.....	29
問 4 家庭における役割分担.....	31
問 5 1日の生活時間.....	35
問 6 育児や介護等に関する制度の認知度と利用状況	38
問 7 育児や介護等に関する制度の男性利用者が少ない理由.....	44
問 8 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと.....	46
3 就労について	48
問 9 現在の生活の経済的状況.....	48
問 9-2 現在の生活の経済的状況が苦しいと感じる理由.....	50
問 10 仕事と仕事以外の生活の両立における不安や悩み	52
問 11 仕事をやめた経験	54
問 11-2 仕事をやめた理由	57
問 11-3 仕事をやめた後の再就職	60
問 12 女性が働くことに関する考え方	62
問 13 女性の就労継続、再就職に必要なこと	64
問 14 職場における女性活躍 ^{かつやく} への取組	68
問 15 管理職 ^{しょうかく} への昇格 ^{しょうかく} 希望	70
問 15-2 管理職 ^{しょうかく} への昇格 ^{しょうかく} を希望しない理由	72
4 地域での男女共同参画について	74
問 16 地域活動での男女共同参画	74
問 17 地域活動における方針決定の場に女性が参画するために効果的なこと	76
問 18 男女共同参画の視点からの災害対応として日頃から行う必要があること	78
問 19 災害時の避難 ^{ひなんじょ} 所運営について必要なこと	80

5	配偶者などからの暴力の防止・被害者支援について	82
問 20	配偶者や交際相手に対しての暴力経験の有無	82
問 21	配偶者や交際相手からの暴力経験の有無	85
問 21-2	配偶者や交際相手から受けた暴力に対する相談	88
問 21-3	相談しなかった理由	90
問 22	配偶者や交際相手からの暴力を防止するために必要なこと	92
6	ハラスメントについて	94
問 23	ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無	94
7	生活状況について	98
問 24	家庭に関わる問題	98
問 25	健康に関する不安や問題	100
問 26	職場や学校、地域での人間関係に関わる問題	102
8	性の多様性について	104
問 27	LGBT（性的マイノリティ）の認知度	104
問 28	LGBTの方々への理解の促進や支援に対して必要な取組	106
9	女性の健康について	108
問 29	女性特有の健康課題に対して必要な取組	108
問 29-2	生理に関する理解の促進に必要な取組	110
10	男女共同参画社会の実現について	112
問 30	広島市男女共同参画推進センターの認知度	112
問 31	広島市男女共同参画推進センターの役割として期待すること	113
問 32	男女共同参画社会の実現のために広島市に期待すること	115
Ⅲ	自由意見	117
<参考資料>		
	調査票	125

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、男女共同参画に関する意識や実態について調査し、今後の施策を検討するための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の方法

(1) 調査地域

広島市全域

(2) 調査対象者及び標本抽出方法

市内に居住する 15 歳以上の者を対象として、住民記録システムのデータから 3,500 人を無作為抽出法により抽出した。

(3) 調査方法

郵送配布・郵送及びオンライン回収・無記名方式

(4) 調査期間

令和 7 年 1 月 8 日（水）から令和 7 年 1 月 27 日（月）まで

3 回収状況

(1) 調査票配布数 3,500 票

(2) 有効回収数 1,145 票 有効回収率 32.7%

4 調査結果の見方

(1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（%）で示してある。これらの数値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0% とならない場合がある。

(2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0% を超えることがある。

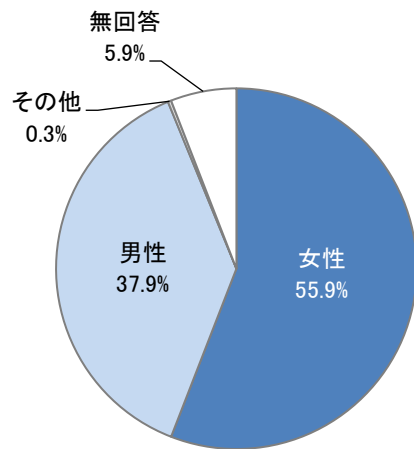
(3) 報告書中の図表では、表記の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

(4) 選択肢の中から回答可能数（「○印は 1 つ」等）を超えている場合は、「無回答」として集計した。

(5) 自由記述の回答は、趣旨を変えない範囲で要約し、記述している。

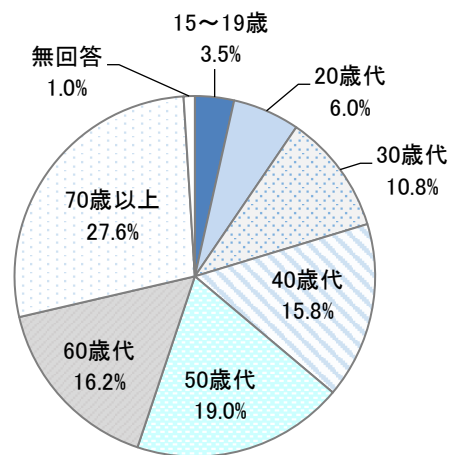
5 回答者の属性

(1) 性別



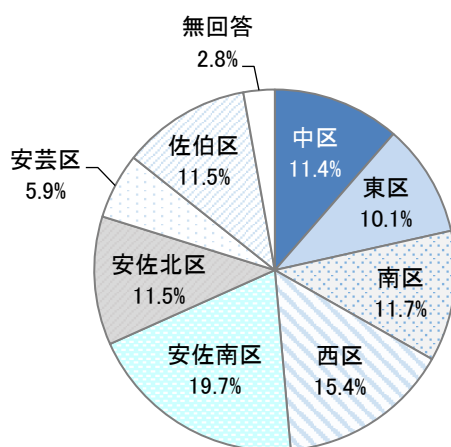
	人数	(%)
女性	640	55.9
男性	434	37.9
その他	3	0.3
無回答	68	5.9
合 計	1,145	100.0

(2) 年代



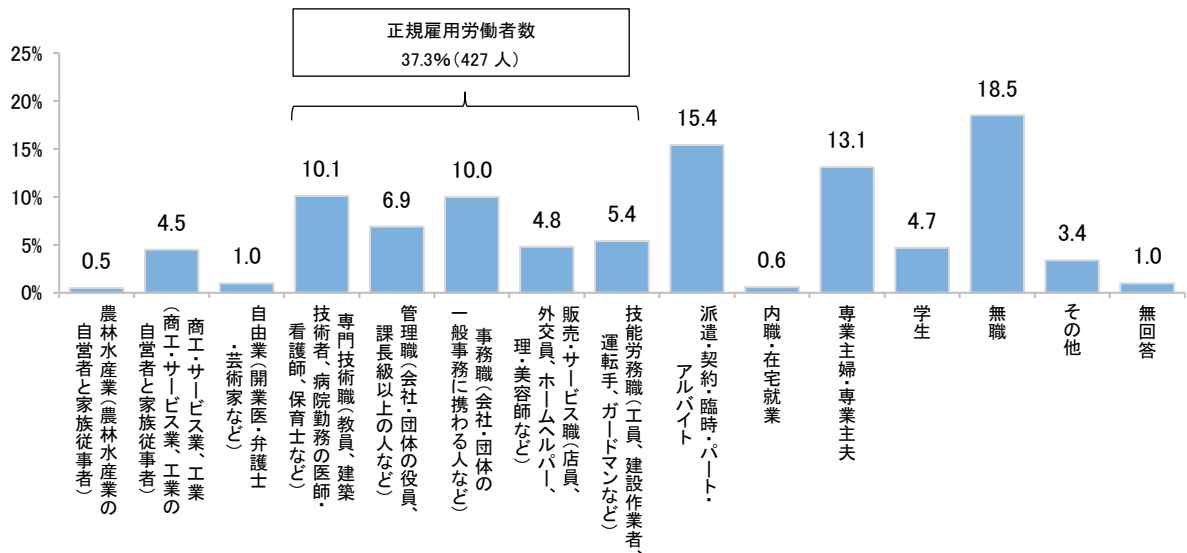
	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
15～19歳	40	3.5	23	3.6	16	3.7
20歳代	69	6.0	46	7.2	23	5.3
30歳代	124	10.8	76	11.9	48	11.1
40歳代	181	15.8	117	18.3	62	14.3
50歳代	218	19.0	128	20.0	89	20.5
60歳代	185	16.2	97	15.2	72	16.6
70歳以上	316	27.6	149	23.3	120	27.6
無回答	12	1.0	4	0.6	4	0.9
合 計	1,145	100.0	640	100.0	434	100.0

(3) 居住区



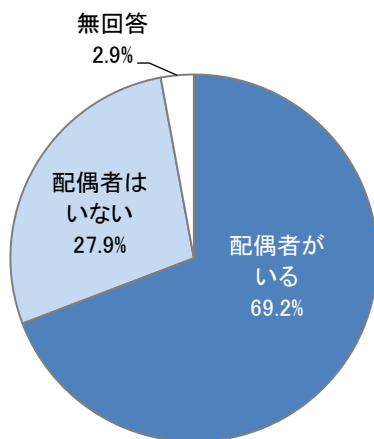
	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
中区	130	11.4	79	12.3	45	10.4
東区	116	10.1	77	12.0	35	8.1
南区	134	11.7	67	10.5	61	14.1
西区	176	15.4	101	15.8	70	16.1
安佐南区	225	19.7	127	19.8	84	19.4
安佐北区	132	11.5	67	10.5	55	12.7
安芸区	68	5.9	41	6.4	23	5.3
佐伯区	132	11.5	70	10.9	52	12.0
無回答	32	2.8	11	1.7	9	2.1
合 計	1,145	100.0	640	100.0	434	100.0

(4) 職業



	合 計	正規雇用労働者（内訳）									派遣・契約・臨時・パート・アルバイト	内職・在宅就業	専業主婦・専業主夫	学生	無職	その他	無回答
		農林水産業（農林水産業の自営者と家族従事者）	（商工・サービス業、工業の自営者と家族従事者）	自由業（開業医・弁護士・芸術家など）	正規雇用労働者 計	技術者、病院勤務の医師・看護師、保育士など	専門技術職（教員、建築・管理職（会社・団体の役員、課長級以上の人など）	事務職（会社・団体の一般事務に携わる人など）	販売・サービス職（店員、外交員、ホームヘルパー、理・美容師など）	技能労務職（工員、建設作業、運転手、ガードマンなど）							
全体	1,145	6	52	11	427	116	79	115	55	62	176	7	150	54	212	39	11
	100.0	0.5	4.5	1.0	37.3	10.1	6.9	10.0	4.8	5.4	15.4	0.6	13.1	4.7	18.5	3.4	1.0
女性	640	1	10	8	223	84	11	83	38	7	129	5	134	33	82	12	3
	100.0	0.2	1.6	1.3	34.8	13.1	1.7	13.0	5.9	1.1	20.2	0.8	20.9	5.2	12.8	1.9	0.5
男性	434	5	40	3	192	30	64	31	15	52	40	2	1	21	102	26	2
	100.0	1.2	9.2	0.7	44.2	6.9	14.7	7.1	3.5	12.0	9.2	0.5	0.2	4.8	23.5	6.0	0.5

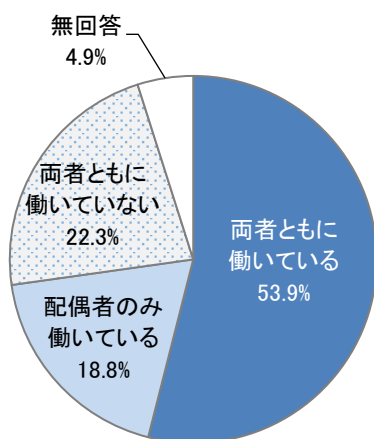
(5) 配偶者の有無



	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
配偶者がいる	792	69.2	428	66.9	322	74.2
配偶者がいない	320	27.9	193	30.2	106	24.4
無回答	33	2.9	19	3.0	6	1.4
合 計	1,145	100.0	640	100.0	434	100.0

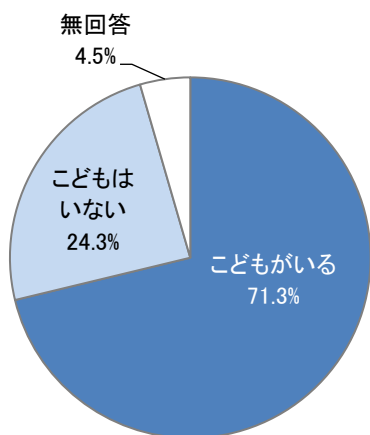
	女性														男性													
	15～19歳		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		15～19歳		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
配偶者がいる	1	4.3	11	23.9	48	63.2	98	83.8	96	75.0	78	80.4	94	63.1	—	0.0	5	21.7	38	79.2	49	79.0	63	70.8	61	84.7	102	85.0
配偶者がいない	21	91.3	34	73.9	26	34.2	17	14.5	31	24.2	17	17.5	46	30.9	16	100.0	17	73.9	10	20.8	12	19.4	25	28.1	9	12.5	17	14.2
無回答	1	4.3	1	2.2	2	2.6	2	1.7	1	0.8	2	2.1	9	6.0	—	0.0	1	4.3	—	0.0	1	1.6	1	1.1	2	2.8	1	0.8
合 計	23	100.0	46	100.0	76	100.0	117	100.0	128	100.0	97	100.0	149	100.0	16	100.0	23	100.0	48	100.0	62	100.0	89	100.0	72	100.0	120	100.0

(5) - 2 就労状況（配偶者がいる方のみ回答）



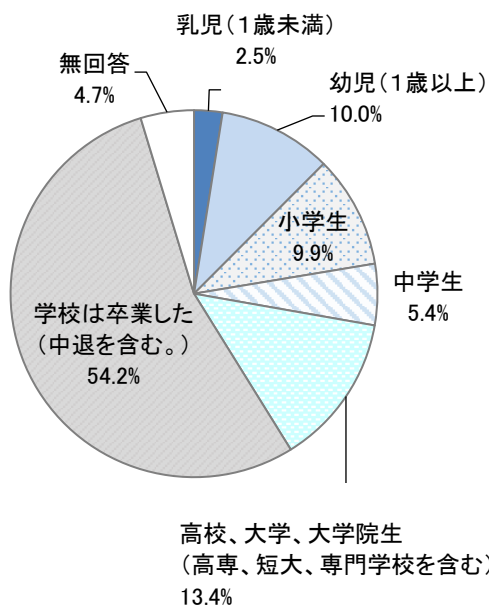
	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
両者ともに働いている	427	53.9	250	58.4	164	50.9
配偶者のみ働いている	149	18.8	81	18.9	63	19.6
両者ともに働いていない	177	22.3	87	20.3	69	21.4
無回答	39	4.9	10	2.3	26	8.1
合 計	792	100.0	428	100.0	322	100.0

(6) こどもの有無



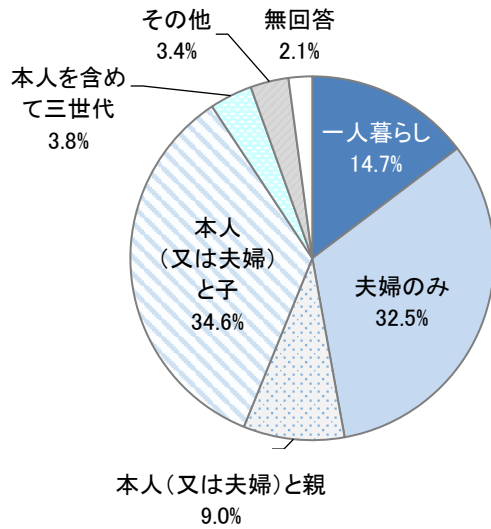
	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
こどもがいる	816	71.3	445	69.5	315	72.6
こどもはいない	278	24.3	166	25.9	104	24.0
無回答	51	4.5	29	4.5	15	3.5
合 計	1,145	100.0	640	100.0	434	100.0

(6) - 2 一番下のこどもの状況（こどもがいる方のみ回答）



	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
乳児（1歳未満）	20	2.5	7	1.6	13	4.1
幼児（1歳以上）	82	10.0	48	10.8	33	10.5
小学生	81	9.9	50	11.2	31	9.8
中学生	44	5.4	31	7.0	12	3.8
高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む）	109	13.4	57	12.8	46	14.6
学校は卒業した（中退を含む。）	442	54.2	225	50.6	172	54.6
無回答	38	4.7	27	6.1	8	2.5
合 計	816	100.0	445	100.0	315	100.0

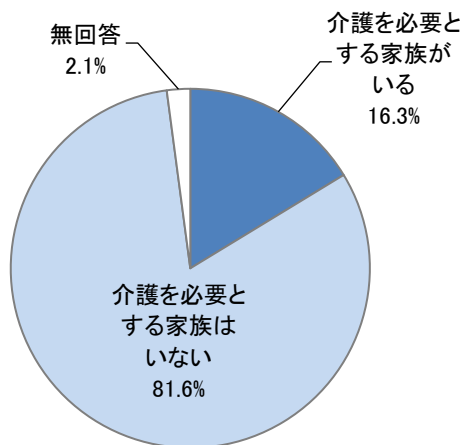
(7) 家族構成



	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
一人暮らし	168	14.7	91	14.2	63	14.5
夫婦のみ	372	32.5	190	29.7	153	35.3
本人(又は夫婦)と親	103	9.0	66	10.3	36	8.3
本人(又は夫婦)と子	396	34.6	237	37.0	141	32.5
本人を含めて三世代	43	3.8	26	4.1	16	3.7
その他	39	3.4	19	3.0	18	4.1
無回答	24	2.1	11	1.7	7	1.6
合 計	1,145	100.0	640	100.0	434	100.0

	女性														男性													
	15～19歳		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		15～19歳		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
一人暮らし	-	0.0	10	21.7	8	10.5	5	4.3	19	14.8	14	14.4	34	22.8	1	6.3	8	34.8	4	8.3	9	14.5	18	20.2	9	12.5	14	11.7
夫婦のみ	-	0.0	5	10.9	9	11.8	14	12.0	43	33.6	47	48.5	71	47.7	-	0.0	1	4.3	4	8.3	6	9.7	17	19.1	43	59.7	79	65.8
本人(又は夫婦)と親	12	52.2	22	47.8	8	10.5	7	6.0	8	6.3	8	8.2	1	0.7	10	62.5	8	34.8	3	6.3	6	9.7	6	6.7	2	2.8	1	0.8
本人(又は夫婦)と子	-	0.0	4	8.7	44	57.9	83	70.9	51	39.8	23	23.7	31	20.8	-	0.0	3	13.0	31	64.6	37	59.7	36	40.4	13	18.1	20	16.7
本人を含めて三世代	2	8.7	1	2.2	2	2.6	5	4.3	6	4.7	2	2.1	8	5.4	-	0.0	-	0.0	3	6.3	2	3.2	6	6.7	3	4.2	2	1.7
その他	7	30.4	4	8.7	5	6.6	1	0.9	1	0.8	1	1.0	-	0.0	5	31.3	3	13.0	3	6.3	1	1.6	5	5.6	1	1.4	-	0.0
無回答	2	8.7	-	0.0	-	0.0	2	1.7	-	0.0	2	2.1	4	2.7	-	0.0	-	0.0	-	0.0	1	1.6	1	1.1	1	1.4	4	3.3
合 計	23	100.0	46	100.0	76	100.0	117	100.0	128	100.0	97	100.0	149	100.0	18	100.0	23	100.0	48	100.0	62	100.0	89	100.0	72	100.0	120	100.0

(8) 介護を必要とする家族の有無



	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
介護を必要とする家族がいる	187	16.3	110	17.2	67	15.4
介護を必要とする家族はいない	934	81.6	519	81.1	361	83.2
無回答	24	2.1	11	1.7	6	1.4
合 計	1,145	100.0	640	100.0	434	100.0

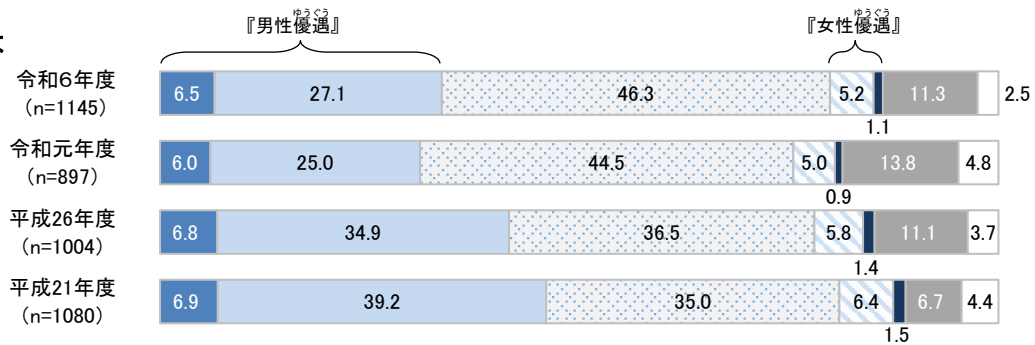
Ⅱ 調 査 結 果

Ⅱ 調査結果

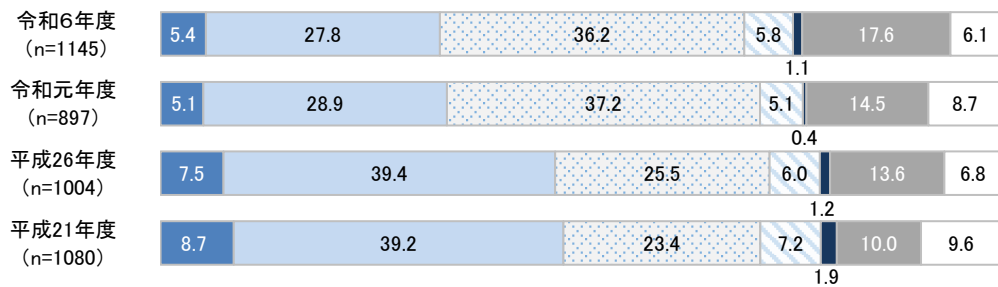
1 男女平等意識について

問1 あなたは次のような場で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧の各々についてお答えください。(○印は1つつ)

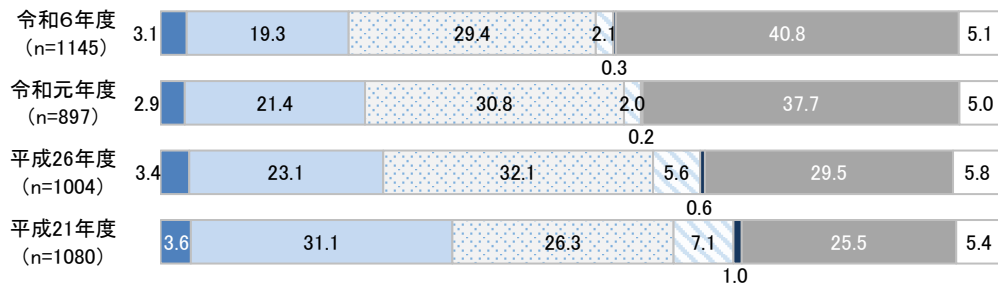
① 家庭では



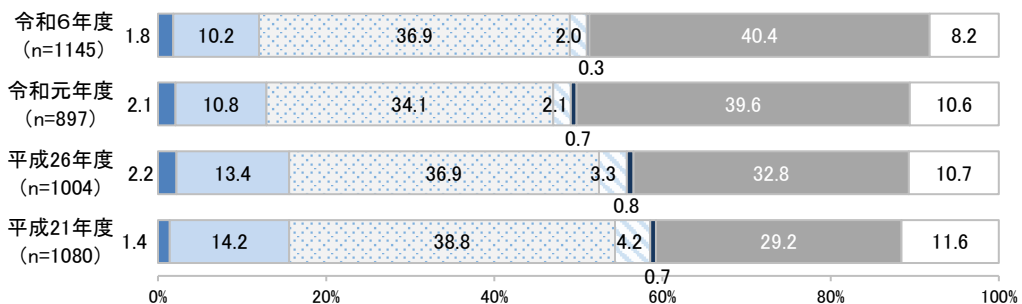
② 職場では



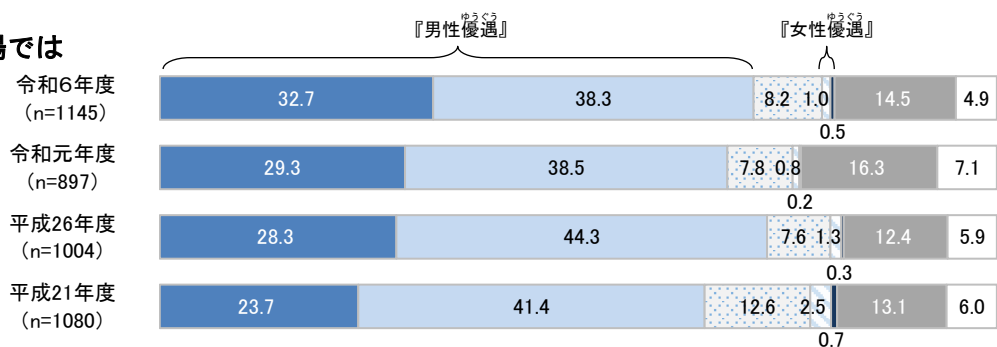
③ 地域活動では



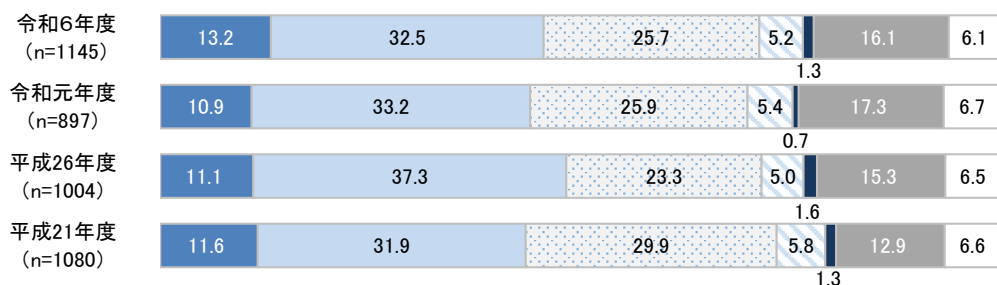
④ 学校教育の場では



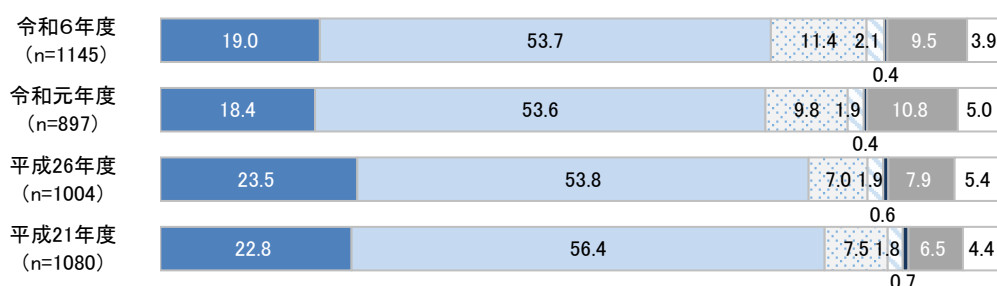
⑤ 政治の場では



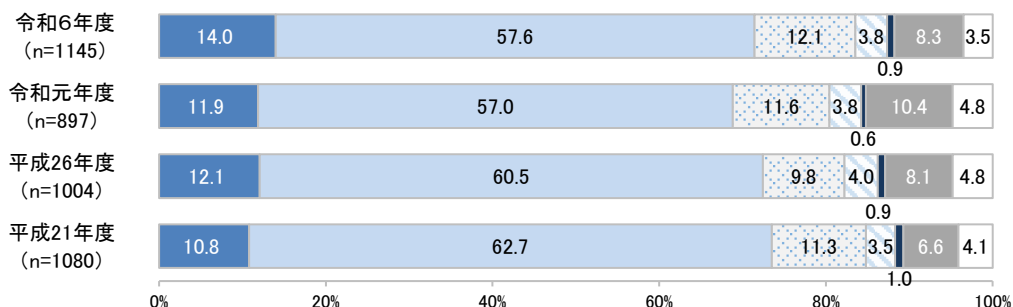
⑥ 法律や制度の上では



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは



⑧ 社会全体では

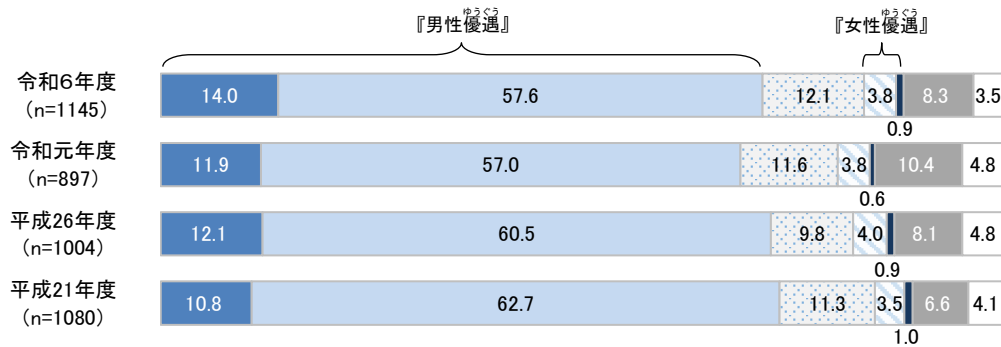


各分野での男女の地位の平等について、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）との回答は「政治の場(71.0%)」、「社会通念・慣習・しきたりなど(72.7%)」、「社会全体(71.6%)」で7割以上となっている。また、「平等」との回答は「家庭」が最も高く46.3%となっている。

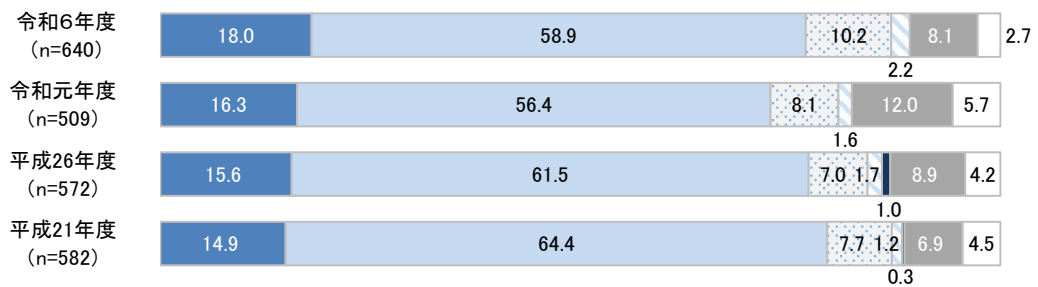
経年比較すると、「職場」「地域活動」「学校教育の場」で『男性優遇』と回答した割合は、平成26年度調査以降減少傾向にある。

【社会全体での男女の地位の平等（性別）】

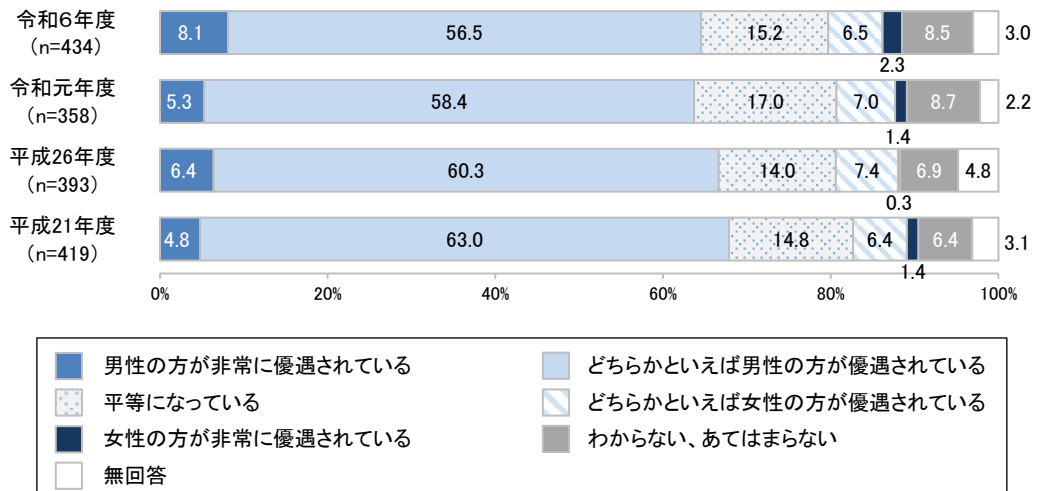
（全体）



（女性）



（男性）



社会全体での男女の地位の平等について、『男性優遇』との回答は71.6%、『女性優遇』（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた割合）との回答は4.7%となっている。

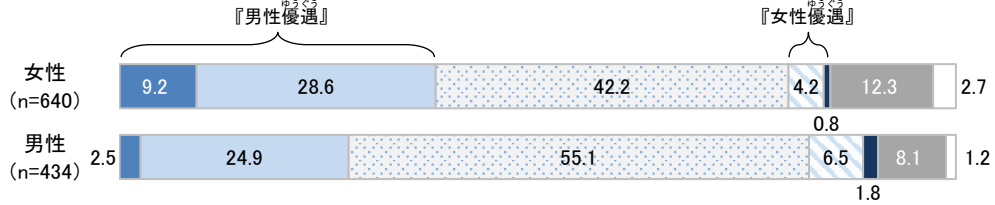
経年比較すると、『男性優遇』と回答した割合は令和元年度まで減少傾向にあったが、今回調査では2.7ポイント、令和元年度調査を上回っている。

性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性（76.9%）が男性（64.6%）を12.3ポイント上回っている。

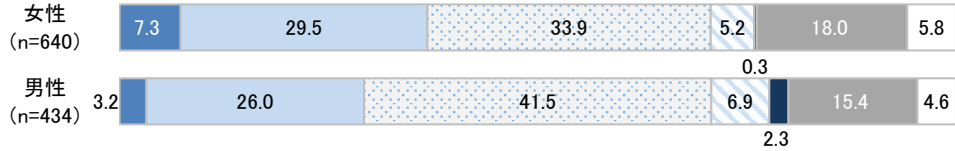
男女それぞれについて経年比較すると、男女ともに『男性優遇』と回答した割合は令和元年度まで減少傾向にあったが、今回調査では女性が4.2ポイント、男性が0.9ポイント、令和元年度調査を上回っている。

【各分野での男女の地位の平等（性別）】

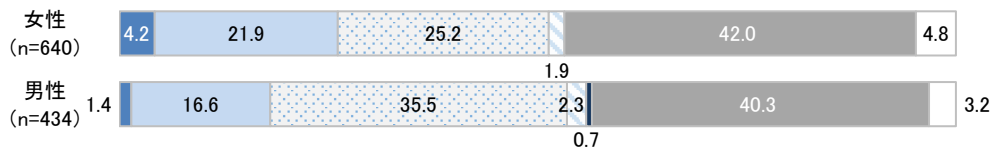
① 家庭では



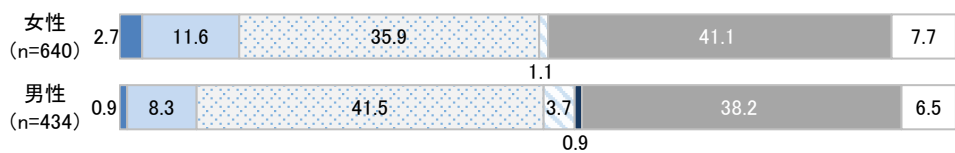
② 職場では



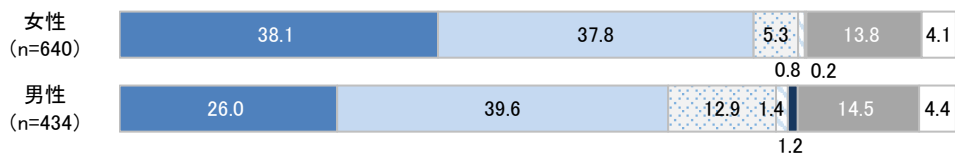
③ 地域活動では



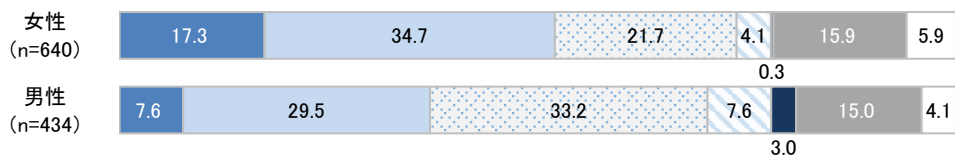
④ 学校教育の場では



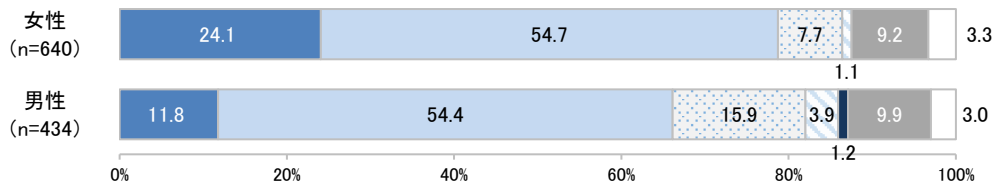
⑤ 政治の場では



⑥ 法律や制度の上では

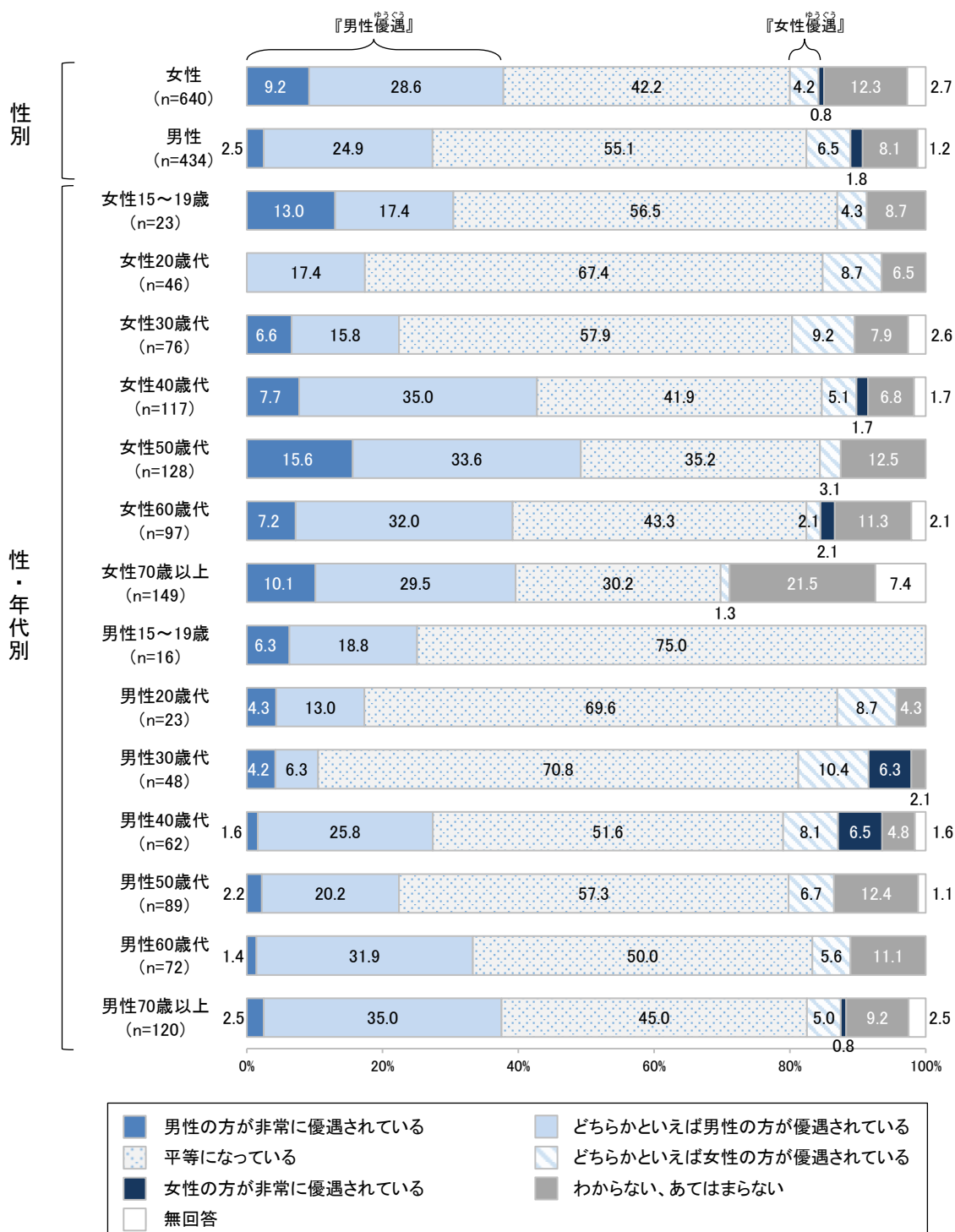


⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは



各分野での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は全ての分野で女性が男性を上回っており、「家庭」で 10.4 ポイント、「政治の場」で 10.3 ポイント、「法律や制度の上」で 14.9 ポイント、「社会通念・慣習・しきたりなど」で 12.6 ポイント、それぞれ上回っている。

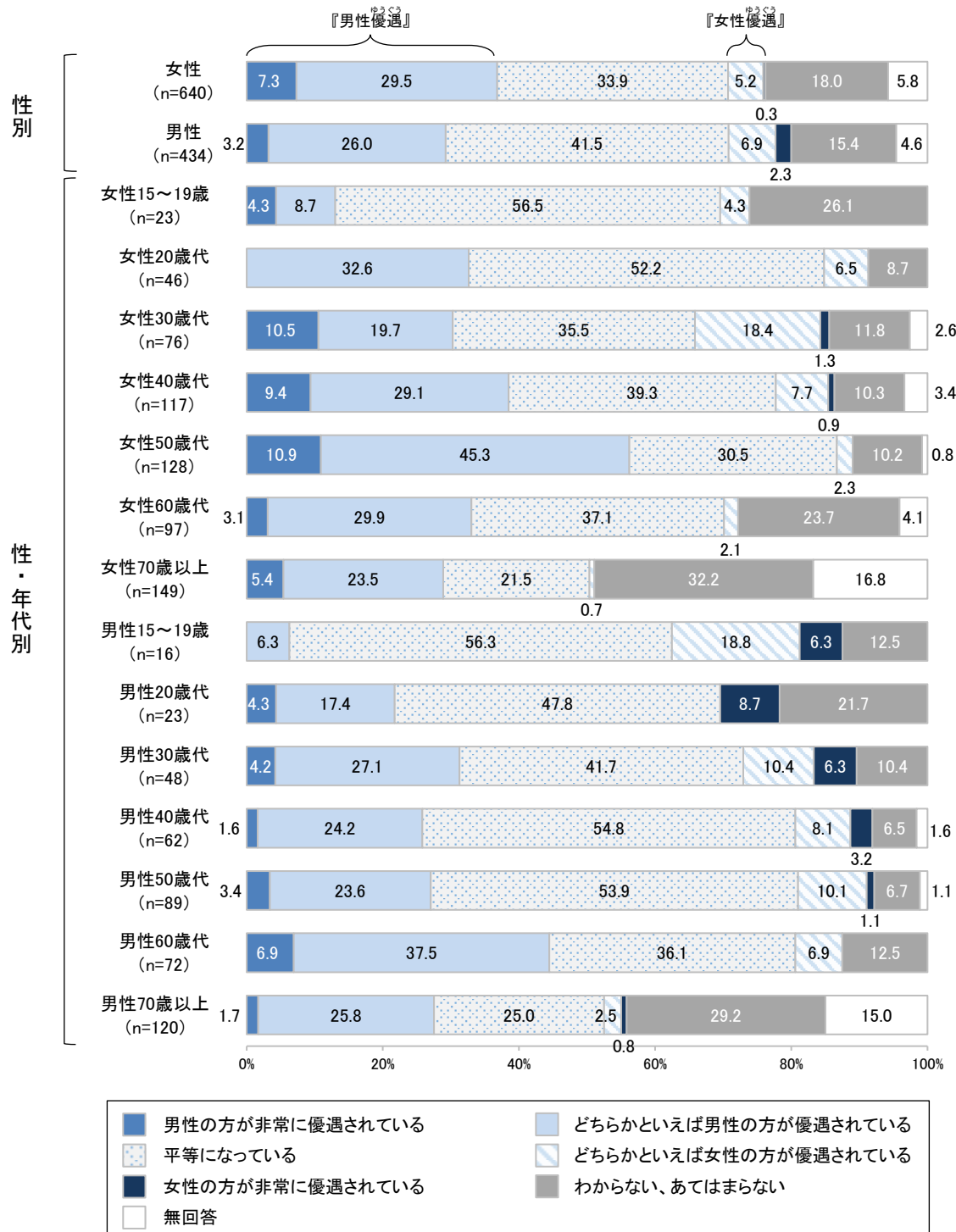
【① 家庭での男女の地位の平等（性別、性・年代別）】



①家庭での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性 (37.8%) が男性 (27.4%) を 10.4 ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性 50 歳代 (49.2%) が最も高く、次いで女性 40 歳代 (42.7%)、女性 70 歳以上 (39.6%) の順となっている。また、「平等になっている」と回答した割合は男性 15 歳～19 歳 (75.0%) が最も高く、次いで男性 30 歳代 (70.8%)、男性 20 歳代 (69.6%) の順となっている。

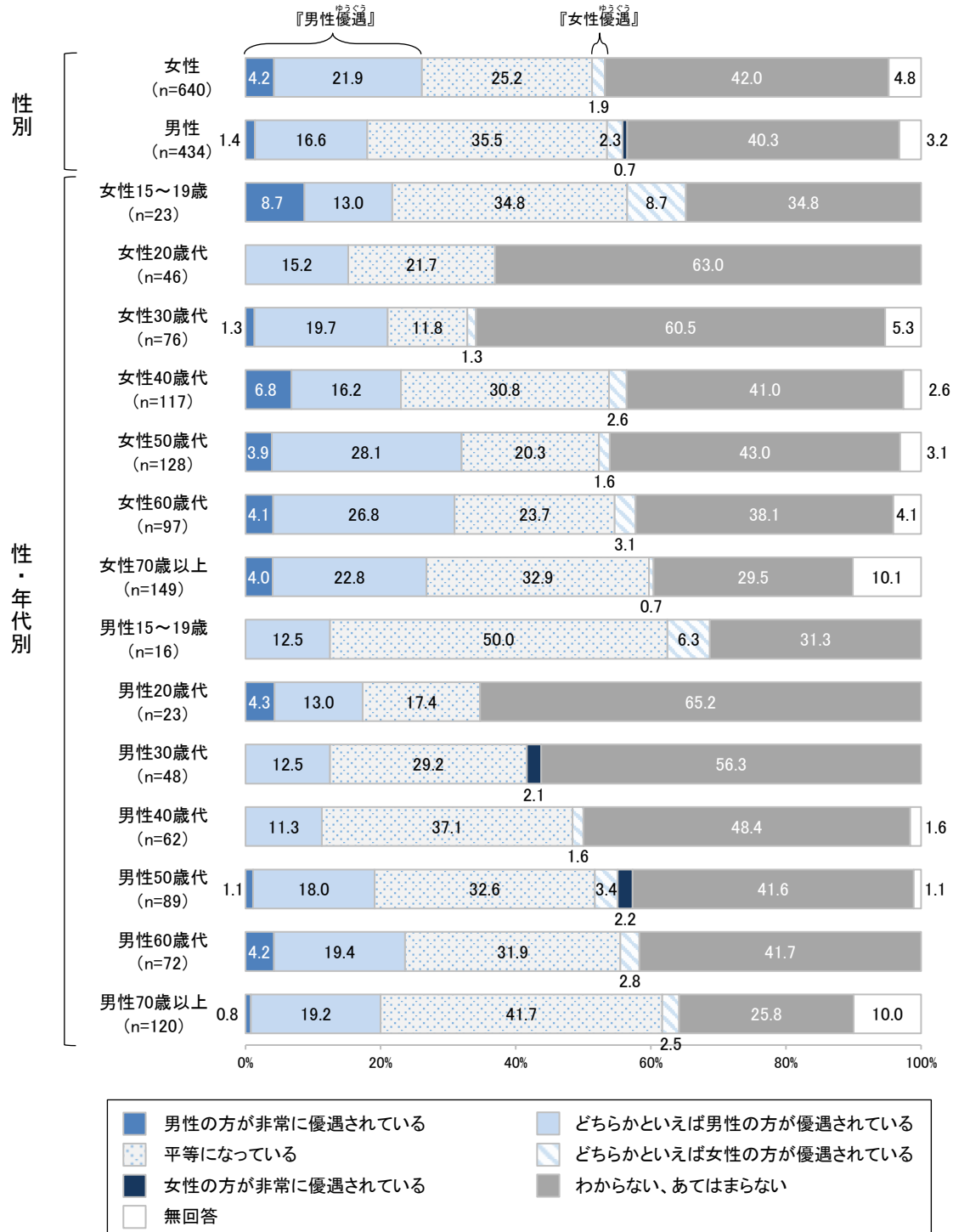
【②職場での男女の地位の平等（性別、性・年代別）】



②職場での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性(36.8%)が男性(29.2%)を7.6ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性50歳代(56.2%)が最も高く、次いで男性60歳代(44.4%)、女性40歳代(38.5%)の順となっている。また、「平等になっている」と回答した割合は女性15歳～19歳(56.5%)が最も高く、次いで男性15～19歳(56.3%)、男性40歳代(54.8%)の順となっている。

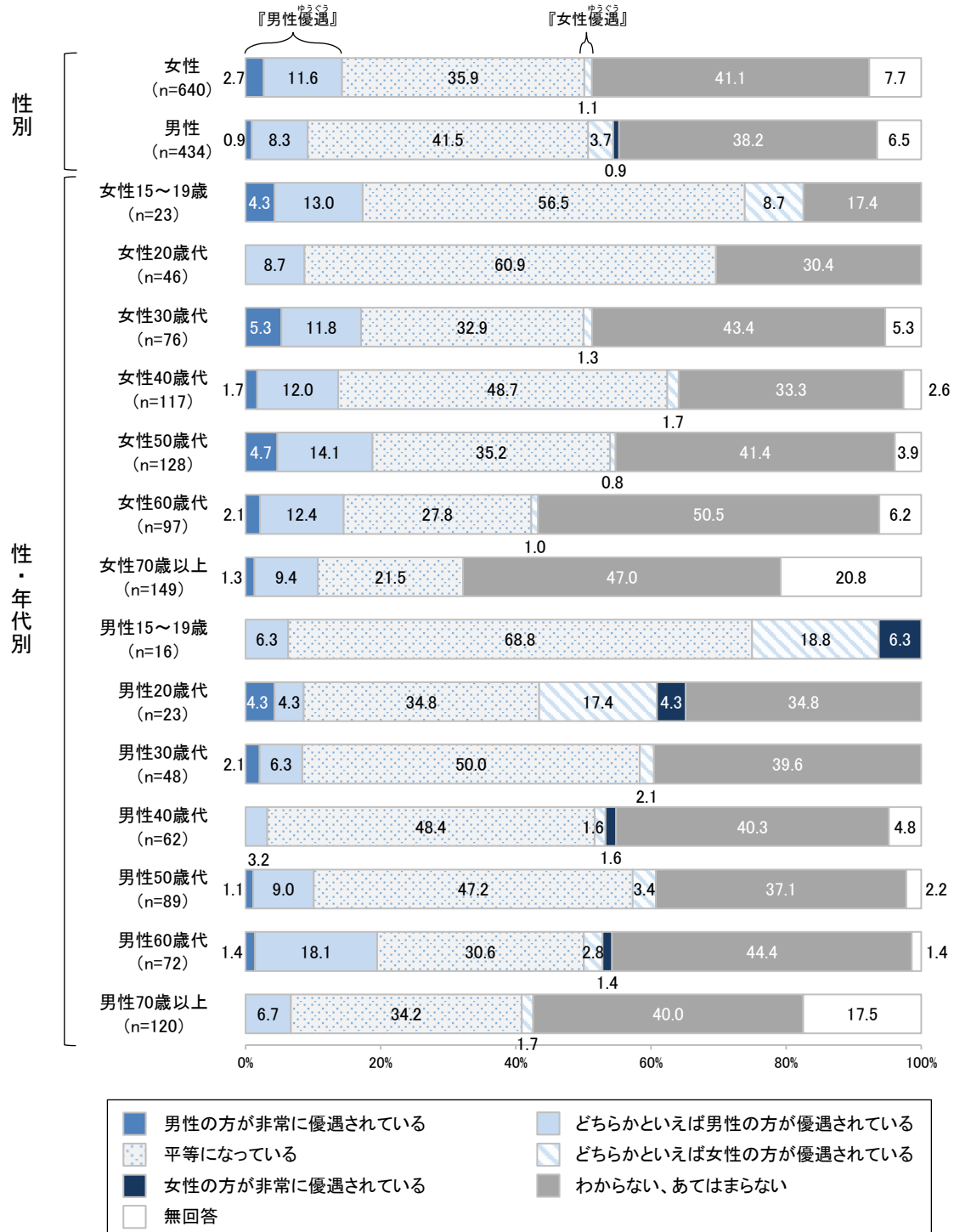
【③地域活動での男女の地位の平等（性別、性・年代別）】



③地域活動での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性（26.1%）が男性（18.0%）を8.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性50歳代（32.0%）が最も高く、次いで女性60歳代（30.9%）、女性70歳以上（26.8%）の順となっている。また、「平等になっている」と回答した割合は男性15歳～19歳（50.0%）が最も高く、次いで男性70歳以上（41.7%）、男性40歳代（37.1%）の順となっている。

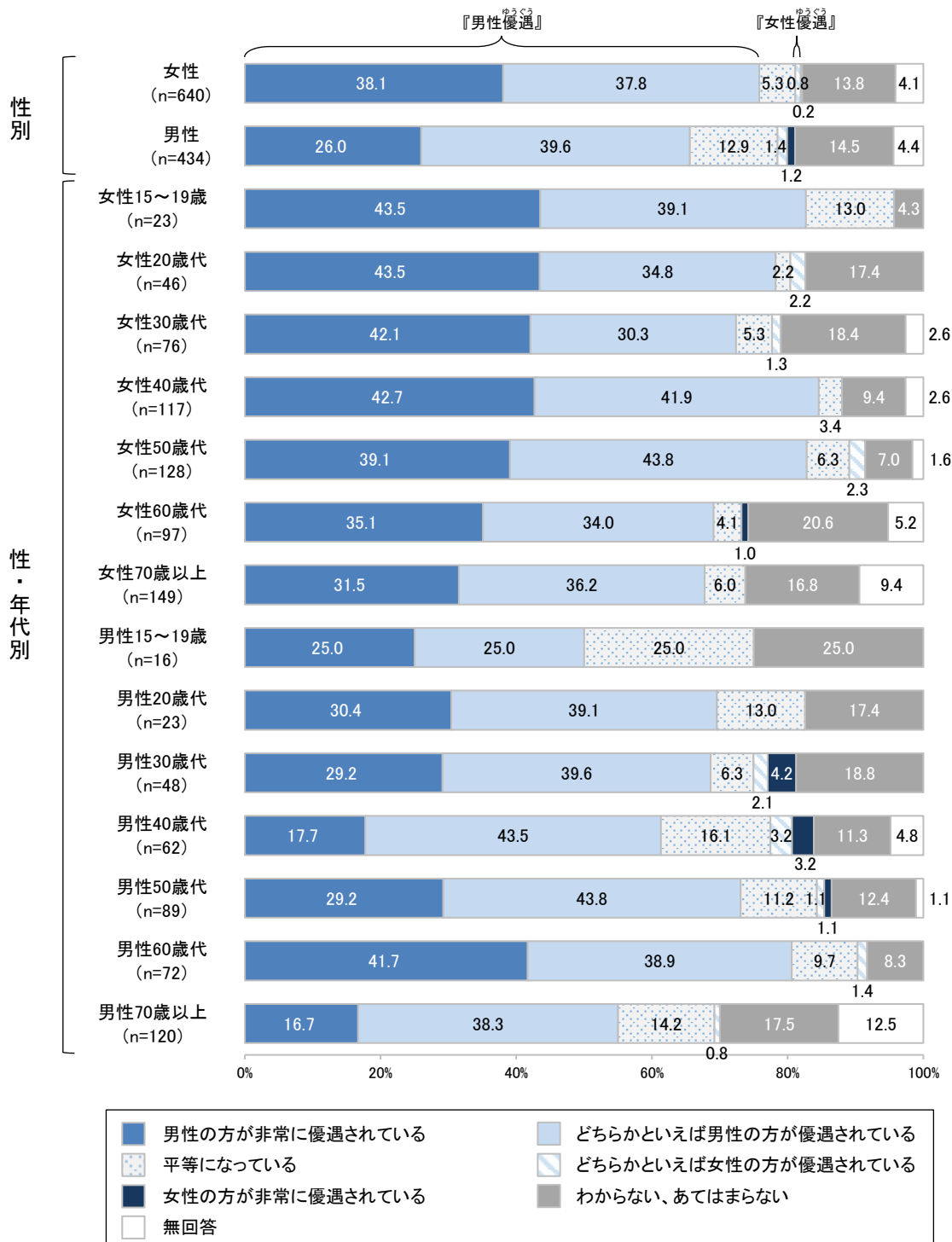
【④学校教育の場での男女の地位の平等（性別、性・年代別）】



④学校教育の場での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性（14.3%）が男性（9.2%）を5.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は男性60歳代（19.5%）が最も高く、次いで女性50歳代（18.8%）、女性30歳代（17.1%）の順となっている。また、「平等になっている」と回答した割合は男性15～19歳（68.8%）が最も高く、次いで女性20歳代（60.9%）、女性15～19歳（56.5%）の順となっている。

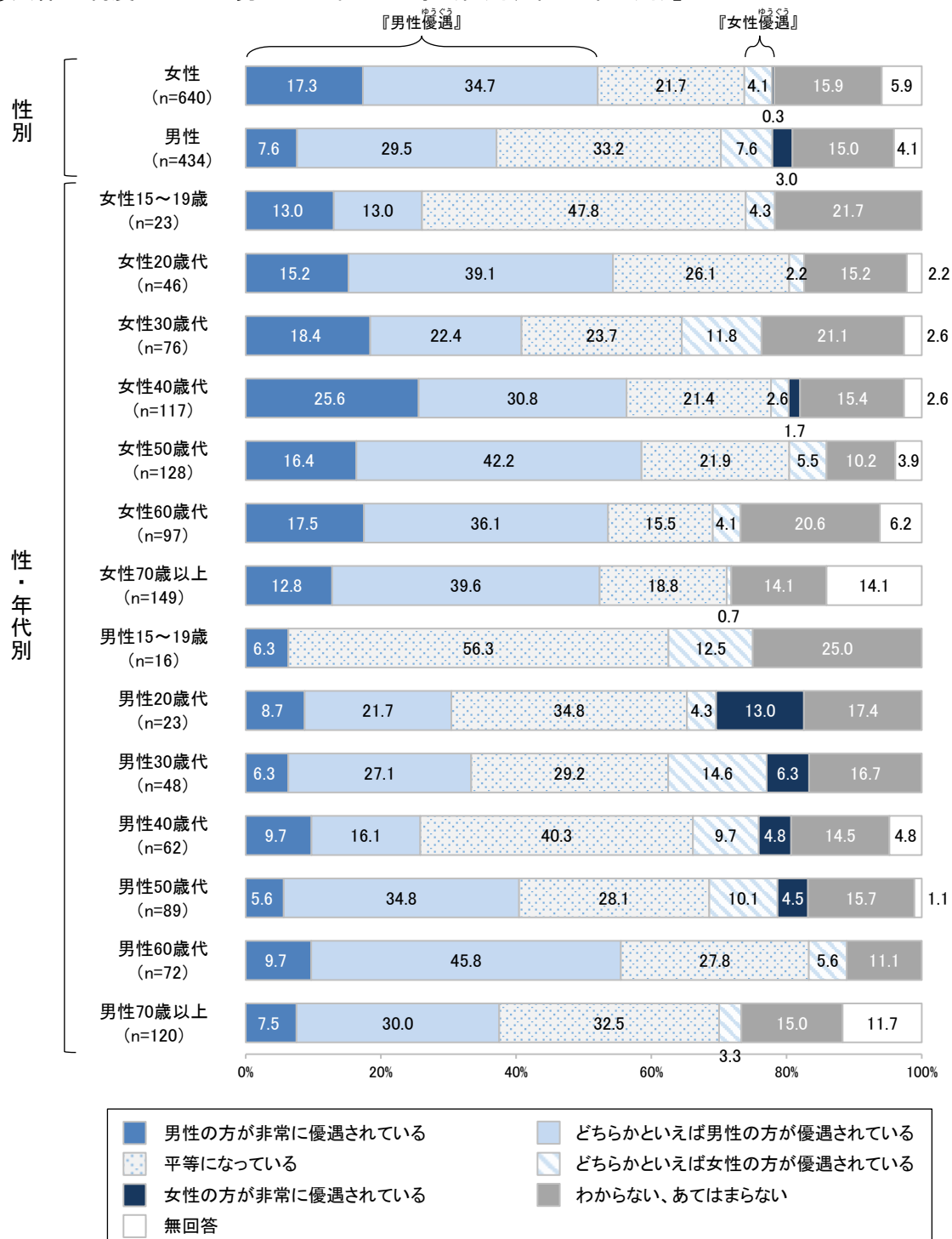
【⑤政治の場での男女の地位の平等（性別、性・年代別）】



⑤政治の場での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性（75.9%）が男性（65.6%）を10.3ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性40歳代（84.6%）が最も高く、次いで女性50歳代（82.9%）、女性15～19歳（82.6%）の順となっている。また、「平等になっている」と回答した割合は男性15～19歳（25.0%）が最も高く、次いで男性40歳代（16.1%）、男性70歳以上（14.2%）の順となっている。

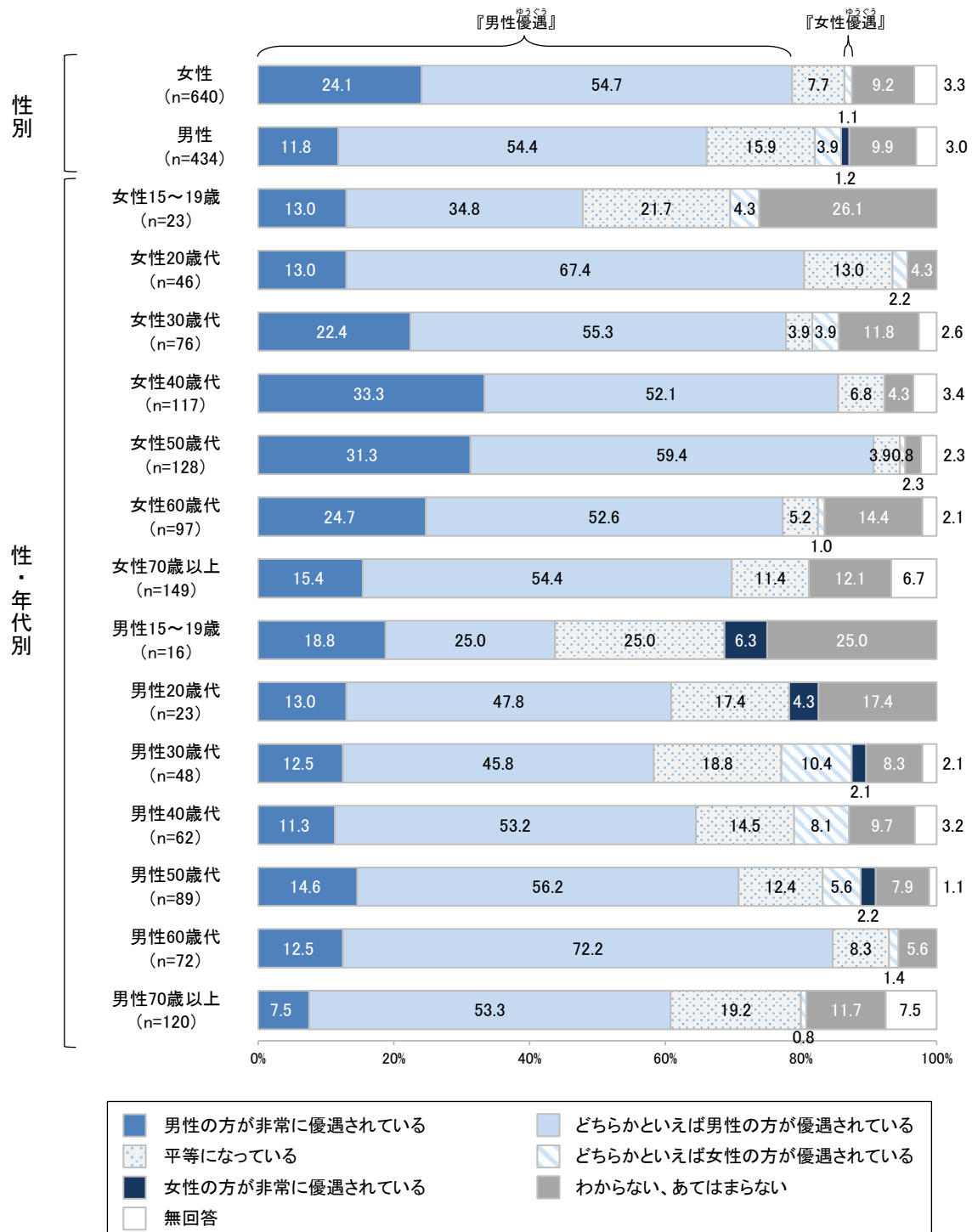
【⑥法律や制度の上での男女の地位の平等（性別、性・年代別）】



⑥法律や制度の上での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性（52.0%）が男性（37.1%）を14.9ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性 50 歳代(58.6%)が最も高く、次いで女性 40 歳代(56.4%)、男性 60 歳代(55.5%)の順となっている。また、「平等になっている」と回答した割合は男性 15～19 歳(56.3%)が最も高く、次いで女性 15～19 歳(47.8%)、男性 40 歳代(40.3%)の順となっている。

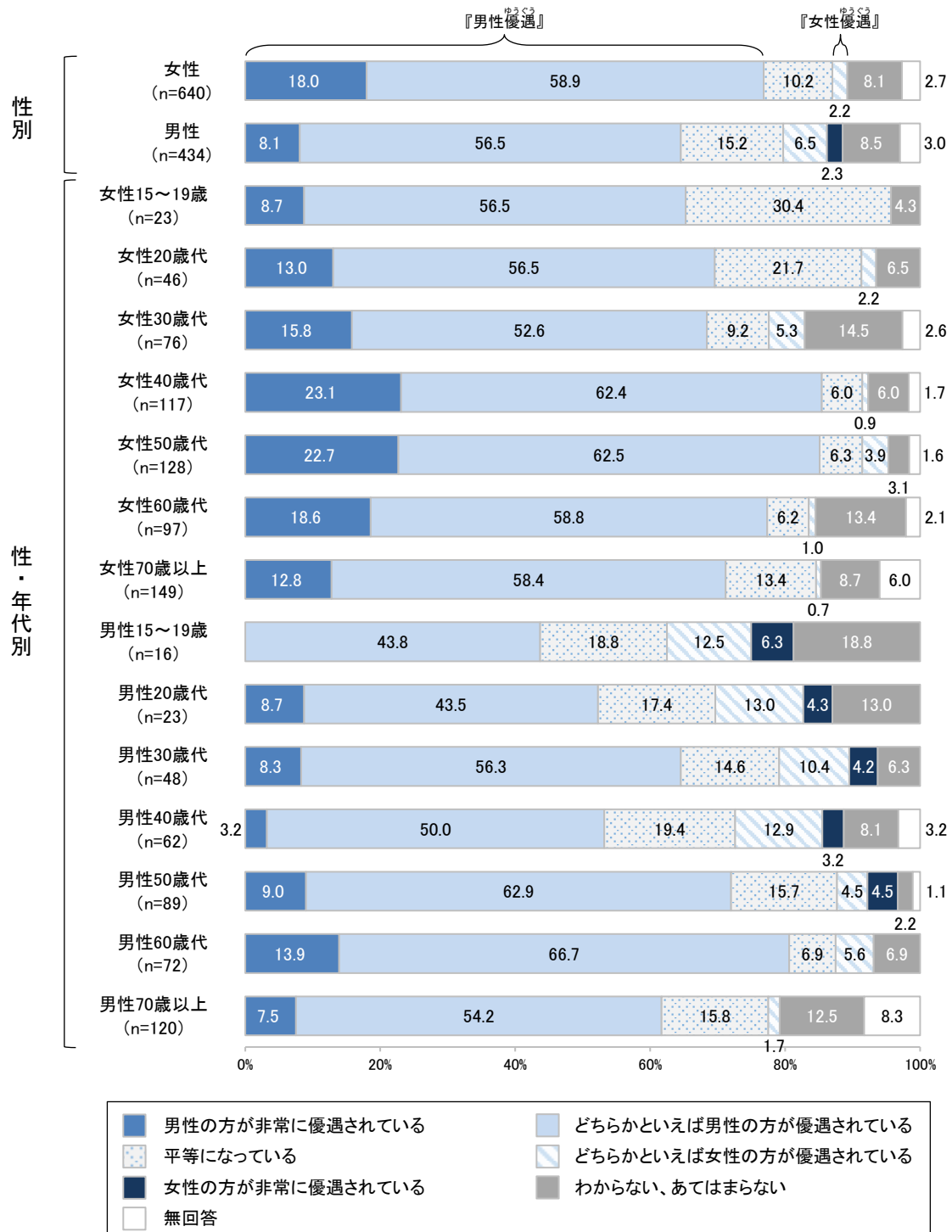
【⑦社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等（性別、性・年代別）】



⑦社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性（78.8%）が男性（66.2%）を12.6ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性50歳代（90.7%）が最も高く、次いで女性40歳代（85.4%）、男性60歳代（84.7%）の順となっている。また、「平等になっている」と回答した割合は男性15～19歳（25.0%）が最も高く、次いで女性15～19歳（21.7%）、男性70歳以上（19.2%）の順となっている。

【⑧社会全体での男女の地位の平等（性別、性・年代別）】

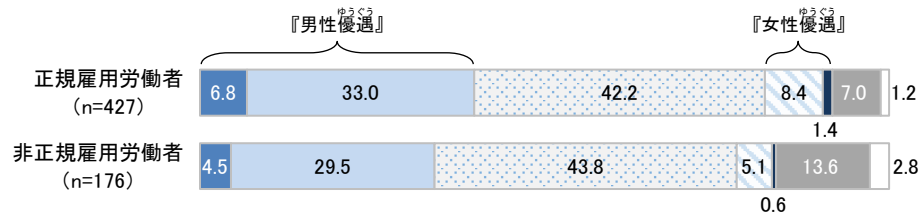


⑧社会全体での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性（76.9%）が男性（64.6%）を12.3ポイント上回っている。

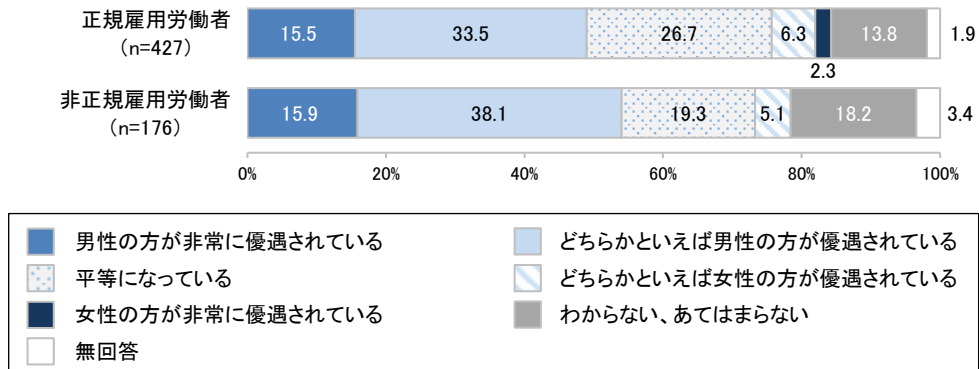
性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性40歳代（85.5%）が最も高く、次いで女性50歳代（85.2%）、男性60歳代（80.6%）の順となっている。また、「平等になっている」と回答した割合は女性15～19歳（30.4%）が最も高く、次いで女性20歳代（21.7%）、男性40歳代（19.4%）の順となっている。

【各分野での男女の地位の平等（就労形態別）】

（職場では）



（法律や制度の上では）

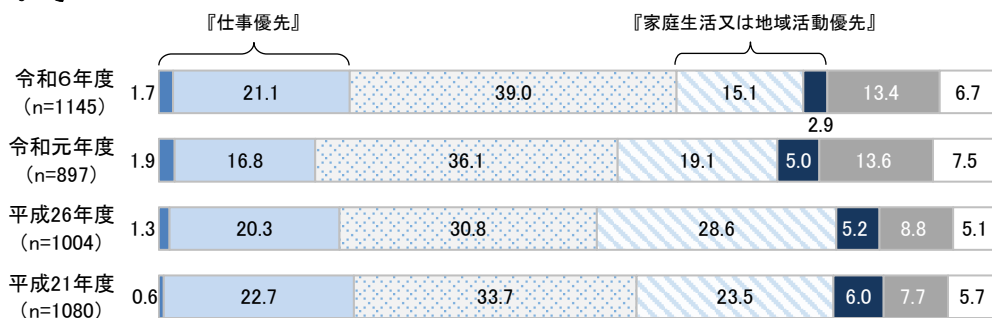


各分野での男女の地位の平等について、就労形態別にみると、『男性優遇』と回答した割合は「職場」では正規雇用労働者（39.8%）が非正規雇用労働者（34.0%）を5.8ポイント上回っている。一方、「法律や制度の上」では非正規雇用労働者（54.0%）が正規雇用労働者（49.0%）を5.0ポイント上回っている。

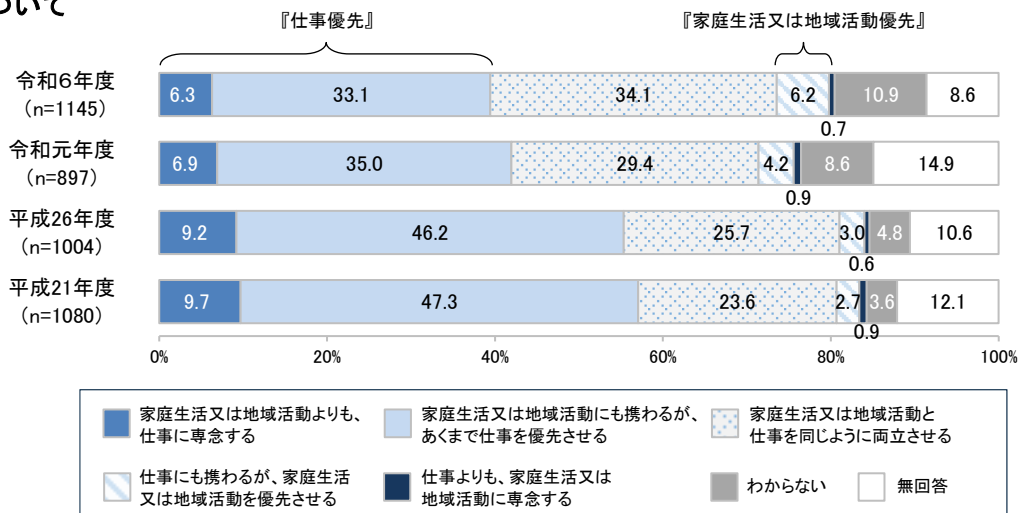
2 仕事と家庭等の両立について

問2 仕事との関係において、家庭生活又は町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。①女性について、および②男性について、それぞれお答えください。(〇印は1つずつ)

① 女性について



② 男性について

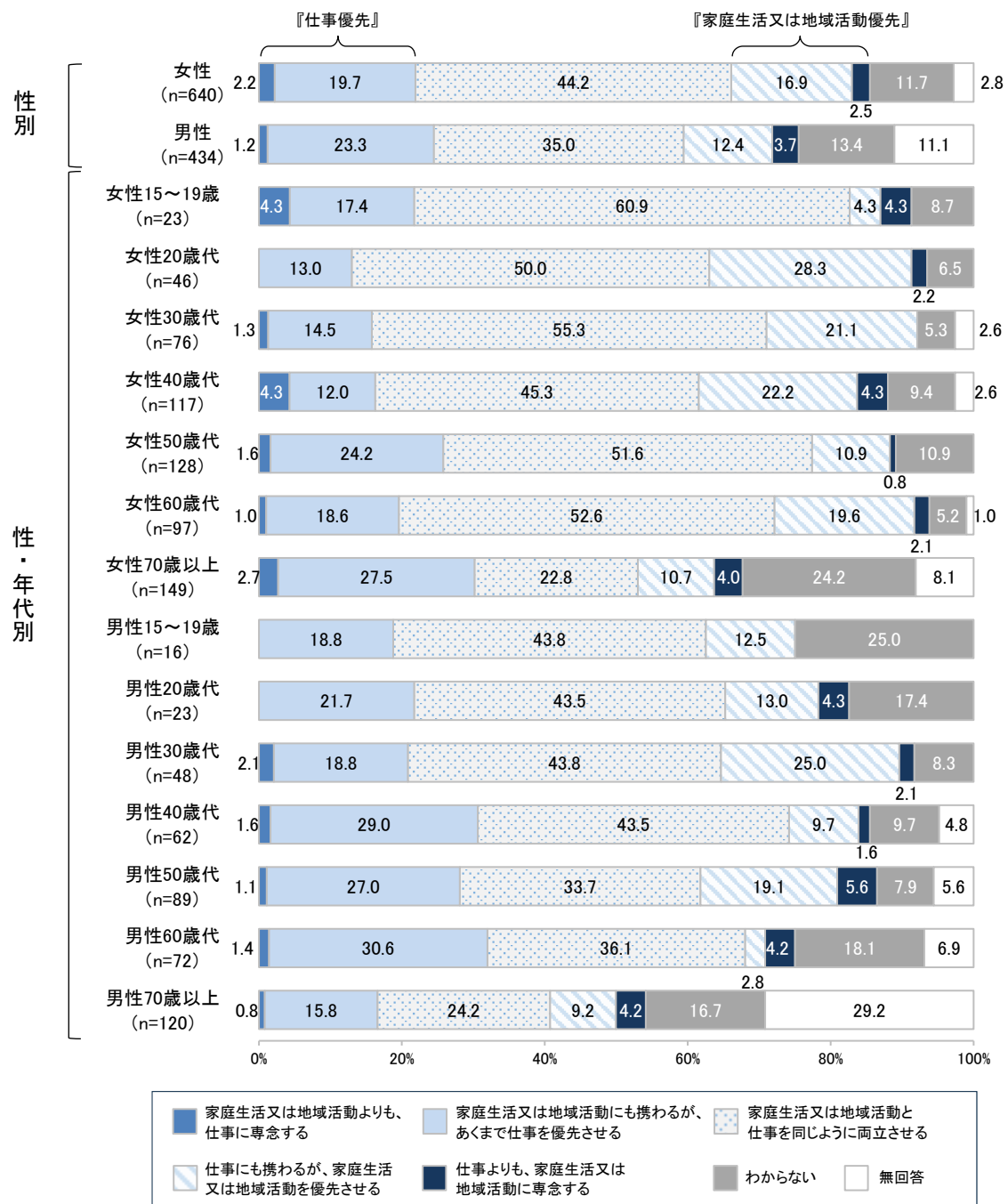


「①女性について」仕事と生活との望ましいバランスでは、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる（39.0%）」との回答が最も多く、次いで「家庭生活又は地域活動にも携^{たずさ}わるが、あくまで仕事を優先させる（21.1%）」、「仕事にも携^{たずさ}わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる（15.1%）」の順となっている。

「②男性について」仕事と生活との望ましいバランスでは、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる（34.1%）」との回答が最も多く、次いで「家庭生活又は地域活動にも携^{たずさ}わるが、あくまで仕事を優先させる（33.1%）」、「家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する（6.3%）」の順となっている。

経年比較すると、「①女性について」「②男性について」とともに「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合は平成26年度調査以降増加傾向にある。また「②男性について」では、『仕事優先』（「家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する」と「家庭生活又は地域活動にも携^{たずさ}わるが、あくまで仕事を優先させる」を合わせた割合）と回答した割合は、今回調査が令和元年度調査を2.5ポイント下回っており、平成26年度調査以降減少傾向にある。

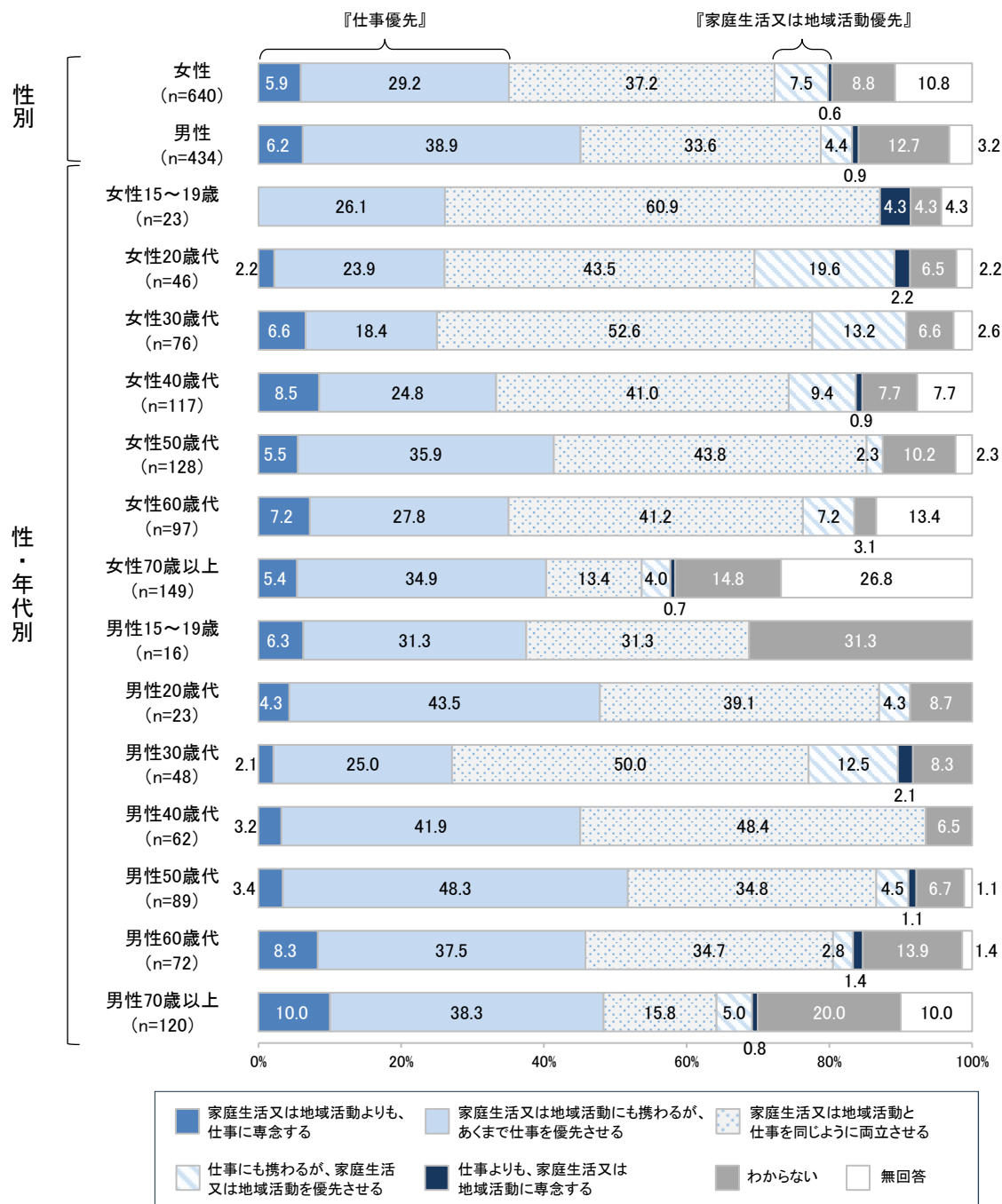
【仕事と生活との望ましいバランス ①女性について（性別、性・年代別）】



「①女性について」仕事と生活との望ましいバランスでは、性別にみると、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合は女性（44.2%）が男性（35.0%）を9.2ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『仕事優先』と回答した割合は男性60歳代（32.0%）が最も高く、次いで男性40歳代（30.6%）、女性70歳以上（30.2%）の順となっている。また、『家庭生活又は地域活動優先』（「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」と「仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する」を合わせた割合）と回答した割合は女性20歳代（30.5%）が最も高く、次いで男性30歳代（27.1%）、女性40歳代（26.5%）の順となっている。

【仕事と生活との望ましいバランス ②男性について（性別、性・年代別）】

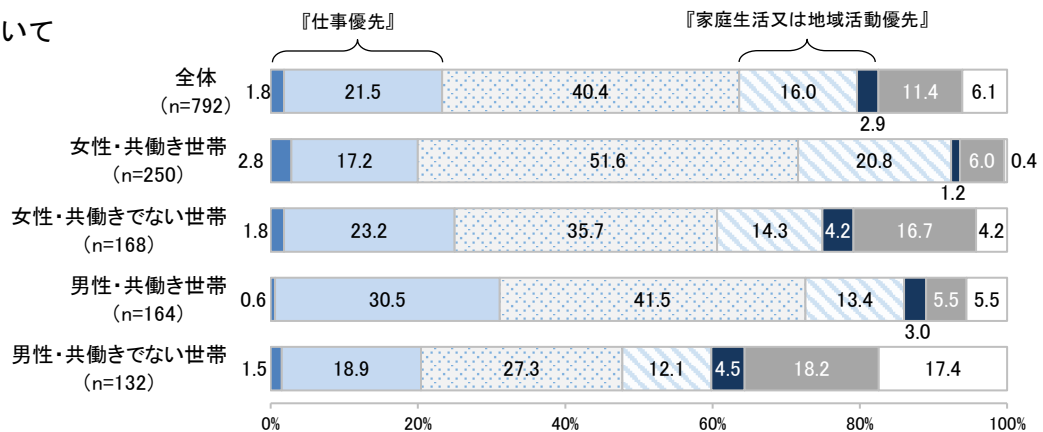


「②男性について」仕事と生活との望ましいバランスでは、性別にみると、『仕事優先』と回答した割合は男性（45.1%）が女性（35.1%）を10.0ポイント上回っている。

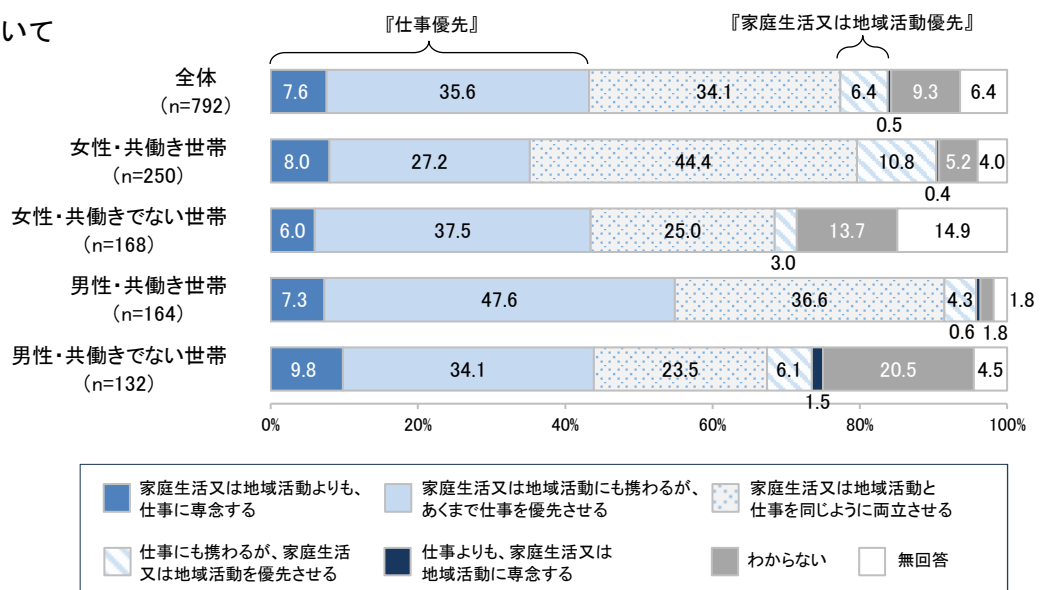
性・年代別にみると、『仕事優先』と回答した割合は男性50歳代（51.7%）が最も高く、次いで男性70歳以上（48.3%）、男性20歳代（47.8%）の順となっている。また、『家庭生活又は地域活動優先』と回答した割合は女性20歳代（21.8%）が最も高く、次いで男性30歳代（14.6%）、女性30歳代（13.2%）の順となっている。

【仕事と生活との望ましいバランス（性・就労状況別 ※配偶者がいる方のみ）】

① 女性について



② 男性について



女性の仕事と生活との望ましいバランスについて、性・就労状況別にみると、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合は女性・共働き世帯（51.6%）が最も高く、男性・共働き世代でない世帯（27.3%）を24.3ポイント上回っている。

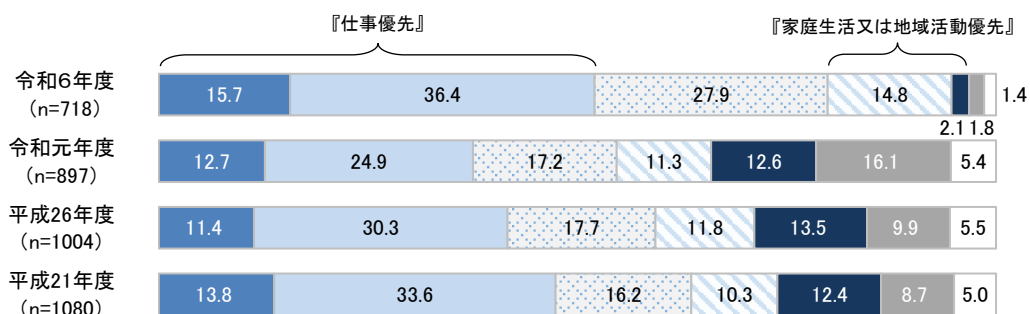
男性の仕事と生活との望ましいバランスについて、性・就労状況別にみると、『仕事優先』と回答した割合は男性・共働き世帯（54.9%）が最も高く、女性・共働き世帯（35.2%）を19.7ポイント上回っている。

(現在仕事をしている方におたずねします。)

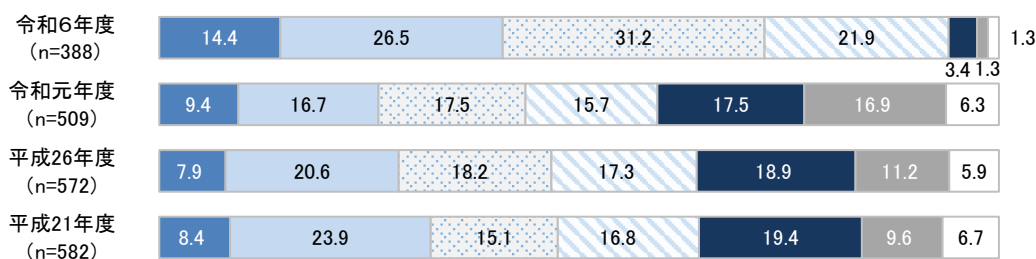
問 2-2 それでは、ご自身の現在の状況についてはいかがですか。(○印は1つ)

※令和元年度以前の調査では【現在仕事をしている方】に限定せずに回答する設問となっており、今回調査とは回答者の構成が大きく異なるため、経年の値については参考値として掲載している。

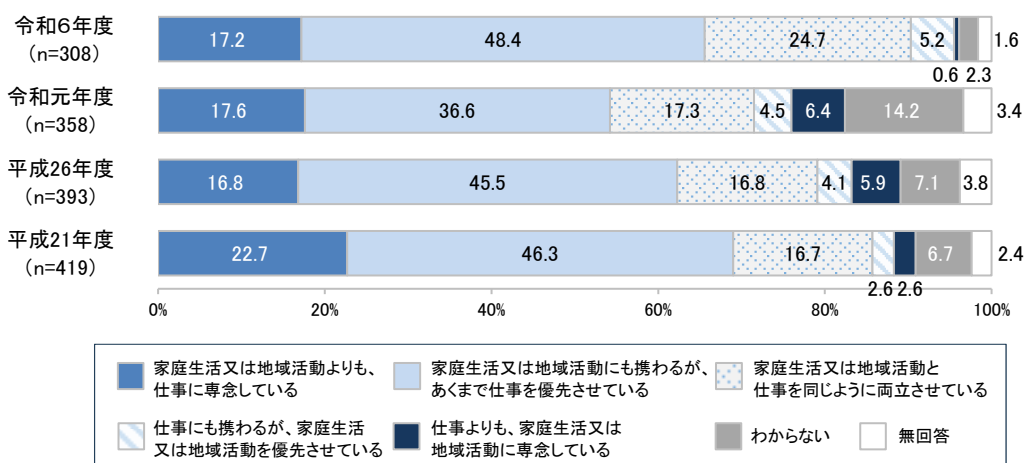
(全体)



(女性)

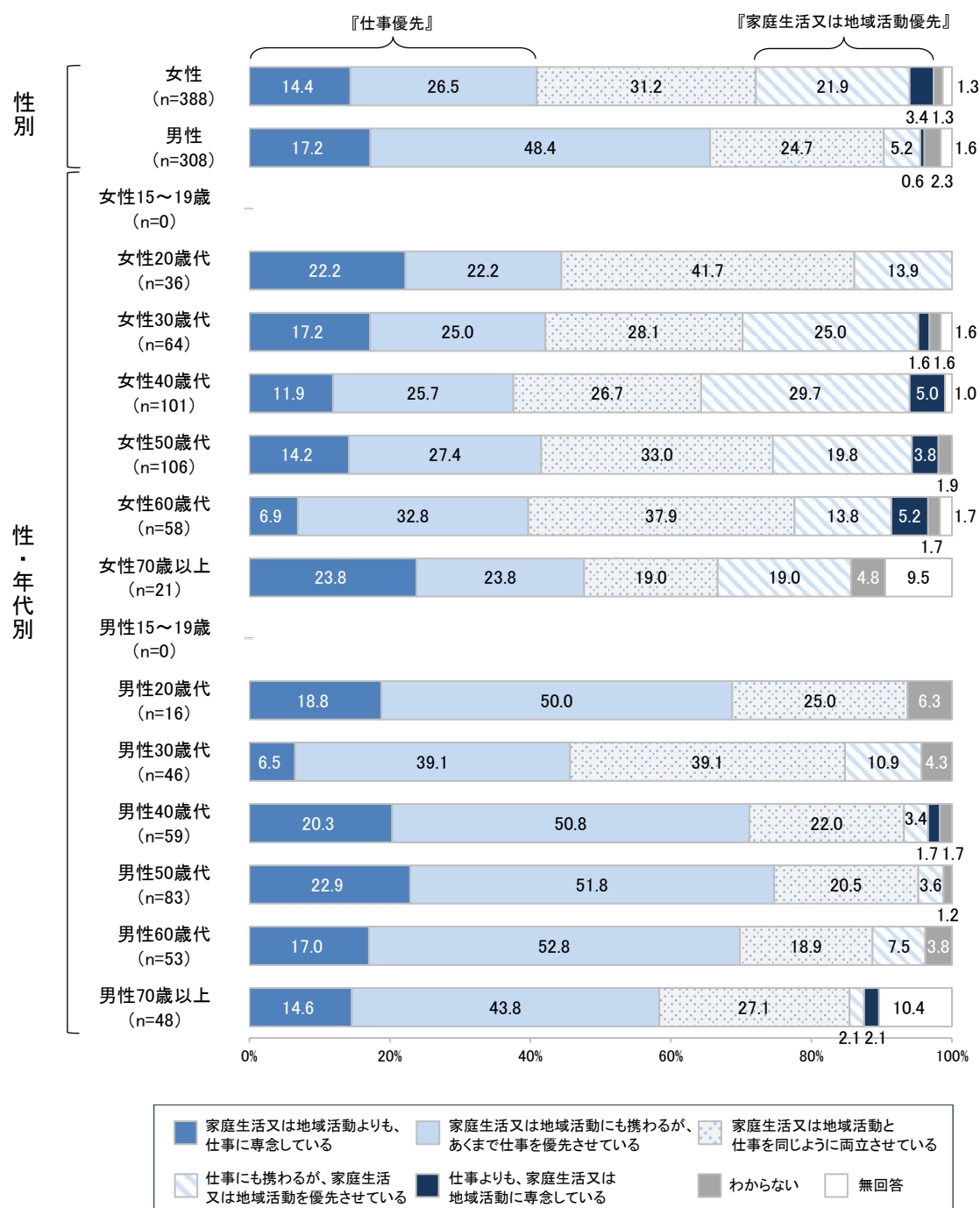


(男性)



自分自身の現状について、「家庭生活又は地域活動にも携^{たずさ}わるが、あくまで仕事を優先させている (36.4%)」との回答が最も多く、次いで「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させている (27.9%)」、「家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念している (15.7%)」の順となっている。

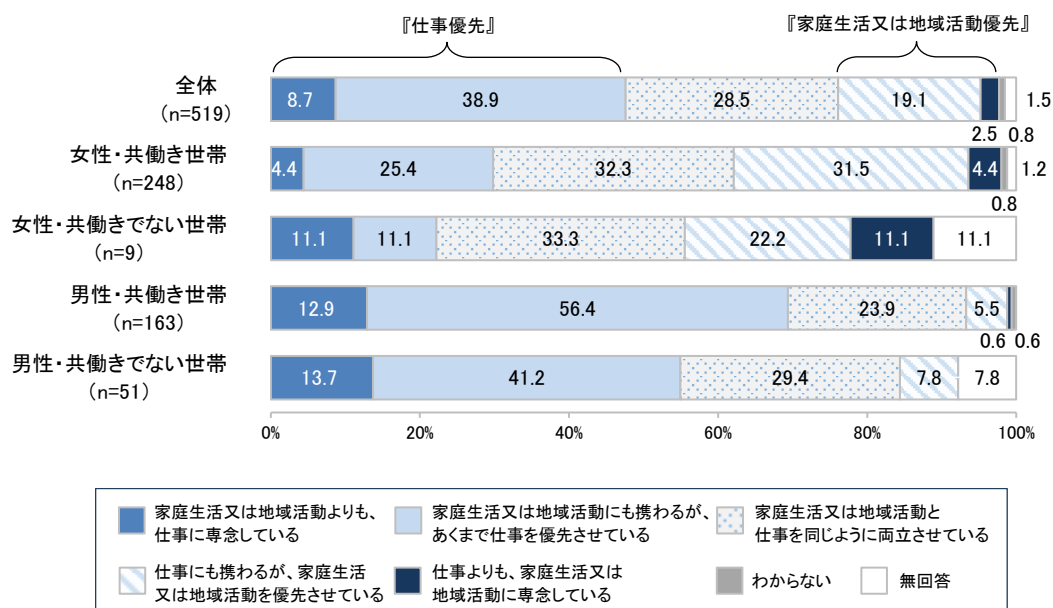
【自分自身の現状（性別、性・年代別）】



自分自身の現状について、性別にみると、『仕事優先』と回答した割合は男性（65.6%）が女性（40.9%）を24.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『仕事優先』と回答した割合は男性50歳代（74.7%）が最も高く、次いで男性40歳代（71.1%）、男性60歳代（69.8%）の順となっている。また、『家庭生活又は地域活動優先』と回答した割合は女性40歳代（34.7%）が最も高く、次いで女性30歳代（26.6%）、女性50歳代（23.6%）の順となっている。

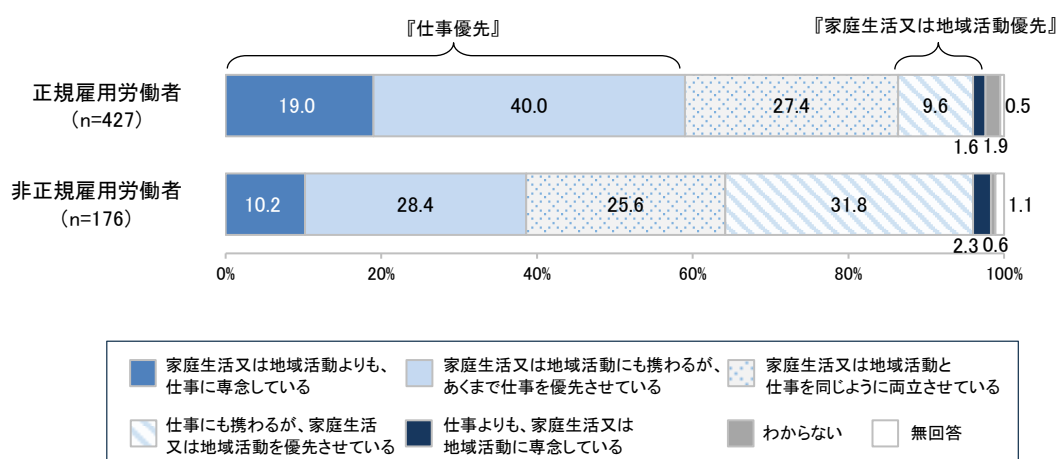
【自分自身の現状（性・就労状況別 ※配偶者がいて働いている方のみ）】



自分自身の現状について、性・就労状況別にみると、『仕事優先』と回答した割合は男性・共働き世帯（69.3%）が最も高く、女性・共働き世代でない世帯（22.2%）を47.1ポイント上回っている。

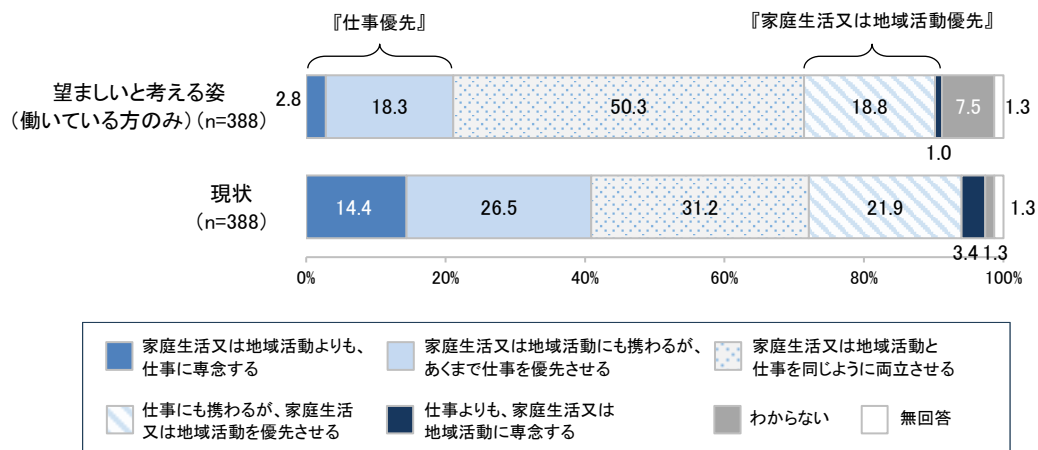
また、『家庭生活又は地域活動優先』と回答した割合は女性・共働き世帯（35.9%）が最も高く、男性・共働き世帯（6.1%）を29.8ポイント上回っている。

【自分自身の現状（就労形態別）】



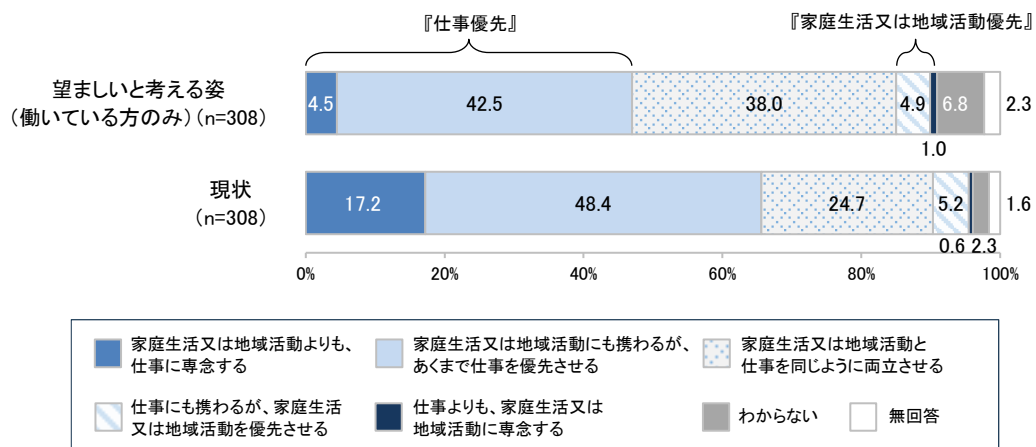
自分自身の現状について、就労形態別にみると、『仕事優先』と回答した割合は正規雇用労働者（59.0%）が非正規雇用労働者（38.6%）を20.4ポイント上回っている。一方、『家庭生活又は地域活動優先』と回答した割合は非正規雇用労働者（34.1%）が正規雇用労働者（11.2%）を22.9ポイント上回っている。

【女性自身が望ましいと考える姿と現状】



女性自身が望ましいと考える姿と現状については、望ましいと考える姿は「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合が 50.3%であるのに対し、現状では 31.2%と 19.1 ポイントの差がみられる。

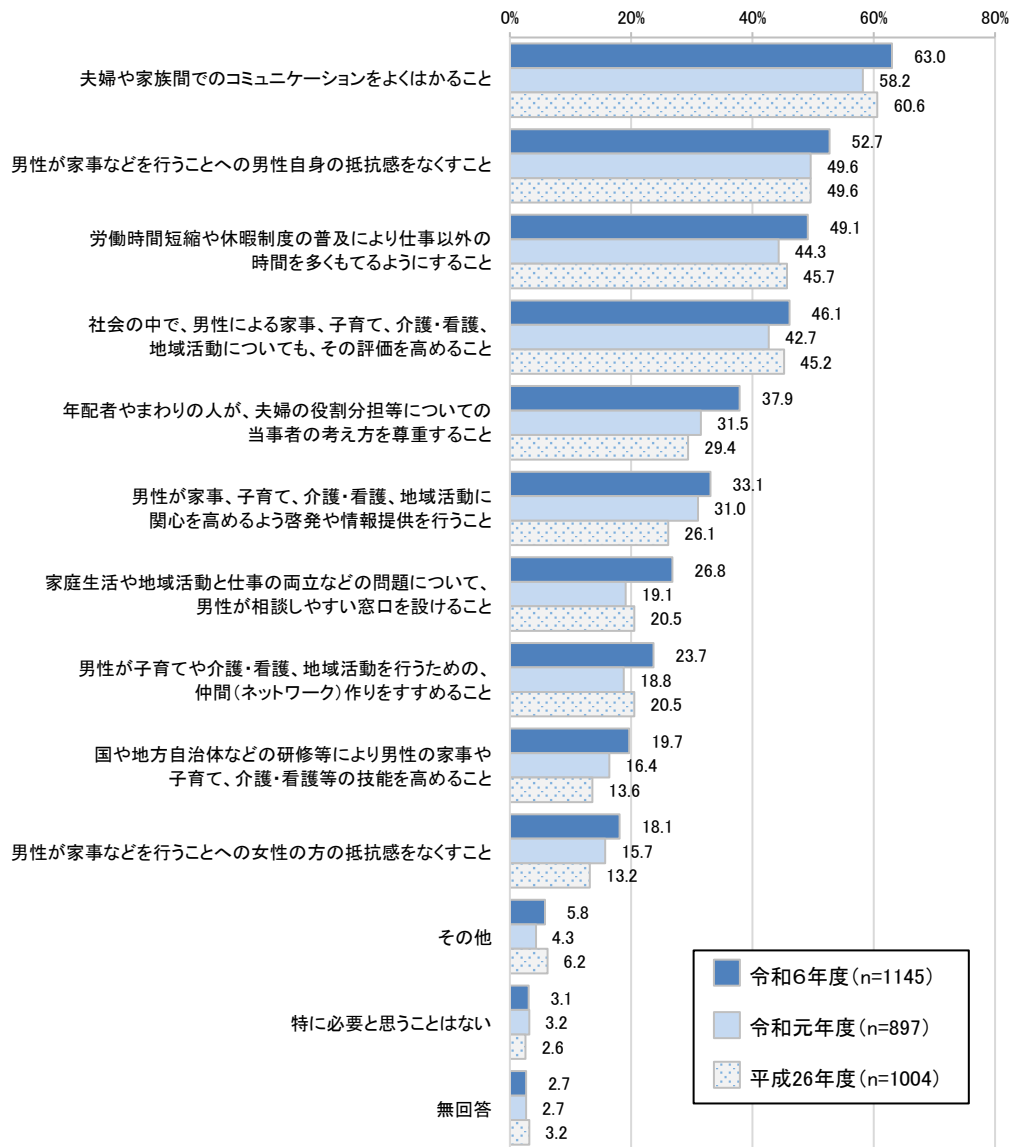
【男性自身が望ましいと考える姿と現状】



男性自身が望ましいと考える姿と現状について、望ましいと考える姿は『仕事優先』と回答した割合が 47.0%であるのに対し、現状では 65.6%と 18.6 ポイントの差がみられる。

また、望ましいと考える姿は「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合が 38.0%であるのに対し、現状では 24.7%と 13.3 ポイントの差がみられる。

問3 男性の家事・子育て等や地域活動への参加は女性と比べて少ないのが現状です。今後、男性が家事、子育て、介護・看護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印はいくつでも）



男性が家事等に積極的に参加するために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること（63.0%）」との回答が最も多く、次いで「男性が家事などを行うことへの男性自身の抵抗感をなくすこと（52.7%）」、「労働時間短縮や休暇制度の普及により仕事以外の時間を多くもてるようにすること（49.1%）」の順となっている。

経年比較すると、上位の項目についてはいずれの調査においても順位に変動はなく、大きな差はみられない。

【男性が家事等に積極的に参加するために必要なこと（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	よくコミュニケーションを 夫婦や家族間での コミュニケーションを	抵抗感への男性自身 の抵抗感をなくすこと	男性が家事などを行 うこと	時間的余裕をもち、休 息の時間が多いこと	労働時間短縮や休 暇の確保	地域活動について、そ の価値を高めること	家事・子育て、男性に よる社会の中で、男性 の役割の分担等を尊重 すること	年配者やまわりの人 のサポート	情報提供を行うこと	男性が家事、子育て、 地域活動に積極的に参 加すること	窓口に男性が設置され ることで、相談しやすい	男性が子育てや介護・ 地域の活動を行うた め
全体		1145	63.0	52.7	49.1	46.1	37.9	33.1	26.8	23.7				
性別	女性	640	65.5	58.9	52.5	49.1	43.4	36.9	29.4	25.9				
	男性	434	60.4	45.2	46.8	44.5	30.6	27.6	24.2	21.2				
女性	15～19歳	23	82.6	65.2	73.9	52.2	26.1	34.8	52.2	34.8				
	20歳代	46	63.0	56.5	71.7	43.5	41.3	41.3	39.1	34.8				
	30歳代	76	61.8	57.9	68.4	44.7	42.1	28.9	27.6	28.9				
	40歳代	117	61.5	60.7	59.0	60.7	44.4	35.9	27.4	23.9				
	50歳代	128	65.6	58.6	45.3	47.7	48.4	41.4	20.3	20.3				
	60歳代	97	64.9	66.0	50.5	51.5	50.5	33.0	29.9	21.6				
	70歳以上	149	69.1	54.4	38.3	43.0	36.9	39.6	31.5	29.5				
男性	15～19歳	16	50.0	56.3	50.0	43.8	31.3	37.5	31.3	25.0				
	20歳代	23	52.2	52.2	82.6	39.1	34.8	21.7	30.4	13.0				
	30歳代	48	62.5	41.7	58.3	50.0	39.6	20.8	12.5	25.0				
	40歳代	62	59.7	33.9	61.3	43.5	37.1	25.8	19.4	16.1				
	50歳代	89	59.6	47.2	50.6	44.9	24.7	23.6	28.1	28.1				
	60歳代	72	68.1	51.4	48.6	58.3	31.9	31.9	22.2	23.6				
	70歳以上	120	58.3	44.2	23.3	35.8	27.5	30.8	26.7	17.5				

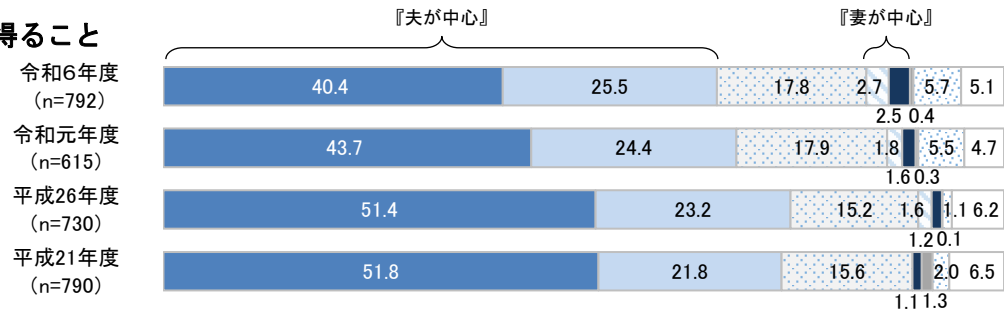
男性が家事等に積極的に参加するために必要なことについて、性別にみると、「男性が家事などを行うことへの男性自身の抵抗感をなくすこと」で最も男女差が大きく、女性（58.9％）が男性（45.2％）を13.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と回答した割合は女性15～19歳（82.6％）が最も高く、次いで女性70歳以上（69.1％）、男性60歳代（68.1％）の順となっている。また、「男性が家事などを行うことへの男性自身の抵抗感をなくすこと」と回答した割合は女性60歳代（66.0％）が最も高く、次いで女性15～19歳（65.2％）、女性40歳代（60.7％）の順となっている。

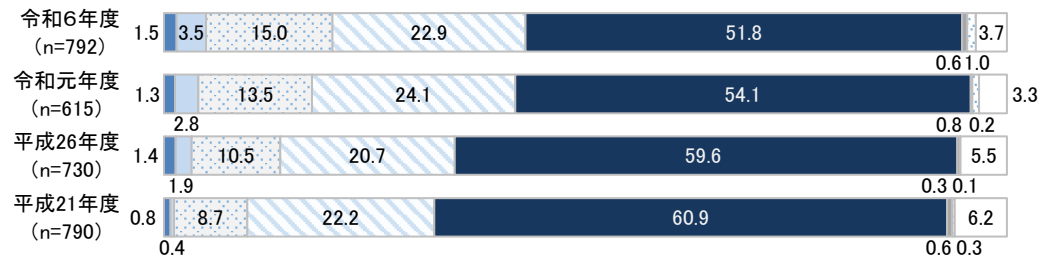
はいぐうしゃ
(配偶者又はパートナーと同居している方におたずねします。)

問4 あなたの家庭において、収入を得ることや家事、子育て、介護・看護、地域活動への参加など、どちらが分担していますか。(〇印は1つずつ)

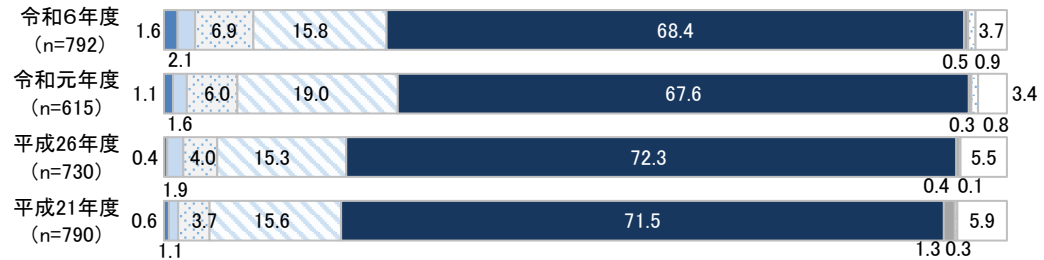
① 収入を得ること



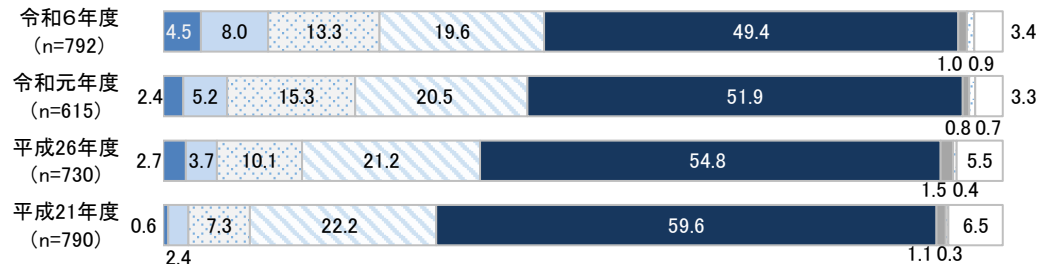
② 掃除・洗濯



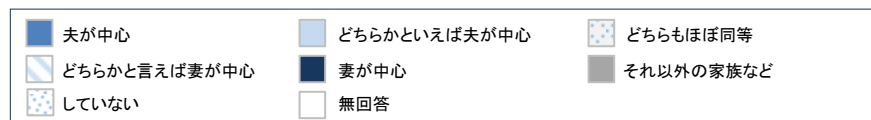
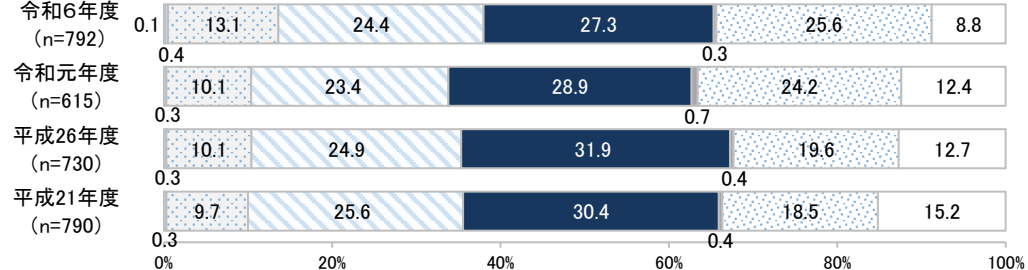
③ 食事のしたく



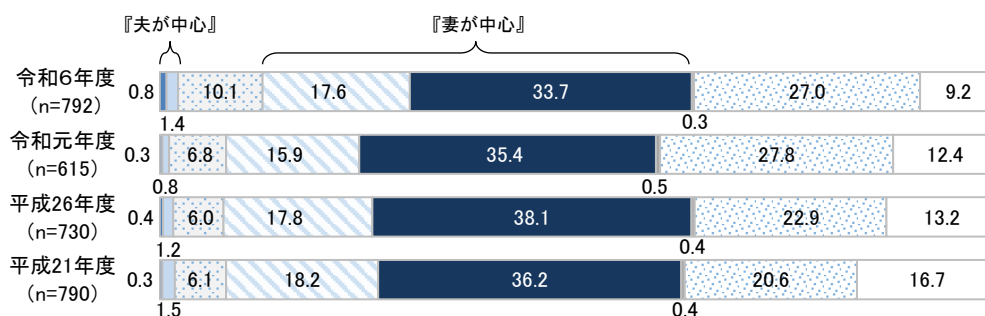
④ 食事の後片付け、食器洗い



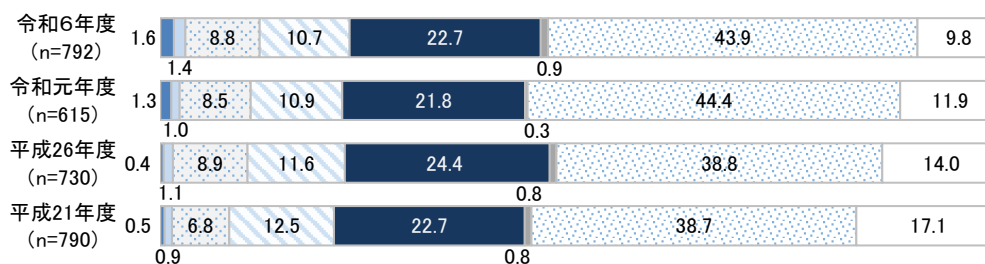
⑤ 子育て



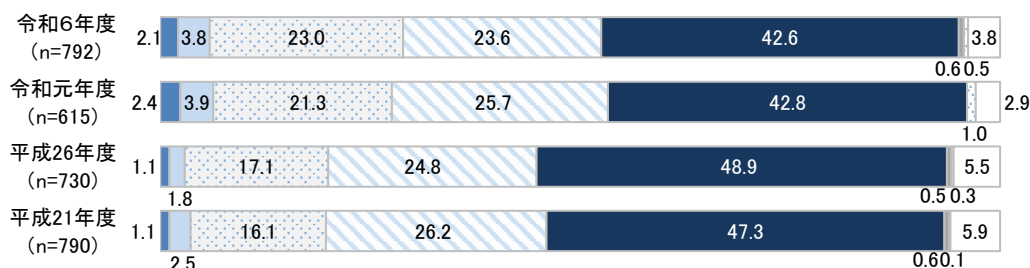
⑥ 学校などの行事への参加



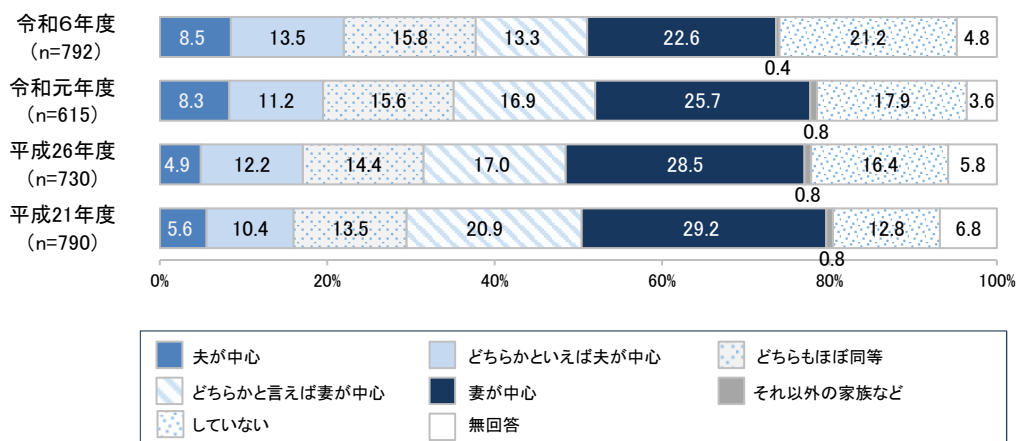
⑦ 介護・看護



⑧ 日常の買い物



⑨ 町内会など地域活動への参加

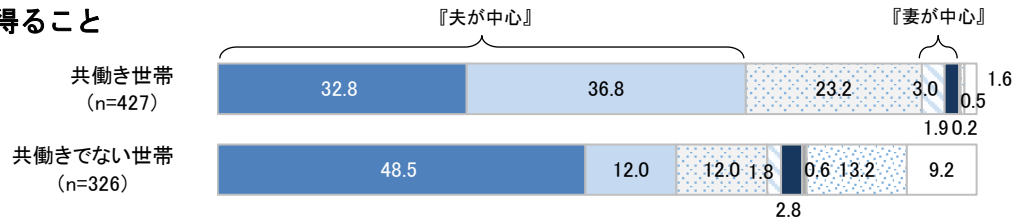


家庭における役割分担について、『夫が中心』（「夫が中心」と「どちらかといえば夫が中心」を合わせた割合）と回答した割合が『妻が中心』（「妻が中心」と「どちらかといえば妻が中心」を合わせた割合）より高いのは「収入を得ること」のみで、その他の項目では『妻が中心』と回答した割合が『夫が中心』より高く、「食事のしたく」は『妻が中心』（84.2%）と回答した割合が『夫が中心』（3.7%）を80.5ポイント上回っている。

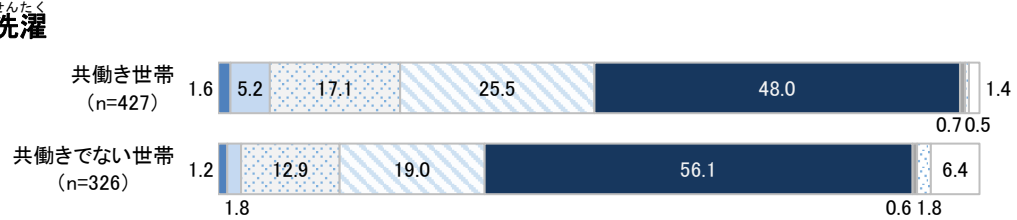
経年比較すると、いずれの調査においても「収入を得ること」以外は『妻が中心』と回答した割合が高いが、その差は減少傾向にある。

【家庭における役割分担（就労状況別）】

① 収入を得ること



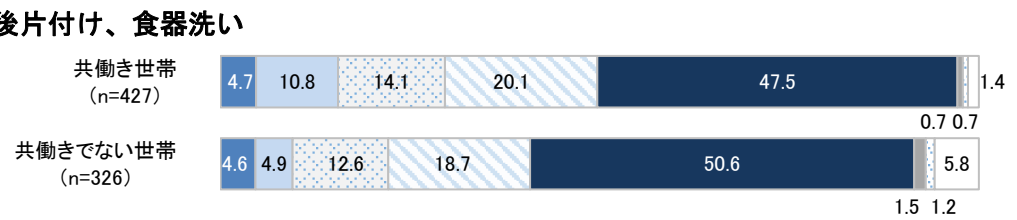
② 掃除・洗濯



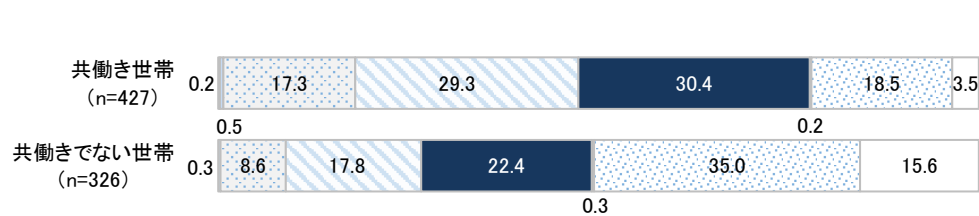
③ 食事のしたく



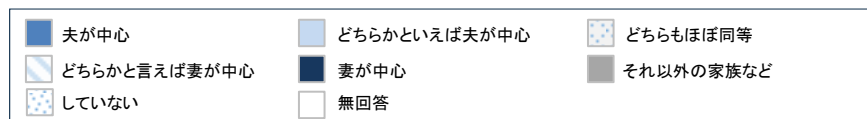
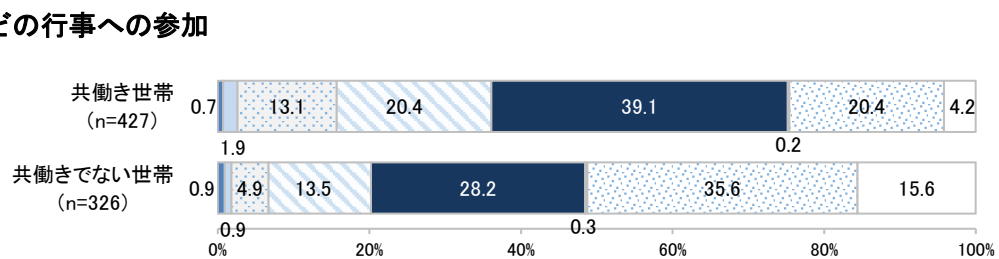
④ 食事の後片付け、食器洗い



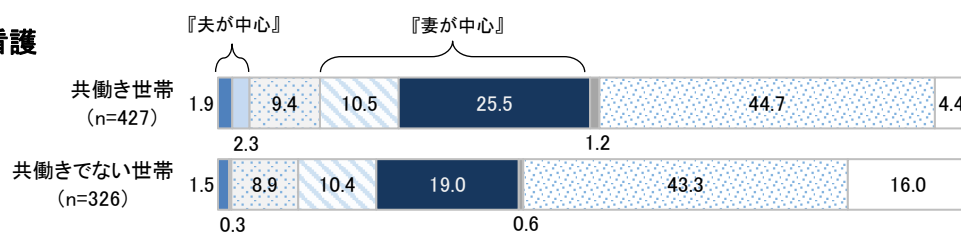
⑤ 子育て



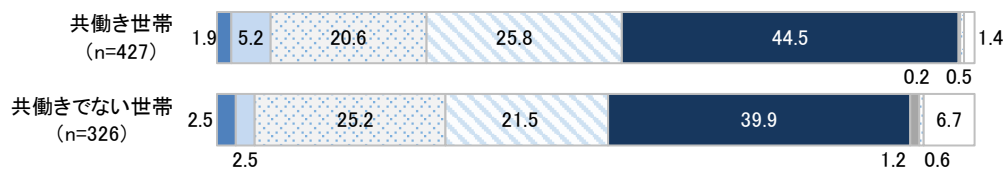
⑥ 学校などの行事への参加



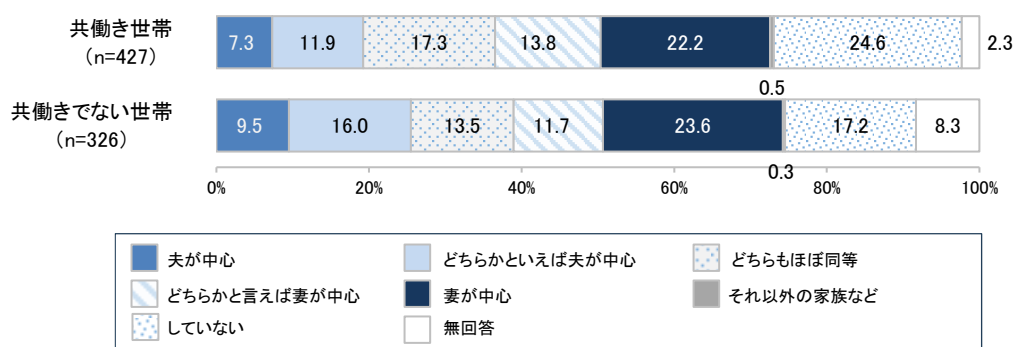
⑦ 介護・看護



⑧ 日常の買い物



⑨ 町内会など地域活動への参加

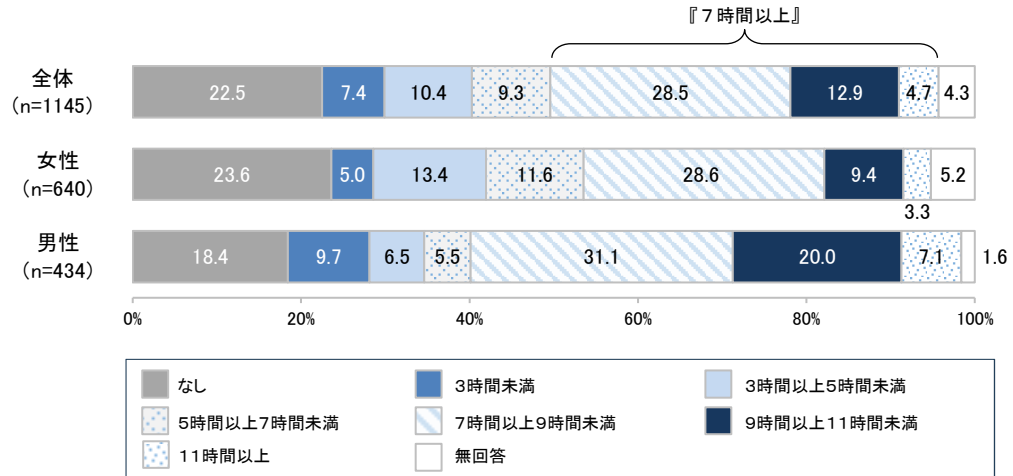


家庭における役割分担について、就労状況別にみると、共働き世帯であっても「収入を得ること」以外は『妻が中心』と回答した割合が高い。

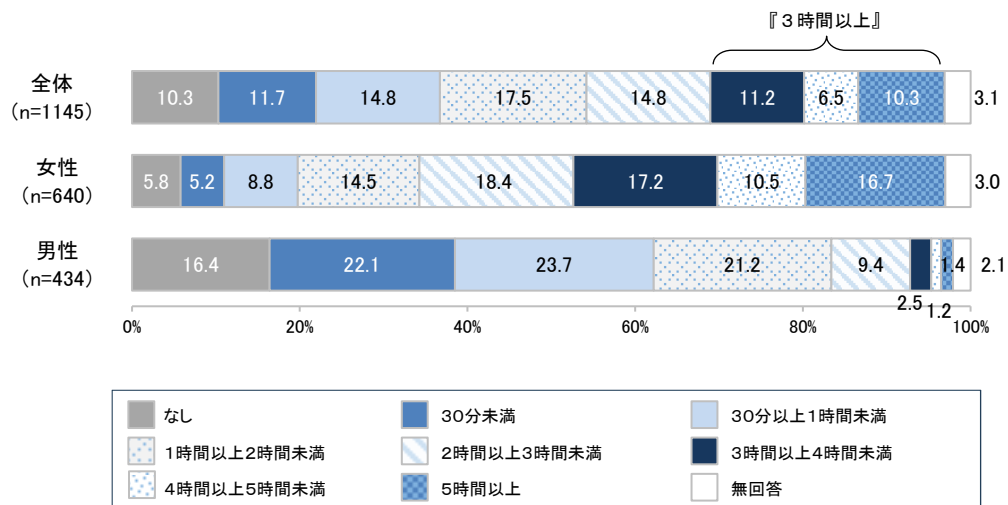
問5 1日のうちあなたが、仕事や家事全般（家事、育児、介護を含む）に要する時間は、平日（働いている人は勤務日）のどのくらいですか。

※令和元年度以前にはない問

【①仕事（全体・性別）】



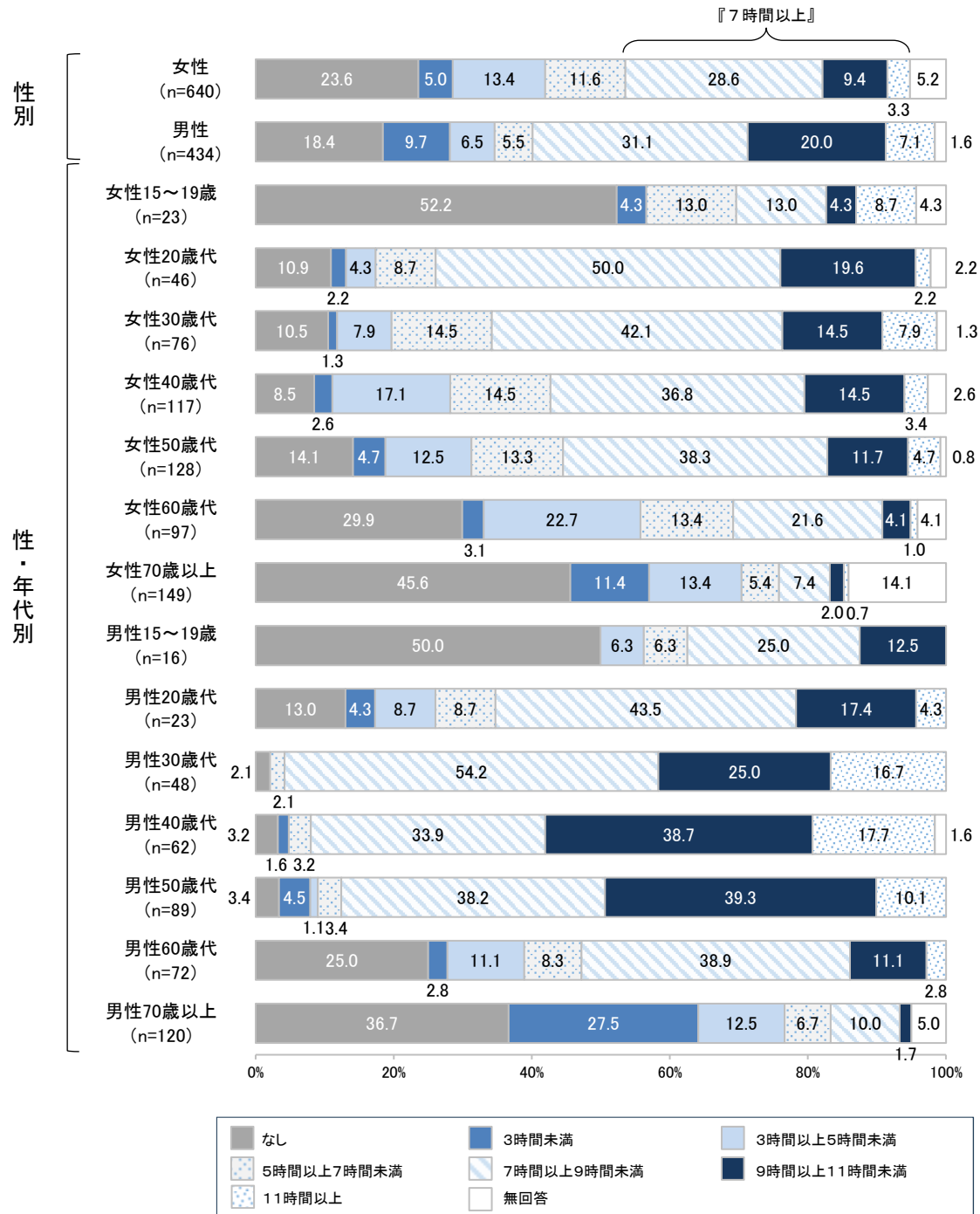
【②家事全般（育児、介護を含む）（全体・性別）】



平日の1日の生活時間について、①仕事に要する時間では、『7時間以上』と回答した割合において、男性（58.2%）が女性（41.3%）を16.9ポイント上回っている。

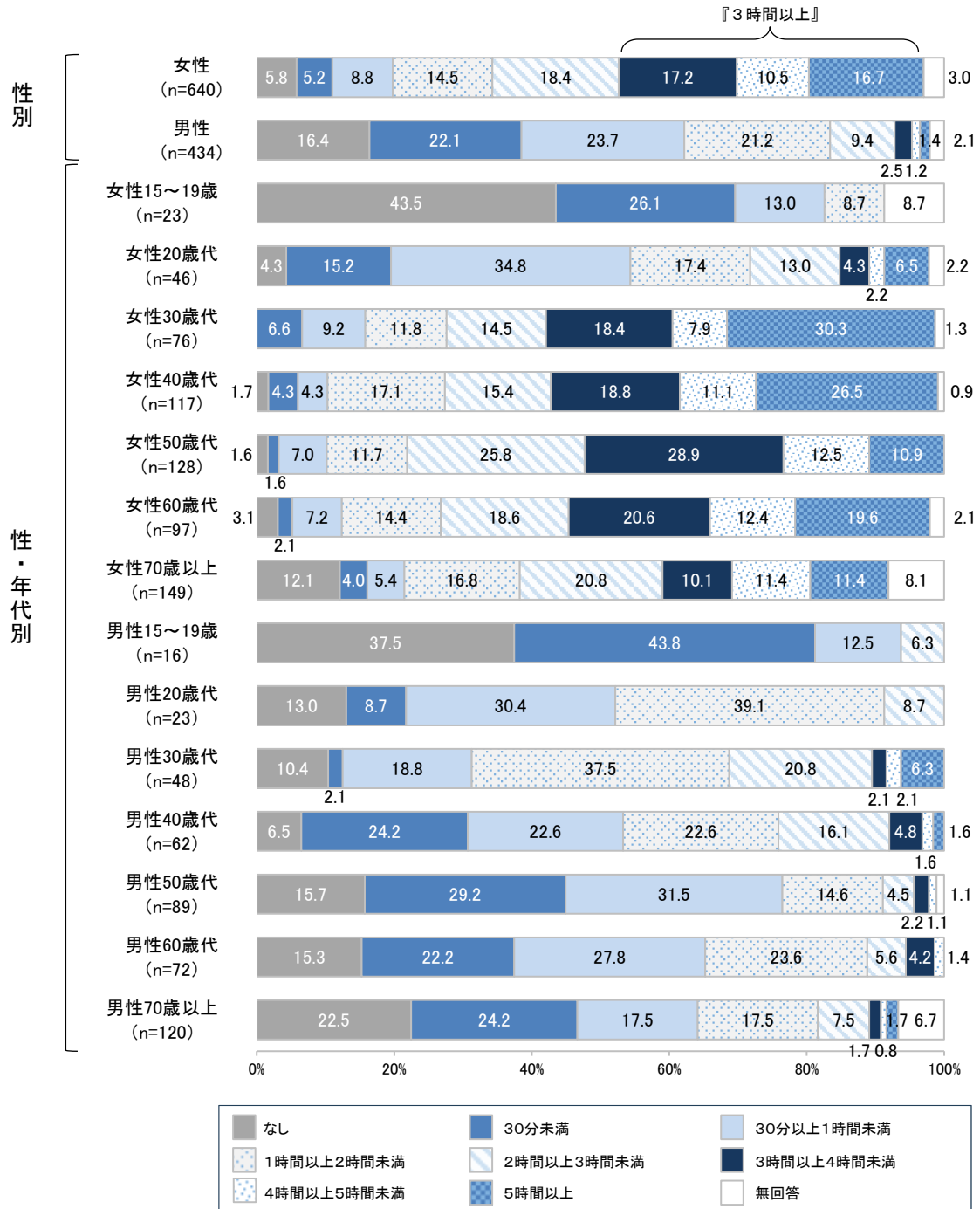
一方、②家事全般（育児、介護を含む）に要する時間では、『3時間以上』と回答した割合において、女性（44.4%）が男性（5.1%）を39.3ポイント上回っている。

【①仕事（性別、性・年代別）】



①仕事に要する時間について、性・年代別にみると、『7時間以上』と回答した割合は20歳代を除く各年代で男性が女性を上回っており、30歳代は31.4ポイント、40歳代は35.6ポイント、50歳代は32.9ポイント、60歳代は26.1ポイント、それぞれ高くなっている。

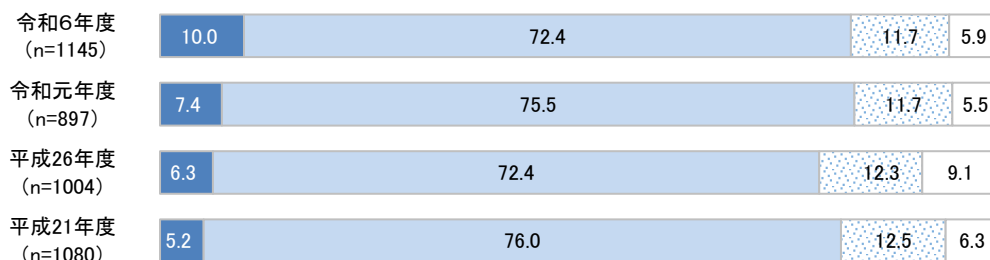
【② 家事全般（育児、介護を含む）（性別、性・年代別）】



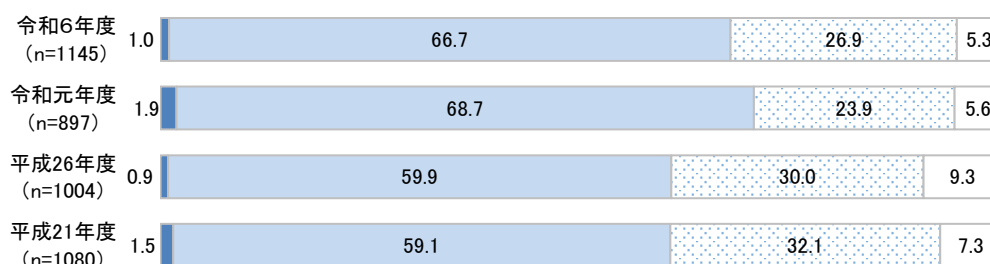
②家事全般（育児、介護を含む）について、性・年代別にみると、『3時間以上』と回答した割合は15～19歳を除く各年代で女性が男性を上回っており、30歳代は46.1ポイント、40歳代は48.4ポイント、50歳代は49.0ポイント、60歳代は47.0ポイント、それぞれ高くなっている。

問6 あなたは、次にあげる制度をご存知ですか。また利用したことがありますか。
(○印は1つつ)

① 育児休業制度

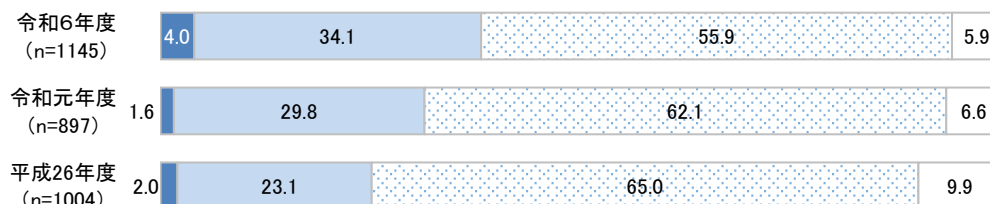


② 介護休業制度



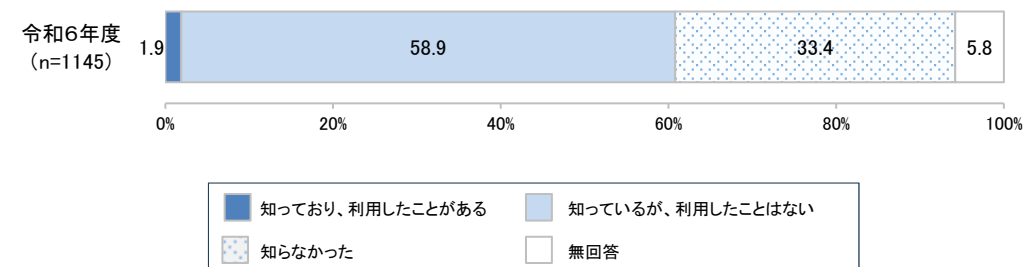
③ 子の看護休暇^{きゅうか}

※平成21年度にはない項目



④ 介護休暇^{きゅうか}

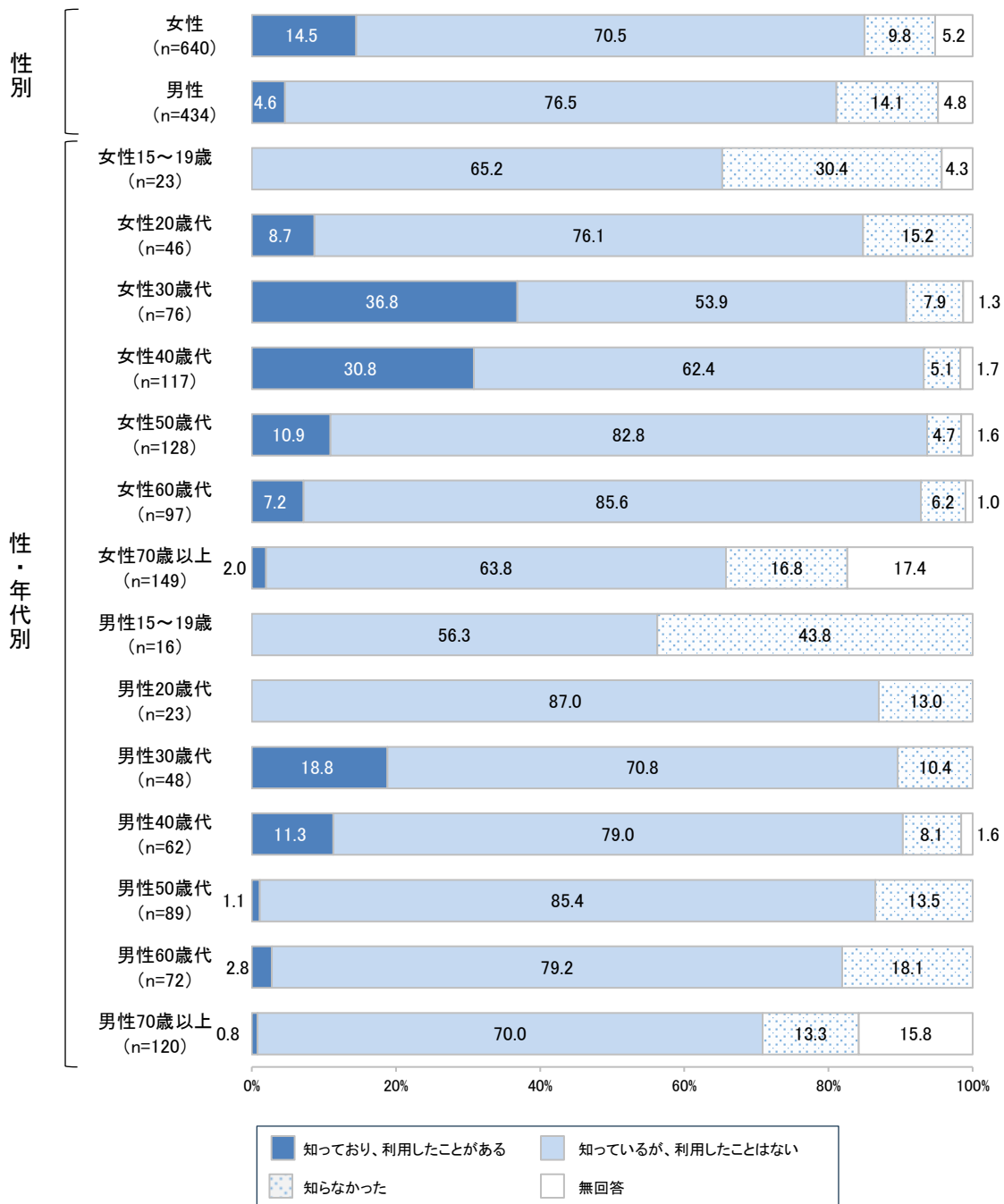
※令和元年度以前にはない項目



育児や介護等に関する制度の認知度と利用状況について、「育児休業制度」、「介護休業制度」、「介護^{きゅうか}休暇」においては「知っているが、利用したことがない」との回答が最も多い。

また、「子の看護^{きゅうか}休暇」においては「知らなかった」との回答が最も多いが、経年比較すると、「知らなかった」と回答した割合は減少傾向にある。

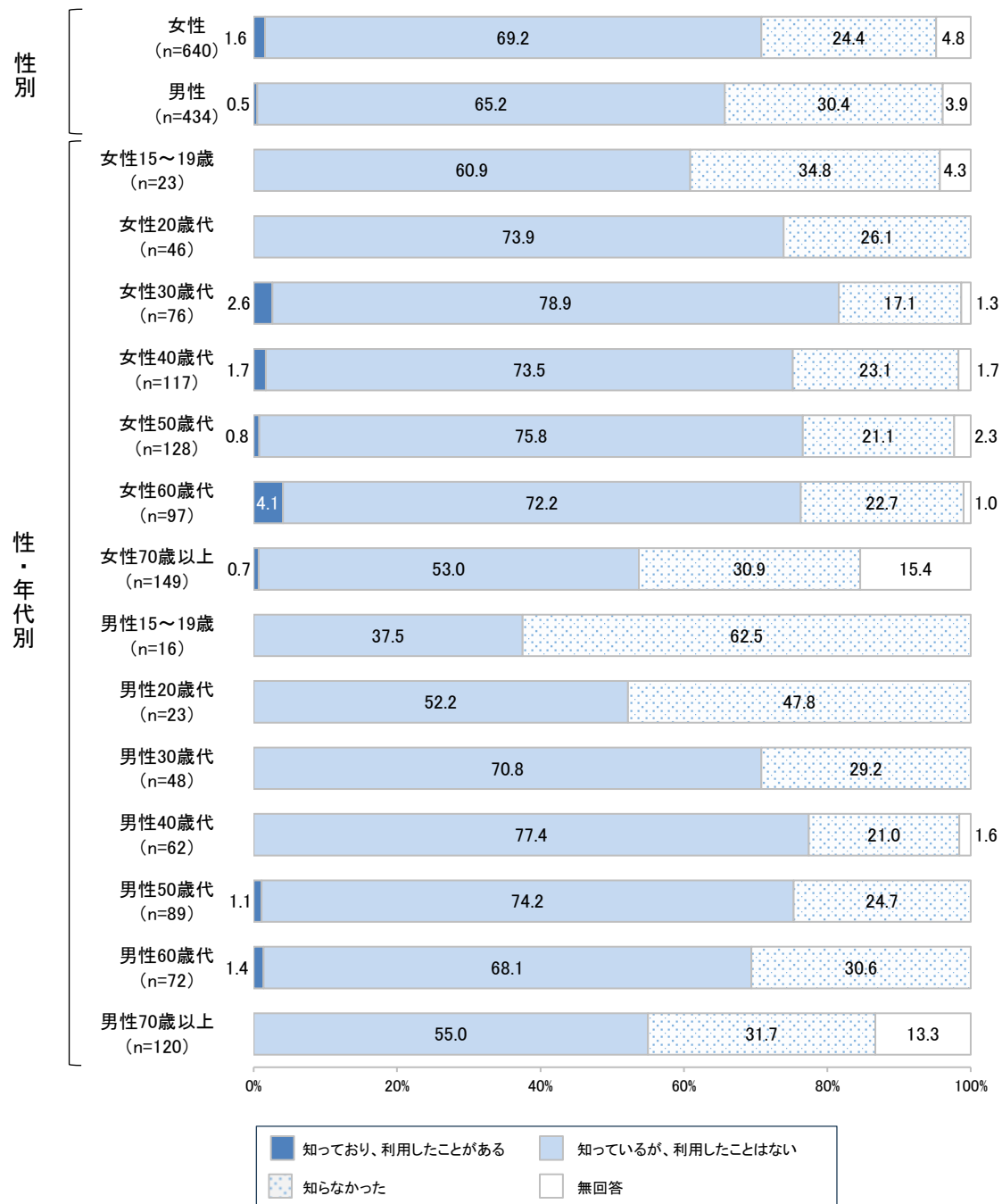
【① 育児休業制度の認知度と利用状況（性別、性・年代別）】



育児休業制度の認知度と利用状況について、性別にみると、「知っており、利用したことがある」と回答した割合は女性（14.5%）が男性（4.6%）を9.9ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「知っており、利用したことがある」と回答した割合は女性30歳代（36.8%）が最も高く、次いで女性40歳代（30.8%）、男性30歳代（18.8%）の順となっている。

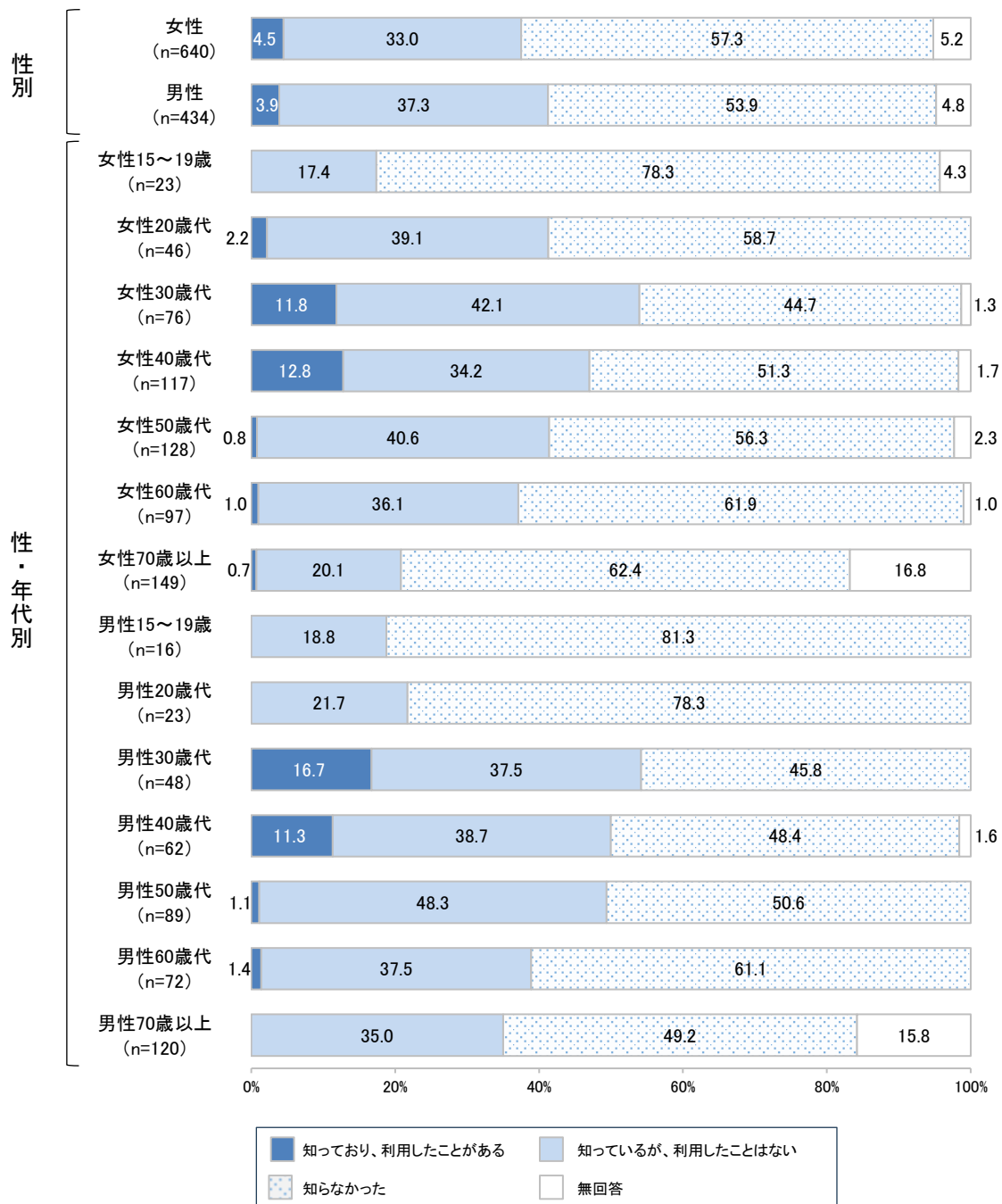
【②介護休業制度の認知度と利用状況（性別、性・年代別）】



介護休業制度の認知度と利用状況について、性別にみると、「知らなかった」と回答した割合は男性（30.4%）が女性（24.4%）を6.0ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「知っており、利用したことがある」と回答した割合は女性60歳代（4.1%）が最も高く、次いで女性30歳代（2.6%）、女性40歳代（1.7%）の順となっている。

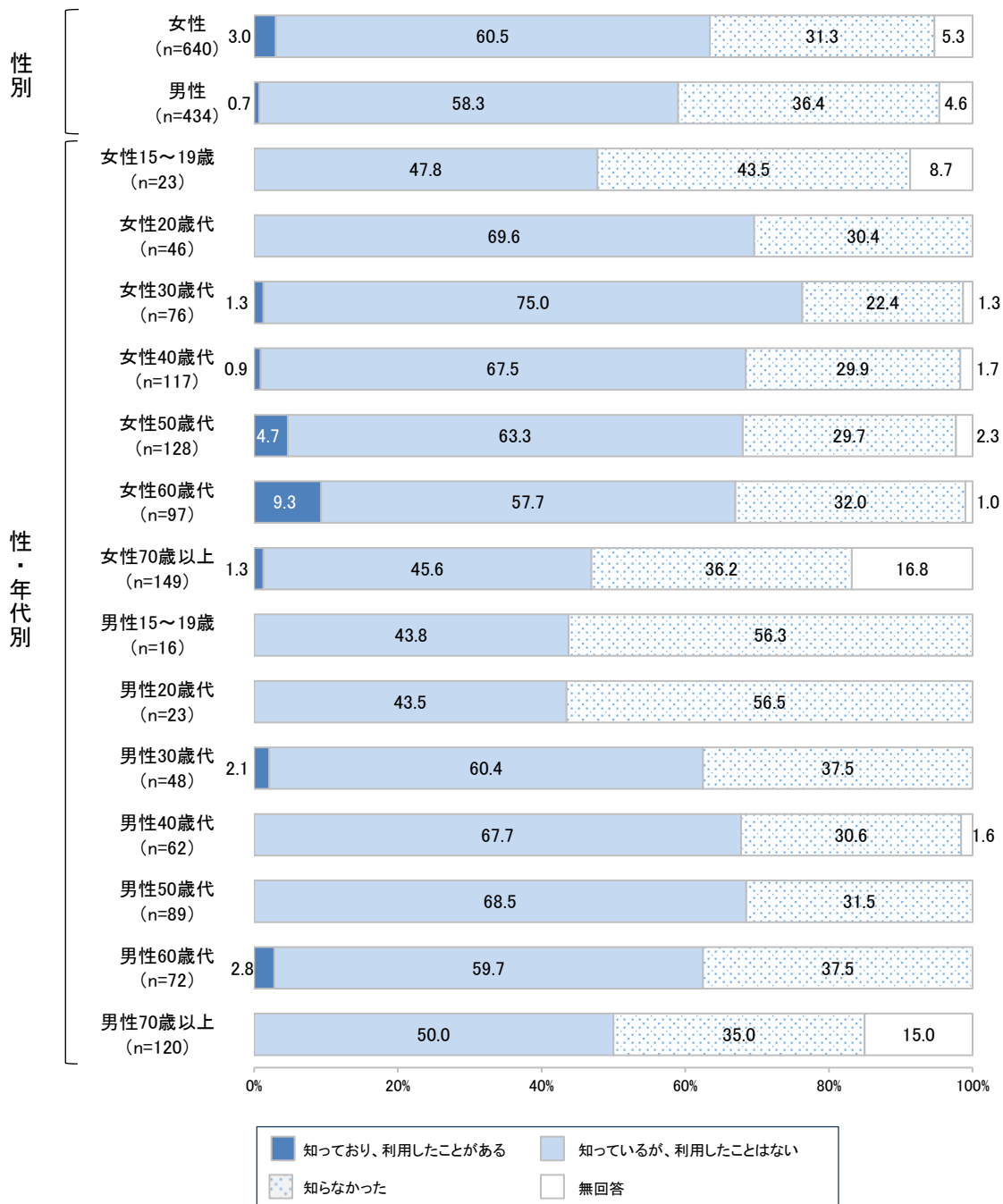
【③子の看護休暇^{きゅうか}の認知度と利用状況（性別、性・年代別）】



子の看護休暇^{きゅうか}の認知度と利用状況について、性別にみると、「知らなかった」と回答した割合は女性（57.3%）が男性（53.9%）を3.4ポイント上回っている。。

性・年代別にみると、「知っており、利用したことがある」と回答した割合は男性30歳代（16.7%）が最も高く、次いで女性40歳代（12.8%）、女性30歳代（11.8%）の順となっている。

【④介護休暇^{きゅうか}の認知度と利用状況（性別、性・年代別）】

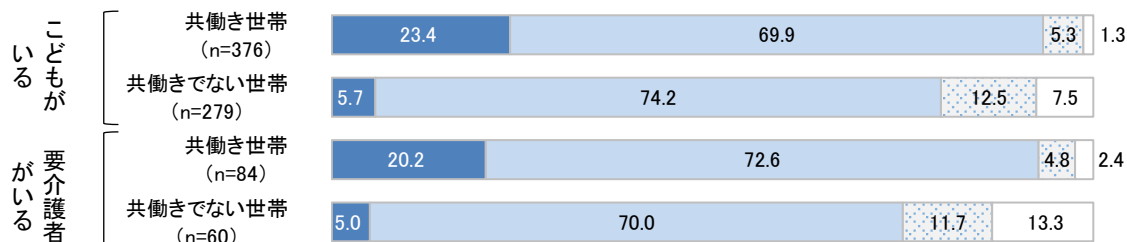


介護休暇^{きゅうか}の認知度と利用状況について、性別にみると、「知らなかった」と回答した割合は男性（36.4%）が女性（31.3%）を5.1ポイント上回っている。

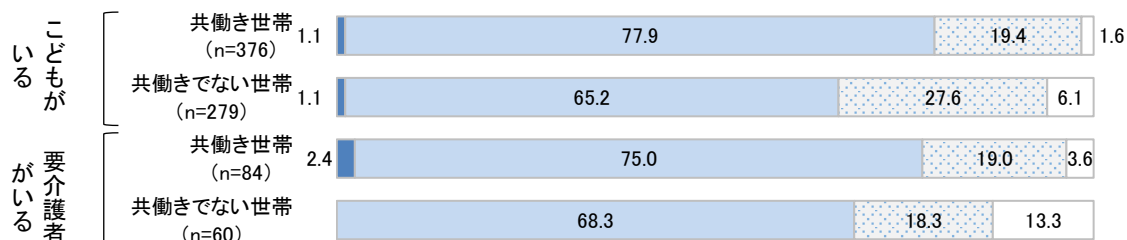
性・年代別にみると、「知っており、利用したことがある」と回答した割合は女性60歳代（9.3%）が最も高く、次いで女性50歳代（4.7%）、男性60歳代（2.8%）の順となっている。

【育児や介護に関する制度の認知度と利用状況（こども・要介護者がいる人の就労状況別）】

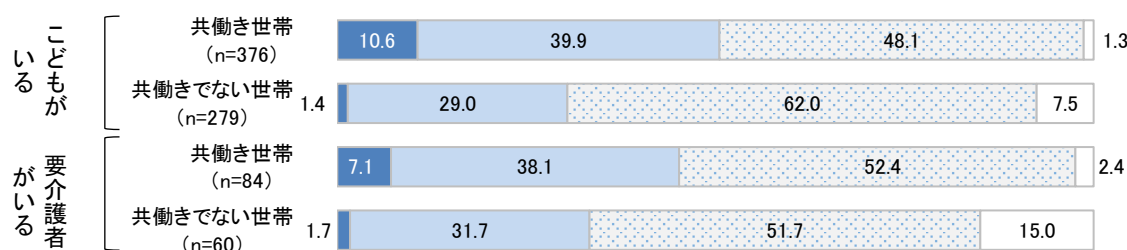
① 育児休業制度



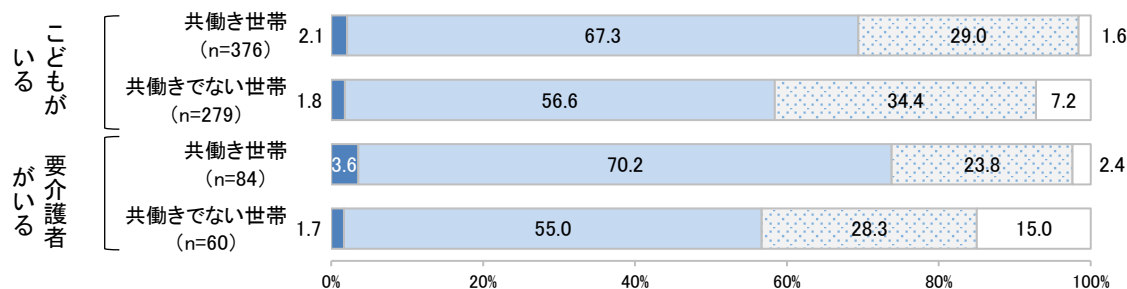
② 介護休業制度



③ 子の看護休暇^{きゅうか}

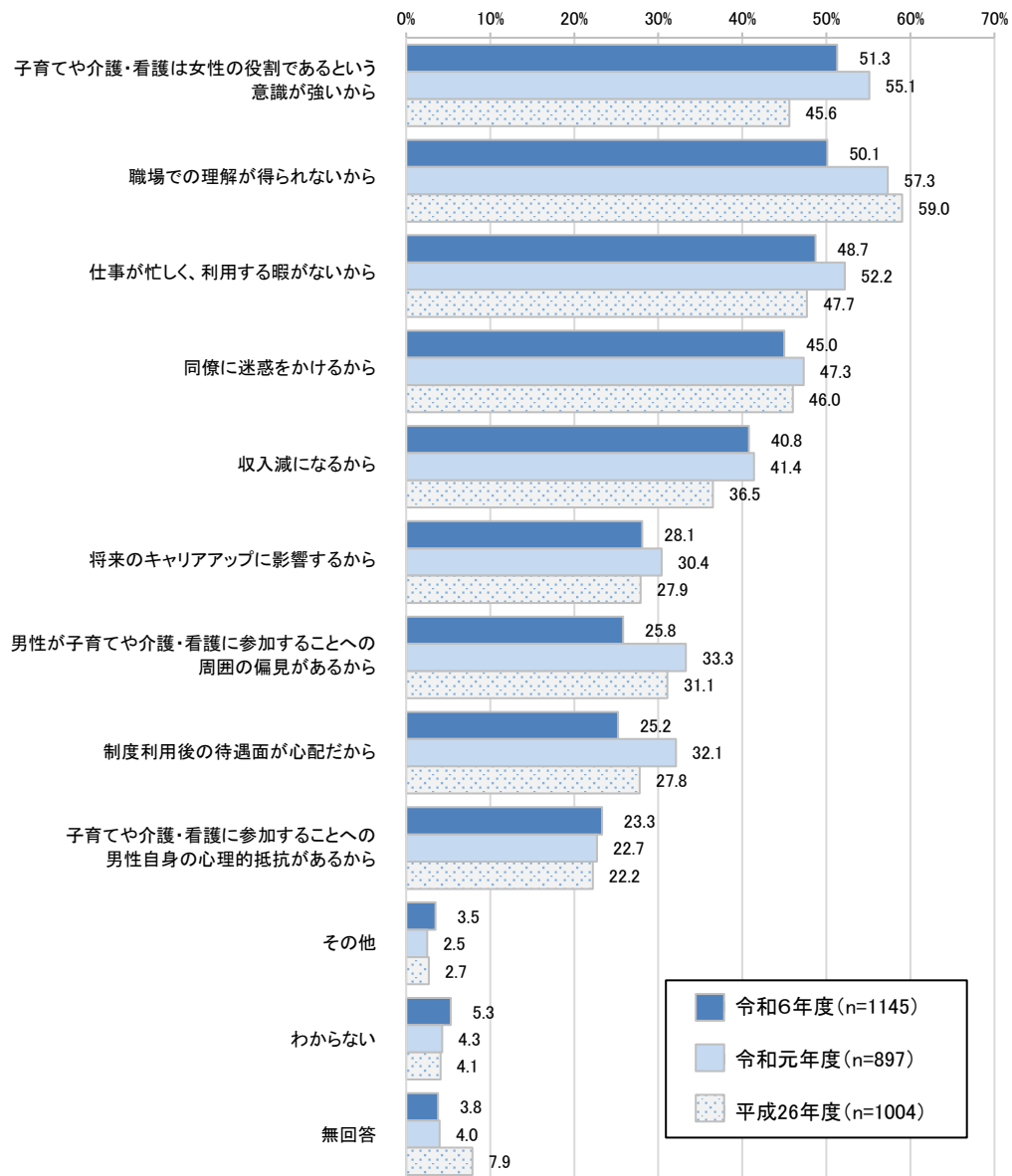


④ 介護休暇^{きゅうか}



育児や看護に関する制度の認知度と利用状況について、こども・要介護者がいる人の就労状況別にみると、「知っており、利用したことがある」と回答した割合は、「育児休業制度」では、こどもがいる共働き世帯（23.4%）はこどもがいる共働きでない世帯（5.7%）を17.7ポイント、「介護休業制度」では、要介護者がいる共働き世帯（2.4%）は要介護者がいる共働きでない世帯（0%）を2.4ポイント、それぞれ上回っている。また、「子の看護休暇^{きゅうか}」については、こどもがいる共働き世帯（10.6%）はこどもがいる共働きでない世帯（1.4%）を9.2ポイント、「介護休暇^{きゅうか}」については、要介護者がいる共働き世帯（3.6%）は要介護者がいる共働きでない世帯（1.7%）を1.9ポイント、それぞれ上回っている。

問7 問6の制度は、男女とも利用できるようになっていますが、男性の利用者は少ないのが現状です。その理由は何だと思いますか。（〇印はいくつでも）



男性の育児や介護などに関する制度の利用が少ない理由について、「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから（51.3%）」との回答が最も多く、次いで「職場での理解が得られないから（50.1%）」、「仕事が忙しく、利用する暇がないから（48.7%）」の順となっている。

経年比較すると、「男性が子育てや介護・看護に参加することへの周囲の偏見があるから」が7.5ポイント、「職場での理解が得られないから」が7.2ポイント、「制度利用後の待遇面が心配だから」が6.9ポイント、それぞれ今回調査が令和元年度調査を下回っている。

【育児や介護等に関する制度の男性利用者が少ない理由（性別、性・年代別）】

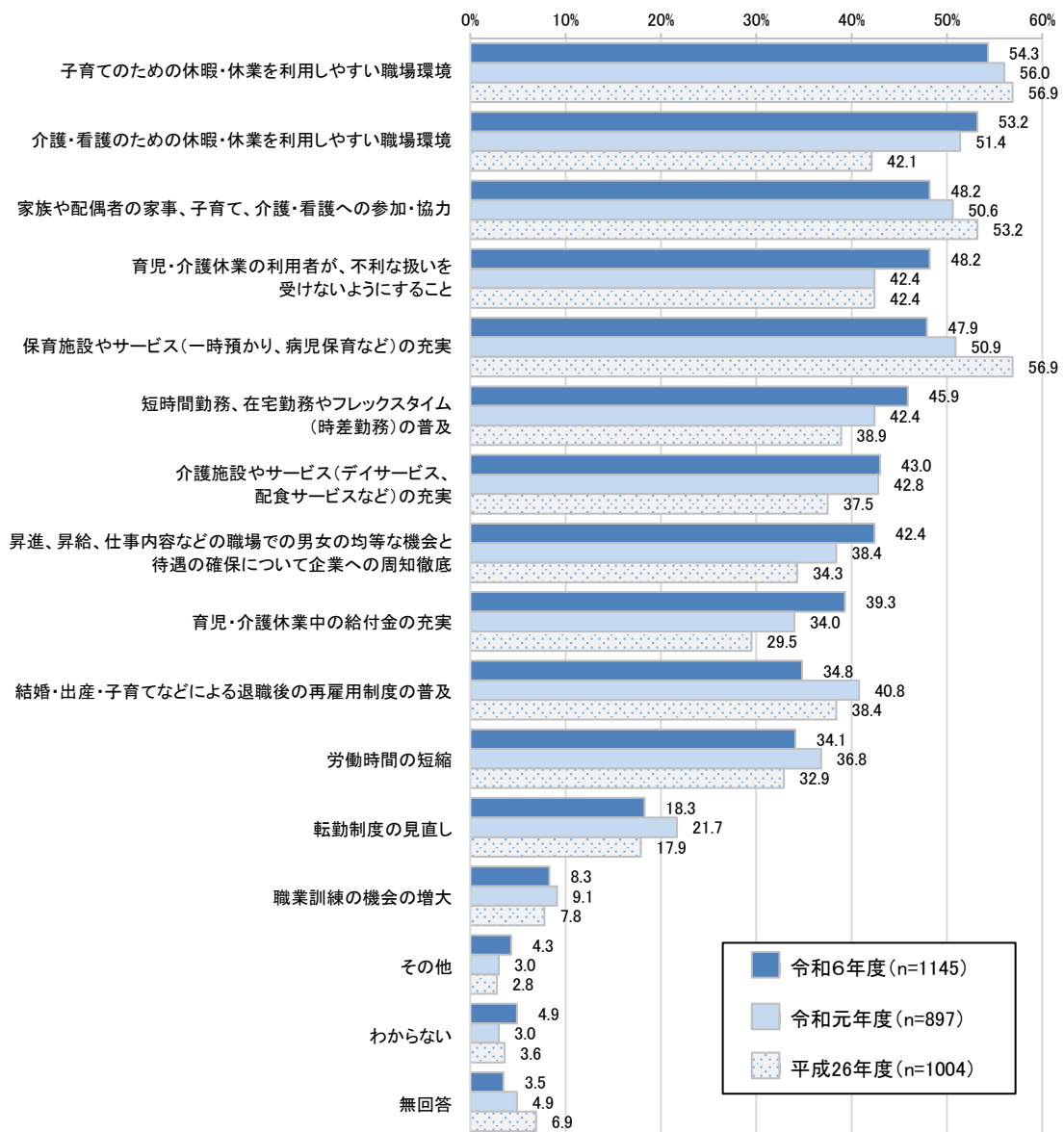
（複数回答）（％）

		回答者数（人）	が女性からの強い意識	子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識	職場での理解が得られないから	仕事がないから、利用する	同僚に迷惑をかけるから	収入減になるから	将来のキャリアアップに影響するから	偏見があるから	男性が子育てや介護・看護に参加することへの周知の	心配だから	制度利用後の待遇面が	心理的抵抗があるから	子育てや介護・看護に自身の参加
全体		1145	51.3	50.1	48.7	45.0	40.8	28.1	25.8	25.2	23.3				
性別	女性	640	63.6	57.5	50.5	47.5	42.7	32.5	28.9	27.3	29.7				
	男性	434	34.3	42.4	48.8	44.2	40.3	22.8	22.1	23.5	15.0				
女性	15～19歳	23	82.6	60.9	39.1	34.8	34.8	34.8	34.8	26.1	30.4				
	20歳代	46	73.9	67.4	60.9	47.8	50.0	54.3	32.6	34.8	30.4				
	30歳代	76	52.6	71.1	53.9	59.2	59.2	39.5	27.6	23.7	31.6				
	40歳代	117	64.1	64.1	62.4	49.6	58.1	41.9	30.8	27.4	26.5				
	50歳代	128	72.7	61.7	50.8	50.8	44.5	33.6	29.7	33.6	33.6				
	60歳代	97	66.0	53.6	44.3	53.6	35.1	26.8	34.0	30.9	32.0				
	70歳以上	149	53.7	40.3	40.9	34.2	24.2	16.1	21.5	18.8	26.2				
男性	15～19歳	16	56.3	50.0	37.5	31.3	37.5	25.0	43.8	18.8	37.5				
	20歳代	23	52.2	34.8	52.2	52.2	60.9	30.4	47.8	30.4	26.1				
	30歳代	48	37.5	52.1	64.6	45.8	66.7	29.2	35.4	37.5	14.6				
	40歳代	62	27.4	38.7	61.3	56.5	45.2	30.6	27.4	21.0	12.9				
	50歳代	89	24.7	40.4	58.4	48.3	42.7	24.7	13.5	22.5	6.7				
	60歳代	72	31.9	69.4	52.8	54.2	47.2	29.2	22.2	36.1	12.5				
	70歳以上	120	39.2	26.7	27.5	29.2	18.3	10.0	13.3	12.5	18.3				

男性の育児や介護などに関する制度の利用が少ない理由について、性別にみると、「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから」で最も男女差が大きく、女性（63.6％）が男性（34.3％）を29.3ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから」と回答した割合は女性15～19歳（82.6％）が最も高く、次いで女性20歳代（73.9％）、女性50歳代（72.7％）の順となっている。また、「職場での理解が得られないから」と回答した割合は女性30歳代（71.1％）が最も高く、次いで男性60歳代（69.4％）、女性20歳代（67.4％）の順となっている。

問8 男女が共に、仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印はいくつでも)



男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なことについて、「子育てのための^{きゅうか}休暇・休業を利用しやすい職場環境 (54.3%)」との回答が最も多く、次いで「介護・看護のための^{きゅうか}休暇・休業を利用しやすい職場環境 (53.2%)」、「家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力 (48.2%)」の順となっている。

経年比較すると、「育児・介護休業の利用者が、不利な^{あつか}扱いを受けないようにすること」が 5.8 ポイント、「育児・介護休業中の給付金の充実」が 5.3 ポイント、それぞれ今回調査が令和元年度調査を上回っている。

【男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

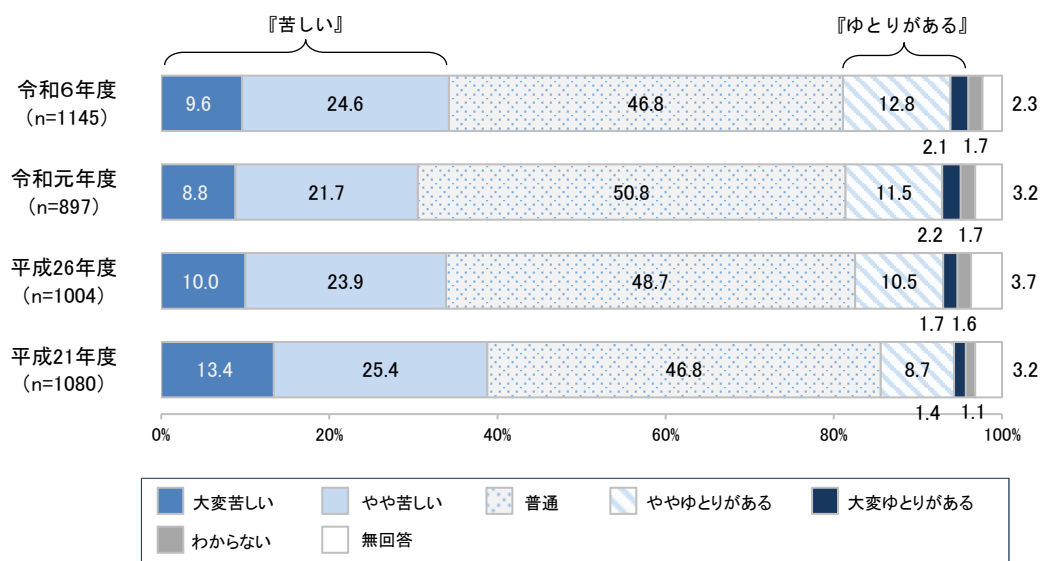
		回答者数（人）	子育てのための休暇・休業を利用しやすい職場環境	介護・看護のための休暇・休業を利用しやすい職場環境	家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力	育児・介護休業の利用者が、不利な扱いを受けないようにすること	保育施設やサービス（一時預かり、病児保育など）の充実	短時間勤務、在宅勤務やフレックスタイム（時差勤務）の普及	介護施設やサービス（デイサービス、配食サービスなど）の充実	昇進、昇給、仕事内容などの職場での男女の均等な機会と待遇の確保について企業への周知徹底	育児・介護休業中の給付金の充実	結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及	労働時間の短縮
全体		1145	54.3	53.2	48.2	48.2	47.9	45.9	43.0	42.4	39.3	34.8	34.1
性別	女性	640	60.0	58.0	55.3	52.3	51.4	48.4	45.6	43.6	41.1	36.6	32.0
	男性	434	47.5	46.3	38.9	43.1	43.8	44.9	39.6	41.2	38.0	32.9	39.2
女性	15～19歳	23	69.6	56.5	73.9	56.5	34.8	43.5	34.8	56.5	43.5	34.8	47.8
	20歳代	46	84.8	71.7	69.6	69.6	52.2	73.9	41.3	71.7	56.5	63.0	47.8
	30歳代	76	68.4	44.7	53.9	59.2	51.3	53.9	32.9	43.4	50.0	32.9	44.7
	40歳代	117	66.7	59.8	59.0	55.6	51.3	57.3	45.3	57.3	51.3	33.3	36.8
	50歳代	128	55.5	55.5	59.4	47.7	52.3	49.2	50.0	43.0	34.4	33.6	28.9
	60歳代	97	61.9	70.1	56.7	57.7	61.9	50.5	50.5	41.2	38.1	36.1	20.6
	70歳以上	149	44.3	53.7	41.6	40.9	46.3	30.2	48.3	24.2	30.9	35.6	24.2
男性	15～19歳	16	56.3	50.0	56.3	56.3	56.3	43.8	37.5	50.0	56.3	43.8	50.0
	20歳代	23	69.6	47.8	39.1	52.2	60.9	60.9	39.1	47.8	39.1	43.5	43.5
	30歳代	48	62.5	39.6	33.3	52.1	37.5	56.3	27.1	50.0	52.1	39.6	47.9
	40歳代	62	53.2	46.8	45.2	40.3	46.8	54.8	45.2	51.6	41.9	30.6	53.2
	50歳代	89	47.2	43.8	36.0	41.6	38.2	39.3	39.3	40.4	41.6	27.0	43.8
	60歳代	72	52.8	66.7	47.2	54.2	62.5	48.6	54.2	51.4	44.4	38.9	40.3
	70歳以上	120	30.0	37.5	32.5	31.7	32.5	34.2	33.3	25.8	21.7	28.3	22.5

男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なことについて、性別にみると、「家族や配偶者^{はいぐうしや}の家事、子育て、介護・看護への参加・協力」で最も男女差が大きく、女性（55.3％）が男性（38.9％）を16.4ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「子育てのための休暇・休業を利用しやすい職場環境」と回答した割合は女性20歳代（84.8％）が最も高く、次いで女性15～19歳及び男性20歳代（69.6％）、女性30歳代（68.4％）の順となっている。また、「介護・看護のための休暇・休業を利用しやすい職場環境^{きゅうか}」と回答した割合は女性20歳代（71.7％）が最も高く、次いで女性60歳代（70.1％）、男性60歳代（66.7％）の順となっている。

3 就労について

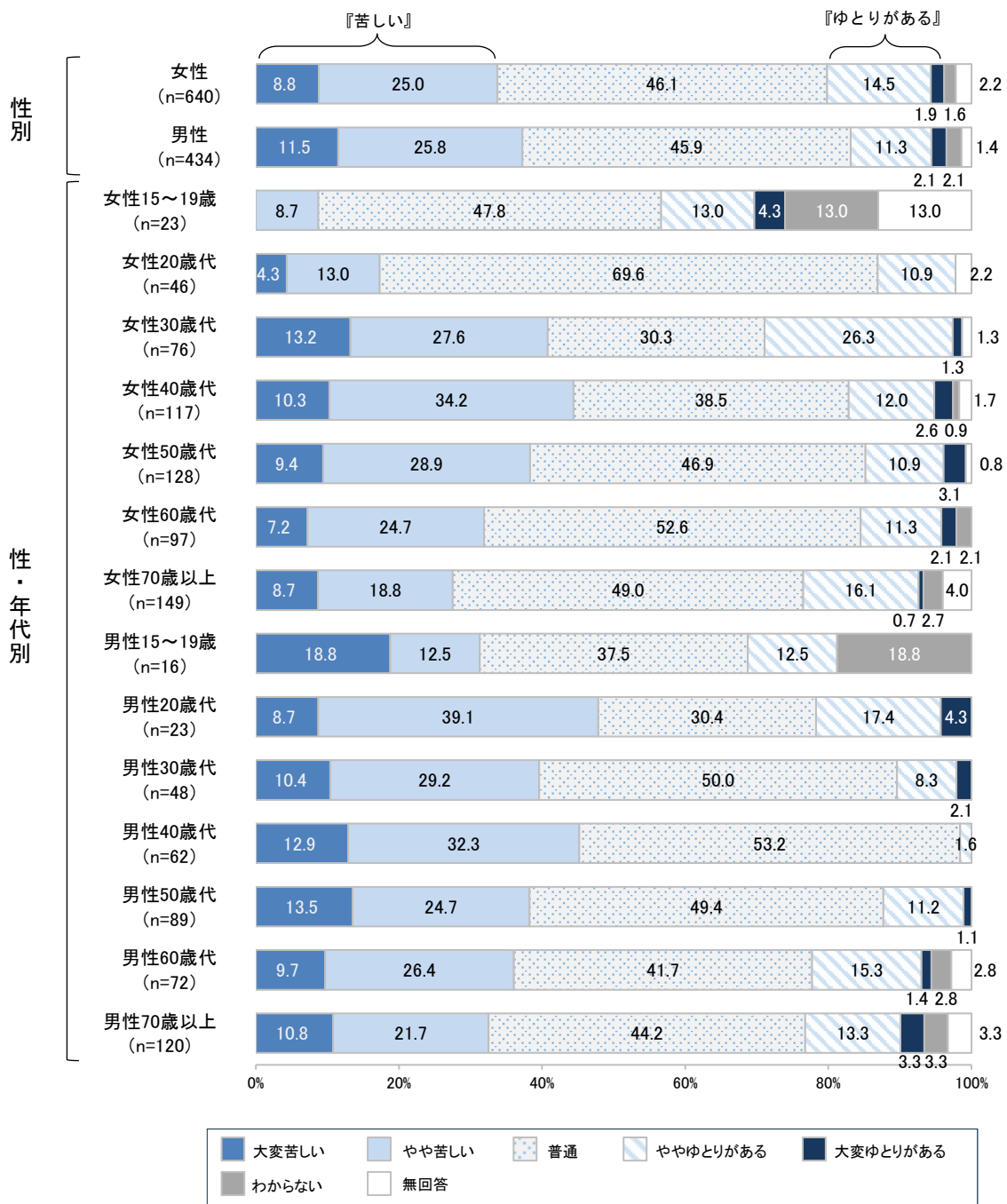
問9 現在の生活の経済的状況をどう感じていますか。(〇印は1つ)



現在の生活の経済的状況について、『苦しい』（「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合）との回答が 34.2%、『ゆとりがある』（「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた割合）との回答が 14.9%となっている。

経年比較すると、『苦しい』と回答した割合は令和元年度まで減少傾向にあったが、今回調査では令和元年度調査を 3.7 ポイント上回っている。

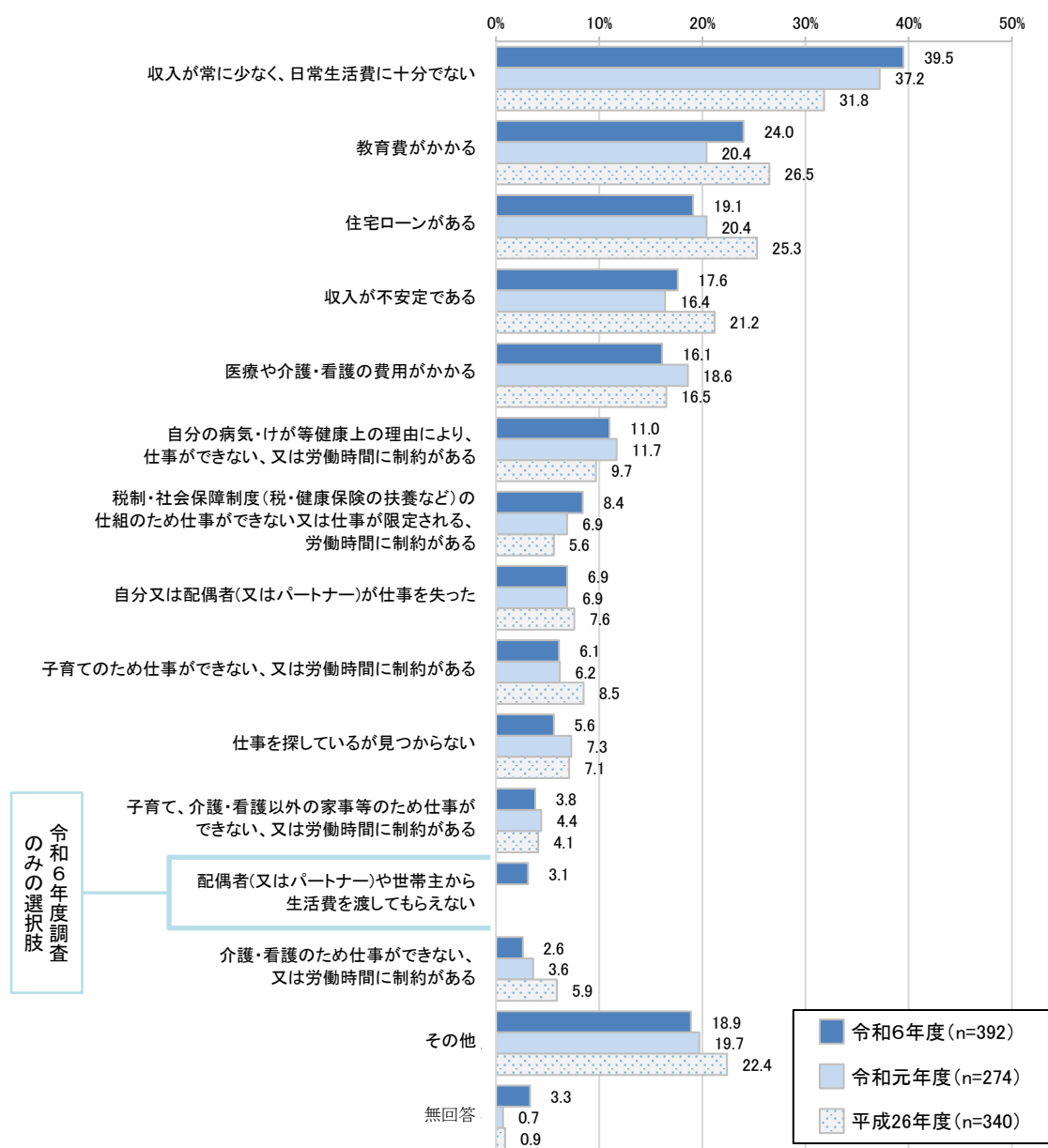
【現在の生活の経済的状況（性別、性・年代別）】



現在の生活の経済的状況について、性別にみると、『苦しい』と回答した割合は男性（37.3%）が女性（33.8%）を3.5ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『苦しい』と回答した割合は男性20歳代（47.8%）が最も高く、次いで男性40歳代（45.2%）、女性40歳代（44.5%）の順となっている。

(問9で「1.大変苦しい」又は「2.やや苦しい」と回答された方におたずねします。)
問9-2 その理由は何ですか。(〇印はいくつでも)



現在の生活の経済的状況が苦しいと感じる理由について、「収入が常に少なく、日常生活費に十分でない (39.5%)」との回答が最も多く、次いで「教育費がかかる (24.0%)」、「住宅ローンがある (19.1%)」の順となっている。

経年比較すると、「収入が常に少なく、日常生活費に十分でない」との回答は増加傾向にある。

【現在の生活の経済的状況が苦しいと感じる理由（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	収入が常に少なく、日常生活費に十分でない	教育費がかかる	住宅ローンがある	収入が不安定である	医療や介護・看護の費用がかかる	自分の病気・仕掛け等健康上の理由により、仕事に制約がある	保険・社会保険制度（税・健康保険など）の制約があるため	税金・社会保険制度（税・健康保険など）の制約があるため	自分又は配偶者（又はパート）が仕事を失った
全体		392	39.5	24.0	19.1	17.6	16.1	11.0	8.4	6.9	
性別	女性	216	35.2	24.5	17.6	15.7	16.2	10.6	8.8	6.0	
	男性	162	43.2	24.7	22.2	21.0	15.4	9.9	7.4	7.4	
女性	15～19歳	2	-	100.0	-	-	50.0	-	50.0	-	
	20歳代	8	37.5	12.5	12.5	12.5	-	-	25.0	-	
	30歳代	31	35.5	19.4	12.9	25.8	9.7	9.7	9.7	6.5	
	40歳代	52	25.0	57.7	38.5	19.2	9.6	7.7	11.5	1.9	
	50歳代	49	42.9	28.6	16.3	18.4	16.3	10.2	6.1	4.1	
	60歳代	31	32.3	-	12.9	9.7	25.8	16.1	6.5	9.7	
	70歳以上	41	43.9	-	-	7.3	22.0	14.6	2.4	9.8	
男性	15～19歳	5	40.0	40.0	20.0	60.0	20.0	-	-	20.0	
	20歳代	11	36.4	18.2	9.1	9.1	-	-	9.1	-	
	30歳代	19	47.4	26.3	36.8	10.5	15.8	5.3	-	-	
	40歳代	28	50.0	57.1	39.3	14.3	21.4	3.6	3.6	7.1	
	50歳代	34	29.4	35.3	23.5	32.4	8.8	11.8	5.9	8.8	
	60歳代	26	46.2	7.7	15.4	38.5	11.5	7.7	15.4	7.7	
	70歳以上	39	48.7	2.6	10.3	7.7	23.1	20.5	10.3	10.3	

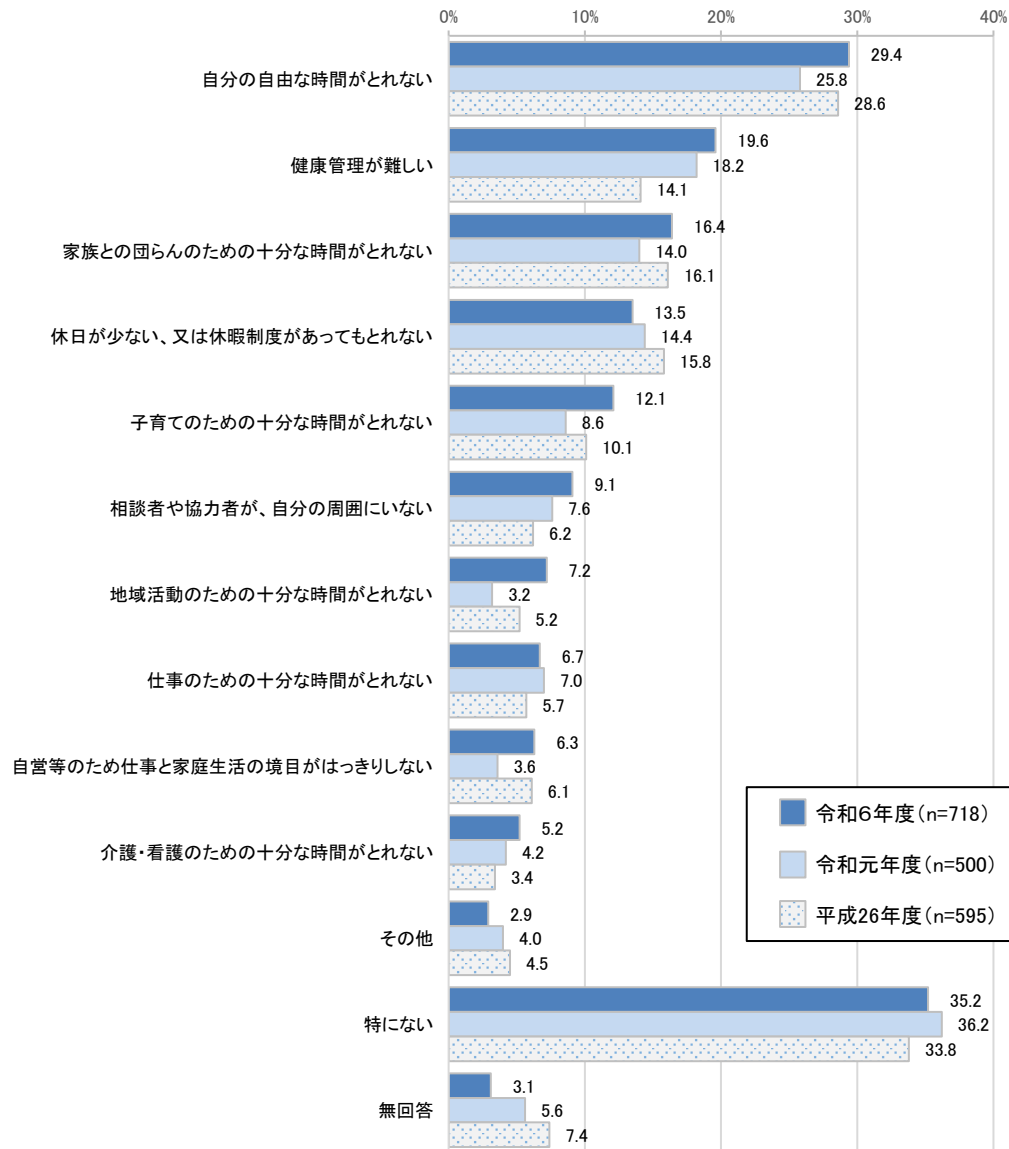
現在の生活の経済的状況が苦しいと感じる理由について、性別にみると、「収入が常に少なく、日常生活費に十分でない」で最も男女差が大きく、男性（43.2％）が女性（35.2％）を8.0ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「収入が常に少なく、日常生活費に十分でない」と回答した割合は男性40歳代（50.0％）が最も高く、次いで男性70歳以上（48.7％）、男性30歳代（47.4％）の順となっている。また、「収入が不安定である」と回答した割合は男性15～19歳（60.0％）が最も高く、次いで男性60歳代（38.5％）、男性50歳代（32.4％）の順となっている。

(現在仕事をしている方におたずねします。)

問 10 あなたは、仕事と仕事以外の生活の両立について、不安や悩みがありますか。

(○印はいくつでも)



仕事と仕事以外の生活の両立における不安や悩みについて、「自分の自由な時間がとれない (29.4%)」との回答が最も多く、次いで「健康管理が難しい (19.6%)」、「家族との団らんのための十分な時間がとれない (16.4%)」の順となっている。

経年比較すると、いずれの調査においても「自分の自由な時間がとれない」との回答が最も多い。

【仕事と仕事以外の生活の両立における不安や悩み（性別、性・年代別）】

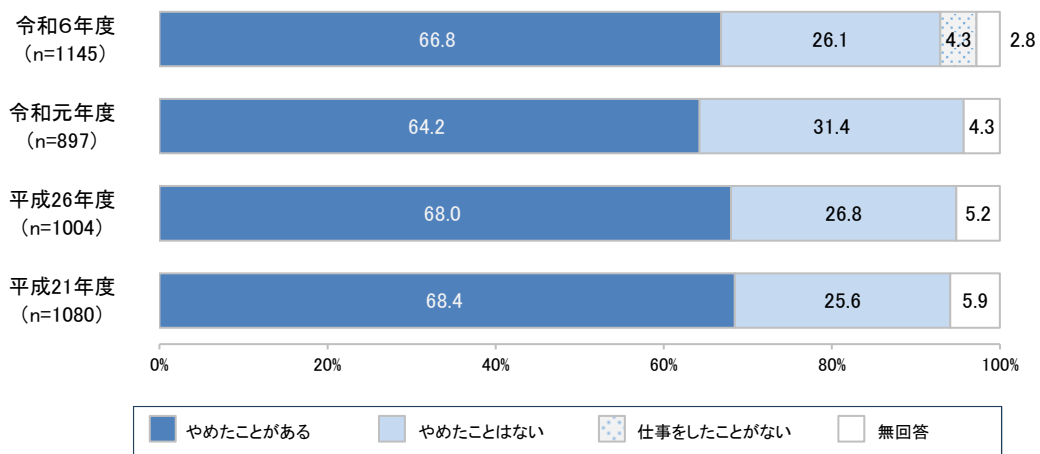
（複数回答）（％）

		回答者数（人）	自分の自由な時間がとれない	健康管理が難しい	家族との団らんのための十分な時間がない	休日が少ない、又は休暇制度があつてもとれない	子育てのための十分な時間がとれない	相談者や協力者が、自分の周囲にいない	地域活動のための十分な時間がとれない	仕事のための十分な時間がとれない	自営等のため仕事と家庭生活の境目がはつきりしない	介護・看護のための十分な時間がない	その他	特にない
全体		718	29.4	19.6	16.4	13.5	12.1	9.1	7.2	6.7	6.3	5.2	2.9	35.2
性別	女性	388	32.7	20.4	16.2	11.6	12.1	8.8	7.0	7.5	4.1	4.1	3.6	35.3
	男性	308	26.3	19.2	17.9	16.2	13.0	9.4	8.1	6.2	8.8	6.8	2.3	34.7
女性	15～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	36	25.0	19.4	13.9	13.9	8.3	2.8	5.6	2.8	—	—	—	44.4
	30歳代	64	48.4	21.9	31.3	17.2	35.9	6.3	9.4	12.5	4.7	1.6	—	21.9
	40歳代	101	41.6	16.8	17.8	7.9	15.8	4.0	4.0	7.9	5.9	5.9	6.9	36.6
	50歳代	106	28.3	27.4	17.0	16.0	4.7	14.2	8.5	6.6	3.8	6.6	3.8	32.1
	60歳代	58	24.1	13.8	1.7	6.9	—	13.8	8.6	6.9	3.4	3.4	5.2	39.7
	70歳以上	21	—	19.0	4.8	—	—	4.8	4.8	—	4.8	—	—	61.9
男性	15～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	16	37.5	31.3	25.0	25.0	12.5	6.3	6.3	—	—	—	—	31.3
	30歳代	46	39.1	19.6	30.4	26.1	32.6	13.0	8.7	19.6	4.3	4.3	2.2	21.7
	40歳代	59	37.3	11.9	22.0	18.6	22.0	8.5	11.9	1.7	5.1	6.8	1.7	23.7
	50歳代	83	22.9	20.5	21.7	15.7	10.8	8.4	10.8	2.4	8.4	13.3	2.4	39.8
	60歳代	53	15.1	22.6	7.5	13.2	1.9	11.3	3.8	11.3	13.2	5.7	—	41.5
	70歳以上	48	16.7	16.7	4.2	6.3	—	8.3	2.1	2.1	16.7	2.1	6.3	47.9

仕事と仕事以外の生活の両立における不安や悩みについて、性別にみると、「自分の自由な時間がとれない」で最も男女差が大きく、女性（32.7％）が男性（26.3％）を6.4ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「自分の自由な時間がとれない」と回答した割合は女性30歳代（48.4％）が最も高く、次いで女性40歳代（41.6％）、男性30歳代（39.1％）の順となっている。また、「健康管理が難しい」と回答した割合は男性20歳代（31.3％）が最も高く、次いで女性50歳代（27.4％）、男性60歳代（22.6％）の順となっている。

問 11 あなたはこれまでに、仕事をやめたことがありますか。(○印は1つ)

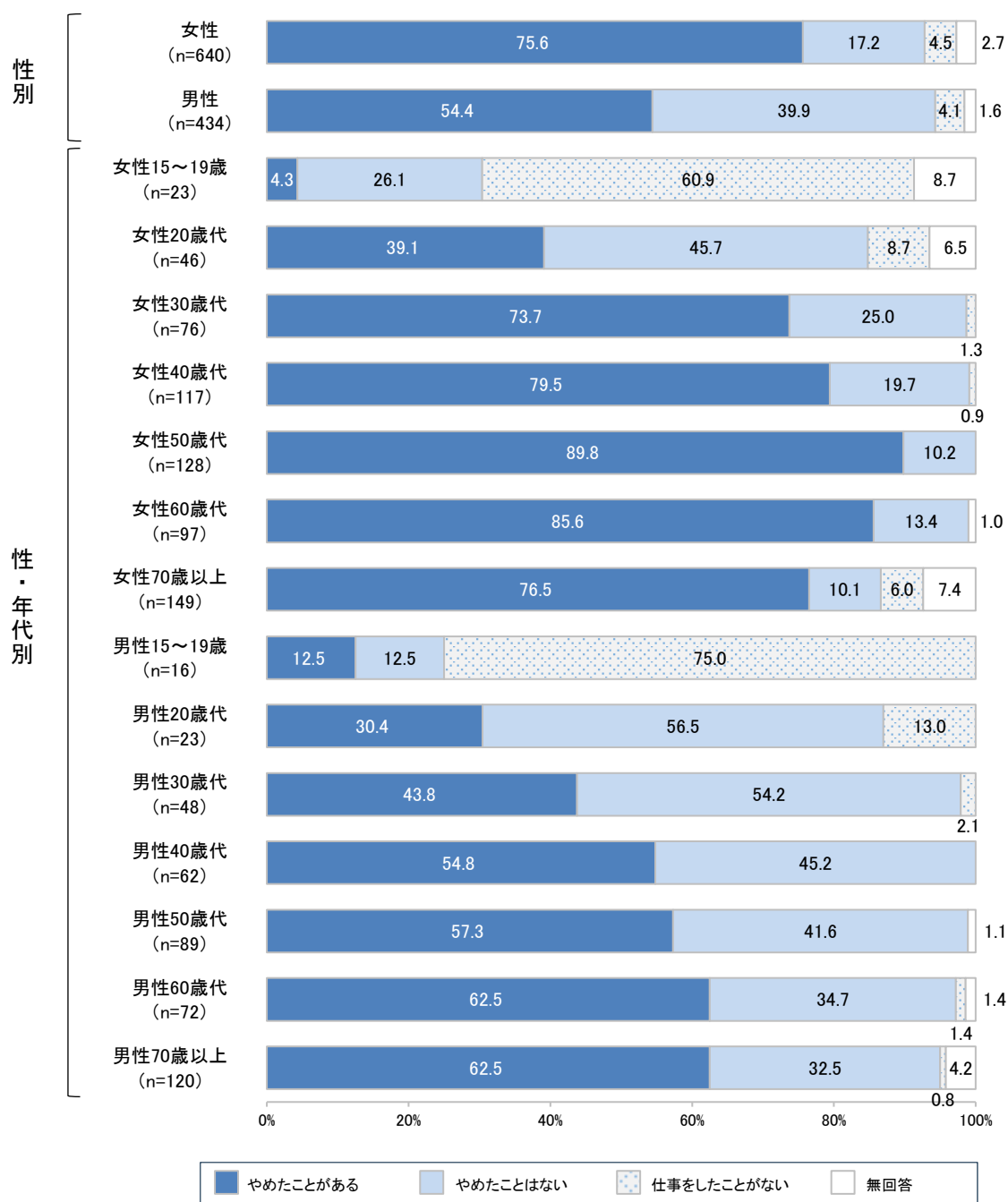


※「仕事をしたことがない」は令和元年度調査以前にはない選択肢

仕事をやめた経験について、「やめたことがある」との回答が66.8%、「やめたことはない」との回答が26.1%、「仕事をしたことがない」が4.3%となっている。

経年比較すると、いずれの調査においても「やめたことがある」との回答が「やめたことはない」との回答を上回っている。

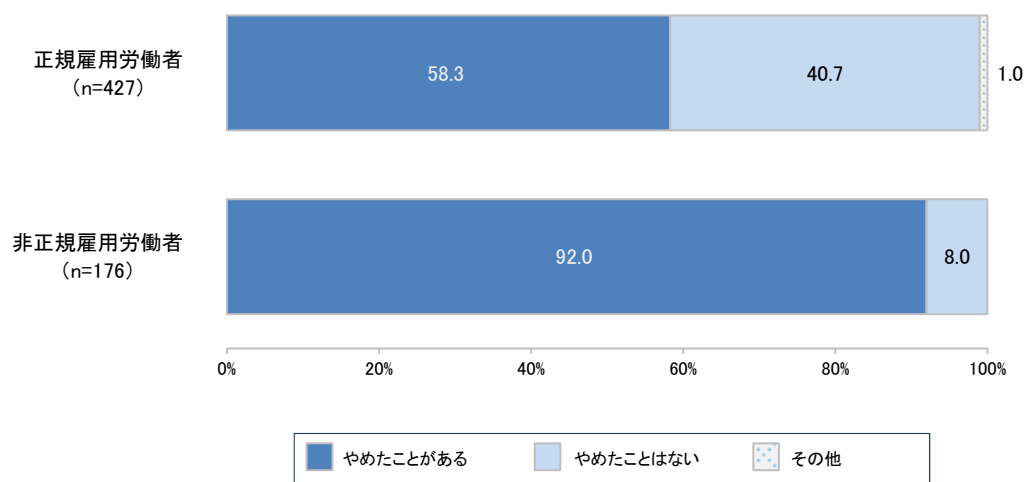
【仕事をやめた経験（性別、性・年代別）】



仕事をやめた経験について、性別にみると、「やめたことがある」と回答した割合は女性（75.6％）が男性（54.4％）を21.2ポイント上回っている。

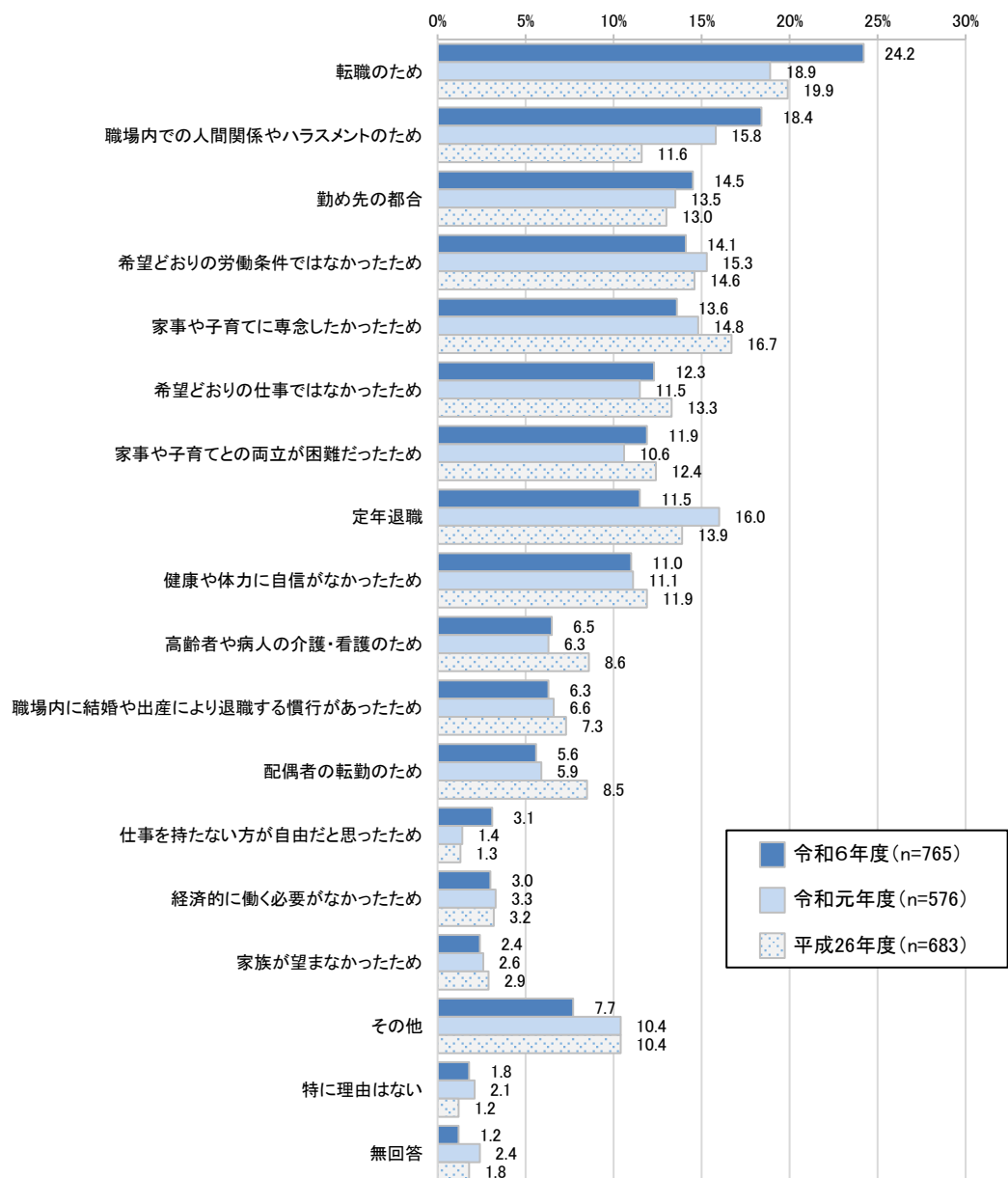
性・年代別にみると、「やめたことがある」と回答した割合は女性50歳代（89.8％）が最も高く、次いで女性60歳代（85.6％）、女性40歳代（79.5％）の順となっている。

【仕事をやめた経験（就労形態別）】



仕事をやめた経験について、就労形態別にみると、「やめたことがある」と回答した割合は非正規雇用労働者（92.0%）が正規雇用労働者（58.3%）を 33.7 ポイント上回っている。

(問 11 で「1. やめたことがある」と回答された方におたずねします。)
問 11-2 仕事をやめた理由をお聞かせください。(○印はいくつでも)



※「職場内での人間関係やハラスメントのため」の選択肢は、令和元年度調査以前では「職場内での人間関係やセクシュアル・ハラスメントのため」となっている

仕事をやめた理由について、「転職のため (24.2%)」との回答が最も多く、次いで「職場内での人間関係やハラスメントのため (18.4%)」、「勤め先の都合 (14.5%)」の順となっている。

経年比較すると、「転職のため」は 5.3 ポイント、「職場内での人間関係やハラスメントのため」は 2.6 ポイント、それぞれ今回調査が令和元年度調査を上回っている。

【仕事をやめた理由（性別、性・年代別）】

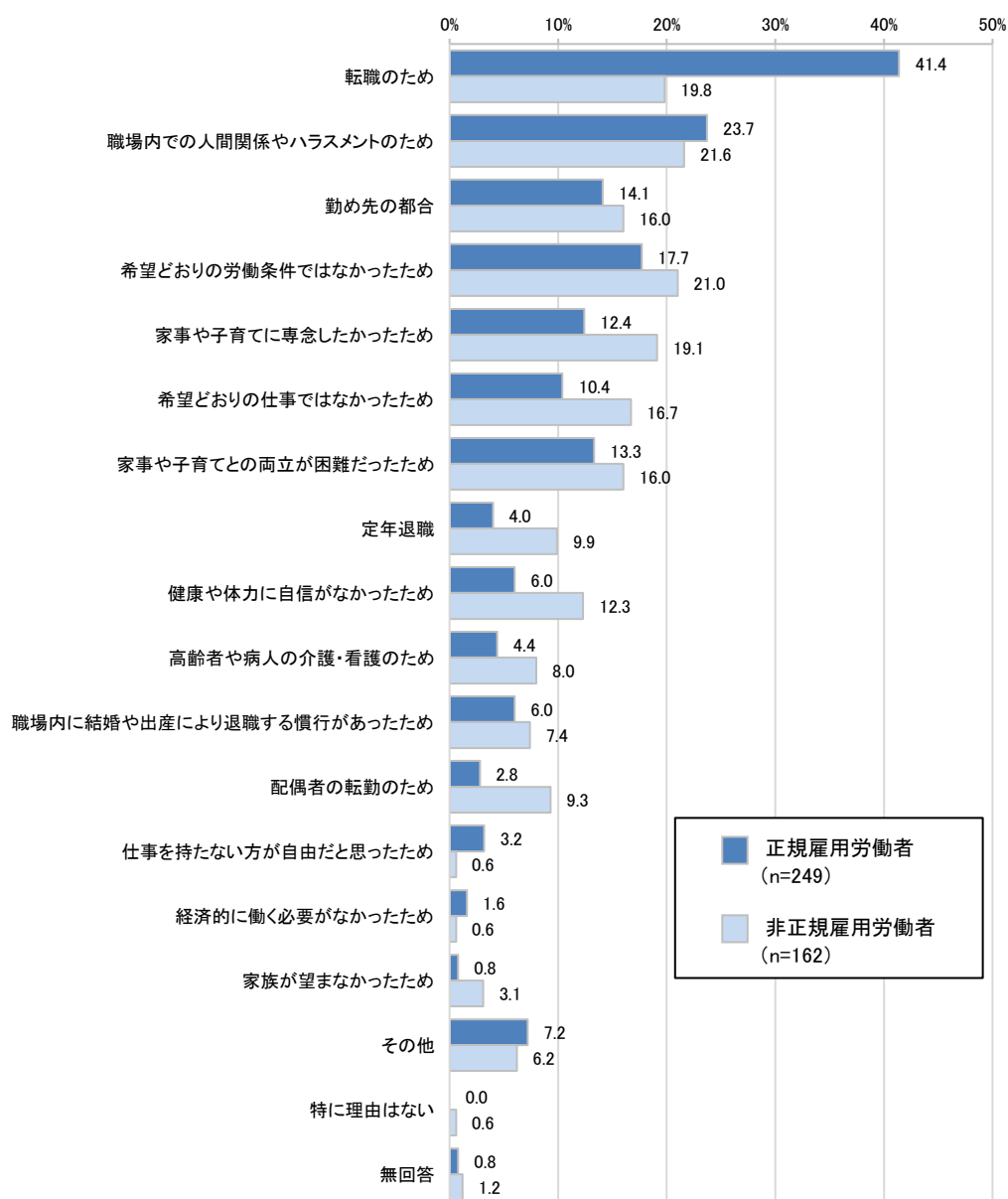
（複数回答）（％）

		回答者数（人）	転職のため	職場内での人間関係やハラスメントのため	勤め先の都合	希望たための労働条件ではなかつたため	家事や子育てに専念したかつたため	希望どおりの仕事ではなかつたため	家事や子育てとの両立が困難だったため	定年退職	健康や体力に自信がなかったため	高齢者や病人の介護・看護のため
全体		765	24.2	18.4	14.5	14.1	13.6	12.3	11.9	11.5	11.0	6.5
性別	女性	484	19.4	20.0	13.6	14.5	20.5	9.9	18.0	4.8	12.2	8.3
	男性	236	36.0	16.9	15.3	14.8	0.4	17.8	1.3	24.6	7.6	2.5
女性	15～19歳	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	18	33.3	44.4	16.7	33.3	11.1	16.7	5.6	—	16.7	—
	30歳代	56	30.4	39.3	8.9	16.1	12.5	16.1	19.6	—	3.6	—
	40歳代	93	25.8	17.2	18.3	15.1	21.5	11.8	29.0	—	9.7	4.3
	50歳代	115	26.1	21.7	13.9	21.7	29.6	14.8	21.7	—	12.2	3.5
	60歳代	83	7.2	14.5	12.0	10.8	24.1	4.8	20.5	10.8	18.1	18.1
	70歳以上	114	8.8	11.4	11.4	4.4	14.0	3.5	5.3	12.3	14.0	14.9
男性	15～19歳	2	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	7	42.9	28.6	14.3	14.3	—	14.3	—	—	—	—
	30歳代	21	76.2	28.6	9.5	28.6	—	23.8	4.8	—	9.5	—
	40歳代	34	38.2	26.5	14.7	17.6	—	14.7	2.9	—	8.8	—
	50歳代	51	45.1	19.6	23.5	23.5	—	19.6	—	—	3.9	3.9
	60歳代	45	26.7	20.0	13.3	11.1	2.2	17.8	—	46.7	11.1	6.7
	70歳以上	75	22.7	4.0	12.0	6.7	—	16.0	1.3	49.3	8.0	1.3

仕事をやめた理由について、性別にみると、「家事や子育てに専念したかつたため」で最も男女差が大きく、女性（20.5％）が男性（0.4％）を20.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「家事や子育てに専念したかつたため」と回答した割合は女性50歳代（29.6％）が最も高く、次いで女性60歳代（24.1％）、女性40歳代（21.5％）の順となっている。また、「家事や子育てとの両立が困難だったため」と回答した割合は女性40歳代（29.0％）が最も高く、次いで女性50歳代（21.7％）、女性60歳代（20.5％）の順となっている。

【仕事をやめた理由（就労形態別）】

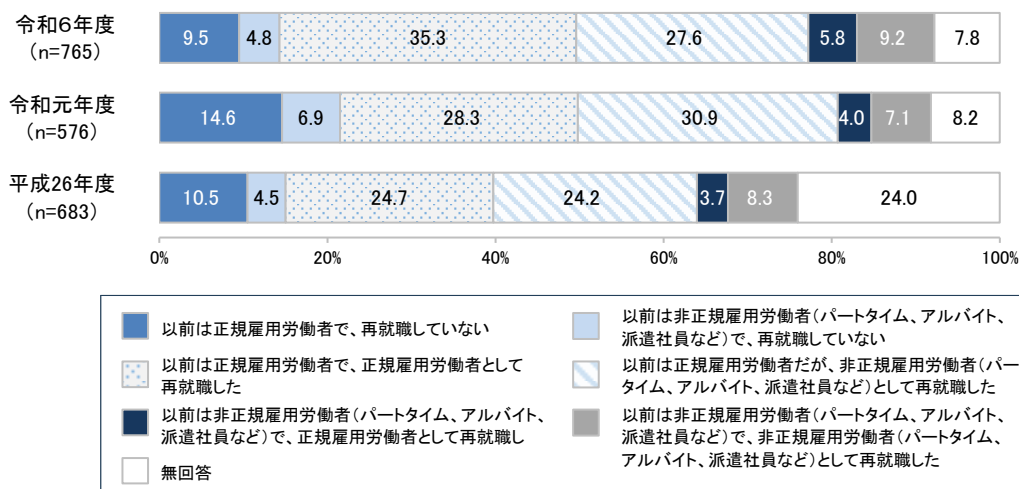


仕事をやめた理由について、就労形態別にみると、正規雇用労働者は「転職のため」との回答が41.4%と最も多く、非正規雇用労働者（19.8%）を21.6ポイント上回っている。一方、「家事や子育てに専念したかったため」と回答した割合は、非正規雇用労働者（19.1%）が正規雇用労働者（12.4%）を6.7ポイント上回っている。

（問 11 で「1. やめたことがある」と回答された方におたずねします。）

問 11-3 仕事をやめた後の再就職について（仕事をやめた経験が複数回ある場合は最初の時）
お聞かせください。（○印は1つ）

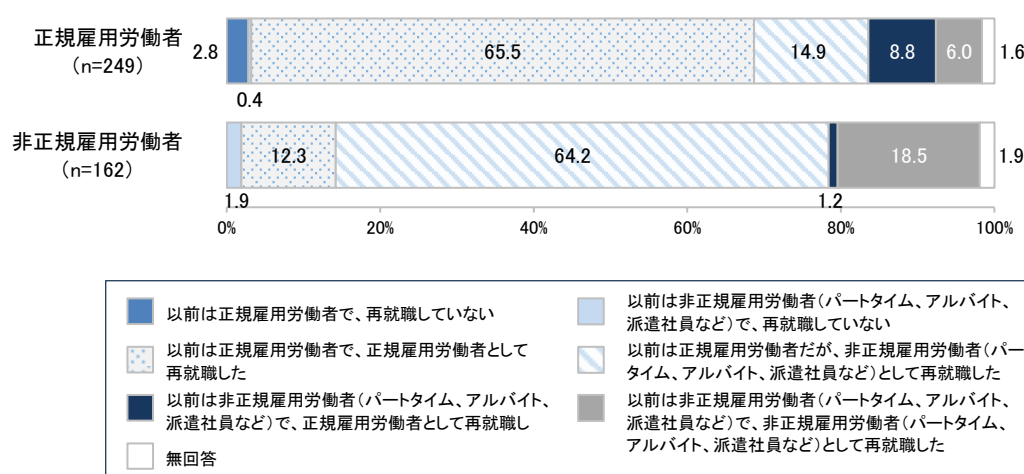
※平成 21 年度にはない問



仕事をやめた後の再就職について、「以前は正規雇用労働者で、正規雇用労働者として再就職した（35.3%）」との回答が最も多く、次いで「以前は正規雇用労働者だが、非正規雇用労働者として再就職した（27.6%）」、「以前は正規雇用労働者で、再就職していない（9.5%）」の順となっている。

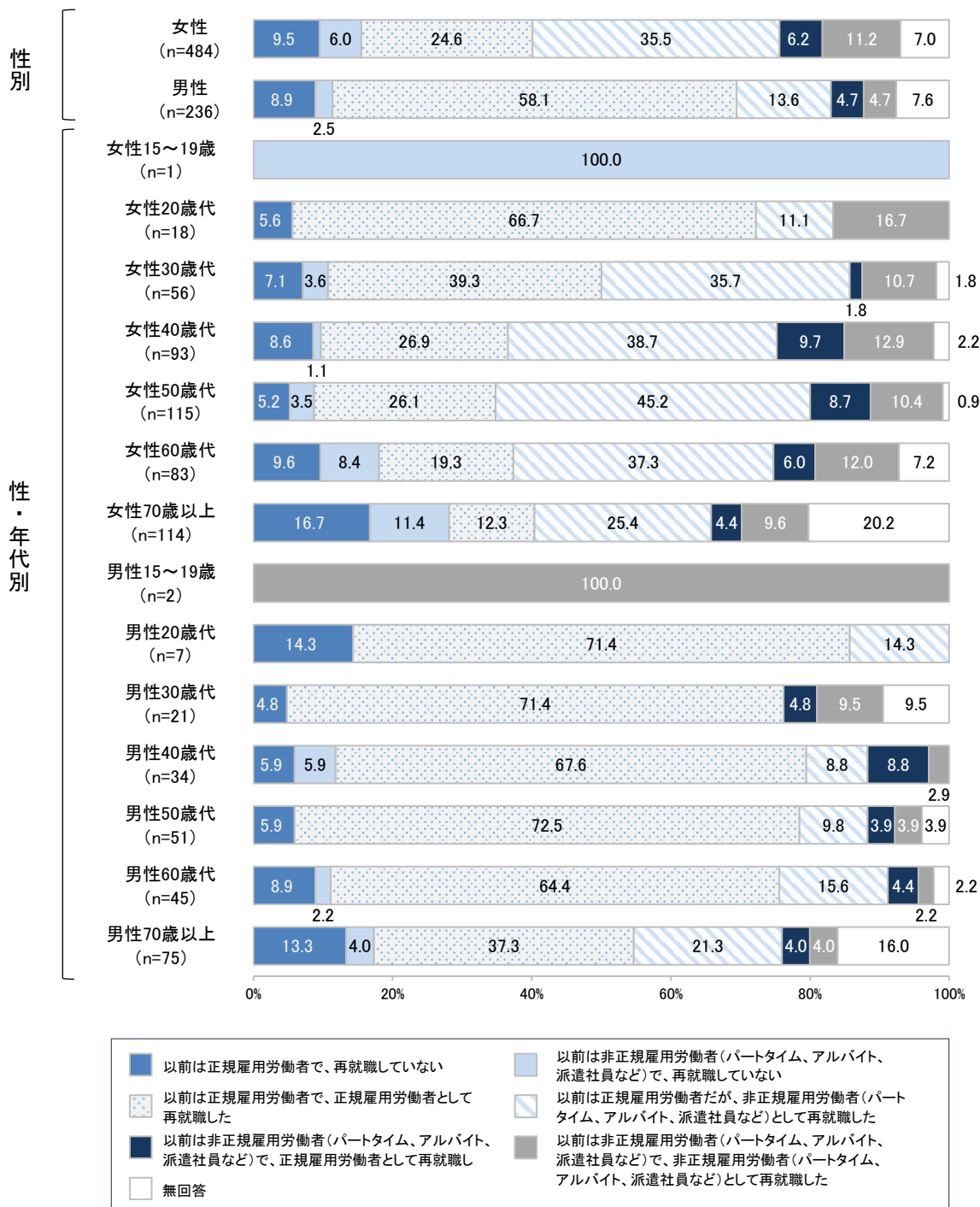
経年比較すると、「以前は正規雇用労働者で、正規雇用労働者として再就職した」と回答した割合は 7.0 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。

【仕事をやめた後の再就職（就労形態別）】



仕事をやめた後の再就職について、就労形態別にみると、正規雇用労働者では「以前は正規雇用労働者で、正規雇用労働者として再就職した」との回答が 65.5%、非正規雇用労働者では「以前は正規雇用労働者だが、非正規雇用労働者として再就職した」との回答が 64.2%と、それぞれ最も高い。

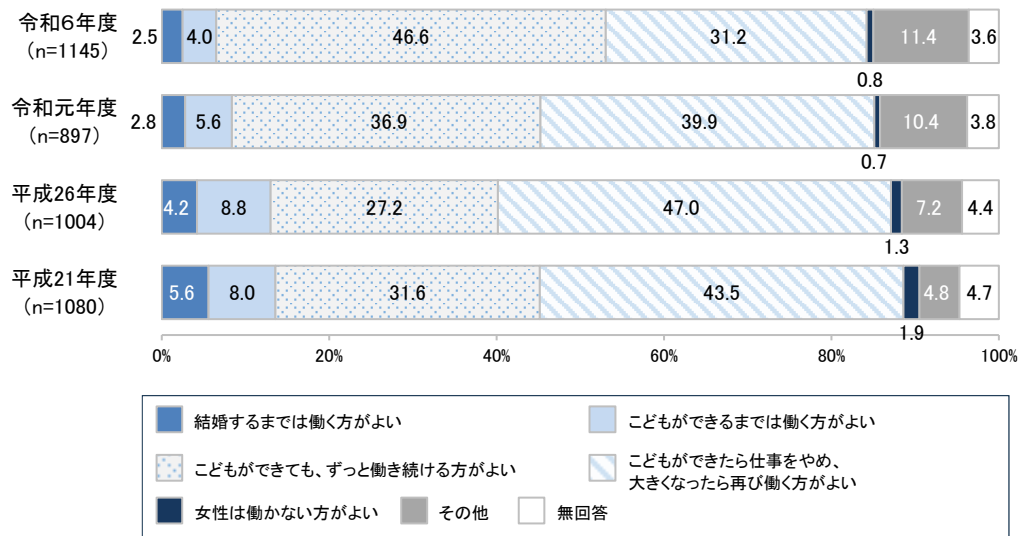
【仕事をやめた後の再就職（性別、性・年代別）】



仕事をやめた後の再就職について、性別にみると、「以前は正規雇用労働者で、正規雇用労働者として再就職した」と回答した割合は男性（58.1%）が女性（24.6%）を 33.5 ポイント上回っている。一方、「以前は正規雇用労働者だが、非正規雇用労働者として再就職した」と回答した割合は女性（35.5%）が男性（13.6%）を 21.9 ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「以前は正規雇用労働者だが、非正規雇用労働者として再就職した」と回答した割合は女性 50 歳代（45.2%）で最も高く、次いで女性 40 歳代（38.7%）、女性 60 歳代（37.3%）の順で高くなっている。

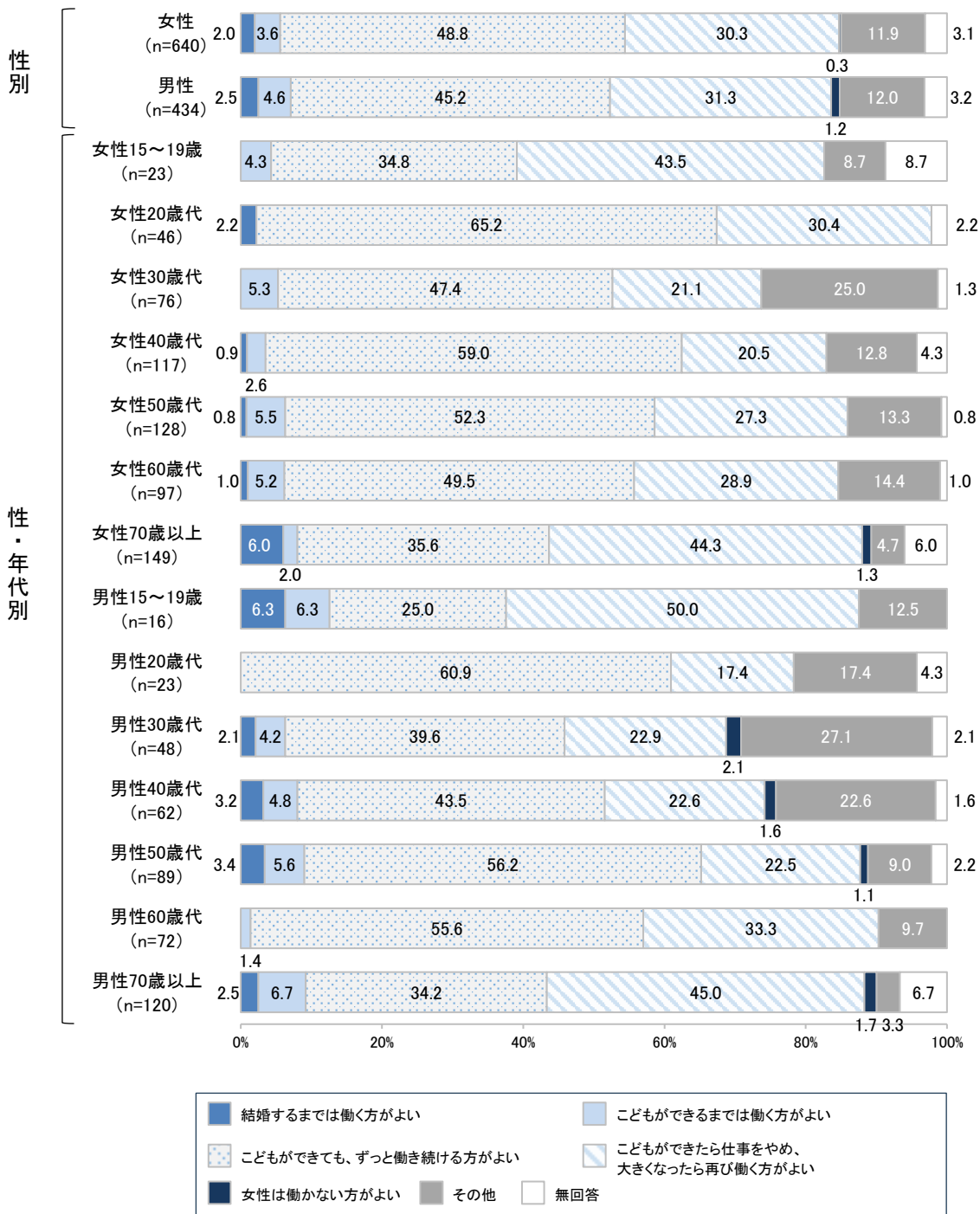
問 12 あなたは、一般的に女性が働くことについてどのように思いますか。ご自身の考えに最も近いものをお答えください。(○印は1つ)



女性が働くことに関する考え方について、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい (46.6%)」との回答が最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい (31.2%)」「子どもができるまでは働く方がよい (4.0%)」の順となっている。

経年比較すると、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」と回答した割合は 9.7 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。一方、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」と回答した割合は 8.7 ポイント、今回調査が令和元年度調査を下回っている。

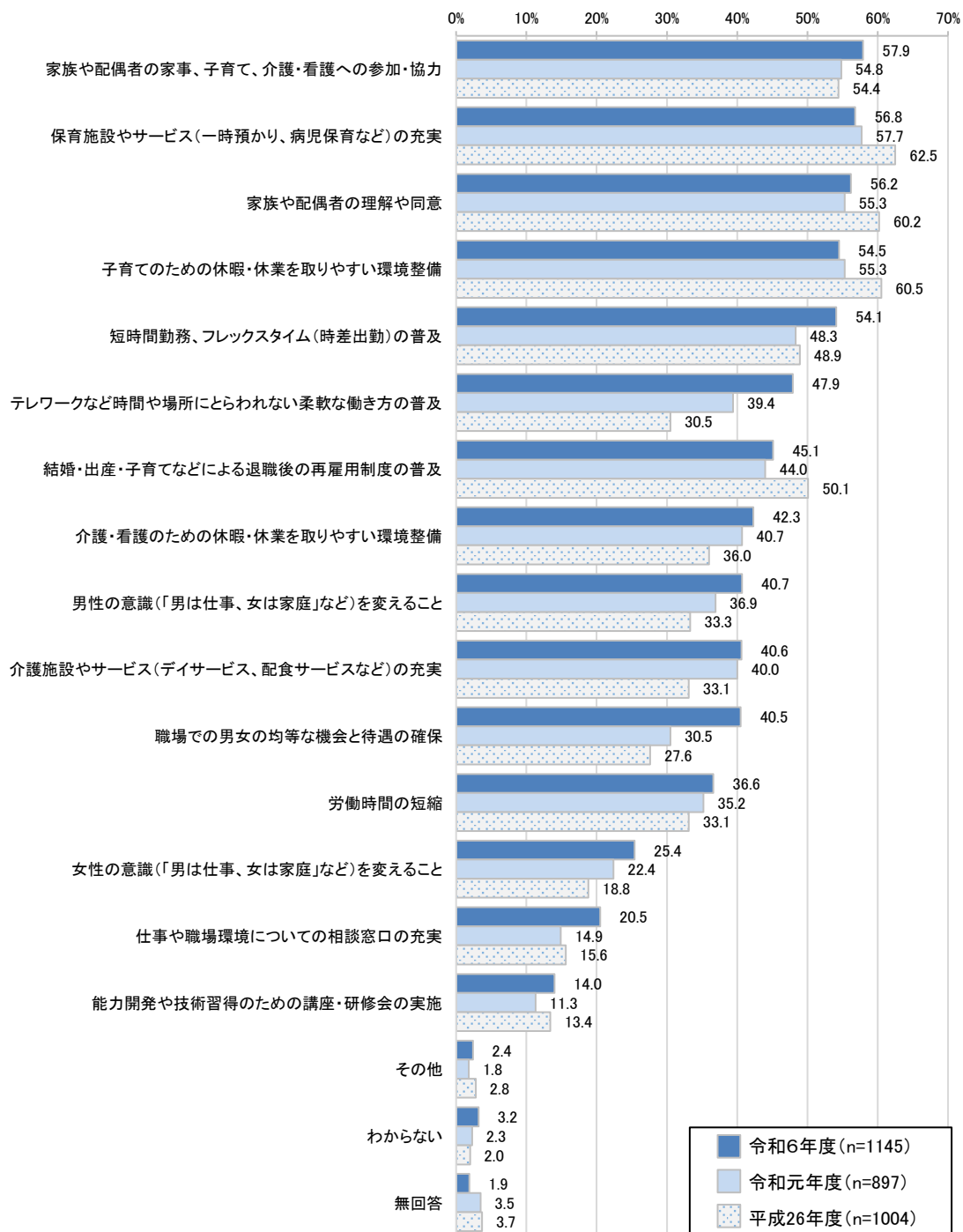
【女性が働くことに関する考え方（性別、性・年代別）】



女性が働くことに関する考え方について、性別にみると、「こどもができて、ずっと働き続ける方がよい」と回答した割合は女性（48.8%）が男性（45.2%）を3.6ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「こどもができて、ずっと働き続ける方がよい」と回答した割合は女性20歳代（65.2%）が最も高く、次いで男性20歳代（60.9%）、女性40歳代（59.0%）の順となっている。また、「こどもができたらか仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」と回答した割合は男性15～19歳（50.0%）が最も高く、次いで男性70歳以上（45.0%）、女性70歳以上（44.3%）の順となっている。

問 13 あなたは、働く意欲のある女性が働き続けたり、再就職したりするために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印はいくつでも)



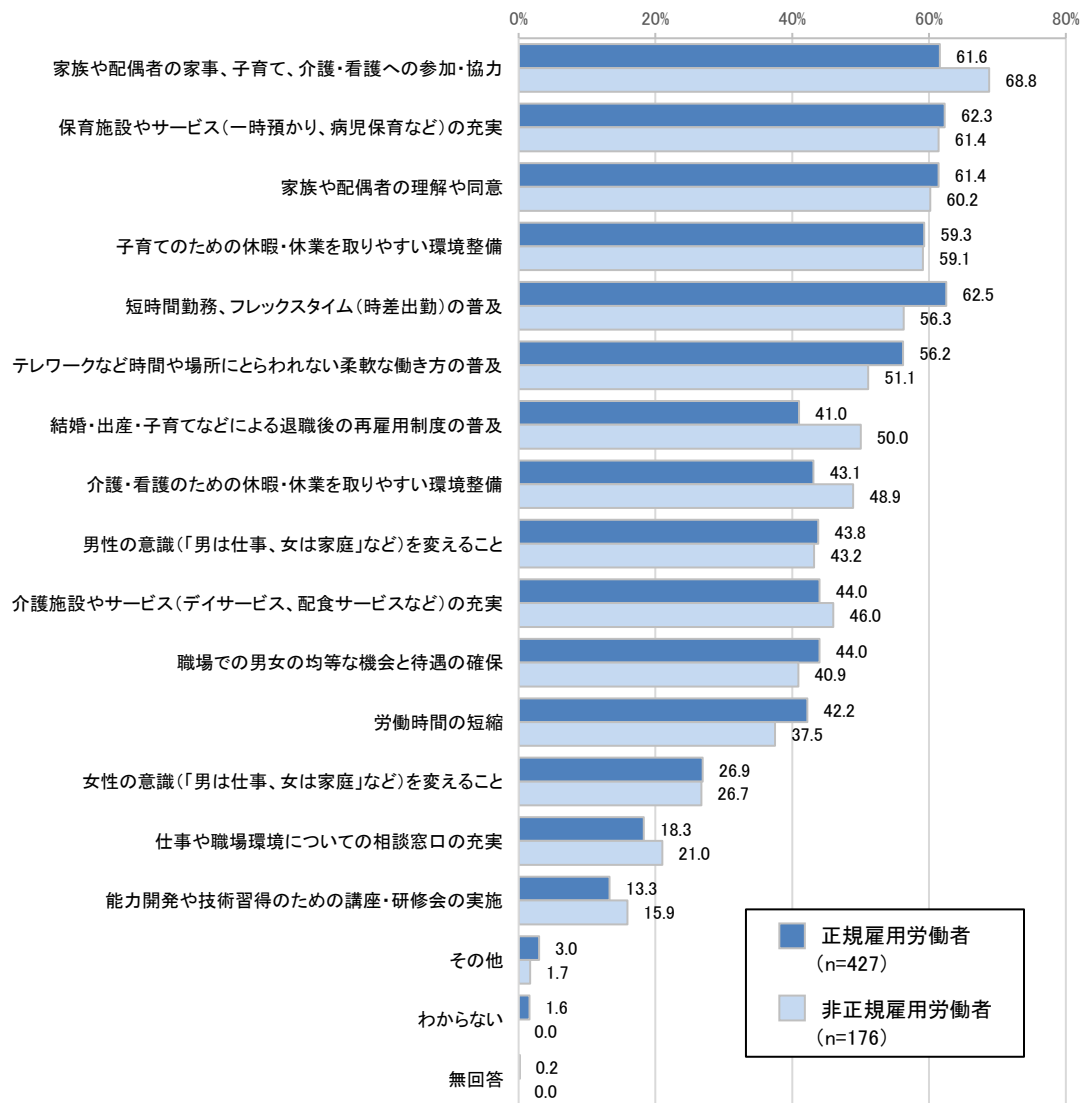
※「テレワークなど時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及」の選択肢は、令和元年度調査以前では「在宅勤務など時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及」となっている

※「職場での男女の均等な機会と待遇の確保」の選択肢は、令和元年度調査以前では「昇進、昇給、仕事内容などの職場での男女の均等な機会と待遇の確保について企業への周知徹底」となっている

女性の就労継続、再就職に必要なことについて、「家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力（57.9%）」との回答が最も多く、次いで「保育施設やサービス（一時預かり、病児保育など）の充実（56.8%）」、「家族や配偶者の理解や同意（56.2%）」の順となっている。

経年比較すると、「職場での男女の均等な機会と待遇の確保」は 10.0 ポイント、「テレワークなど時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及」は 8.5 ポイント、「短時間勤務、フレックスタイム（時差出勤）の普及」は 5.8 ポイント、それぞれ今回調査が令和元年度調査を上回っている。

【女性の就労継続、再就職に必要なこと（就労形態別）】



女性の就労継続、再就職に必要なことについて、就労形態別にみると、「結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及」は9.0ポイント、「家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力」は7.2ポイント、「介護・看護のための休暇・休業を取りやすい環境整備」は5.8ポイント、それぞれ非正規雇用労働者が正規雇用労働者を上回っている。一方、「短時間勤務、フレックスタイム（時差出勤）の普及」は6.2ポイント、「テレワークなど時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及」は5.1ポイント、「労働時間の短縮」は4.7ポイント、それぞれ正規雇用労働者が非正規雇用労働者を上回っている。

【女性の就労継続、再就職に必要なこと（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	介護・看護への参加・協力	家族や配偶者の家事、子育て、 家族や配偶者の理解や同意	保育施設やサービス （一時預かり、病児保育など） の充実	家族や配偶者の理解や同意	子育てのための休暇・休業 を取りやすい環境整備	短時間勤務、フレックス タイム（時差出勤）の普及	普及	テレワークなど時間や場所に とらわれない柔軟な働き方の 普及	結婚・出産・子育てなどによる 退職後の再雇用制度の普及	介護・看護のための休暇・ 休業を取りやすい環境整備	女性の意識（「男は仕事、 女は家庭」など）を変えること	介護施設やサービス（デイ サービス、配食サービスなど） の充実	職場での男女の均等な機会 と待遇の確保
全体		1145	57.9	56.8	56.2	54.5	54.1	47.9	45.1	42.3	40.7	40.6	40.5		
性別	女性	640	64.5	59.8	58.9	57.3	55.8	48.1	48.0	46.6	44.1	44.4	39.5		
	男性	434	49.8	53.5	53.9	50.5	54.4	49.5	41.5	35.5	37.6	36.9	42.4		
女性	15～19歳	23	43.5	39.1	47.8	43.5	47.8	30.4	47.8	30.4	56.5	30.4	52.2		
	20歳代	46	67.4	78.3	63.0	76.1	67.4	71.7	60.9	54.3	54.3	43.5	60.9		
	30歳代	76	64.5	69.7	53.9	60.5	61.8	52.6	48.7	43.4	46.1	35.5	53.9		
	40歳代	117	70.1	63.2	61.5	67.5	70.9	62.4	43.6	45.3	51.3	41.0	36.8		
	50歳代	128	67.2	62.5	66.4	55.5	57.8	49.2	45.3	49.2	50.0	53.1	44.5		
	60歳代	97	74.2	61.9	61.9	61.9	59.8	45.4	45.4	54.6	42.3	54.6	39.2		
	70歳以上	149	53.0	45.6	51.7	43.0	35.6	30.9	50.3	41.6	28.9	38.9	21.5		
男性	15～19歳	16	43.8	31.3	50.0	43.8	31.3	43.8	31.3	37.5	43.8	31.3	31.3		
	20歳代	23	56.5	65.2	43.5	65.2	78.3	60.9	52.2	26.1	43.5	30.4	56.5		
	30歳代	48	54.2	56.3	56.3	58.3	58.3	60.4	54.2	31.3	50.0	27.1	52.1		
	40歳代	62	46.8	45.2	58.1	51.6	62.9	59.7	38.7	32.3	41.9	40.3	40.3		
	50歳代	89	49.4	58.4	53.9	47.2	56.2	53.9	37.1	36.0	37.1	40.4	42.7		
	60歳代	72	65.3	68.1	61.1	59.7	56.9	63.9	47.2	52.8	44.4	52.8	55.6		
	70歳以上	120	39.2	44.2	49.2	41.7	44.2	25.8	36.7	29.2	24.2	28.3	30.0		

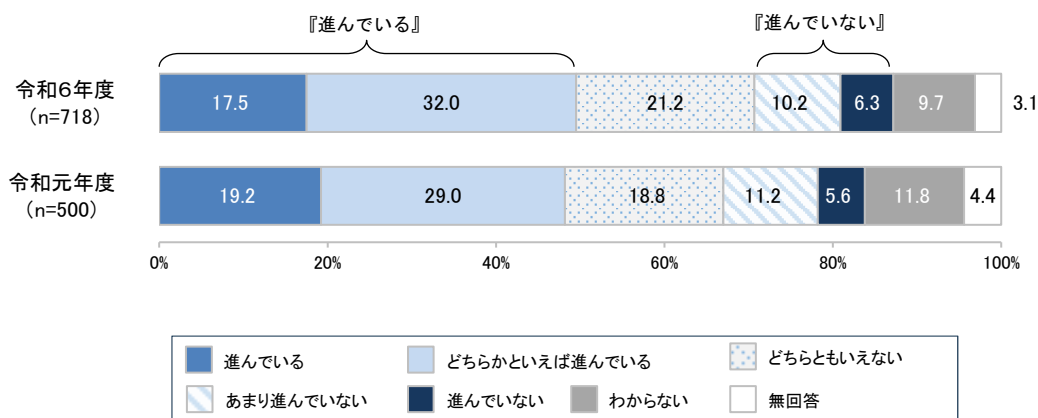
女性の就労継続、再就職に必要なことについて、性別にみると、「家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力」で最も男女差が大きく、女性（64.5％）が男性（49.8％）を14.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力」と回答した割合は女性60歳代（74.2％）が最も多く、次いで女性40歳代（70.1％）、女性20歳代（67.4％）の順となっている。また、「保育施設やサービス（一時預かり、病児保育など）の充実」と回答した割合は女性20歳代（78.3％）が最も高く、次いで女性30歳代（69.7％）、男性60歳代（68.1％）の順となっている。

(現在仕事をしている方におたずねします。)

問 14 あなたの職場では女性活躍^{かつやく}の取組は進んでいると思いますか。(〇印は1つ)

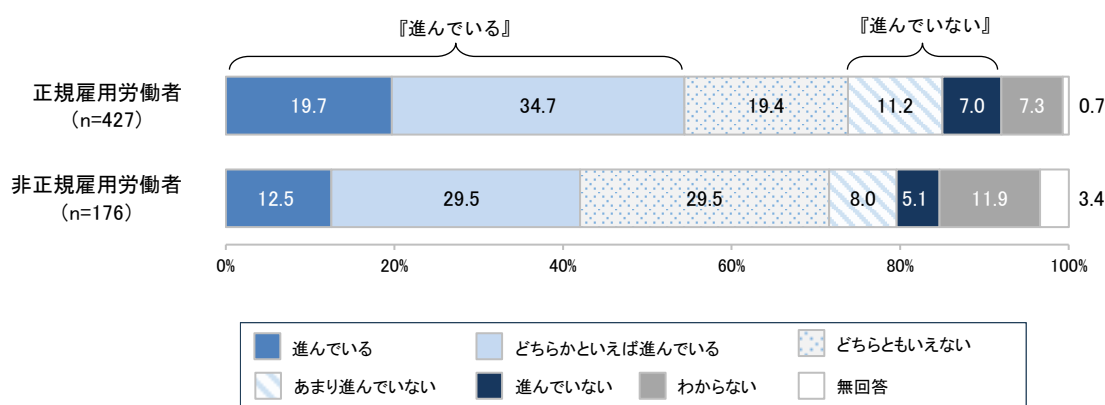
※平成 26 年度に以前はない問



職場における女性活躍^{かつやく}への取組について、『進んでいる』(「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」を合わせた割合)との回答が 49.5%、『進んでいない』(「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合)との回答が 16.5%となっている。

経年比較すると、『進んでいる』と回答した割合は 1.3 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。

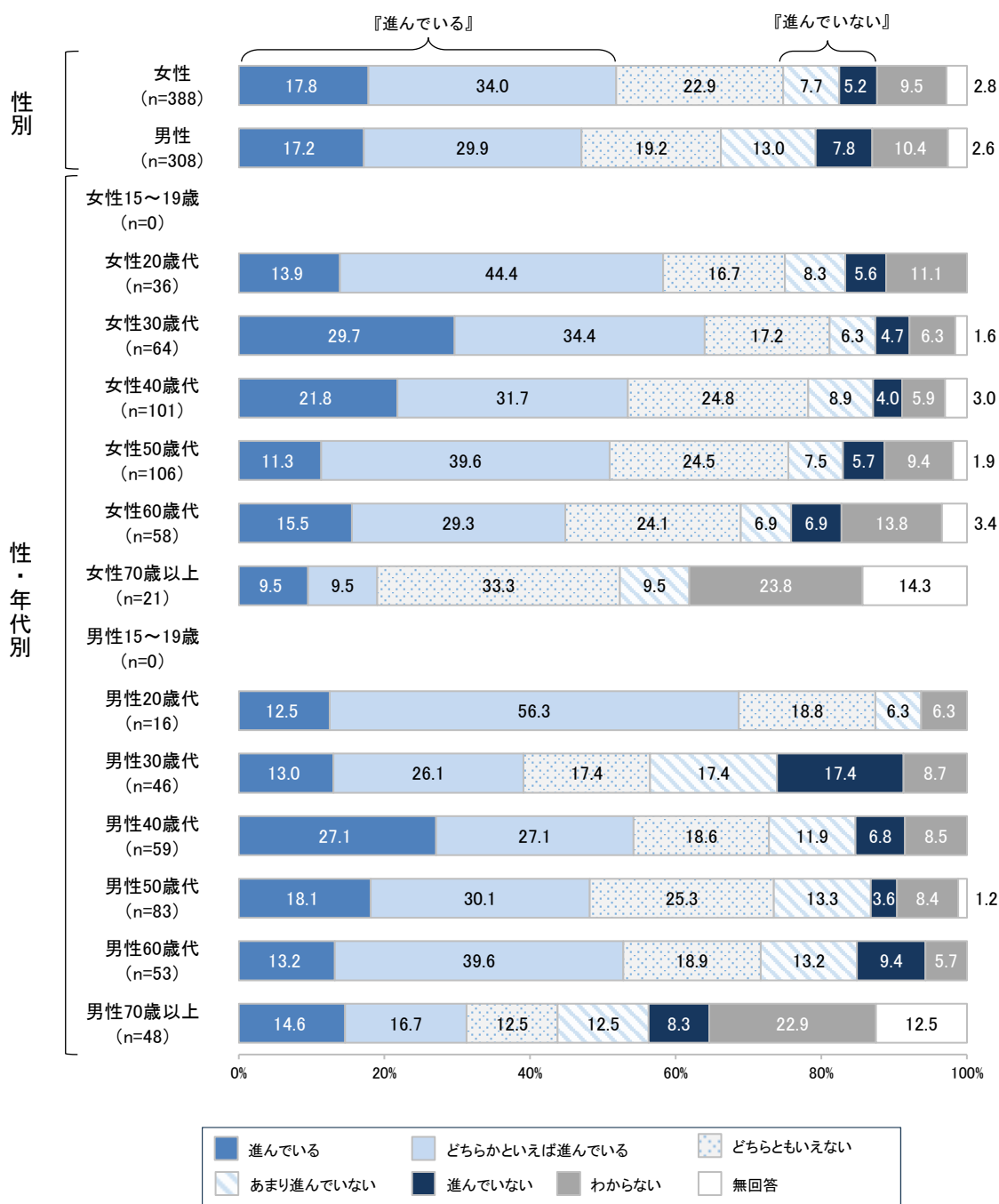
【職場における女性活躍^{かつやく}への取組 (就労形態別)】



職場における女性活躍^{かつやく}への取組について、就労形態別にみると、『進んでいる』との回答は、正規雇用労働者 (54.4%) が非正規雇用労働者 (42.0%) を 12.4 ポイント上回っている。

一方で、『進んでいない』についても正規雇用労働者 (18.2%) が非正規雇用労働者 (13.1%) を 5.1 ポイント上回っている。

【職場における女性活躍^{かつやく}への取組（性別、性・年代別）】



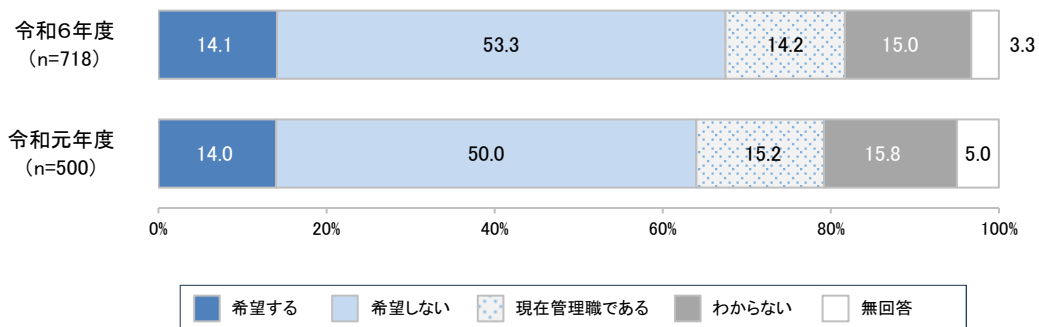
職場における女性活躍^{かつやく}への取組について、性別にみると、『進んでいる』と回答した割合は女性（51.8%）が男性（47.1%）を4.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『進んでいる』と回答した割合は男性20歳代（68.8%）が最も高く、次いで女性30歳代（64.1%）、女性20歳代（58.3%）の順となっている。一方、『進んでいない』との回答は男性30歳代（34.8%）で最も高く、次いで男性60歳代（22.6%）、男性70歳以上（20.8%）の順となっている。

（現在仕事をしている方におたずねします。）

問 15 あなたは管理職（課長相当職以上）への昇格^{しょうかく}を希望していますか。（○印は1つ）

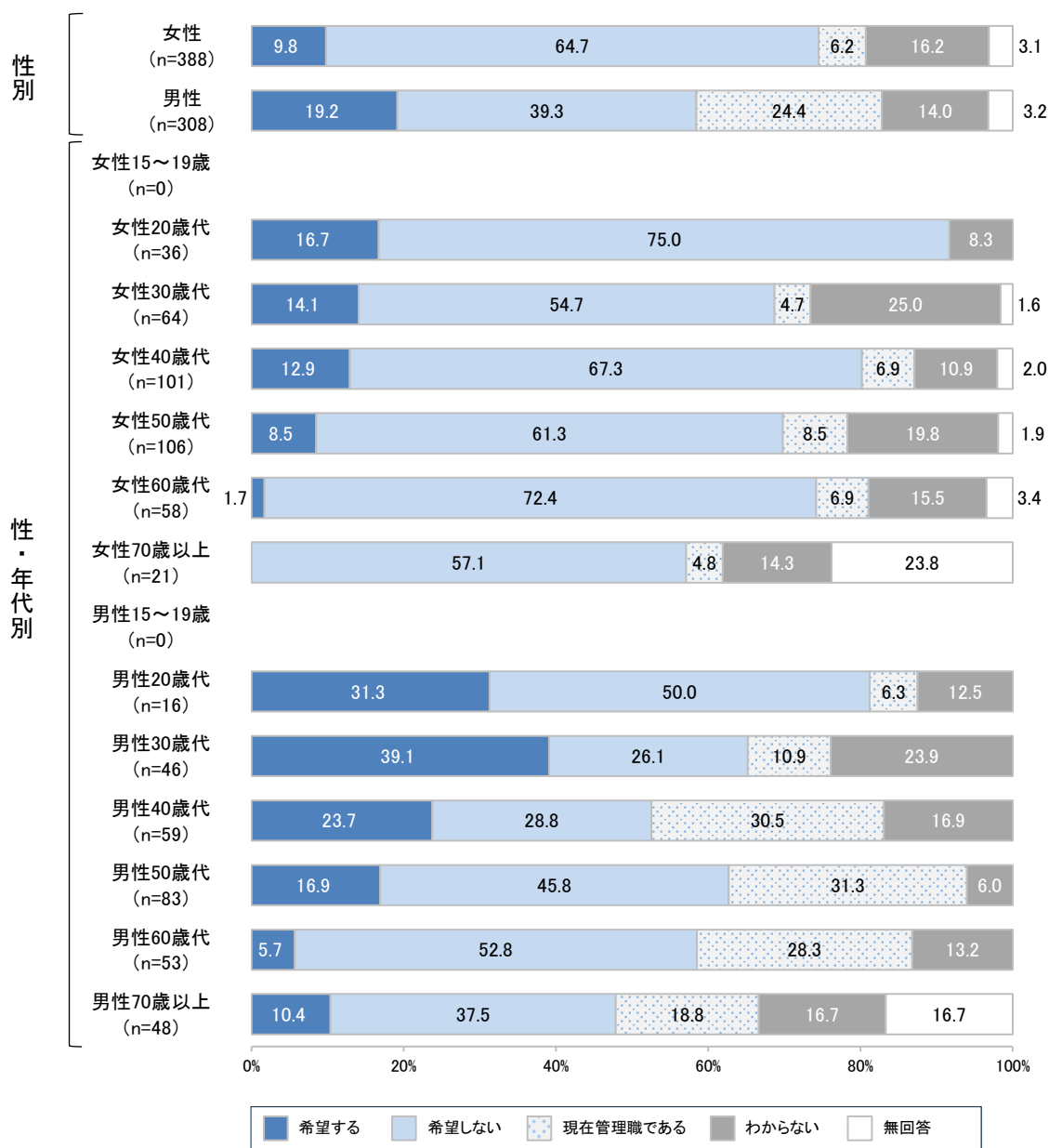
※平成 26 年度に以前はない問



管理職への昇格希望について、「希望する」との回答が 14.1%、「希望しない」との回答が 53.3%、「現在管理職である」との回答が 14.2%となっている。

経年比較すると、『希望しない』と回答した割合は 3.3 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。

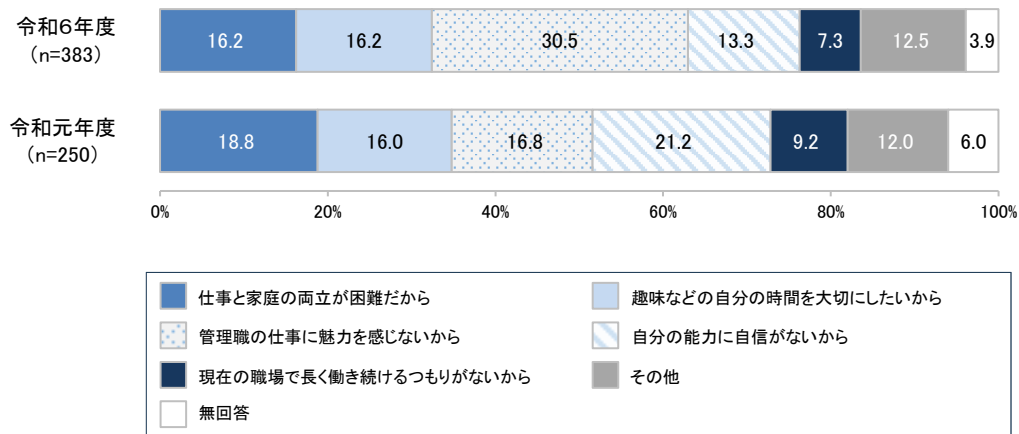
【管理職への昇格希望（性別、性・年代別）】



管理職への昇格希望について、性別にみると、「希望する」と回答した割合は男性（19.2%）が女性（9.8%）を9.4ポイント、「希望しない」と回答した割合は女性（64.7%）が男性（39.3%）を25.4ポイント、「現在管理職である」と回答した割合は男性（24.4%）が女性（6.2%）を18.2ポイント、それぞれ上回っている。

性・年代別にみると、「希望する」と回答した割合は男性30歳代（39.1%）で最も高く、次いで男性20歳代（31.3%）、男性40歳代（23.7%）の順となっている。また、「希望しない」と回答した割合は女性20歳代（75.0%）が最も高く、次いで女性60歳代（72.4%）、女性40歳代（67.3%）の順となっている。

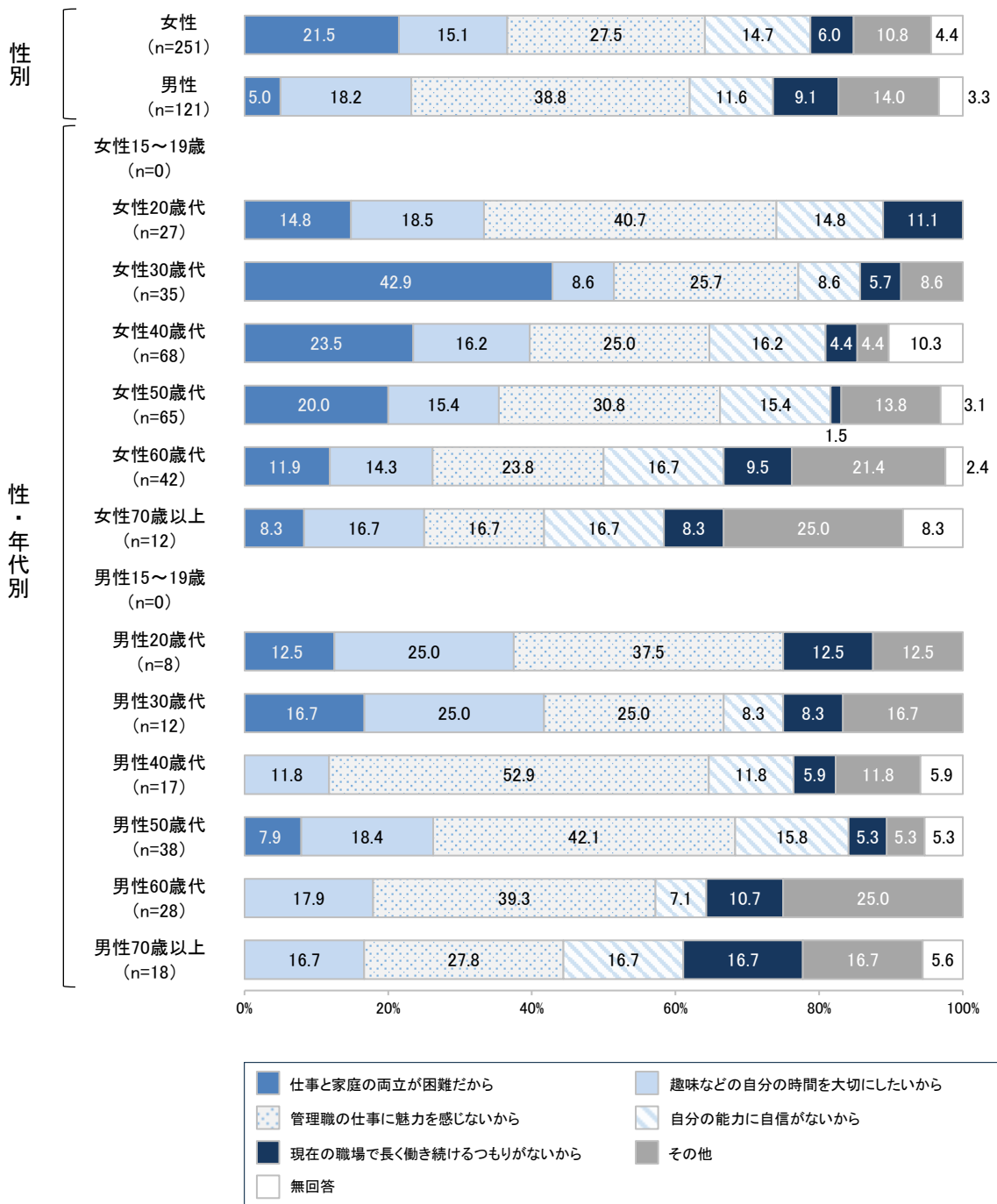
(問 15 で「2. 希望しない」と回答された方におたずねします。)
 問 15-2 その理由をお答えください。(○印は1つ)



管理職への昇格を希望しない理由について、「管理職の仕事に魅力を感じないから (30.5%)」との回答が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が^{こなん}困難だから (16.2%)」、「趣味などの自分の時間を大切にしたいから (16.2%)」、「自分の能力に自信がないから (13.3%)」の順となっている。

経年比較すると、「管理職の仕事に魅力を感じないから」と回答した割合は 13.7 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。一方、「自分の能力に自信がないから」と回答した割合は 7.9 ポイント、今回調査が令和元年度調査を下回っている。

【管理職への昇格を希望しない理由（性別、性・年代別）】

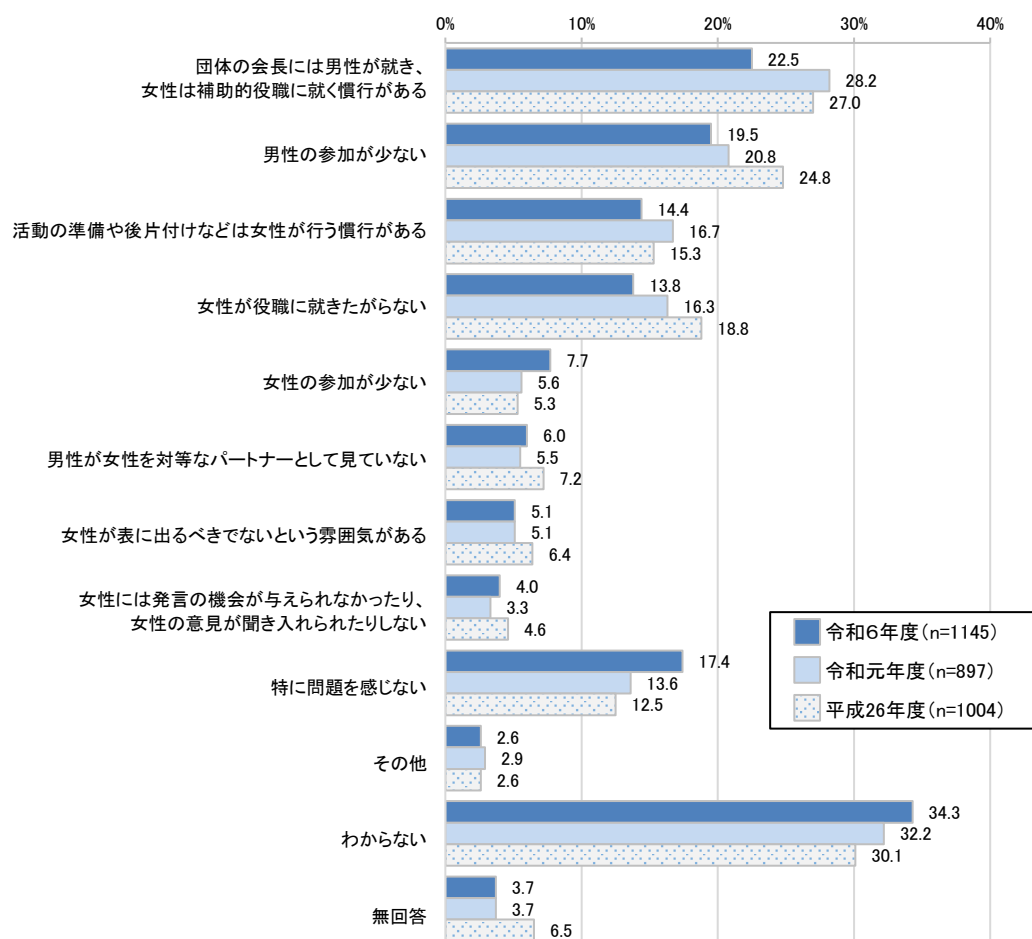


管理職への昇格を希望しない理由について、性別にみると、「仕事と家庭の両立が困難だから」と回答した割合は女性（21.5%）が男性（5.0%）を16.5ポイント上回っている。また、「管理職の仕事に魅力を感じないから」と回答した割合は男性（38.8%）が女性（27.5%）を11.3ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「仕事と家庭の両立が困難だから」と回答した割合は女性30歳代（42.9%）が最も高く、次いで女性40歳代（23.5%）、女性50歳代（20.0%）の順となっている。また、「管理職の仕事に魅力を感じないから」と回答した割合は男性40歳代（52.9%）が最も高く、次いで男性50歳代（42.1%）、女性20歳代（40.7%）の順となっている。

4 地域での男女共同参画について

問 16 町内会、ボランティアなどの地域活動での男女共同参画についてどのように思いますか。
(○印はいくつでも)



地域活動での男女共同参画について、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある（22.5%）」との回答が最も多く、次いで「男性の参加が少ない（19.5%）」、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある（14.4%）」の順となっている。

経年比較すると、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」と回答した割合は5.7ポイント、今回調査が令和元年度調査を下回っている。

【地域活動での男女共同参画（性別、性・年代別）】

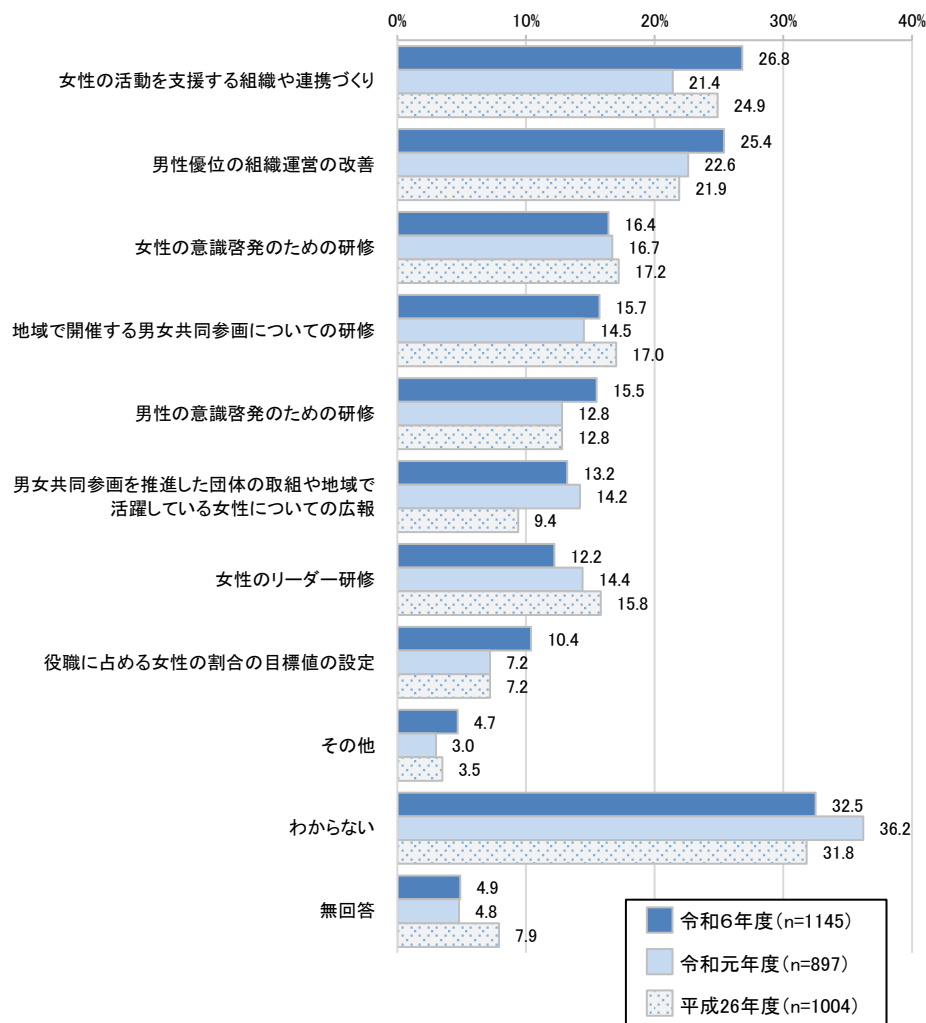
（複数回答）（％）

		回答者数（人）	ある 女性 は 団 体 の 会 長 に は 補 助 的 役 職 に 就 く 慣 行 が あ る	男 性 の 参 加 が 少 な い	活 動 の 準 備 や 後 片 付 け な ど は 女 性 が 行 う 慣 行 が あ る	女 性 が 役 職 に 就 き た が ら な い	女 性 の 参 加 が 少 な い	男 性 が 見 て い な い と 女 性 を 対 等 な パ ー ト ナ ー	女 性 が 表 に 出 る べ き で な い と い う 雰 囲 気 が あ る	意 見 が 聞 き 入 れ ら れ た り 女 性 の 性 格 が あ る	特 に 問 題 を 感 じ な い	そ の 他	わ か ら な い
全体		1145	22.5	19.5	14.4	13.8	7.7	6.0	5.1	4.0	17.4	2.6	34.3
性別	女性	640	24.7	17.5	18.1	14.4	4.7	7.5	6.4	5.2	15.8	3.0	35.0
	男性	434	17.7	22.4	9.7	13.8	11.5	3.9	3.5	2.8	19.1	2.5	35.5
女性	15～19歳	23	26.1	13.0	13.0	13.0	8.7	13.0	8.7	8.7	13.0	—	34.8
	20歳代	46	15.2	8.7	8.7	17.4	6.5	10.9	8.7	6.5	8.7	—	56.5
	30歳代	76	9.2	17.1	11.8	11.8	2.6	2.6	2.6	3.9	10.5	—	56.6
	40歳代	117	27.4	17.9	22.2	13.7	4.3	9.4	6.8	6.0	12.8	5.1	34.2
	50歳代	128	22.7	14.8	14.8	9.4	0.8	5.5	4.7	4.7	15.6	3.9	39.8
	60歳代	97	30.9	18.6	22.7	11.3	5.2	7.2	4.1	4.1	16.5	5.2	23.7
	70歳以上	149	30.9	22.1	21.5	22.1	8.1	8.1	9.4	4.7	22.8	2.0	21.5
男性	15～19歳	16	6.3	37.5	6.3	6.3	6.3	6.3	—	—	12.5	—	43.8
	20歳代	23	4.3	8.7	—	4.3	8.7	—	4.3	4.3	13.0	—	60.9
	30歳代	48	12.5	20.8	14.6	8.3	8.3	4.2	6.3	2.1	14.6	—	56.3
	40歳代	62	21.0	14.5	11.3	12.9	6.5	3.2	3.2	3.2	16.1	1.6	41.9
	50歳代	89	16.9	22.5	4.5	14.6	12.4	4.5	1.1	2.2	19.1	1.1	37.1
	60歳代	72	23.6	22.2	12.5	19.4	13.9	6.9	6.9	4.2	20.8	4.2	26.4
	70歳以上	120	19.2	28.3	11.7	15.8	15.0	2.5	2.5	2.5	22.5	5.0	23.3

地域活動での男女共同参画について、性別にみると、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」で最も男女差が大きく、女性（18.1％）が男性（9.7％）を8.4ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」と回答した割合は女性60歳代と女性70歳以上が30.9％で最も高く、次いで女性40歳代（27.4％）の順となっている。また、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」と回答した割合は女性60歳代（22.7％）が最も高く、次いで女性40歳代（22.2％）、女性70歳以上（21.5％）の順となっている。

問 17 地域活動において、町内会長や役員など方針を決定する立場の女性が少ない現状があります。このような立場の女性を増やすために具体的な施策としてどのようなことが効果的だと思いますか。（〇印はいくつでも）



地域活動における方針決定の場に女性が参画するために効果的なことについて、「女性の活動を支援する組織や連携づくり（26.8%）」との回答が最も多く、次いで「男性優位の組織運営の改善（25.4%）」、「女性の意識啓発のための研修（16.4%）」の順となっている。

経年比較すると、「女性の活動を支援する組織や連携づくり」と回答した割合は 5.4 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。

【地域活動における方針決定の場に女性が参画するために効果的なこと（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

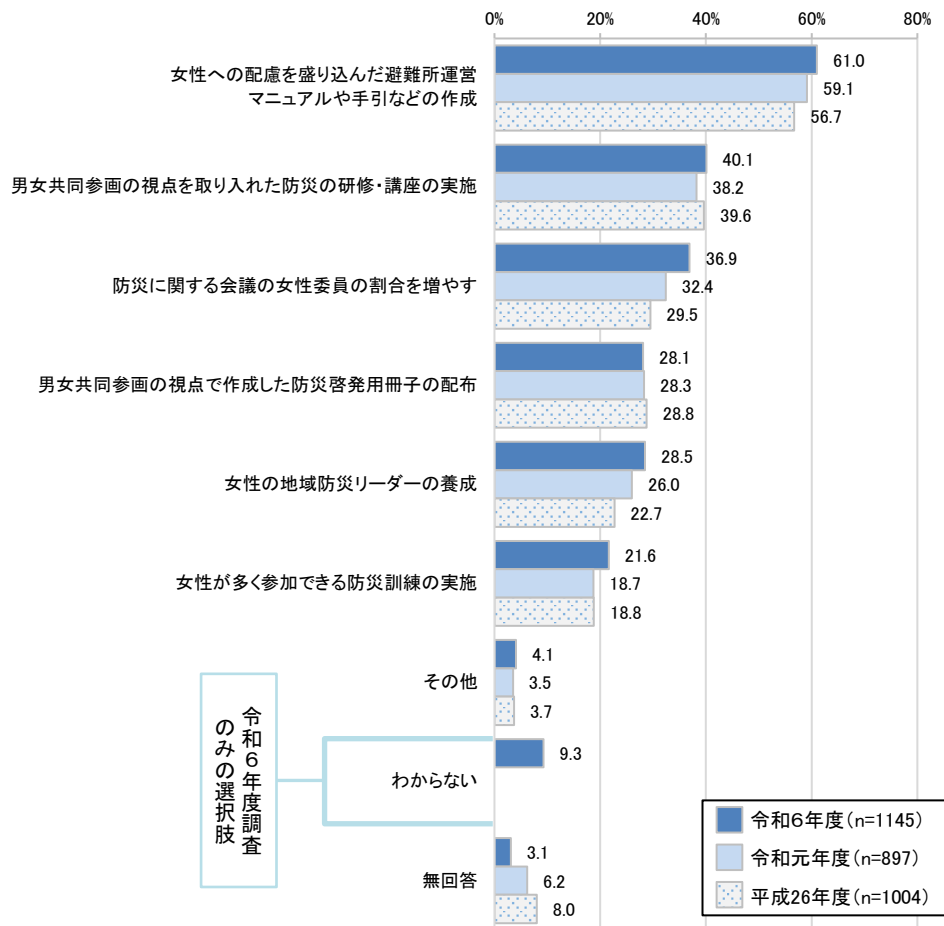
		回答者数（人）	女性の活動を支援する組織や連携づくり	男性優位の組織運営の改善	女性の意識啓発のための研修	地域での開催する男女共同参画に	男性の意識啓発のための研修	男女共同参画を推進している団体の取組や地域の広報	女性のリーダー研修	役職に占める女性の割合の目標値	その他	わからない
全体		1145	26.8	25.4	16.4	15.7	15.5	13.2	12.2	10.4	4.7	32.5
性別	女性	640	24.7	25.9	16.3	15.3	15.9	11.7	13.4	10.5	5.3	33.9
	男性	434	30.2	25.8	16.6	16.6	15.4	14.5	10.6	10.6	4.4	30.9
女性	15～19歳	23	26.1	43.5	30.4	21.7	34.8	26.1	26.1	21.7	—	13.0
	20歳代	46	41.3	26.1	23.9	19.6	19.6	17.4	19.6	21.7	—	41.3
	30歳代	76	22.4	26.3	11.8	11.8	14.5	6.6	10.5	15.8	2.6	46.1
	40歳代	117	26.5	26.5	14.5	13.7	13.7	12.8	18.8	12.8	10.3	35.9
	50歳代	128	21.1	32.0	8.6	11.7	12.5	8.6	7.0	7.0	7.8	33.6
	60歳代	97	22.7	33.0	16.5	16.5	19.6	9.3	11.3	7.2	8.2	24.7
	70歳以上	149	23.5	12.8	22.1	18.1	14.8	14.1	13.4	5.4	0.7	32.9
男性	15～19歳	16	31.3	12.5	37.5	31.3	12.5	—	6.3	6.3	—	37.5
	20歳代	23	26.1	26.1	4.3	21.7	13.0	—	17.4	4.3	8.7	39.1
	30歳代	48	18.8	16.7	16.7	8.3	22.9	2.1	10.4	12.5	8.3	43.8
	40歳代	62	30.6	27.4	19.4	14.5	17.7	11.3	21.0	11.3	3.2	37.1
	50歳代	89	33.7	33.7	13.5	10.1	11.2	20.2	6.7	11.2	2.2	29.2
	60歳代	72	38.9	31.9	18.1	30.6	18.1	20.8	5.6	11.1	4.2	19.4
	70歳以上	120	27.5	20.8	16.7	15.0	14.2	17.5	10.8	10.8	4.2	27.5

地域活動における方針決定の場に女性が参画するために効果的なことについて、性別にみると、「女性の活動を支援する組織や連携づくり」で最も男女差が大きく、男性（30.2％）が女性（24.7％）を5.5ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「女性の活動を支援する組織や連携づくり」と回答した割合は女性20歳代（41.3％）が最も高く、次いで男性60歳代（38.9％）、男性50歳代（33.7％）の順となっている。また、「男性優位の組織運営の改善」と回答した割合は女性15～19歳（43.5％）が最も高く、次いで男性50歳代（33.7％）、女性60歳代（33.0％）の順となっている。

問 18 能登半島地震などの災害対応では、授乳や着替えをする場所がなかったり、食事準備などを当然のように女性に割り振ったりするなど、女性への配慮が不足した避難所が見られました。あなたは、男女共同参画の視点からの災害対応として、日頃から、どのようなことを行っていく必要があると思いますか。（〇印はいくつでも）

※平成 21 年度にはない問



※「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルや手引などの作成」の選択肢は、令和元年度調査以前では「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成」となっている

男女共同参画の視点からの災害対応として日頃から行う必要があることについて、「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルや手引などの作成 (61.0%)」との回答が最も多く、次いで「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施 (40.1%)」、「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす (36.9%)」の順となっている。

経年比較すると、「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」と回答した割合は 4.5 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。

【男女共同参画の視点からの災害対応として行う必要があること（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

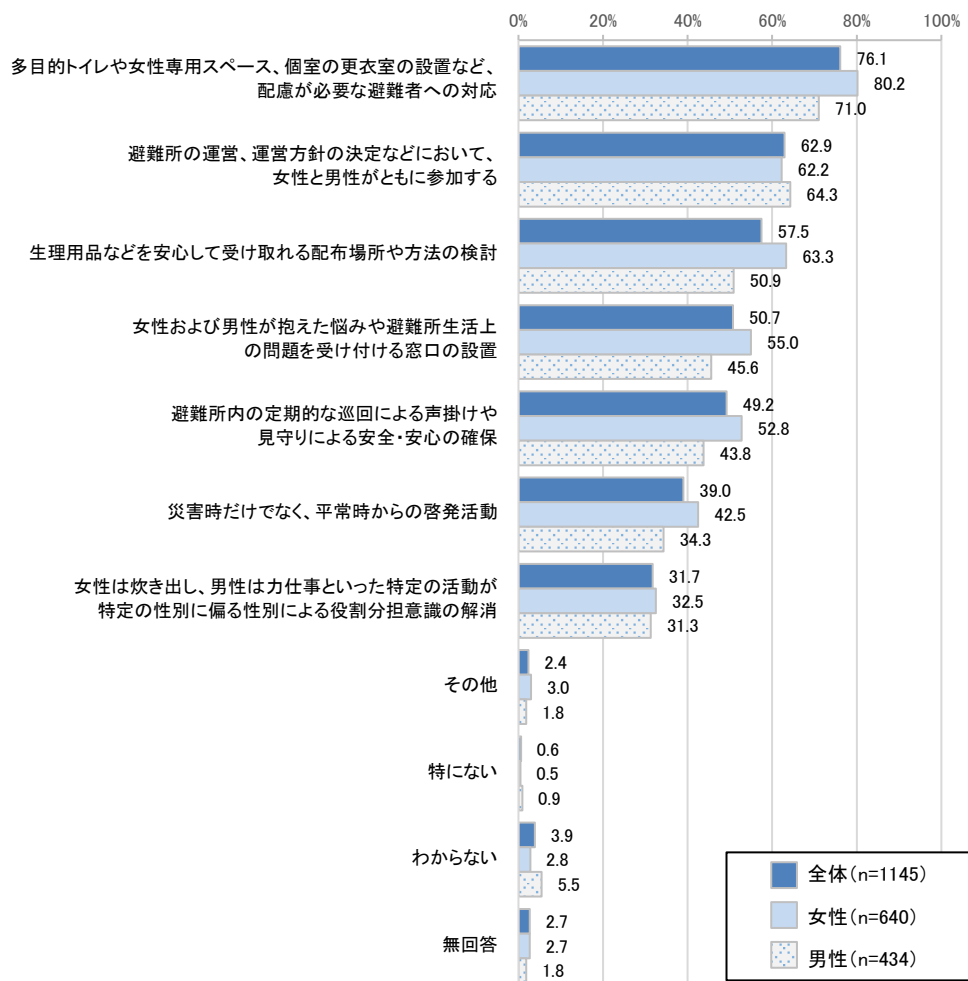
		回答者数（人）	やだ女性への配慮を盛り込んだマニュアルや手引などの作成	講座の導入実施	男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施	委員の割合を増やす	防災に関わる会議の開催	女性の地域防災リーダーの養成	冊子の配布	男女共同参画の視点での防災啓発	女性が多く参加できる防災訓練の実施	その他	わからない
全体		1145	61.0	40.1	36.9	28.5	28.1	21.6	4.1	9.3			
性別	女性	640	63.6	38.0	38.4	27.5	28.1	20.8	4.2	9.7			
	男性	434	58.8	41.7	37.1	30.6	28.1	23.3	4.6	8.1			
女性	15～19歳	23	60.9	39.1	56.5	17.4	43.5	21.7	—	13.0			
	20歳代	46	71.7	45.7	43.5	23.9	30.4	15.2	—	4.3			
	30歳代	76	61.8	31.6	46.1	28.9	15.8	15.8	5.3	9.2			
	40歳代	117	68.4	35.9	43.6	30.8	30.8	25.6	7.7	10.3			
	50歳代	128	66.4	37.5	33.6	28.1	26.6	13.3	5.5	8.6			
	60歳代	97	64.9	39.2	36.1	34.0	35.1	19.6	5.2	11.3			
	70歳以上	149	55.0	39.6	31.5	22.1	26.2	28.2	—	10.7			
男性	15～19歳	16	37.5	31.3	43.8	—	37.5	12.5	—	25.0			
	20歳代	23	56.5	21.7	34.8	34.8	17.4	26.1	8.7	13.0			
	30歳代	48	72.9	41.7	37.5	18.8	27.1	18.8	6.3	8.3			
	40歳代	62	62.9	41.9	37.1	40.3	25.8	27.4	4.8	9.7			
	50歳代	89	57.3	33.7	41.6	33.7	22.5	15.7	4.5	7.9			
	60歳代	72	70.8	55.6	38.9	34.7	40.3	26.4	5.6	2.8			
	70歳以上	120	47.5	43.3	33.3	28.3	26.7	26.7	2.5	7.5			

男女共同参画の視点からの災害対応として日頃から行う必要があることについて、性別にみると、「女性への^{はいりよ}配慮を盛り込んだ^{ひなんじょ}避難所運営マニュアルや手引などの作成」で最も男女差が大きく、女性（63.6％）が男性（58.8％）を4.8ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「女性への^{はいりよ}配慮を盛り込んだ^{ひなんじょ}避難所運営マニュアルや手引などの作成」と回答した割合は男性30歳代（72.9％）が最も高く、次いで女性20歳代（71.7％）、男性60歳代（70.8％）の順となっている。また、「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」と回答した割合は男性60歳代（55.6％）が最も高く、次いで女性20歳代（45.7％）、男性70歳以上（43.3％）の順となっている。

問 19 あなたが災害時の避難所運営について必要だと思うことは何ですか。
(○印はいくつでも)

※令和元年度以前にはない問



災害時の避難所運営について必要なことについて、「多目的トイレや女性専用スペース、個室の更衣室の設置など、配慮が必要な避難者への対応 (76.1%)」との回答が最も多く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加する (62.9%)」、「生理用品などを安心して受け取れる配布場所や方法の検討 (57.5%)」の順となっている。

災害時の避難所運営について必要なことについて、性別にみると、「生理用品などを安心して受け取れる配布場所や方法の検討」で最も男女差が大きく、女性 (63.3%) が男性 (50.9%) を 12.4 ポイント上回っている。

【災害時の避難所運営について必要なこと（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	必要な避難者への対応	多目的トイレや女性専用スペース、個室の更衣室の設置など、配慮が	避難所の運営、運営方針の決定などに参加する	生理用品などを安心して受け取れる配布場所や方法の検討	避難所生活上の問題を受け付けける窓口の設置	女性および男性が抱えた悩みや不安の確保	避難所内の定期的な巡回による安心の確保	災害時のみならず、平常時から	偏った特定の役割分担意識の解消	女性には炊き出し、男性は力仕事と	その他	特にな
全体		1145	76.1	62.9	57.5	50.7	49.2	39.0	31.7	2.4	0.6			
性別	女性	640	80.2	62.2	63.3	55.0	52.8	42.5	32.5	3.0	0.5			
	男性	434	71.0	64.3	50.9	45.6	43.8	34.3	31.3	1.8	0.9			
女性	15～19歳	23	78.3	65.2	73.9	52.2	56.5	52.2	39.1	4.3	—			
	20歳代	46	78.3	65.2	69.6	60.9	52.2	50.0	52.2	—	—			
	30歳代	76	82.9	59.2	68.4	47.4	42.1	40.8	32.9	2.6	—			
	40歳代	117	85.5	62.4	71.8	56.4	58.1	49.6	34.2	5.1	0.9			
	50歳代	128	81.3	60.2	65.6	50.8	60.2	38.3	28.9	3.9	—			
	60歳代	97	82.5	61.9	63.9	62.9	53.6	42.3	28.9	4.1	—			
	70歳以上	149	73.2	63.8	47.0	53.7	46.3	38.3	30.2	0.7	1.3			
男性	15～19歳	16	56.3	62.5	50.0	12.5	43.8	25.0	31.3	—	—			
	20歳代	23	82.6	78.3	52.2	39.1	52.2	26.1	21.7	4.3	4.3			
	30歳代	48	66.7	58.3	52.1	37.5	56.3	35.4	33.3	2.1	4.2			
	40歳代	62	80.6	64.5	58.1	43.5	45.2	32.3	32.3	3.2	1.6			
	50歳代	89	74.2	69.7	58.4	51.7	39.3	38.2	29.2	1.1	—			
	60歳代	72	80.6	69.4	58.3	61.1	45.8	38.9	38.9	—	—			
	70歳以上	120	59.2	57.5	37.5	41.7	38.3	32.5	28.3	1.7	—			

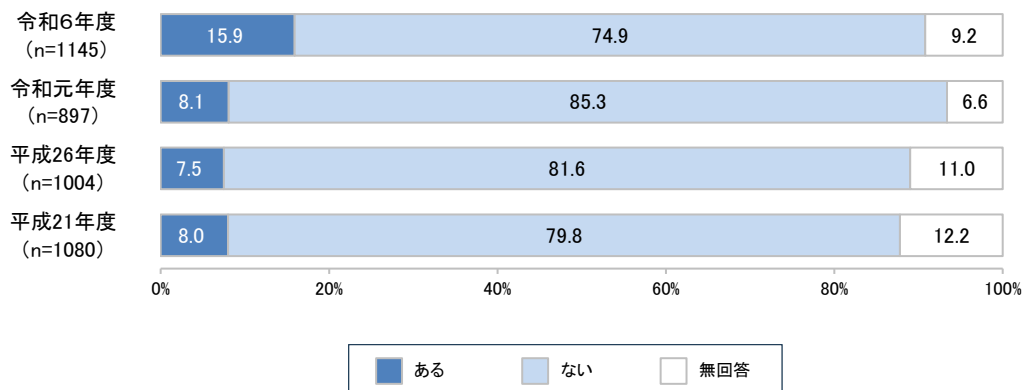
性・年代別にみると、「多目的トイレや女性専用スペース、個室の更衣室の設置など、配慮が必要な避難者への対応」と回答した割合は女性 40 歳代(85.5%)が最も高く、次いで女性 30 歳代(82.9%)、男性 20 歳代 (82.6%) の順となっている。また、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加する」と回答した割合は男性 20 歳代 (78.3%) が最も高く、次いで男性 50 歳代 (69.7%)、男性 60 歳代 (69.4%) の順となっている。

5 はいぐうしゃ 配偶者などからの暴力の防止・被害者支援について

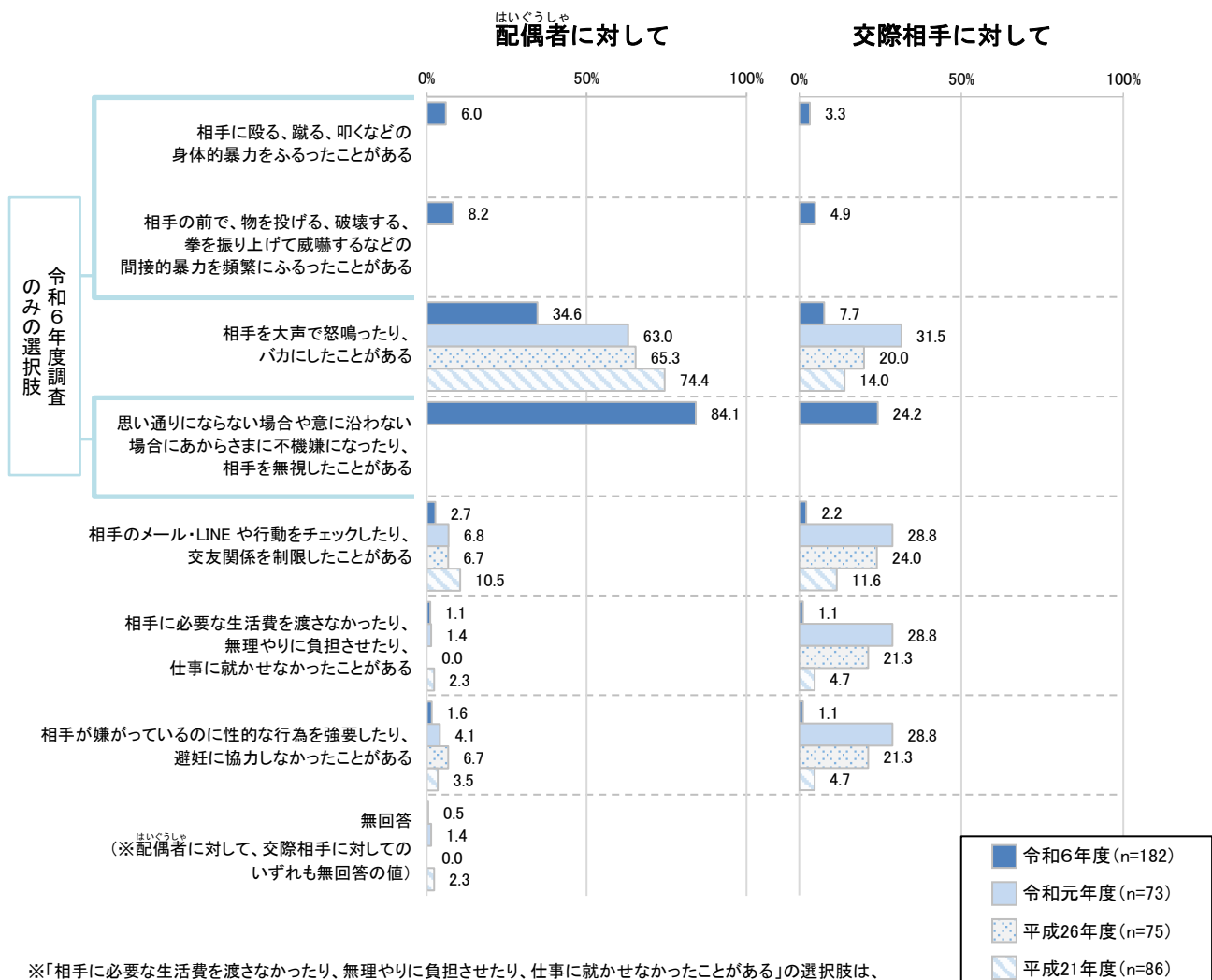
問 20 あなたはこの5年間で配偶者や交際相手に対して次のような行為をしたことがありますか。(○印は1つ)

※ 問 20～22 の設問にある「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。

(1) はいぐうしゃ 配偶者や交際相手に対しての暴力経験の有無



(2) はいぐうしゃ 配偶者や交際相手に対して行ったことのある行為



※「相手に必要な生活費を渡さなかったり、無理やりに負担させたり、仕事に就かせなかったことがある」の選択肢は、令和元年度調査以前では「相手に生活費を無理やりに負担させたり、仕事に就かせなかったことがある」となっている

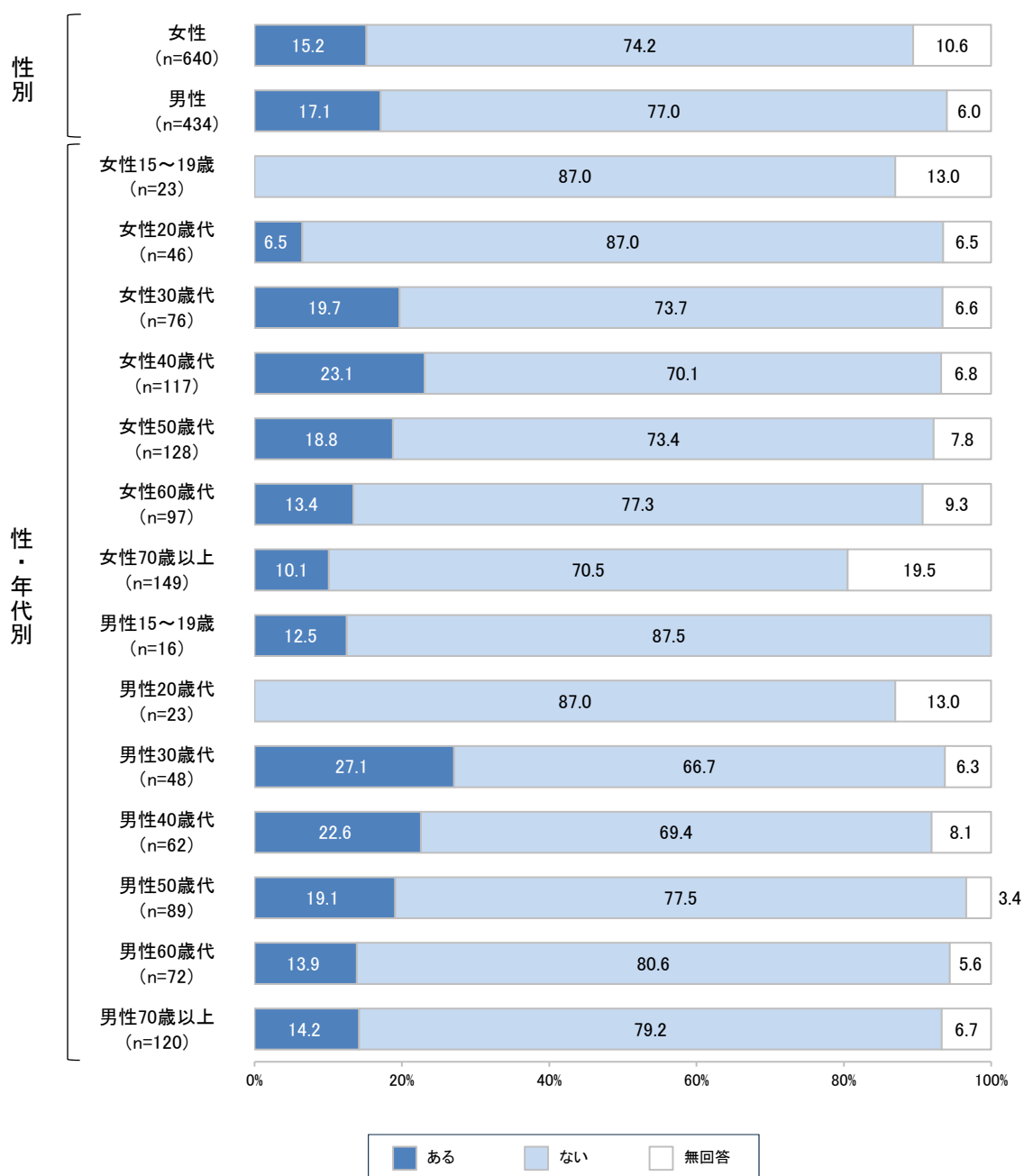
^{はいぐうしや}配偶者や交際相手に対しての暴力経験の有無について、「ある」との回答が 15.9%、「ない」との回答が 74.9%となっている。

経年比較すると、「ある」と回答した割合は 7.8 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。ただし、今回調査では「次のような行為」として提示した暴力経験の選択肢の構成が令和元年度調査以前の内容とは若干異なっているため、令和元年度以前の値と直接比較することには注意を要する。

^{はいぐうしや}配偶者や交際相手に対して行ったことのある行為について、^{はいぐうしや}配偶者に対する行為では、「思い通りにならない場合や意に沿わない場合にあからさまに不機嫌になったり、相手を見捨てたことがある（84.1%）」と回答した割合が最も高く、次いで「相手を大声で怒鳴ったり、バカにしたことがある（34.6%）」、「相手の前で、物を投げる、破壊する、拳を振り上げて^{いかく}威嚇するなどの間接的暴力を^{ひんぼん}頻繁にふるったことがある（8.2%）」の順となっている。

交際相手に対する行為においても、「思い通りにならない場合や意に沿わない場合にあからさまに不機嫌になったり、相手を見捨てたことがある（24.2%）」と回答した割合が最も高く、次いで「相手を大声で怒鳴ったり、バカにしたことがある（7.7%）」、「相手の前で、物を投げる、破壊する、拳を振り上げて^{いかく}威嚇するなどの間接的暴力を^{ひんぼん}頻繁にふるったことがある（4.9%）」の順となっている。

はいぐうしゃ
【配偶者や交際相手に対しての暴力経験の有無（性別、性・年代別）】

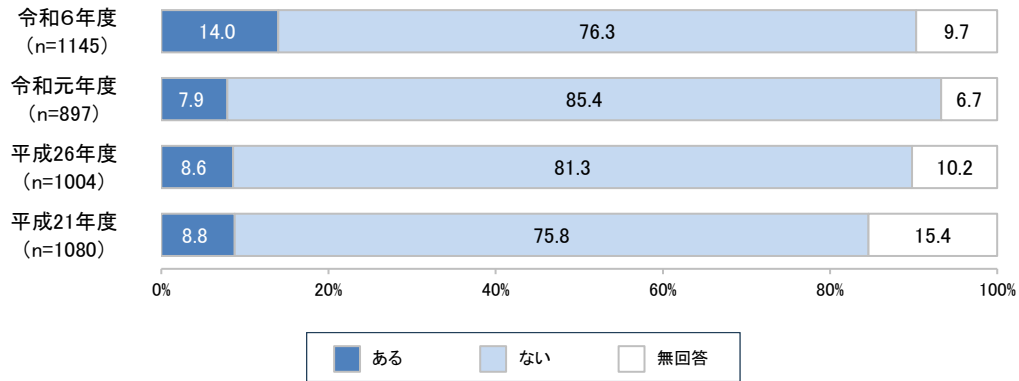


はいぐうしゃ
配偶者や交際相手に対しての暴力経験の有無について、性別にみると、「ある」と回答した割合は男性（17.1%）が女性（15.2%）を1.9ポイント上回っている。

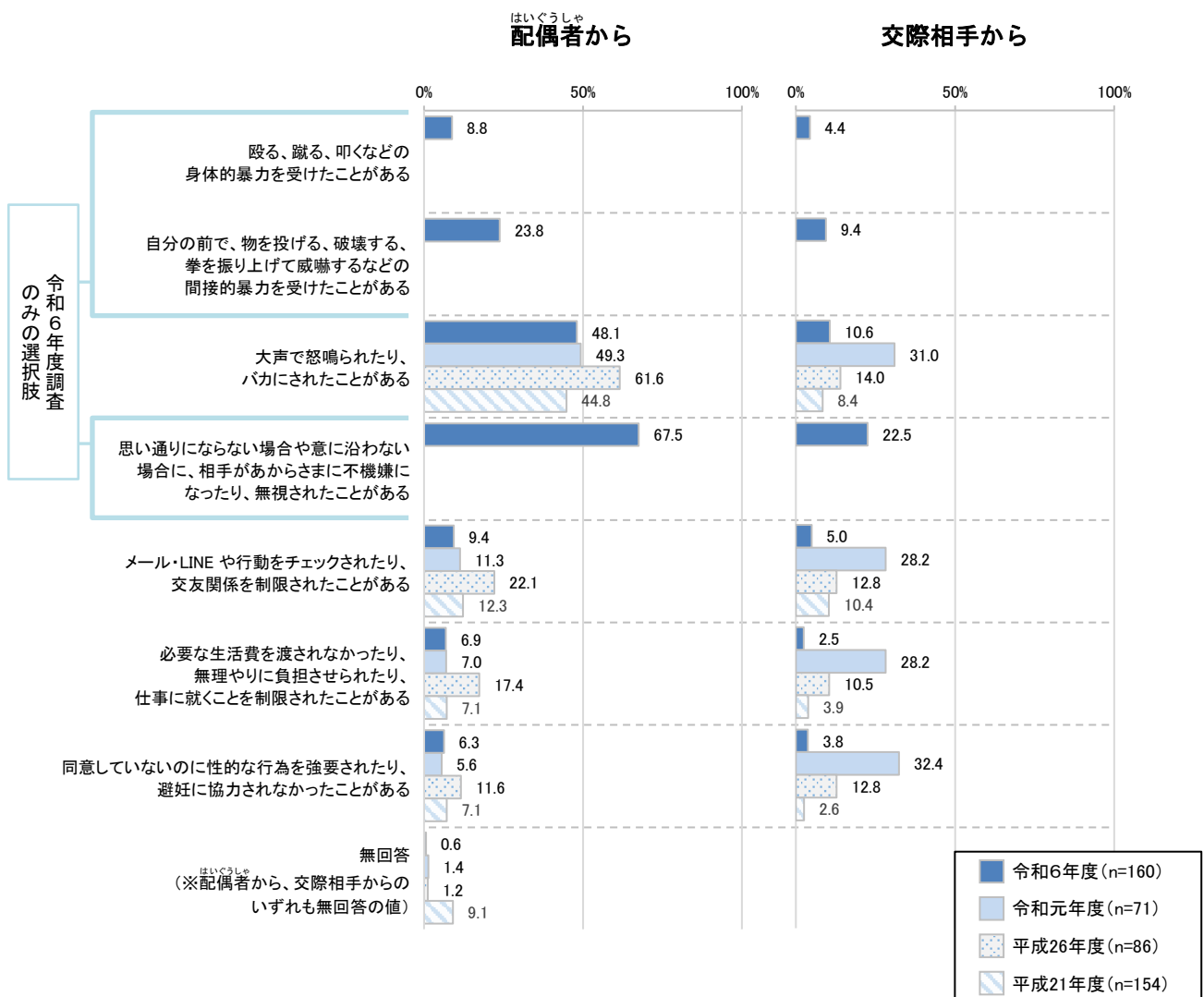
性・年代別にみると、「ある」と回答した割合は男性30歳代（27.1%）が最も高く、次いで女性40歳代（23.1%）、男性40歳代（22.6%）の順となっている。

問 21 あなたはこの5年間で配偶者や交際相手からの暴力を経験したことはありますか。
(○印は1つ)

(1) 配偶者や交際相手からの暴力経験の有無



(2) 配偶者や交際相手から受けた行為



※「必要な生活費を渡されなかったり、無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがある」の選択肢は、令和元年度調査以前では「生活費を無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがある」となっている

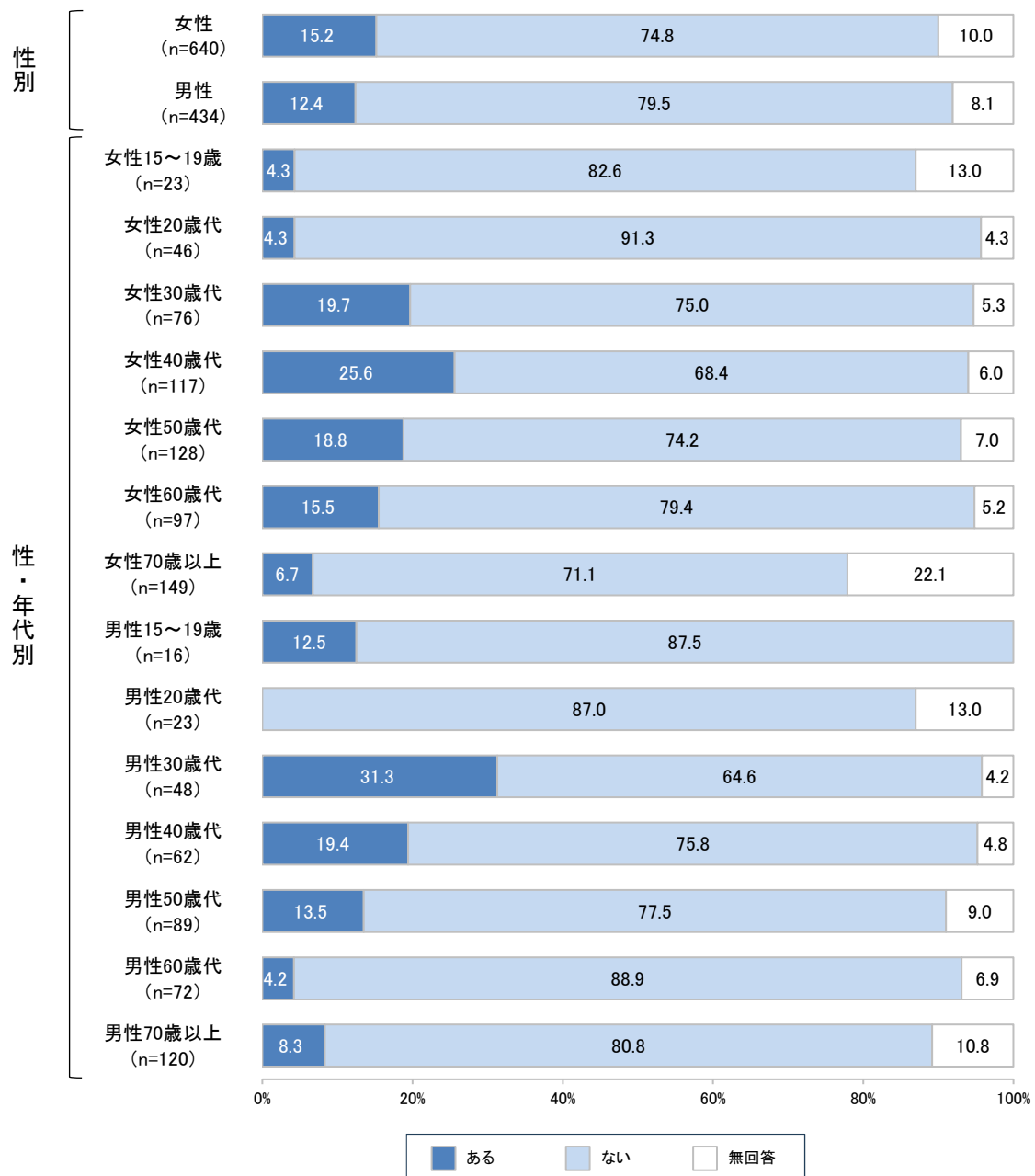
^{はいぐうしや}配偶者や交際相手からの暴力経験の有無について、「ある」との回答が14.0%、「ない」との回答が76.3%となっている。

経年比較すると、「ある」と回答した割合は6.1ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。ただし、今回調査では「次のような行為」として提示した暴力経験の選択肢の構成が令和元年度調査以前の内容とは若干異なっているため、令和元年度以前の値と直接比較することには注意を要する。

^{はいぐうしや}配偶者や交際相手から受けた行為について、^{はいぐうしや}配偶者から受けた行為については「思い通りにならない場合や意に沿わない場合に、相手があからさまに不機嫌になったり、無視されたことがある（67.5%）」と回答した割合が最も高く、次いで「大声で怒鳴られたり、バカにされたことがある（48.1%）」、「自分の前で、物を投げる、破壊する、拳を振り上げて^{いかく}威嚇するなどの間接的暴力を受けたことがある（23.8%）」の順となっている。

交際相手から受けた行為についても、「思い通りにならない場合や意に沿わない場合に、相手があからさまに不機嫌になったり、無視されたことがある（22.5%）」と回答した割合が最も高く、次いで「大声で怒鳴られたり、バカにされたことがある（10.6%）」、「自分の前で、物を投げる、破壊する、拳を振り上げて^{いかく}威嚇するなどの間接的暴力を受けたことがある（9.4%）」の順となっている。

はいぐうしや
【配偶者や交際相手からの暴力経験の有無（性別、性・年代別）】

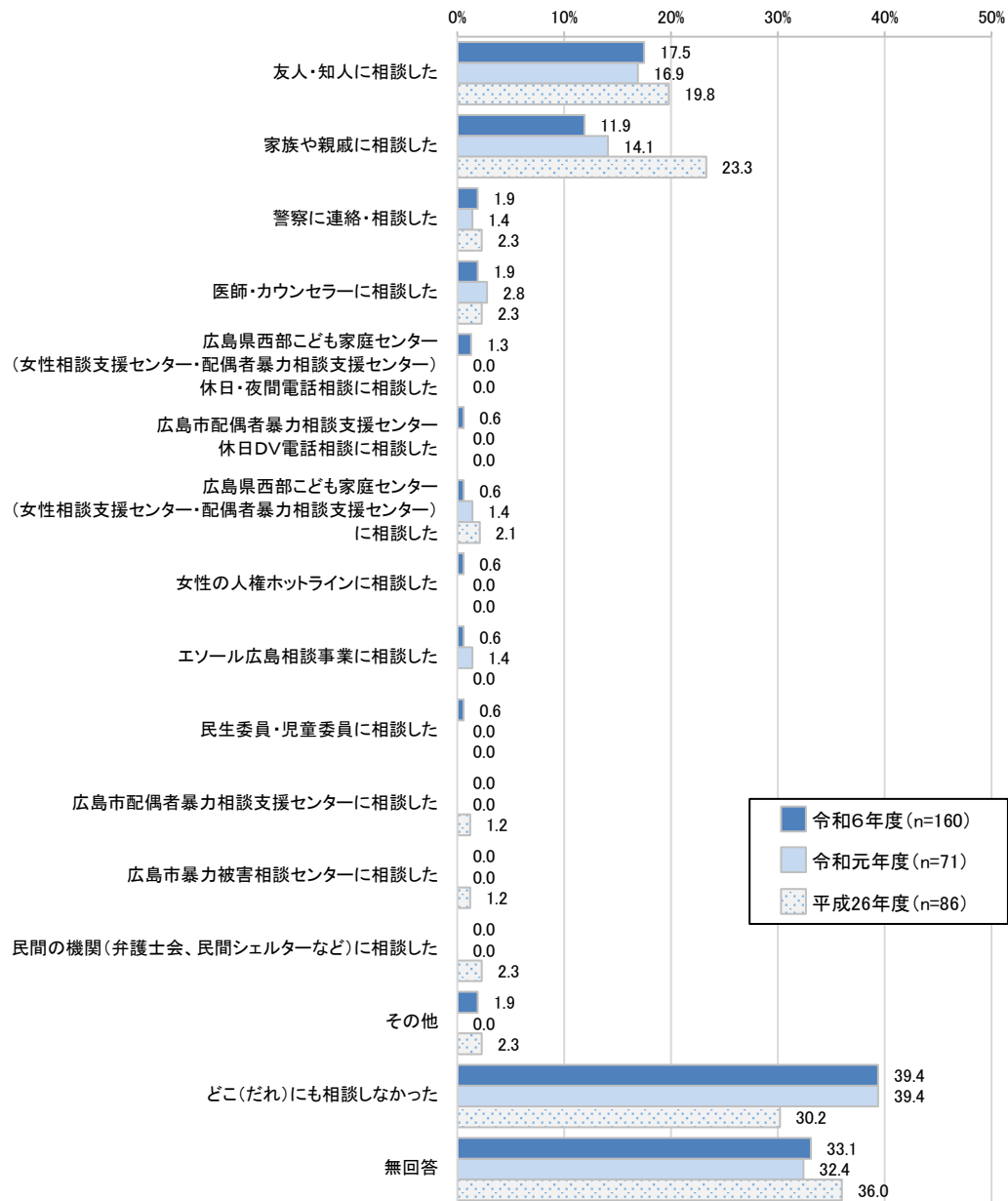


はいぐうしや
配偶者や交際相手からの暴力経験の有無について、性別にみると、「ある」と回答した割合は女性（15.2%）が男性（12.4%）を2.8ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「ある」と回答した割合は男性30歳代（31.3%）が最も高く、次いで女性40歳代（25.6%）、女性30歳代（19.7%）の順となっている。

(問 21 で暴力を経験したことが「1. ある」と回答された方におたずねします。)

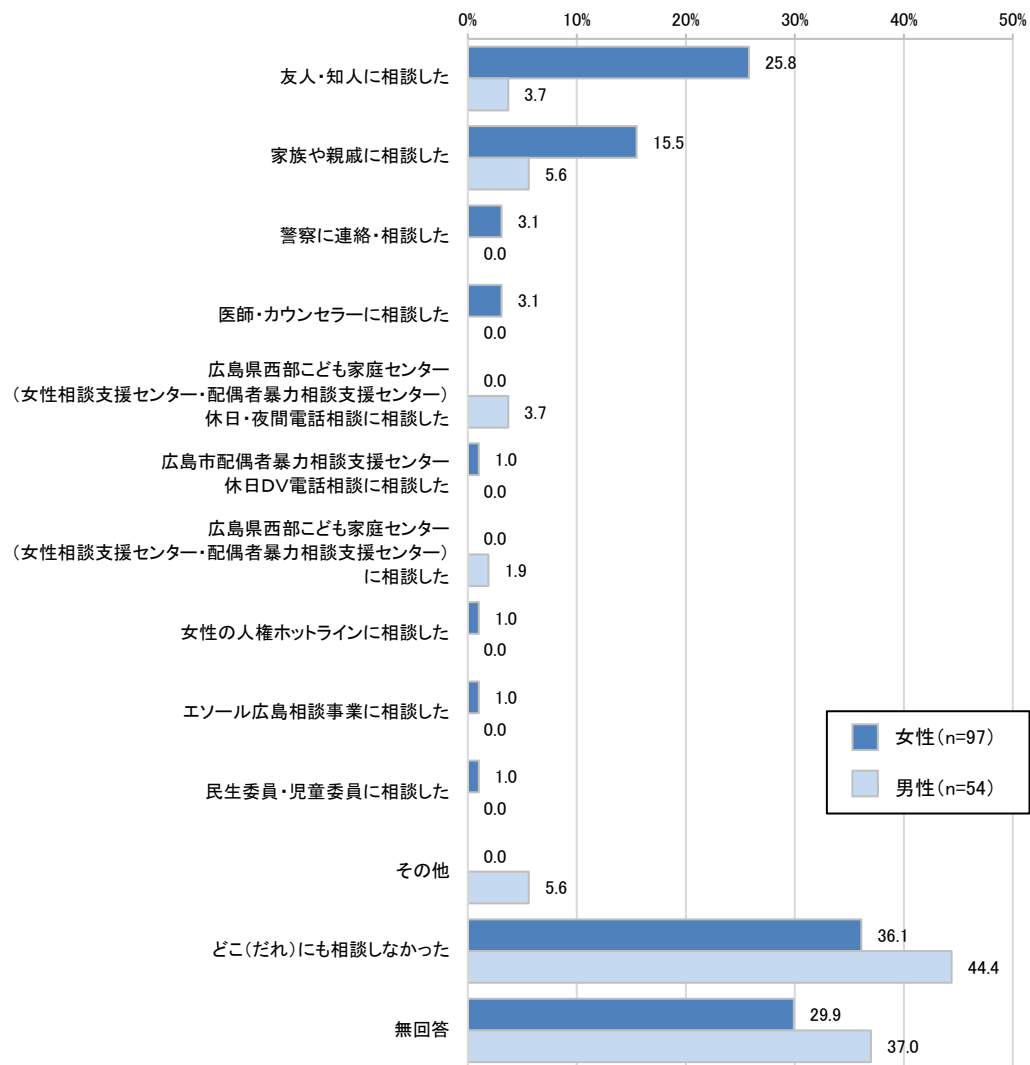
問 21-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた暴力について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。(〇印はいくつでも)



配偶者や交際相手から受けた暴力に対する相談について、全体では、「どこ(だれ)にも相談しなかった」との回答が 39.4%と最も多い。相談した人の中では「友人・知人に相談した (17.5%)」との回答が最も多く、次いで「家族や親戚に相談した (11.9%)」の順となっており、その他の項目は 2%未満と低い。

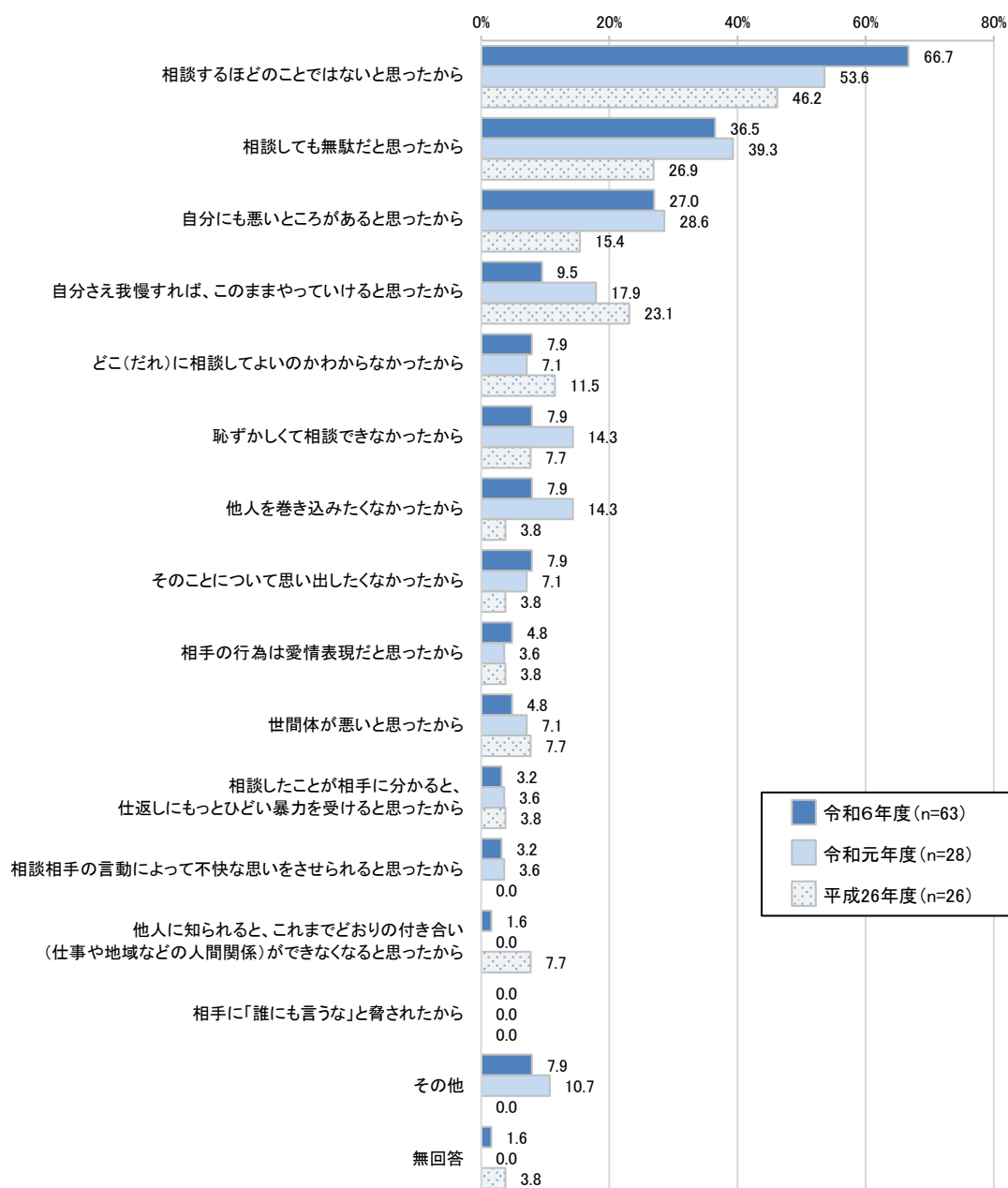
経年比較すると、「家族や親戚に相談した (11.9%)」との回答は減少傾向にある。

【^{はいぐうしゃ}配偶者や交際相手から受けた暴力に対する相談先（性別、回答があったもののみ）】



^{はいぐうしゃ}配偶者や交際相手から受けた暴力に対する相談について、性別にみると、「友人・知人に相談した」と回答した割合は女性（25.8%）が男性（3.7%）を 22.1 ポイント、「家族や親戚に相談した」との回答では女性（15.5%）が男性（5.6%）を 9.9 ポイント、それぞれ上回っている。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した割合は、男性（44.4%）が女性（36.1%）を 8.3 ポイント上回っている。

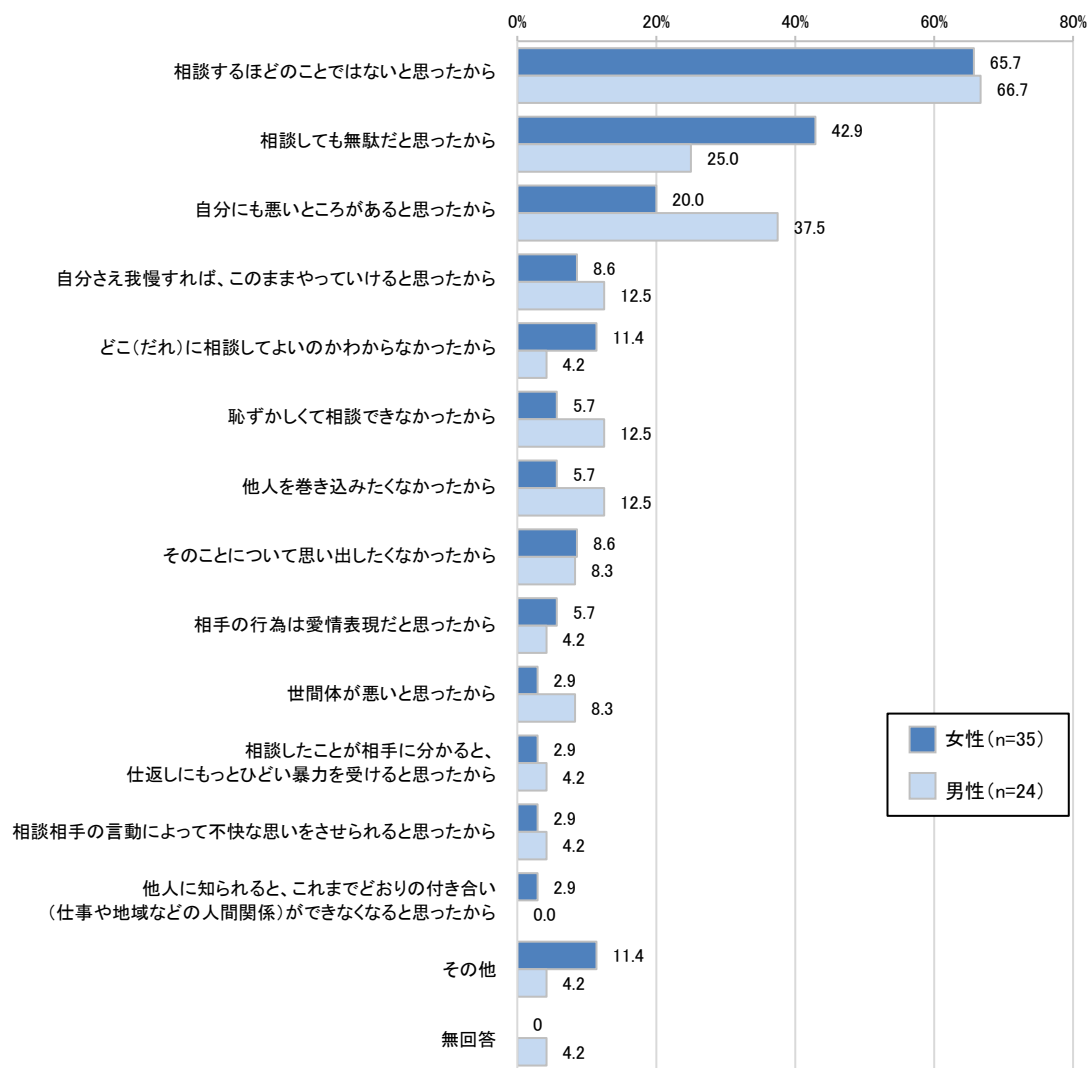
（問 21-2 で「15. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答された方におたずねします。）
 問 21-3 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○印はいくつでも）



相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思ったから（66.7%）」との回答が最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから（36.5%）」、「自分にも悪いところがあると思ったから（27.0%）」の順となっている。

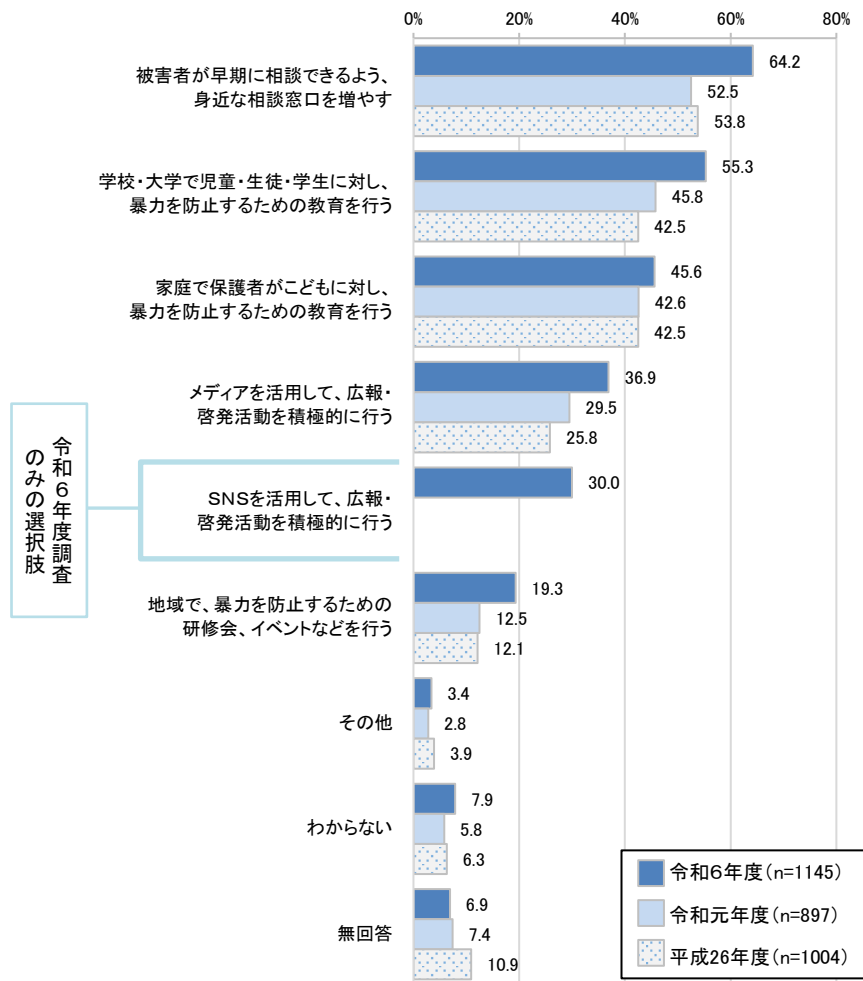
経年比較すると、いずれの調査においても「相談するほどのことではないと思ったから」との回答が最も多く、増加傾向にある。また、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」と回答した割合は減少傾向にある。

【相談しなかった理由（性別、回答があったもののみ）】



相談しなかった理由について、性別にみると、「相談しても無駄だ^{むだ}と思ったから」と回答した割合は女性（42.9%）が男性（25.0%）を17.9ポイント上回っている。一方、「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した割合は男性（37.5%）が女性（20.0%）を17.5ポイント上回っている。

問 22 はいぐうしゃ
配偶者や交際相手からの暴力、性暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどを
防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇印はいくつでも）



はいぐうしゃ
配偶者や交際相手からの暴力を防止するために必要なことについて、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす（64.2%）」との回答が最も多く、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う（55.3%）」、「家庭で保護者がこどもに対し、暴力を防止するための教育を行う（45.6%）」の順となっている。

経年比較すると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と回答した割合は11.7ポイント、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」と回答した割合は9.5ポイント、それぞれ今回調査が令和元年度調査を上回っている。

【配偶者や交際相手からの暴力を防止するために必要なこと（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	家庭で保護者がこどもに對し、暴力を防止するための教育を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を行う	SNSを活用して、広報・啓発活動を行う	地域で、暴力を防止するためのイベントなどを行う	その他	わからない
全体		1145	64.2	55.3	45.6	36.9	30.0	19.3	3.4	7.9
性別	女性	640	68.0	58.8	50.9	40.3	33.1	18.4	4.2	6.1
	男性	434	60.8	53.0	40.8	34.3	27.9	20.7	2.3	10.4
女性	15～19歳	23	78.3	69.6	47.8	34.8	47.8	30.4	4.3	4.3
	20歳代	46	73.9	71.7	54.3	50.0	54.3	13.0	—	4.3
	30歳代	76	69.7	59.2	51.3	35.5	31.6	21.1	7.9	3.9
	40歳代	117	61.5	62.4	46.2	43.6	41.9	17.9	3.4	9.4
	50歳代	128	69.5	53.9	53.1	40.6	35.2	14.8	7.0	6.3
	60歳代	97	72.2	70.1	60.8	48.5	28.9	22.7	4.1	3.1
	70歳以上	149	63.8	46.3	44.3	31.5	18.1	17.4	2.0	7.4
男性	15～19歳	16	50.0	43.8	43.8	56.3	56.3	68.8	—	12.5
	20歳代	23	60.9	60.9	47.8	17.4	52.2	8.7	4.3	4.3
	30歳代	48	64.6	50.0	43.8	33.3	35.4	20.8	6.3	10.4
	40歳代	62	61.3	58.1	40.3	41.9	32.3	19.4	1.6	6.5
	50歳代	89	62.9	57.3	37.1	30.3	29.2	15.7	—	10.1
	60歳代	72	69.4	56.9	43.1	48.6	31.9	22.2	2.8	5.6
	70歳以上	120	54.2	46.7	39.2	25.8	11.7	20.0	2.5	15.8

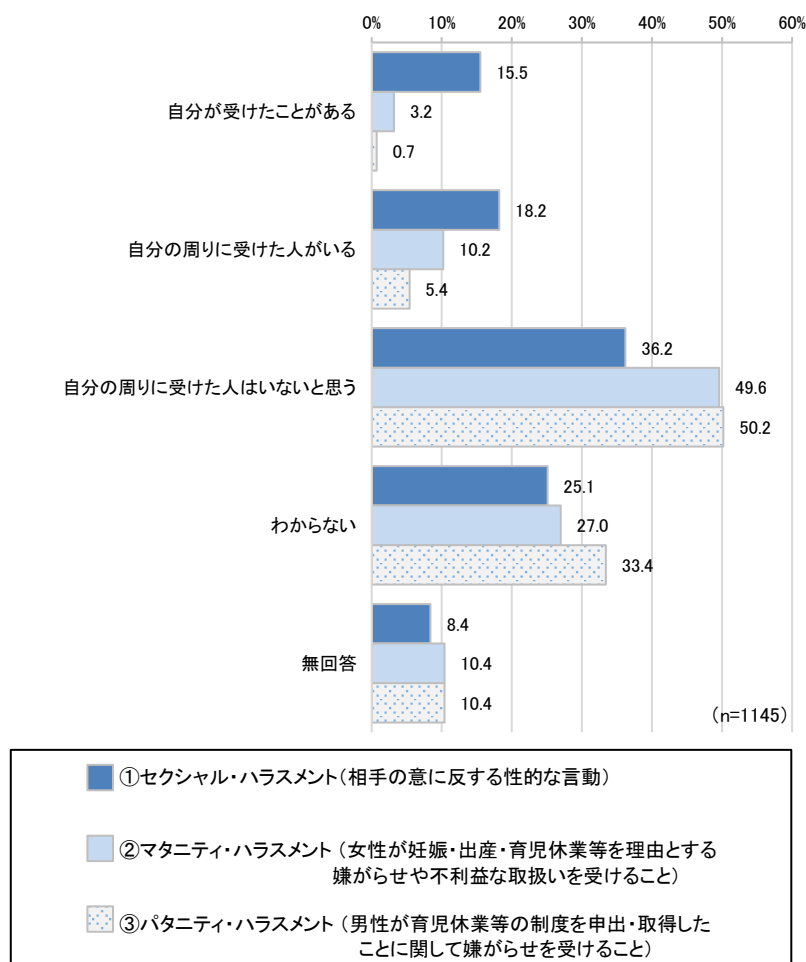
配偶者や交際相手からの暴力を防止するために必要なことについて、性別にみると、「家庭で保護者がこどもに對し、暴力を防止するための教育を行う」で最も男女差が大きく、女性（50.9％）が男性（40.8％）を10.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と回答した割合は女性15～19歳（78.3％）で最も高く、次いで女性20歳代（73.9％）、女性60歳代（72.2％）の順となっている。また、「学校・大学で児童・生徒・学生に對し、暴力を防止するための教育を行う」との回答は女性20歳代（71.7％）が最も高く、次いで女性60歳代（70.1％）、女性15～19歳（69.6％）の順となっている。

6 ハラスメントについて

問 23 あなたは、以下のようなハラスメントを経験したり、見聞きしたことはありますか。
(○印はいくつでも)

※令和元年度以前にはない問



①セクシャル・ハラスメント、②マタニティ・ハラスメント、③パタニティ・ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無について、「自分が受けたことがある」との回答は①セクシャル・ハラスメントが15.5%、②マタニティ・ハラスメントが3.2%、③パタニティ・ハラスメントが0.7%となっている。また、「自分の周りに受けた人がある」との回答は①セクシャル・ハラスメントが18.2%、②マタニティ・ハラスメントが10.2%、③パタニティ・ハラスメントが5.4%となっている。

【ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無 ①セクシャルハラスメント

(性別、性・年代別)】

(複数回答) (%)

		回答者数 (人)	自分が受けたことがある	自分の周りに受けた人がいる	自分の周りにはいないと思う	わからない
全体		1145	15.5	18.2	36.2	25.1
性別	女性	640	24.7	16.4	34.2	22.8
	男性	434	3.9	21.9	40.1	27.0
女性	15～19歳	23	26.1	21.7	34.8	13.0
	20歳代	46	19.6	23.9	34.8	21.7
	30歳代	76	34.2	18.4	34.2	18.4
	40歳代	117	35.9	22.2	31.6	18.8
	50歳代	128	34.4	20.3	32.0	15.6
	60歳代	97	19.6	11.3	43.3	23.7
	70歳以上	149	6.7	8.1	32.2	36.2
男性	15～19歳	16	18.8	18.8	31.3	37.5
	20歳代	23	4.3	17.4	56.5	21.7
	30歳代	48	4.2	35.4	35.4	22.9
	40歳代	62	8.1	27.4	33.9	30.6
	50歳代	89	4.5	23.6	42.7	23.6
	60歳代	72	1.4	30.6	43.1	22.2
	70歳以上	120	0.8	9.2	40.0	31.7

①セクシャルハラスメントの経験について、性別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は女性 (24.7%) が男性 (3.9%) を 20.8 ポイント上回っている。一方、「自分の周りに受けた人がいる」と回答した割合は男性 (21.9%) が女性 (16.4%) を 5.5 ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は女性 40 歳代 (35.9%) が最も高く、次いで女性 50 歳代 (34.4%)、女性 30 歳代 (34.2%) の順となっている。また、「自分の周りに受けた人がいる」と回答した割合は男性 30 歳代 (35.4%) が最も高く、次いで男性 60 歳代 (30.6%)、男性 40 歳代 (27.4%) の順となっている。

【ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無 ②マタニティ・ハラスメント

(性別、性・年代別)】

(複数回答) (%)

		回答者数 (人)	自分が受けたことがある	自分の周りに受けた人がある	自分の周りにはいないと思う	わからない
全体		1145	3.2	10.2	49.6	27.0
性別	女性	640	5.5	13.6	47.8	24.8
	男性	434	0.2	6.7	54.6	28.8
女性	15～19歳	23	—	—	52.2	39.1
	20歳代	46	2.2	17.4	63.0	15.2
	30歳代	76	9.2	25.0	47.4	18.4
	40歳代	117	10.3	21.4	53.0	17.1
	50歳代	128	7.8	10.9	55.5	21.9
	60歳代	97	5.2	14.4	42.3	26.8
	70歳以上	149	—	4.7	35.6	36.2
男性	15～19歳	16	—	6.3	50.0	43.8
	20歳代	23	—	4.3	60.9	34.8
	30歳代	48	—	14.6	58.3	22.9
	40歳代	62	—	9.7	62.9	22.6
	50歳代	89	—	6.7	64.0	22.5
	60歳代	72	1.4	9.7	56.9	29.2
	70歳以上	120	—	0.8	40.8	35.8

②マタニティ・ハラスメントの経験について、性別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は女性 (5.5%) が男性 (0.2%) を 5.3 ポイント、「自分の周りに受けた人がある」と回答した割合は女性 (13.6%) が男性 (6.7%) を 6.9 ポイント、それぞれ上回っている。

性・年代別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は女性 40 歳代 (10.3%) が最も高く、次いで女性 30 歳代 (9.2%)、女性 50 歳代 (7.8%) の順となっている。また、「自分の周りに受けた人がある」と回答した割合は女性 30 歳代 (25.0%) が最も高く、次いで女性 40 歳代 (21.4%)、女性 20 歳代 (17.4%) の順となっている。

【ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無 ③パタニティ・ハラスメント

(性別、性・年代別)】

(複数回答)(%)

		回答者数 (人)	自分が受けたことがある	自分の周りに受けた人がある	自分の周りにはいないと思う	わからない
全体		1145	0.7	5.4	50.2	33.4
性別	女性	640	0.3	6.1	51.1	33.6
	男性	434	0.9	5.1	52.3	31.6
女性	15～19歳	23	-	-	56.5	34.8
	20歳代	46	-	2.2	69.6	26.1
	30歳代	76	1.3	15.8	55.3	26.3
	40歳代	117	-	11.1	58.1	30.8
	50歳代	128	-	3.1	58.6	33.6
	60歳代	97	1.0	4.1	51.5	29.9
	70歳以上	149	-	2.7	29.5	45.0
男性	15～19歳	16	-	6.3	50.0	43.8
	20歳代	23	-	4.3	65.2	30.4
	30歳代	48	6.3	10.4	54.2	27.1
	40歳代	62	1.6	4.8	61.3	27.4
	50歳代	89	-	5.6	61.8	24.7
	60歳代	72	-	5.6	56.9	33.3
	70歳以上	120	-	2.5	35.8	38.3

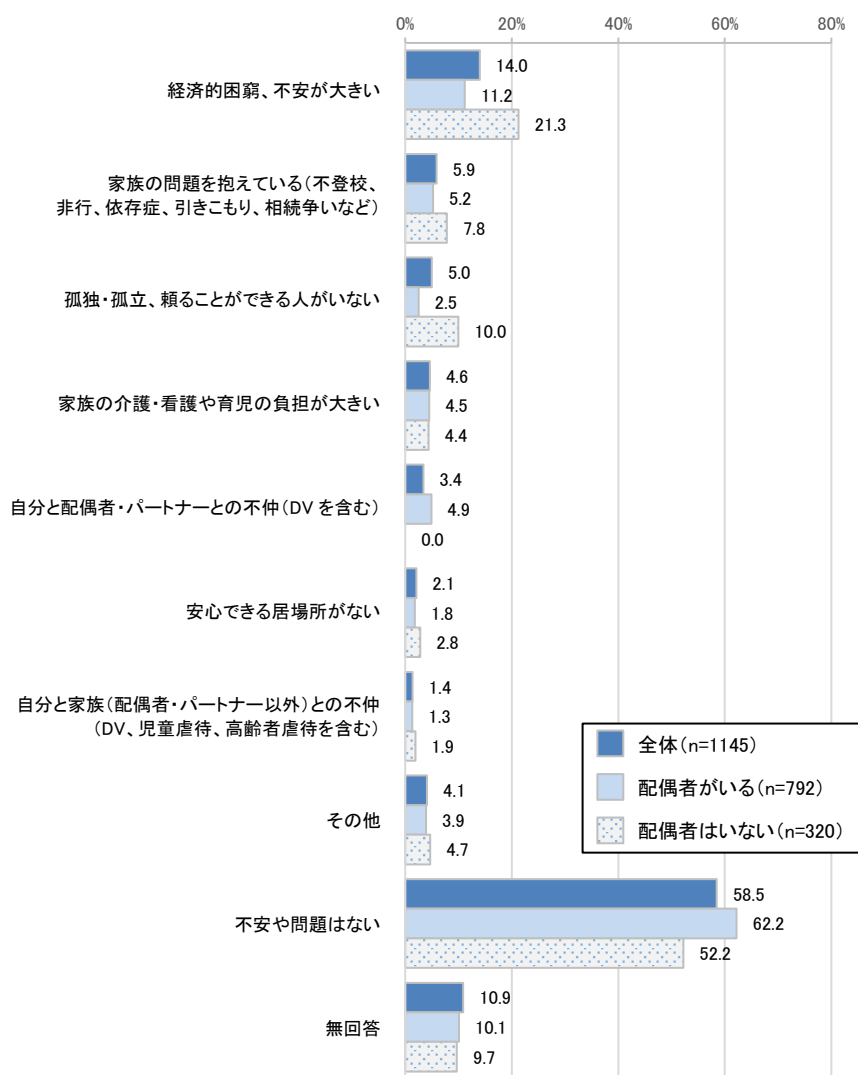
③パタニティ・ハラスメントの経験について、性別にみると、男女で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は男性 30 歳代 (6.3%) が最も高く、次いで男性 40 歳代 (1.6%) の順となっている。また、「自分の周りに受けた人がある」と回答した割合は女性 30 歳代 (15.8%) が最も高く、次いで女性 40 歳代 (11.1%)、男性 30 歳代 (10.4%) の順となっている。

7 生活状況について

問 24 あなたは現在、次のような家庭に関わる問題を抱えていますか。
(○印はいくつでも)

※令和元年度以前にはない問



家庭に関わる問題について、「経済的困窮、不安が大きい(14.0%)」との回答が最も高く、次いで「家族の問題を抱えている(不登校、非行、依存症、引きこもり、相続争いなど)(5.9%)」、「孤独・孤立、頼ることができる人がいない(5.0%)」の順となっている。

配偶者の有無別にみると、「経済的困窮、不安が大きい」と回答した割合は10.1ポイント、「孤独・孤立、頼ることができる人がいない」と回答した割合は7.5ポイント、それぞれ配偶者がいない人が配偶者がいる人を上回っている。

【家庭に関わる問題（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

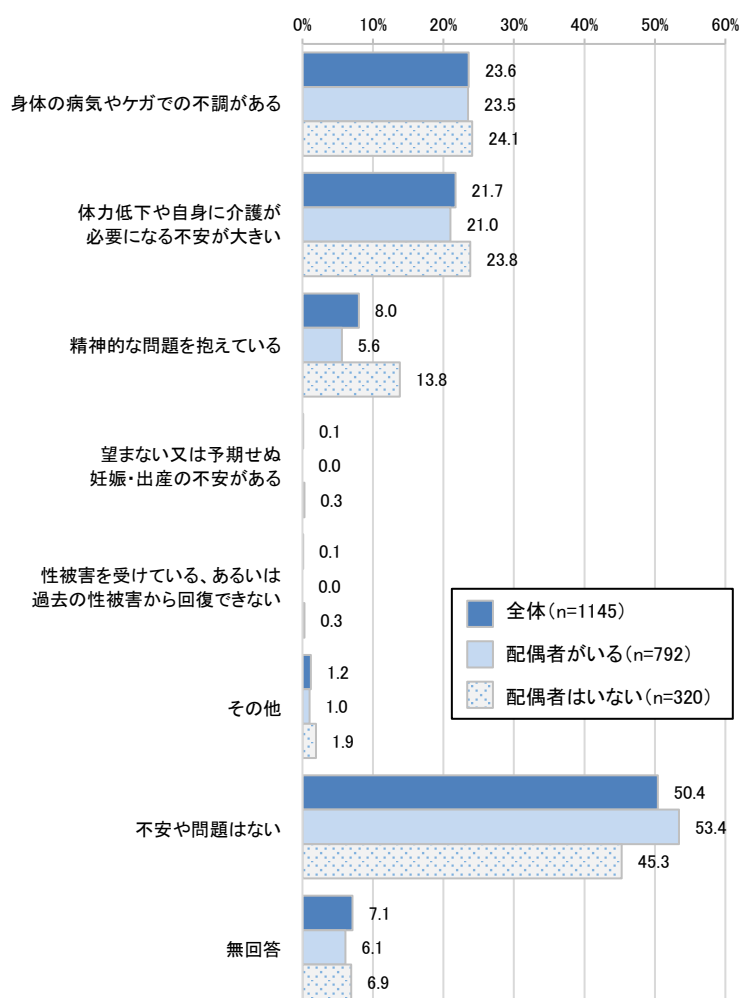
		回答者数（人）	経済的困窮、不安が大きい	引きこもり、不登校、非行、依存症、相続争いなど	家族の問題を抱えている	孤独・孤立、頼ることができない人がいない	家族の介護・看護や育児の負担が大きい	自分と配偶者・パートナーとの不仲（DVを含む）	安心できる居場所がない	自分と家族（配偶者・パートナー以外）との不仲（DV、児童虐待、高齢者虐待を含む）	その他	不安や問題はない
全体		1145	14.0	5.9	5.0	4.6	3.4	2.1	1.4	4.1	58.5	
性別	女性	640	14.5	5.8	4.4	5.5	4.4	1.9	1.6	4.7	58.3	
	男性	434	13.6	6.5	5.8	3.9	1.8	1.8	1.4	2.5	61.3	
女性	15～19歳	23	—	—	—	4.3	—	—	—	8.7	78.3	
	20歳代	46	10.9	2.2	—	—	—	—	2.2	—	87.0	
	30歳代	76	19.7	9.2	6.6	5.3	3.9	2.6	1.3	5.3	60.5	
	40歳代	117	20.5	8.5	3.4	3.4	9.4	1.7	0.9	6.8	51.3	
	50歳代	128	17.2	5.5	8.6	10.9	6.3	2.3	3.9	3.1	50.8	
	60歳代	97	10.3	5.2	1.0	5.2	3.1	1.0	1.0	4.1	67.0	
	70歳以上	149	10.7	4.7	4.0	3.4	2.0	2.7	0.7	5.4	52.3	
男性	15～19歳	16	6.3	6.3	6.3	—	—	—	—	—	75.0	
	20歳代	23	13.0	4.3	—	—	—	4.3	4.3	—	78.3	
	30歳代	48	16.7	6.3	6.3	6.3	—	2.1	2.1	2.1	66.7	
	40歳代	62	19.4	12.9	9.7	4.8	1.6	3.2	3.2	4.8	46.8	
	50歳代	89	15.7	10.1	9.0	5.6	5.6	2.2	1.1	4.5	56.2	
	60歳代	72	12.5	2.8	5.6	1.4	—	—	—	1.4	72.2	
	70歳以上	120	10.0	3.3	2.5	4.2	1.7	1.7	0.8	1.7	57.5	

家庭に関わる問題の状況について、性別にみると、「自分と配偶者・パートナーとの不仲（DVを含む）」で最も男女差が大きく、女性（4.4％）が男性（1.8％）を2.6ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「経済的困窮、不安が大きい」と回答した割合は女性40歳代（20.5％）が最も高く、次いで女性30歳代（19.7％）、男性40歳代（19.4％）の順となっている。また、「家族の問題を抱えている（不登校、非行、依存症、引きこもり、相続争いなど）」と回答した割合は男性40歳代（12.9％）が最も高く、次いで男性50歳代（10.1％）、女性30歳代（9.2％）の順となっている。

問 25 あなたは現在、次のような健康に関する不安や問題を抱えていますか。
(○印はいくつでも)

※令和元年度以前にはない問



健康に関する不安や問題について、「身体の病気やケガでの不調がある（23.6%）」との回答が最も多く、次いで「体力低下や自身に介護が必要になる不安が大きい（21.7%）」「精神的な問題を抱えている（8.0%）」の順となっている。

配偶者の有無別にみると、「不安や問題はない」と回答した割合は配偶者がいる人（53.4%）が配偶者がいない人（45.3%）を8.1ポイント上回っている。一方、「精神的な問題を抱えている」と回答した割合は配偶者がいない人（13.8%）が配偶者がいる人（5.6%）を8.2ポイント上回っている。

【健康に関する不安や問題（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

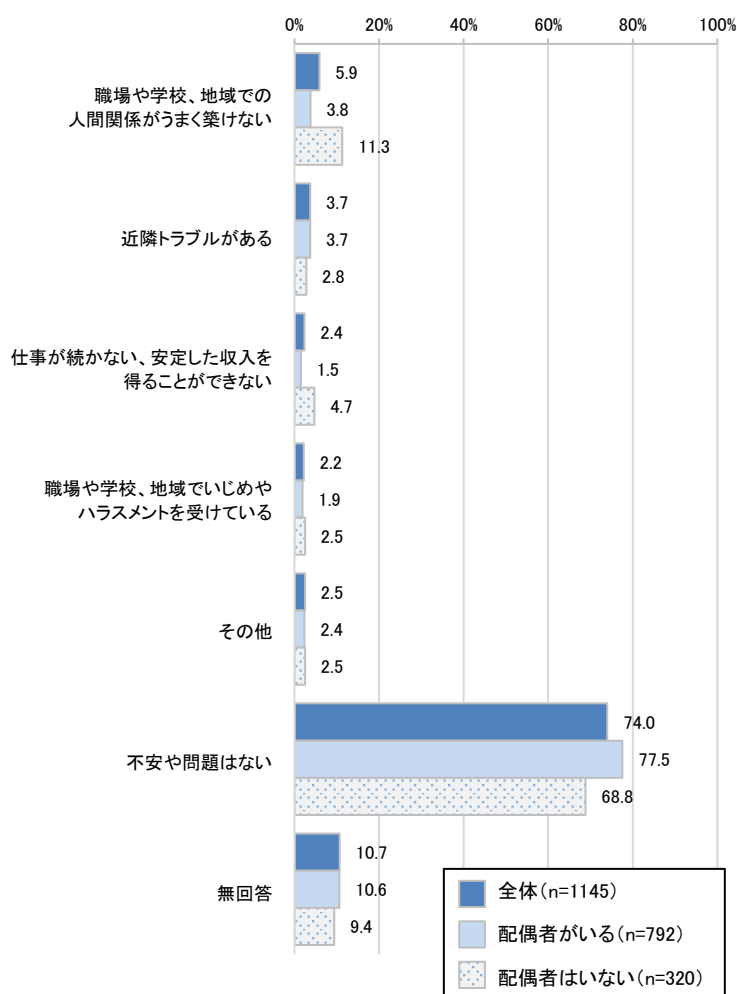
		回答者数（人）	身体の不調がある	体力低下や自身に介護が必要になる不安が大きい	精神的な問題を抱えている	望まない又は予期せぬ妊娠・出産の不安がある	性被害を受けている、あるいは過去の性被害から回復できない	その他	不安や問題はない
全体		1145	23.6	21.7	8.0	0.1	0.1	1.2	50.4
性別	女性	640	23.8	21.3	8.6	0.2	－	1.1	53.3
	男性	434	21.7	21.4	7.4	－	－	1.4	49.1
女性	15～19歳	23	8.7	－	4.3	－	－	－	78.3
	20歳代	46	4.3	－	2.2	2.2	－	－	89.1
	30歳代	76	17.1	3.9	7.9	－	－	－	71.1
	40歳代	117	16.2	11.1	12.8	－	－	0.9	64.1
	50歳代	128	28.9	21.9	10.2	－	－	2.3	50.0
	60歳代	97	32.0	34.0	8.2	－	－	1.0	42.3
	70歳以上	149	32.2	39.6	6.7	－	－	1.3	30.9
男性	15～19歳	16	－	－	18.8	－	－	－	68.8
	20歳代	23	8.7	4.3	17.4	－	－	－	69.6
	30歳代	48	12.5	2.1	6.3	－	－	－	75.0
	40歳代	62	17.7	12.9	9.7	－	－	1.6	56.5
	50歳代	89	24.7	20.2	11.2	－	－	2.2	48.3
	60歳代	72	29.2	31.9	6.9	－	－	－	41.7
	70歳以上	120	25.8	34.2	0.8	－	－	1.7	35.0

健康に関する不安や問題について、性別にみると、「身体の不調がある」で最も男女差が大きく、女性（23.8％）が男性（21.7％）を2.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「身体の不調がある」と回答した割合は女性70歳以上（32.2％）が最も高く、次いで女性60歳代（32.0％）、男性60歳代（29.2％）の順となっている。また、「体力低下や自身に介護が必要になる不安が大きい」と回答した割合は女性70歳以上（39.6％）が最も高く、次いで男性70歳以上（34.2％）、女性60歳代（34.0％）の順となっている。

問 26 あなたは現在、次のような職場や学校、地域での人間関係に関わる問題を抱えていますか。
(○印はいくつでも)

※令和元年度以前にはない問



職場や学校、地域での人間関係に関わる問題について、「職場や学校、地域での人間関係がうまく築けない (5.9%)」との回答が最も多く、次いで「近隣トラブルがある (3.7%)」、「仕事が続かない、安定した収入を得ることができない (2.4%)」の順となっている。

配偶者の有無別にみると、「不安や問題はない」と回答した割合は配偶者がいる人 (77.5%) が配偶者がいない人 (68.8%) を 8.7 ポイント上回っている。一方、「職場や学校、地域での人間関係がうまく築けない」と回答した割合は配偶者がいない人 (11.3%) が配偶者がいる人 (3.8%) を 7.5 ポイント上回っている。

【職場や学校、地域での人間関係に関わる問題（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	職場や学校、地域での人間関係がうまく築けない	近隣トラブルがある	仕事が続かない、安定した収入を得ることができない	職場や学校、地域でのハラスメントを受けている	その他	不安や問題はない
全体		1145	5.9	3.7	2.4	2.2	2.5	74.0
性別	女性	640	6.7	3.9	2.8	2.3	3.0	73.8
	男性	434	5.5	3.7	1.8	2.1	2.1	75.1
女性	15～19歳	23	26.1	－	－	－	－	65.2
	20歳代	46	6.5	－	2.2	－	2.2	87.0
	30歳代	76	9.2	3.9	5.3	1.3	2.6	75.0
	40歳代	117	7.7	2.6	4.3	2.6	6.0	76.1
	50歳代	128	10.2	2.3	5.5	7.8	4.7	68.8
	60歳代	97	1.0	3.1	1.0	1.0	2.1	86.6
	70歳以上	149	2.7	8.1	－	－	0.7	65.1
男性	15～19歳	16	18.8	－	6.3	6.3	6.3	62.5
	20歳代	23	8.7	－	－	－	－	91.3
	30歳代	48	8.3	4.2	4.2	6.3	－	75.0
	40歳代	62	4.8	4.8	－	1.6	3.2	82.3
	50歳代	89	3.4	2.2	3.4	4.5	2.2	75.3
	60歳代	72	8.3	5.6	1.4	－	－	76.4
	70歳以上	120	2.5	4.2	0.8	－	3.3	70.8

職場や学校、地域での人間関係に関わる問題について、性別にみると、「職場や学校、地域での人間関係がうまく築けない」で最も男女差が大きく、女性（6.7％）が男性（5.5％）を1.2ポイント上回っている。

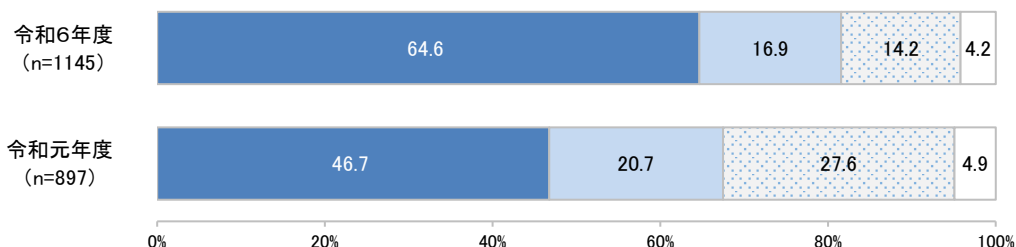
性・年代別にみると「職場や学校、地域での人間関係がうまく築けない」と回答した割合は女性15～19歳（26.1％）が最も高く、次いで男性15～19歳（18.8％）、女性50歳代（10.2％）の順となっている。また、「近隣トラブルがある」と回答した割合は女性70歳以上（8.1％）が最も高く、次いで男性60歳代（5.6％）、男性40歳代（4.8％）の順となっている。

8 性の多様性について

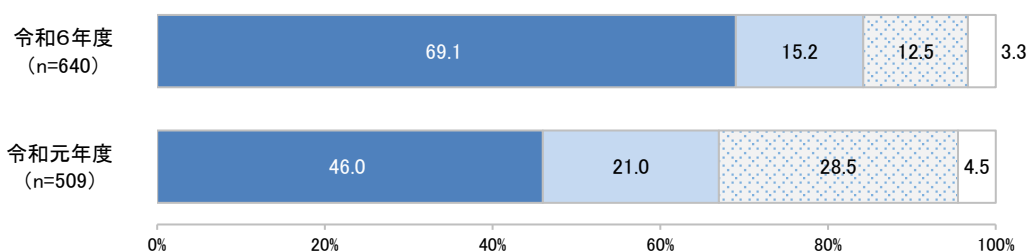
問 27 あなたは、L G B T (性的マイノリティ)という言葉を知っていますか。(○印は1つ)

(全体)

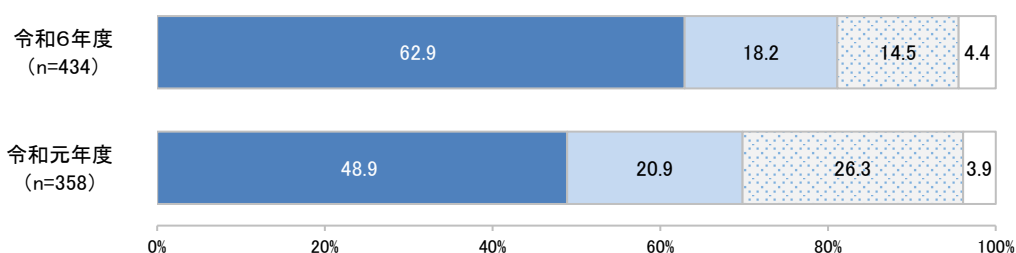
※平成 26 年度以前にはない問



(女性)



(男性)



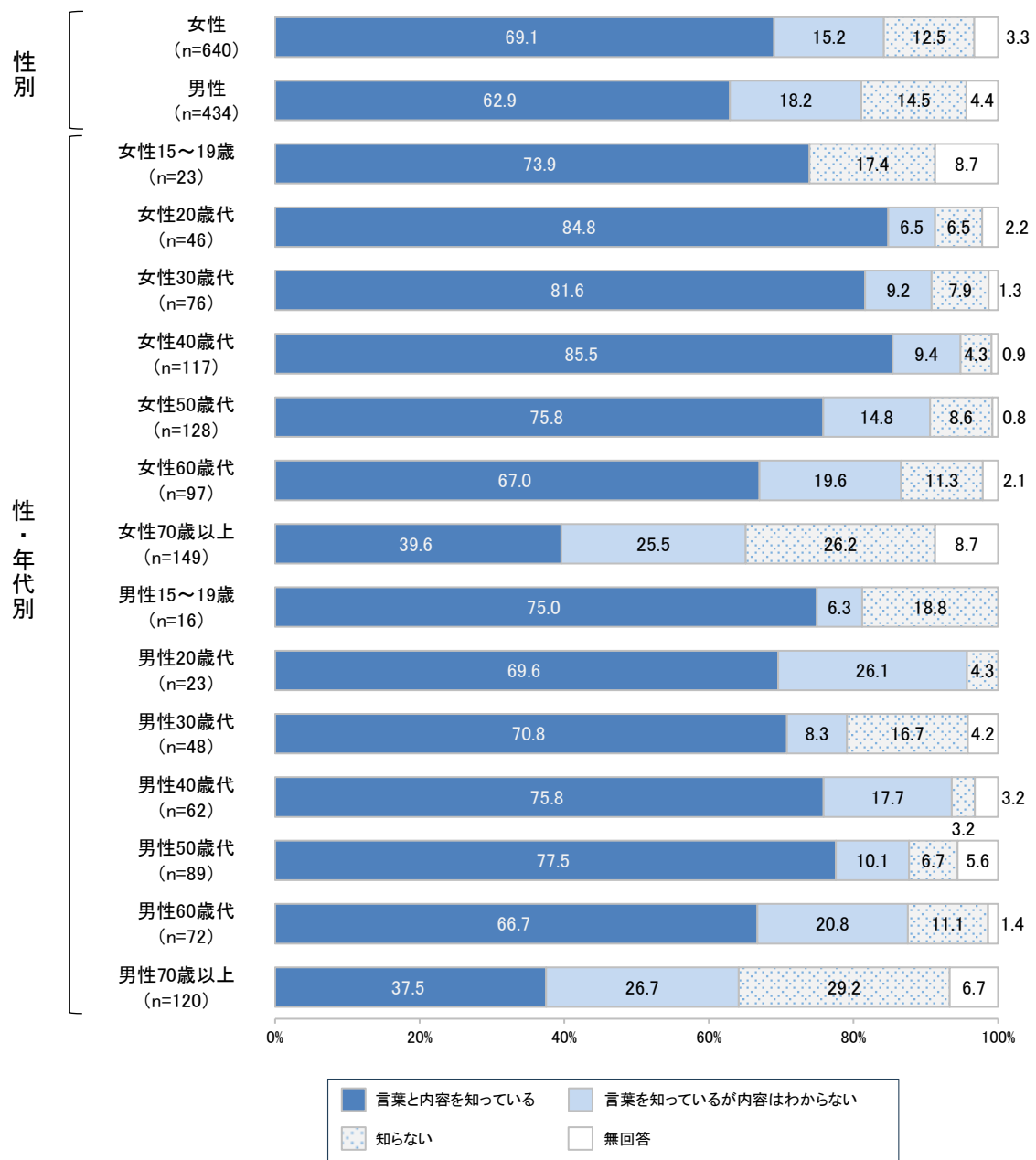
L G B T (性的マイノリティ) の認知度について、「言葉と内容を知っている (64.6%)」との回答が最も多く、次いで「言葉を知っているが内容はわからない (16.9%)」、「知らない (14.2%)」の順となっている。

経年比較すると、「言葉と内容を知っている」と回答した割合は 17.9 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。

性別にみると、「言葉と内容を知っている」と回答した割合は女性 (69.1%) が男性 (62.9%) を 6.2 ポイント上回っている。

男女それぞれについて経年比較すると、「言葉と内容を知っている」と回答した割合は、女性が 23.1 ポイント、男性が 14.0 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。

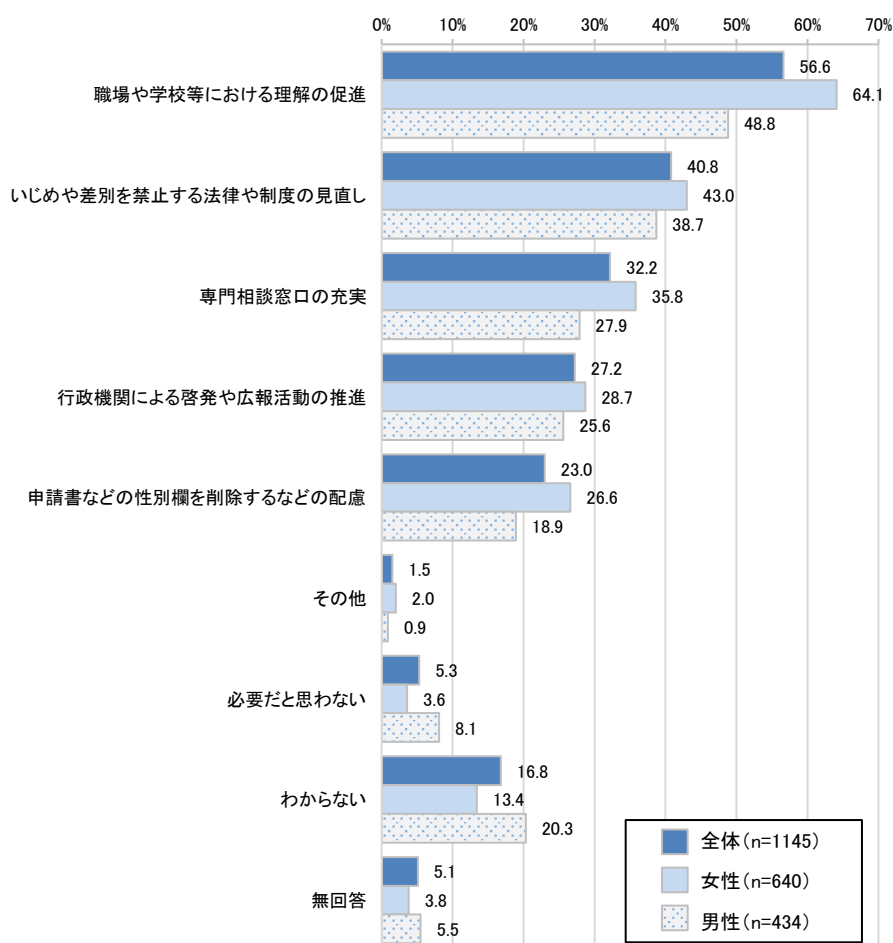
【LGBT（性的マイノリティ）の認知度（性別、性・年代別）】



LGBT（性的マイノリティ）の認知度について、性・年代別にみると、「言葉と内容を知っている」と回答した割合は女性40歳代（85.5%）が最も高く、次いで女性20歳代（84.8%）、女性30歳代（81.6%）の順となっている。

問 28 あなたは、L G B T（性的マイノリティ）の方々への理解の促進や支援にはどのような取組が必要だと思いますか。（○印はいくつでも）

※令和元年度以前にはない問



L G B Tの方々への理解の促進や支援に対して必要な取組について、「職場や学校等における理解の促進（56.6%）」との回答が最も多く、次いで「いじめや差別を禁止する法律や制度の見直し（40.8%）」、「専門相談窓口の充実（32.2%）」の順となっている。

性別にみると、「職場や学校等における理解の促進」で最も男女差が大きく、女性（64.1%）が男性（48.8%）を15.3ポイント上回っている。

【L G B Tの方々への理解の促進や支援に対して必要な取組（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

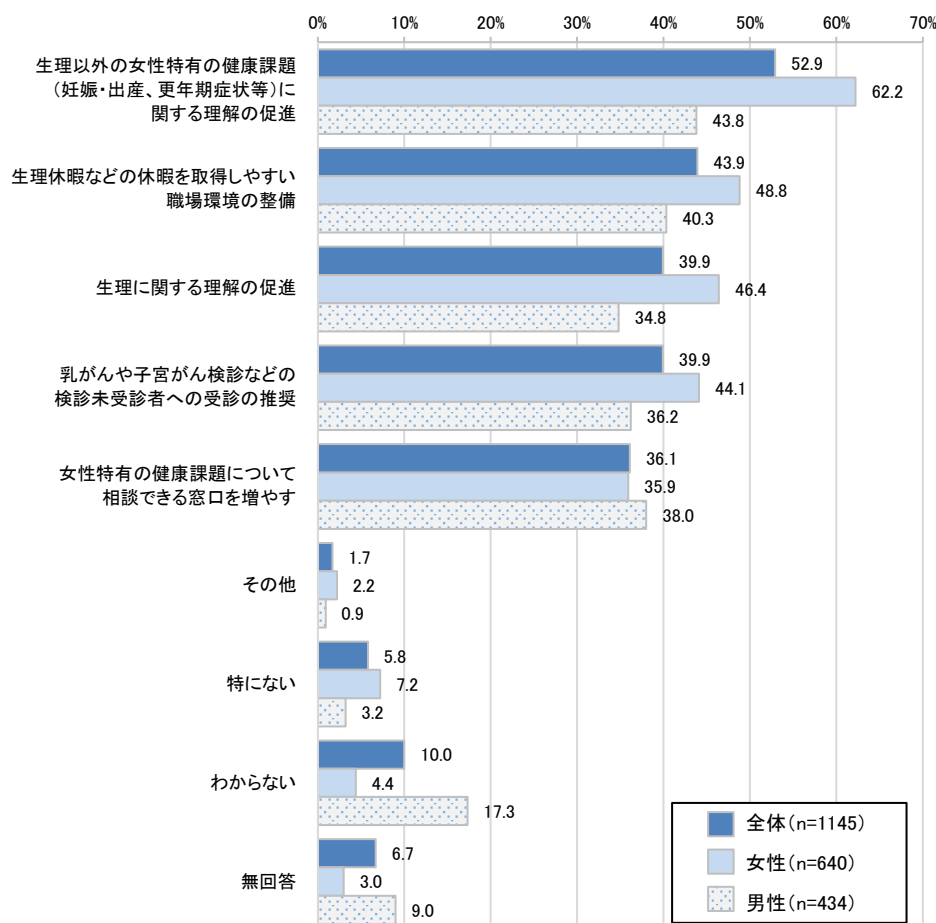
		回答者数（人）	職場や学校等における理解の促進	いじめや差別の禁止を法律や制度の見直し	専門相談窓口の充実	行政機関による啓発や広報活動の推進	申請書などの性別配慮を削除するなどの配慮	その他	必要だと思わない	わからない
全体		1145	56.6	40.8	32.2	27.2	23.0	1.5	5.3	16.8
性別	女性	640	64.1	43.0	35.8	28.7	26.6	2.0	3.6	13.4
	男性	434	48.8	38.7	27.9	25.6	18.9	0.9	8.1	20.3
女性	15～19歳	23	60.9	39.1	34.8	26.1	26.1	4.3	13.0	8.7
	20歳代	46	65.2	63.0	34.8	23.9	32.6	—	2.2	8.7
	30歳代	76	69.7	43.4	34.2	25.0	31.6	5.3	5.3	14.5
	40歳代	117	73.5	45.3	34.2	28.2	29.1	3.4	6.8	6.8
	50歳代	128	71.9	43.8	37.5	28.1	33.6	0.8	2.3	9.4
	60歳代	97	71.1	46.4	39.2	36.1	33.0	3.1	2.1	15.5
	70歳以上	149	43.0	32.2	34.9	28.9	10.7	—	1.3	22.1
男性	15～19歳	16	43.8	56.3	50.0	37.5	18.8	—	6.3	12.5
	20歳代	23	56.5	56.5	30.4	21.7	34.8	—	8.7	13.0
	30歳代	48	58.3	52.1	22.9	31.3	25.0	4.2	12.5	10.4
	40歳代	62	64.5	40.3	29.0	22.6	12.9	1.6	9.7	12.9
	50歳代	89	53.9	41.6	28.1	27.0	28.1	—	10.1	15.7
	60歳代	72	58.3	45.8	31.9	37.5	22.2	—	4.2	16.7
	70歳以上	120	28.3	21.7	24.2	16.7	8.3	0.8	5.8	34.2

L G B Tの方々への理解の促進や支援に対して必要な取組について、性・年代別にみると、「職場や学校等における理解の促進」と回答した割合は、女性 40 歳代（73.5％）が最も高く、次いで女性 50 歳代（71.9％）、女性 60 歳代（71.1％）の順となっている。また、「いじめや差別を禁止する法律や制度の見直し」と回答した割合は女性 20 歳代（63.0％）が最も高く、次いで男性 20 歳代（56.5％）、男性 15～19 歳（56.3％）の順となっている。

9 女性の健康について

問 29 あなたは、女性特有の健康課題（生理、妊娠・出産、更年期など）に対してどのような取組が必要だと思いますか。（〇印はいくつでも）

※令和元年度以前にはない問



女性特有の健康課題に対して必要な取組について、「生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、更年期症状等）に関する理解の促進（52.9%）」との回答が最も多く、次いで「生理休暇などの休暇を取得しやすい職場環境の整備（43.9%）」、「生理に関する理解の促進（39.9%）」の順となっている。

性別にみると、「生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、更年期症状等）に関する理解の促進」で最も男女差が大きく、女性（62.2%）が男性（43.8%）を18.4ポイント上回っている。

【女性特有の健康課題に対して必要な取組（性別、性・年代別）】

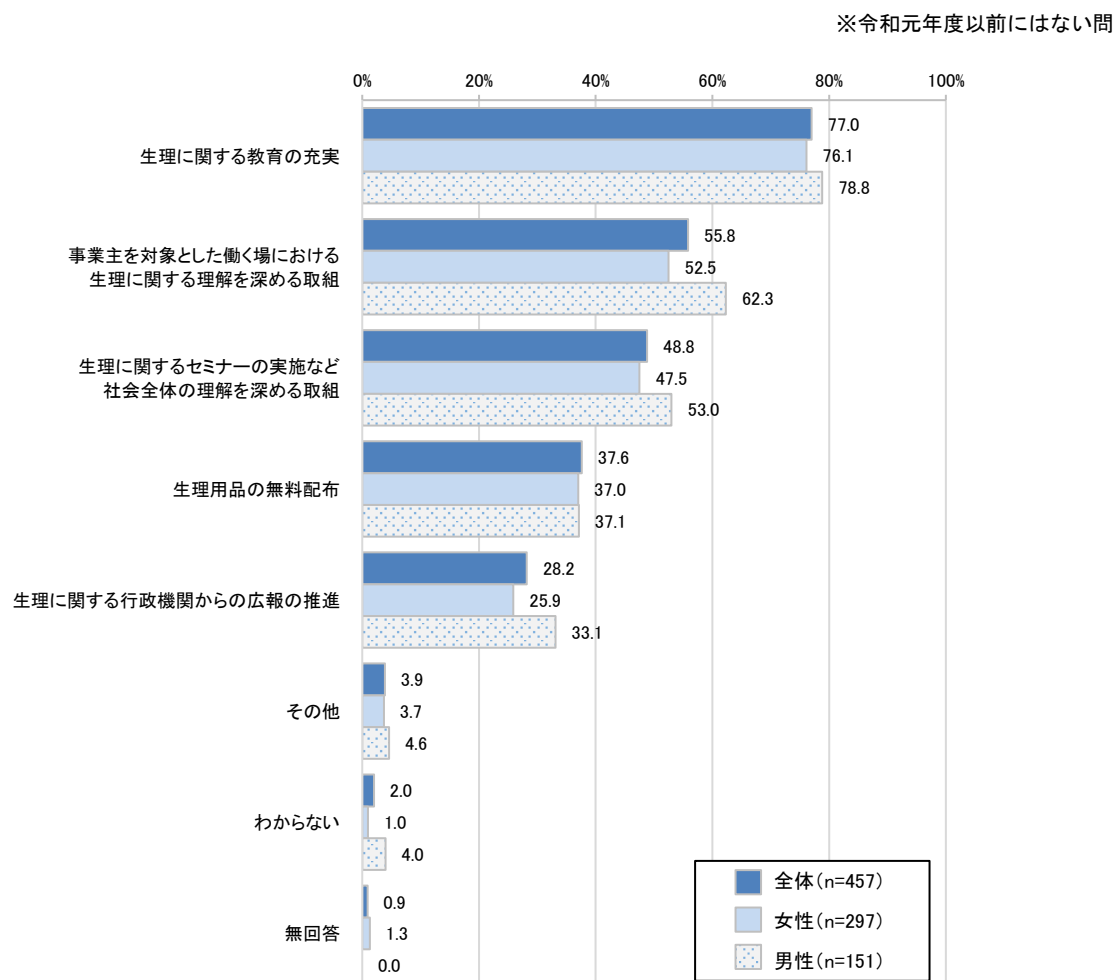
（複数回答）（％）

		回答者数（人）	関する理解の促進 更年期症状等） 健康課題（妊娠・出産、 生理以外の女性特有の	生理以外の女性特有の 健康課題（妊娠・出産、 生理以外の女性特有の	生理以外の女性特有の 健康課題（妊娠・出産、 生理以外の女性特有の	生理以外の女性特有の 健康課題（妊娠・出産、 生理以外の女性特有の	生理以外の女性特有の 健康課題（妊娠・出産、 生理以外の女性特有の	生理以外の女性特有の 健康課題（妊娠・出産、 生理以外の女性特有の	生理以外の女性特有の 健康課題（妊娠・出産、 生理以外の女性特有の	生理以外の女性特有の 健康課題（妊娠・出産、 生理以外の女性特有の
	全体	1145	52.9	43.9	39.9	39.9	36.1	1.7	5.8	10.0
性別	女性	640	62.2	48.8	46.4	44.1	35.9	2.2	7.2	4.4
	男性	434	43.8	40.3	34.8	36.2	38.0	0.9	3.2	17.3
女性	15～19歳	23	73.9	82.6	82.6	47.8	52.2	—	—	4.3
	20歳代	46	71.7	73.9	69.6	50.0	32.6	2.2	2.2	6.5
	30歳代	76	65.8	59.2	63.2	48.7	30.3	3.9	5.3	3.9
	40歳代	117	76.1	50.4	53.8	45.3	33.3	4.3	5.1	1.7
	50歳代	128	65.6	42.2	40.6	46.1	35.2	3.1	6.3	3.1
	60歳代	97	67.0	54.6	49.5	43.3	45.4	—	8.2	2.1
	70歳以上	149	38.9	30.2	22.8	36.2	32.9	0.7	12.8	8.7
男性	15～19歳	16	56.3	43.8	68.8	37.5	62.5	—	6.3	12.5
	20歳代	23	60.9	60.9	60.9	43.5	43.5	—	4.3	8.7
	30歳代	48	54.2	62.5	50.0	43.8	31.3	4.2	4.2	12.5
	40歳代	62	58.1	50.0	43.5	45.2	41.9	1.6	—	12.9
	50歳代	89	48.3	39.3	36.0	33.7	36.0	—	3.4	18.0
	60歳代	72	43.1	44.4	38.9	40.3	44.4	1.4	—	20.8
	70歳以上	120	25.0	20.8	11.7	25.0	31.7	—	5.8	20.8

女性特有の健康課題に対して必要な取組について、性・年代別にみると、「生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、更年期症状等）に関する理解の促進」と回答した割合は女性40歳代（76.1%）が最も高く、次いで女性15～19歳（73.9%）、女性20歳代（71.7%）の順となっている。また、「生理休暇などの休暇を取得しやすい職場環境の整備」と回答した割合は、女性15～19歳（82.6%）が最も高く、次いで女性20歳代（73.9%）、男性30歳代（62.5%）の順となっている。

(問 29 で「1. 生理に関する理解の促進」と回答された方におたずねします。)

問 29-2 生理に関する理解の促進として、どのような取組が必要だと思いますか。
(○印はいくつでも)



生理に関する理解の促進に必要な取組について、「生理に関する教育の充実 (77.0%)」との回答が最も多く、次いで「事業主を対象とした働く場における生理に関する理解を深める取組 (55.8%)」、「生理に関するセミナーの実施など社会全体の理解を深める取組 (48.8%)」の順となっている。

性別にみると、「事業主を対象とした働く場における生理に関する理解を深める取組」で最も男女差が大きく、男性 (62.3%) が女性 (52.5%) を 9.8 ポイント上回っている。

【生理に関する理解の促進に必要な取組（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

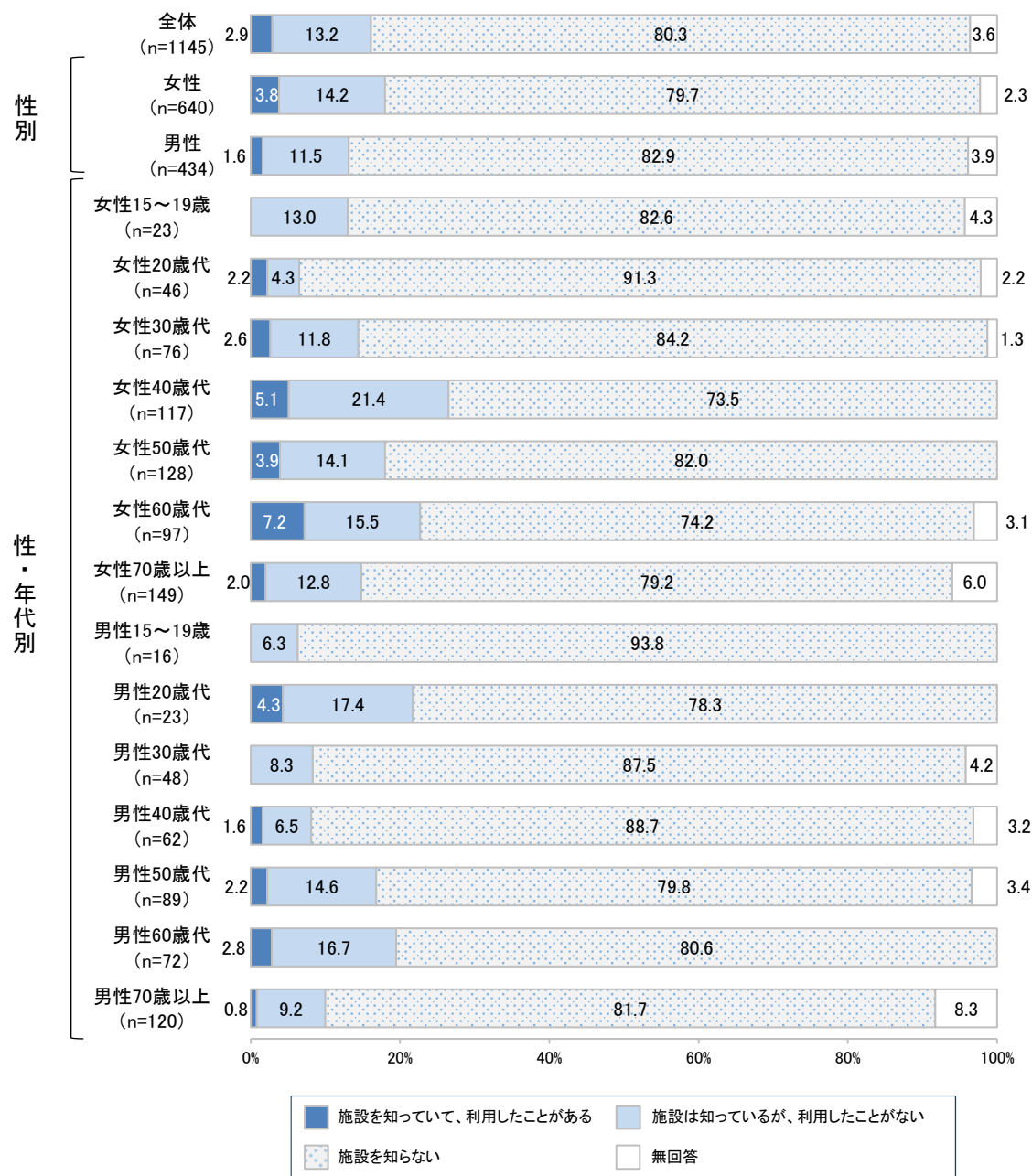
		回答者数（人）	生理に関する教育の充実	働く場における取組	事業主を対象とした生理に関する取組	生理用品の無料配布	生理に関する行政機関からの推進	その他	わからない
全体		457	77.0	55.8	48.8	37.6	28.2	3.9	2.0
性別	女性	297	76.1	52.5	47.5	37.0	25.9	3.7	1.0
	男性	151	78.8	62.3	53.0	37.1	33.1	4.6	4.0
女性	15～19歳	19	89.5	42.1	47.4	52.6	21.1	10.5	—
	20歳代	32	71.9	43.8	43.8	59.4	18.8	6.3	—
	30歳代	48	77.1	56.3	41.7	50.0	25.0	4.2	4.2
	40歳代	63	77.8	47.6	41.3	34.9	28.6	4.8	1.6
	50歳代	52	69.2	53.8	50.0	23.1	25.0	3.8	—
	60歳代	48	72.9	58.3	47.9	20.8	27.1	—	—
	70歳以上	34	82.4	58.8	64.7	38.2	29.4	—	—
男性	15～19歳	11	81.8	36.4	63.6	45.5	36.4	—	—
	20歳代	14	85.7	64.3	64.3	35.7	14.3	—	—
	30歳代	24	87.5	70.8	50.0	29.2	50.0	4.2	—
	40歳代	27	77.8	51.9	44.4	51.9	33.3	3.7	11.1
	50歳代	32	59.4	59.4	40.6	34.4	28.1	9.4	6.3
	60歳代	28	85.7	75.0	60.7	35.7	28.6	3.6	—
	70歳以上	14	85.7	71.4	64.3	28.6	35.7	—	7.1

生理に関する理解の促進に必要な取組について、性・年代別にみると、「生理に関する教育の充実」と回答した割合は女性 15～19 歳（89.5%）が最も高く、次いで男性 30 歳代（87.5%）、男性 20 歳代・60 歳代・70 歳以上（85.7%）の順となっている。また、「事業主を対象とした働く場における生理に関する理解を深める取組」と回答した割合は男性 60 歳代（75.0%）が最も高く、次いで男性 70 歳以上（71.4%）、男性 30 歳代（70.8%）の順となっている。

10 男女共同参画社会の実現について

問 30 あなたは、男女共同参画の推進拠点施設である「広島市男女共同参画推進センター（「ゆいぽーと」）」を利用したことがありますか。（○印は1つ）

※令和元年度以前にはない問

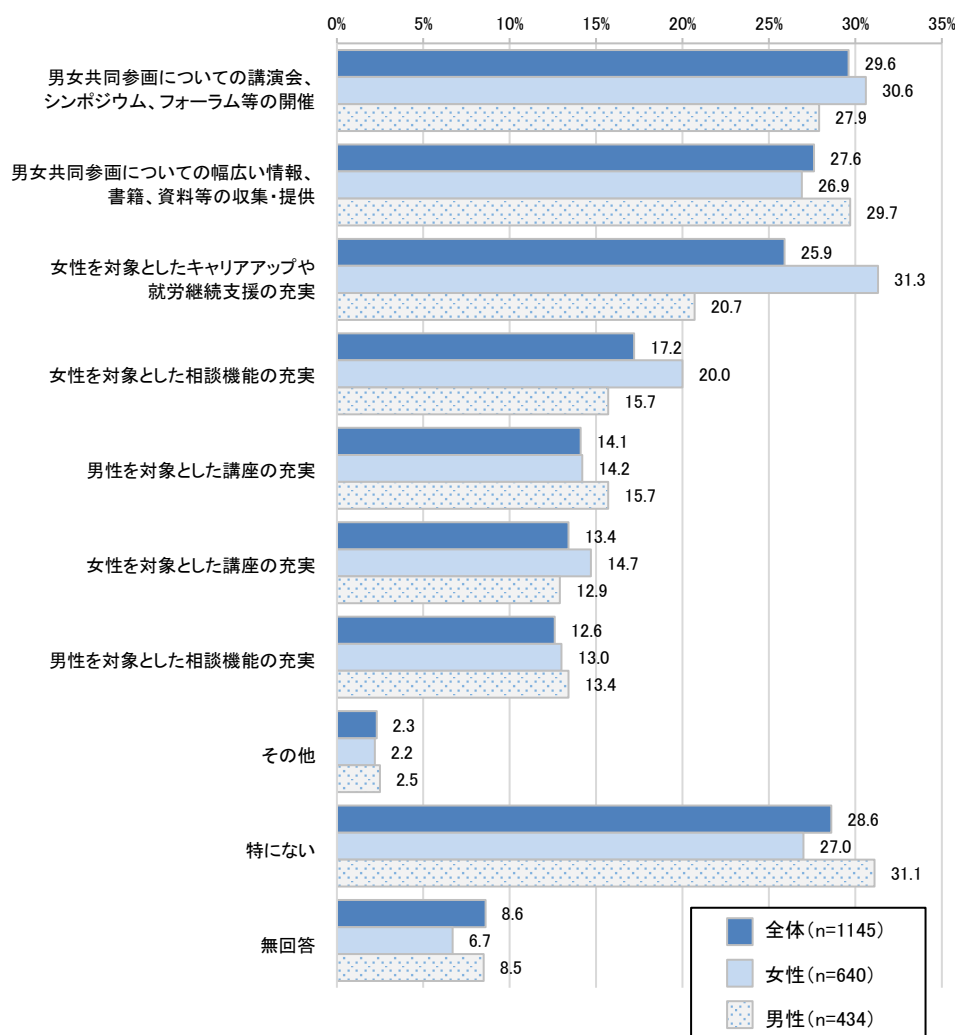


広島市男女共同参画推進センターの認知度について、「施設を知らない（80.3%）」との回答が最も多く、次いで「施設は知っているが、利用したことがない（13.2%）」、「施設を知っていて、利用したことがある（2.9%）」の順となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられないが、性・年代別にみると、「施設を知っていて、利用したことがある」と回答した割合は女性60歳代（7.2%）が最も高く、次いで女性40歳代（5.1%）、男性20歳代（4.3%）の順となっている。

問 31 「ゆいぽーと」では次のような男女共同参画に関する業務を行っています、どのような役割を期待しますか。(〇印はいくつでも)

※令和元年度以前にはない問



広島市男女共同参画推進センターの役割として期待することについて、「男女共同参画についての講演会、シンポジウム、フォーラム等の開催 (29.6%)」との回答が最も多く、次いで「男女共同参画についての幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供 (27.6%)」、「女性を対象としたキャリアアップや就労継続支援の充実 (25.9%)」の順となっている。

性別にみると、「女性を対象としたキャリアアップや就労継続支援の充実」で最も男女差が大きく、女性 (31.3%) が男性 (20.7%) を 10.6 ポイント上回っている。

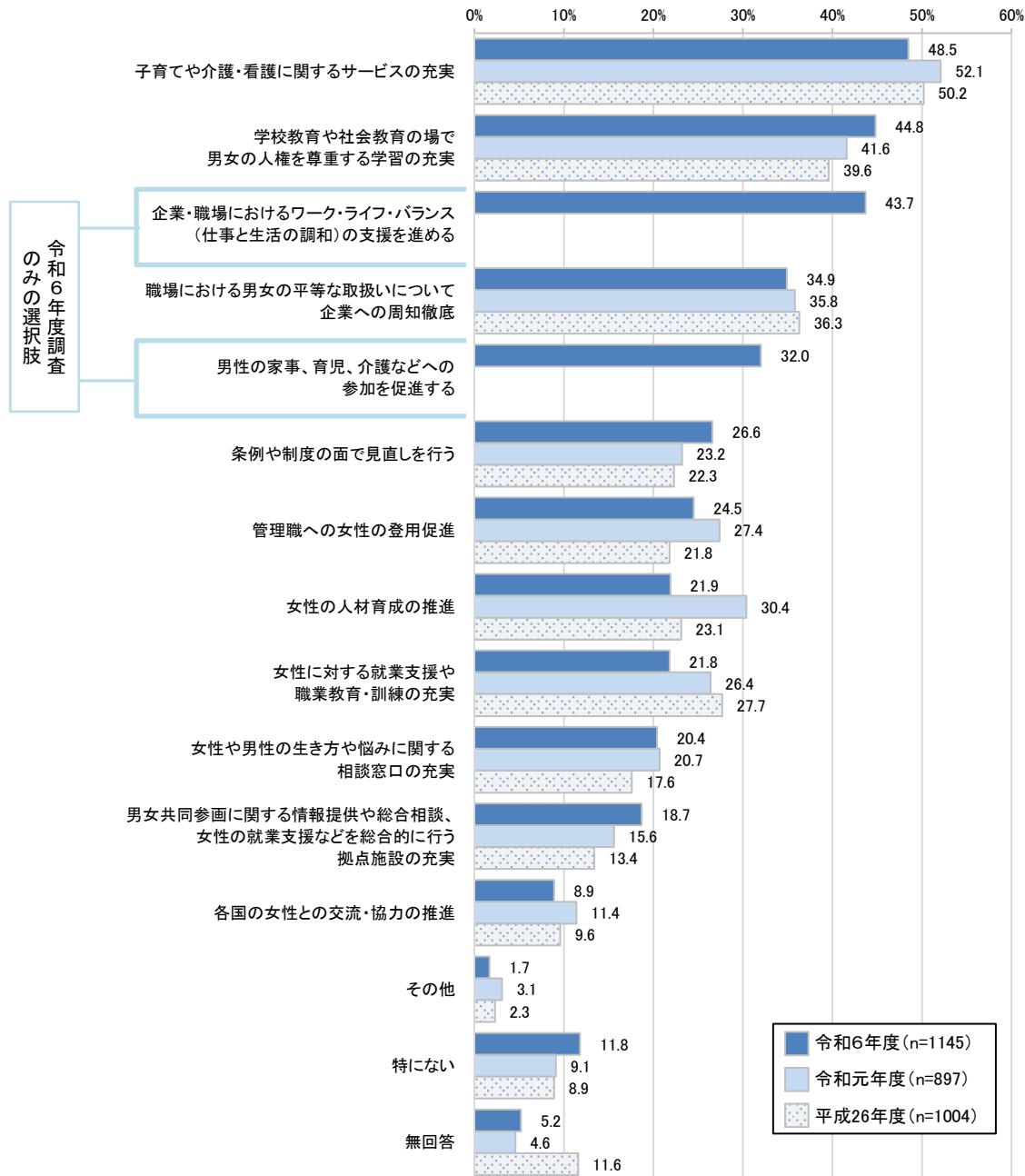
【広島市男女共同参画推進センターの役割として期待すること（性別、性・年代別）】

(複数回答) (%)

		回答者数（人）	講演会、シンポジウム、フォーラム等の開催	男女共同参画についての幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供	男女共同参画についての就労継続支援の充実	女性を対象としたキャリアアップや女性性職能の充実	女性職能の充実	男性職能の充実	女性職能の充実	男性職能の充実	その他	特になし
全体		1145	29.6	27.6	25.9	17.2	14.1	13.4	12.6	2.3	28.6	
性別	女性	640	30.6	26.9	31.3	20.0	14.2	14.7	13.0	2.2	27.0	
	男性	434	27.9	29.7	20.7	15.7	15.7	12.9	13.4	2.5	31.1	
女性	15～19歳	23	34.8	26.1	47.8	39.1	30.4	26.1	34.8	-	26.1	
	20歳代	46	21.7	23.9	45.7	26.1	28.3	28.3	26.1	-	34.8	
	30歳代	76	26.3	22.4	28.9	25.0	15.8	14.5	18.4	2.6	42.1	
	40歳代	117	29.9	26.5	44.4	21.4	15.4	17.1	14.5	1.7	29.1	
	50歳代	128	33.6	27.3	34.4	22.7	12.5	11.7	13.3	4.7	21.9	
	60歳代	97	35.1	35.1	28.9	21.6	13.4	16.5	10.3	3.1	18.6	
	70歳以上	149	30.9	24.8	14.8	8.7	7.4	8.7	3.4	0.7	24.8	
男性	15～19歳	16	12.5	25.0	12.5	6.3	12.5	18.8	-	-	68.8	
	20歳代	23	26.1	21.7	17.4	34.8	17.4	21.7	34.8	4.3	30.4	
	30歳代	48	18.8	14.6	25.0	12.5	12.5	8.3	16.7	6.3	41.7	
	40歳代	62	21.0	29.0	30.6	21.0	14.5	11.3	22.6	3.2	32.3	
	50歳代	89	32.6	32.6	30.3	20.2	23.6	19.1	11.2	2.2	29.2	
	60歳代	72	40.3	38.9	22.2	16.7	20.8	18.1	13.9	1.4	20.8	
	70歳以上	120	26.7	30.8	8.3	8.3	9.2	5.8	6.7	1.7	27.5	

広島市男女共同参画推進センターの役割として期待することについて、性・年代別にみると、「男女共同参画についての講演会、シンポジウム、フォーラム等の開催」と回答した割合は男性 60 歳代 (40.3%) が最も高く、次いで女性 60 歳代 (35.1%)、女性 15～19 歳 (34.8%) の順となっている。また、「男女共同参画についての幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」と回答した割合は男性 60 歳代 (38.9%) が最も高く、次いで女性 60 歳代 (35.1%)、男性 50 歳代 (32.6%) の順となっている。

問 32 男女の人権が尊重され、男女が対等なパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現していくために、あなたは広島市に対してどのようなことを望みますか。(〇印はいくつでも)



※「男女共同参画に関する情報提供や総合相談、女性の就業支援などを総合的に行う拠点施設の充実」の選択肢は、令和元年度調査以前では「情報提供や総合相談、女性の就業支援などを総合的に行う拠点施設の充実」となっている

男女共同参画社会の実現のために広島市に期待することについて、「子育てや介護・看護に関するサービスの充実（48.5%）」との回答が最も多く、次いで「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実（44.8%）」、「企業・職場におけるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の支援を進める（43.7%）」の順となっている。

【男女共同参画社会の実現のために広島市に期待すること（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	子育てや介護・看護に関するサービスの充実	学習の充実	学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する	生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	企業・職場におけるワーク・ライフ・バランスの推進	職場における男女の平等な取扱い	男性の家事、育児、介護などへの参加を促進する	条例や制度の面で見直しを行う	管理職への女性の登用促進	女性の人材育成の推進	職業教育・訓練の充実	女性に対する就業支援
全体		1145	48.5	44.8	43.7	34.9	32.0	26.6	24.5	21.9	21.8			
性別	女性	640	54.1	47.7	46.3	36.7	35.5	24.7	24.8	23.3	23.6			
	男性	434	42.4	40.3	41.7	33.6	27.6	29.7	25.1	20.7	21.0			
女性	15～19歳	23	52.2	39.1	52.2	47.8	47.8	30.4	26.1	30.4	34.8			
	20歳代	46	67.4	52.2	76.1	52.2	43.5	39.1	28.3	15.2	23.9			
	30歳代	76	57.9	40.8	59.2	32.9	40.8	31.6	27.6	21.1	18.4			
	40歳代	117	44.4	47.9	48.7	33.3	39.3	27.4	35.0	32.5	29.9			
	50歳代	128	58.6	44.5	50.0	41.4	37.5	24.2	18.8	25.0	25.8			
	60歳代	97	58.8	57.7	47.4	39.2	32.0	22.7	21.6	26.8	25.8			
	70歳以上	149	49.0	46.3	24.2	28.9	25.5	14.8	21.5	14.8	16.1			
男性	15～19歳	16	43.8	37.5	43.8	31.3	37.5	31.3	25.0	12.5	18.8			
	20歳代	23	39.1	39.1	60.9	34.8	34.8	30.4	26.1	26.1	13.0			
	30歳代	48	47.9	41.7	54.2	33.3	45.8	33.3	25.0	27.1	27.1			
	40歳代	62	46.8	37.1	38.7	27.4	33.9	38.7	27.4	19.4	33.9			
	50歳代	89	46.1	39.3	48.3	33.7	22.5	31.5	25.8	22.5	22.5			
	60歳代	72	52.8	51.4	47.2	43.1	30.6	30.6	27.8	31.9	26.4			
	70歳以上	120	30.0	36.7	25.8	30.0	16.7	21.7	22.5	11.7	9.2			

男女共同参画社会の実現のために広島市に期待することについて、性別にみると、「子育てや介護・看護に関するサービスの充実」で最も男女差が大きく、女性（54.1%）が男性（42.4%）を11.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「子育てや介護・看護に関するサービスの充実」と回答した割合は女性20歳代（67.4%）が最も高く、次いで女性60歳代（58.8%）、女性50歳代（58.6%）の順となっている。また、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」との回答は女性60歳代（57.7%）が最も高く、次いで女性20歳代（52.2%）、男性60歳代（51.4%）の順となっている。

III 自由意見

Ⅲ 自由意見

男女共同参画についての意見や要望について、125 人から以下の分類で 155 件の回答があった。主な意見は次のとおりである。

1 男女共同参画について

(1) 男女共同参画の現状について感じること

- 私の直接関わりのある職場や地域、学校などは、男性も女性も平等であると感じていますが、社会全体に目を向けると、まだまだ男性優位だなと感じます。子育てに関しては、まだ女性の負担は大きいです。出産があるからでしょうか？（女性 35～39 歳）
- 今の子ども達は、ほとんどの世帯が共働きの両親あるいはシングルの親の元で育っているの
で、これから近い未来で変化していくことを期待しています。（女性 45～49 歳）
- 年配の人で、いまだに昔の考え方である男尊女卑を持っていると中々その考えを覆しにくい
と思う。30、40 歳代の人達は男女平等は普通の事だと思っていると感じるので、もう 10 年
経てばかなり改善してくると思う。都市部と田舎でも違うと思うが、Uターンした子どもだ
った人達が自分の子どもに昔の考えを押しつけるのも減ってくるはず。このままで良いかと
思う。（男性 35～39 歳）

(2) 性別による差別と区別について

- 男性と女性では、身体的能力が異なり、得意とする分野も異なることから、体力的に女性に
は出来ないこともあり、全てを平等には出来ないと考えています。さらには、平等をうたう
のであれば、女性も今までには負担していなかった部分を担う必要があるため、女性がど
この部分の改革を望んでいるのかを明確にして誰もが認識出来る環境になれば、逆に男性側
は不公平を感じてしまうと思います。（女性 40～44 歳）
- 「男女平等」は身体的問題もありむずかしい。男女、個人のそれぞれの得意を生かせられる
社会になればうれしい。まずは、男性の意識改革が必要だと思う。（女性 55～59 歳）
- 男女平等は素晴らしい考え方だと思う。ただ社会が述べる男女平等は男性が行うべき仕事を
女性にもさせる。もしくは、女性が行うべき仕事を男性にも行わせるというもので、そのよ
うなことをさせてもお互いに苦しいだけだと思う。（男性 30～34 歳）

(3) 性別にとらわれない考え方について

- 男女問わず、個人の能力・希望にそった社会参加ができる世界を目指して活動をお願いした
い。（女性 50～54 歳）
- 炊事、洗濯、掃除、子育て等は、生きていく上で必ず必要な生活力であるので、男女問わず、
できることが望ましい。ただ、得意、不得意もあろうから、一緒に生活していく上で、当人
同士の話し合いで決めたら良い。（女性 65～69 歳）
- 男性は導く者、女性は受ける者という古来の考え方を皆改めるべき。有能な者は性別問わず、
より採用されるべし。（男性 50～54 歳）

2 教育・学習・意識改革について

(1) 若い世代への教育について

- 夫は中学校以降家庭科を習っていません。自分で習得することもできると思いますが、まず
は学校教育から見直すべきなのではと考えます。（女性 35～39 歳）

- 文化・言語の中に巧妙に仕組まれている男性優位の現状では、小手先の制度改革では改善は難しい。女性が自己肯定感を持ち、はっきりと意見を言えるようにする教育こそが社会を変えられる。大人ではなく、こどもの教育から始めるべきである。(女性 70～74 歳)
- 日本には長い歴史が有り、一長一短に改善出来ない。家庭、育児、会社、地域、ボランティア、介護・・・こどもの小学校からの教育の時間をもう少し取り、男女、大人、こどもの社会の関わりを教育していただきたい。(男性 70～74 歳)

(2) 大人・企業への教育・啓発^{けいはつ}について

- 男性・女性共に働いている方が多いと思いますが、古い考え方の人も多く、働きにくく、子育てしにくい環境です。働く女性が尊重され、キャリアアップを求めているにも拘らず、こどもの体調不良の際は女性が仕事を休むことがほとんどです。夫は仕事を休もうと申請してくれますが「こどもは女性が看るもの」と嫌味を言われます。私は夜勤もありますが、夜勤前も夫は定時で帰宅することは許されず、寝かしつけまでワンオペのことがしばしばです。仮眠することなく仕事に行きます。古い考えの方の当たり前を実際にこなすことはかなり負担です。労働と子育てを両立させるためのサポートではなく、古い考えの方の理解を得るための啓発^{けいはつ}をお願いします。(女性 30～34 歳)
- 若い世代よりも、年配者の方が無意識で思考^{かたよ}の偏りが大きい。学校よりも職場に届く形での周知をすすめていただきたいです。(女性 50～54 歳)
- 家庭内の女性と男性の役割決めが悪気なく決定されるのは、今までの考え方が改善されていない為だと思います。8時間以上仕事をした上で、子育て・家事をしなければいけない女性はまだまだ多くおられると思います。昔ながらの考え方を根本的に変えらえる事を望んでいます。(女性 60～64 歳)

3 職場における男女共同参画^{かつやく}について

(1) 女性の活躍^{かつやく}推進について

- 管理職は男性という概念の考え直し、それによる賃金面の格差など、働く上での男女の格差があると思っています。(女性 20～24 歳)
- 女性は一度退職してしまうと、なかなか再スタートできないので、そういった女性が再スタートしやすい環境づくりに期待しています。(女性 30～34 歳)
- 育児中の妻がパートできる先が少ないので、改善できればと思っています。(幼児のこどもがいると、採用面接で断られる話をママ友からよく聞く)(男性 40～44 歳)

(2) 職場における現状について

- 昭和以前の凝り固まった男女差別の考えは根強く、職場では特に、男尊女卑の空気が残っています。大企業やほんの一部の企業では平等と思える環境かもしれませんが、実際には進んでいないのが現状です。(女性 45～49 歳)
- 女性が働きやすい環境は大事だが、小さな企業や医療機関^{いりょう}では時短等難しい状態がある。職種による制度の見直しをするべきで、現状全て同一にはできない。それぞれの職種の聞き取りをすべきだと思う。(男性 50～54 歳)

(3) 男女関わり^{たいぐう}ない待遇改善について

- 男女共同参画^{かつやく}については必要なことだと思いますが、昔のように男性一人の労働でも家族が生活できていた時代くらいの給与などの見直しも必要ではないかと思います。両方が働くために、家事やこどもへの時間がとれないのだとしたら、働くのは男性でも女性でも構わないので夫婦間で話し合えば良いので、こどもが小さい間や介護が必要な間だけでも片方の収入だけで生活できるくらい、収入が安定すれば良いなと思います。でなければ少子化も止まらないかと・・・(余裕がないため)。(女性 40～44 歳)

4 仕事と家庭の両立について

(1) 休暇や制度を利用しやすい環境を

- 男性の育休の取得をもっと当たり前にして欲しいです。(女性 20～24 歳)
- 女性だけではなく、男性も育休(数週間とかではなく 1 年近く)を取りやすい社会づくり。お子さんの体調不良等で早退せざるを得なくなったとき、帰りやすく気遣う環境づくり。
(女性 20～24 歳)

(2) 保育、介護サービスの充実を

- 高齢者や病人の介護、看護等で退職した場合の再雇用制度の普及が必要。子育ての場合は親等に依頼できるが、高齢者の介護等については家族に依頼できる人がいない場合が多い。
(女性 80 歳以上)
- 核家族化が進み、男女共同参画社会の成熟は喫緊の課題と思います。特に子育てや介護については、社会的サポートが必要不可欠です。民間の保育や介護施設でこうしたサポートをしてくださる方々の処遇を大幅に改善して、サポート体制が充実されることを切に願います。
(男性 55～59 歳)
- 資格やスキルを持ち、社会で活躍したいと思われる女性は多くおられると思います。子育て支援などの名目で、金銭を配布するのではなく、保育施設や介護施設の充実を図り、安心して家庭から社会へ活動できる場を作ることが大切だと思います。医療の看護職を見ればわかるように、子育てのために病棟勤務ができないなど、せつかくの技術を終わらせて家庭に入られる方も多くおられるようです。(男性 70～74 歳)

(3) 家事、育児について

- 男性の家事・育児の関わり次第で、子育て中の女性の負担は大きく変わると思う。
(女性 35～39 歳)

(4) その他、ワーク・ライフ・バランスに必要なことについて

- 家事と仕事の両立について悩むことそのものについては男女は関係ないと思っています。働き方改革ではいつも家に帰るかどうかクローズアップされがちですが、私が本当にほしいのは、具体的な指示であったり、上司だけでなくサービスを受ける客側にも言えることとして失敗や遅れ、ほどよい精度を許す寛容さです。許し合うことができれば、ワーク・ライフ・バランスは自分でもっと実現できるのではないかと考えます。(男性 40～44 歳)

5 地域活動における男女共同参画について

- 全てを「ボランティア」にするのではなく、「有給」もありと思う。生活費あつてのボランティアではないかな。(女性 65～69 歳)
- これから定年退職を迎える人口は、多いと思う。その中で、定年前後に向かって、セカンドキャリア、セカンドライフを描けている男女は良いと思うが何をしたいかわからない、どう生きればいいのかかわからないシニア予備軍も多いと思う。こうした人達に、男女問わず何か、自分らしく生きるためのヒントの提供があればいいと思う。そんなヒントの提供が 40 歳代以下の男女にも広がっていけばいいと思う。(男性 60～64 歳)

6 性の多様性について

- 平和都市として男女だけでなく多様性を認める社会づくりを教育の現場で徹底してほしい。世代間での感覚ギャップを埋める活動をして欲しい。住みたい都市広島へ向けて、協力するディスカッションの場を作って欲しい。(女性 40～44 歳)

7 女性の健康について

- 不妊の女性に対しての接し方など、LGBTと同じくらい必要な項目になってくると思いますので、同様に検討いただけると幸いです。（女性 30～34 歳）

8 男女共同参画に関する行政への意見・要望について

（1）「広島市男女共同参画推進センター（「ゆいぽーと）」について

- 今回のアンケートで、このようなセンターがあることを知りましたので、もっとアピール活動を広めていただけたらと思いました。（女性 50～54 歳）
- 気楽に立ち寄るには、交通の便利があまり良くない。街の中心地や、広島駅の近くなどにあれば利用しやすい。（女性 65～69 歳）

（2）その他、取組等について

- 逆に権利主張ばかり行い、周りが疲弊してしまうこともありますので、広報や教育の場においては、権利主張ばかりに重きを置くのはいかがでしょうかと考えています。女性はセクハラやDVなどを受けやすい立場にあるため、学校教育や職場教育が大切だと思います。また、困っている人のための相談機関や逃げ場等の充実が必要だと感じています。（女性 40～44 歳）

9 アンケートに対する意見・要望について

（1）オンライン回答について

- アンケートが長く、回答に時間がかかる。また選択によって回答の必要がないのであれば、分岐を作るなどして、必要最低限の回答ができるようにする必要があると考える。アンケートが時間がかかるものであれば、無回答の割合もあたりまえに増えてしまう。次回以降、改善していただければ幸いです。（男性 30～34 歳）
- インターネットで回答するには、質問量に比べて制限時間 60 分は短すぎる。真剣な回答を期待するのであれば、制限時間をなくし、一時保存機能を設けるべきである。
（男性 70～74 歳）

（2）アンケートの内容について

- 今回のアンケートは 15 歳からですが、年齢別のアンケートの方が良いと思います。
（女性 80 歳以上）
- 次回アンケートは問 23 に「ジェンダーハラスメント」を追加して欲しいです。
（女性 無回答）

（3）アンケート結果の活用・公表について

- このアンケートを行うからには、ぜひ強い意志をもって社会を改革していただきたいです。アンケートで終わりにならないようお願いします！（女性 35～39 歳）

10 その他社会制度一般への意見などについて

- 施設や法的なことも大切だが、そもそも生活にゆとりと余裕が持てることが必要と感じる。このアンケートの前に行政として、国として、すべきことがあるのではないかと思います。
（男性 60～64 歳）

参 考 資 料

広島市 男女共同参画社会の実現に向けたアンケート調査

ご協力をお願い

日頃から市政について、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では、平成13年9月に制定した「広島市男女共同参画推進条例」に基づき、男女共同参画社会の実現を目指して様々な取組を実施しています。男女共同参画社会とは、男女の人権が尊重され、対等なパートナーシップに基づき、一人一人が多様な個性や能力を十分に発揮できる社会です。

このたび、市民の皆様の男女共同参画に関する意識や実態などをお聞きし、今後の施策の実施に当たっての参考とするため、標記アンケート調査を実施することにしました。

調査は、広島市にお住まいの15歳以上の方の中から無作為に3,500人を抽出させていただき、ご回答をお願いするものです。調査は無記名でお答えいただき、回答の結果は統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、この調査票に記載された事項については、調査以外の目的には使用いたしません。

なお、調査結果については、まとまり次第、本市ホームページで公表する予定です。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではありますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和7年(2025年)1月

広島市長 松 井 一 實

回答方法

次のどちらか一つの方法で回答してください。(詳細は3ページをご参考ください。)

- 調査票(この冊子)による回答
- インターネットによる回答

回答にあたってのお願い

- ・ 調査票には、あて名のご本人がお答えください。もし、ご本人に記入いただけない場合は、身近な方が、ご本人の意見を聞きながら記入していただきますようお願いいたします。

なお、この調査は、回答者を無作為で抽出しているため、あて名のご本人の様子がわかりません。

もし、ご病気などでお答えいただけない場合は、回答の必要はございません。

- ・ 質問によって、答えにくいものについては、お答えいただかなくても構いません。
- ・ 回答は、令和7年(2025年)1月1日を基準としてご記入ください。

- ・ 令和7年(2025年)1月27日(月) までに回答してください。

【お問合せ先】広島市 市民局 人権啓発部 男女共同参画課

電話 082-504-2108

回答方法

次のどちらか一つの方法で回答してください。

調査票（この冊子）による回答

- ・ 問いの指示に従って調査票に直接ご記入ください。
- ・ ご記入は、鉛筆、ボールペン、万年筆のいずれでも結構です。
- ・ 記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、郵便ポストへご投函ください。
- ・ 調査票で回答された場合、インターネットでの回答は必要ありません。

インターネットによる回答

1 スマートフォン、タブレット又はパソコンでアクセスしてください。

(1) 広島市公式ホームページで検索をクリック



(2) ページ番号を入力してアクセス

QRコードからアクセス



2 表示されたページで、「インターネット回答入口」をクリックしてください。

インターネット回答入口

3 案内に従って回答を入力してください。

- ※ 入力時間の制限を設けているため、60分以内にすべての回答を完了してください。
- ※ インターネット回答は1回限りです。回答を送信されるとその後の修正はできません。
- ※ インターネット回答された場合、この調査票への記入及び返送は必要ありません。

あなたご自身（ご回答者）のことについておたずねします

※該当する番号に○をしてください。

F1. あなたの性別	1 男性	2 女性	3 その他
F2. あなたの年齢	1 15～19 歳 2 20～24 歳 3 25～29 歳 4 30～34 歳	5 35～39 歳 6 40～44 歳 7 45～49 歳 8 50～54 歳	9 55～59 歳 10 60～64 歳 11 65～69 歳 12 70～74 歳 13 75～79 歳 14 80 歳以上
F3. 現在お住まいの区	1 中区 2 東区	3 南区 4 西区	5 安佐南区 6 安佐北区 7 安芸区 8 佐伯区
F4. あなたのご職業	1 農林水産業（農林水産業の自営者と家族従事者） 2 商工・サービス業、工業（商工・サービス業、工業の自営者と家族従事者） 3 自由業（開業医・弁護士・芸術家など） 4 専門技術職（教員、建築技術者、病院勤務の医師・看護師、保育士など） 5 管理職（会社・団体の役員、課長級以上の人など） 6 事務職（会社・団体の一般事務に携わる人など） 7 販売・サービス職（店員、外交員、ホームヘルパー、理・美容師など） 8 技能労務職（工員、建設作業員、運転手、ガードマンなど） 9 派遣・契約・臨時・パート・アルバイト 10 内職・在宅就業 11 専業主婦・専業主夫 12 学生 13 無職 14 その他（ ）		
F5. 配偶者（婚姻届を出していない事実婚及び同性婚を含む。）の有無	1 配偶者がいる→F5-2へ 2 配偶者はいない→F6へ		
F5-2. 就労状況	あなたと配偶者は 1 両者ともに働いている 2 配偶者のみ働いている 3 両者ともに働いていない		
F6. こどもの有無（同居、別居を問わない。）	1 こどもがいる→F6-2へ 2 こどもはいない→F7へ		
F6-2. 一番下のこどもの状況	1 乳児（1歳未満） 2 幼児（1歳以上） 3 小学生 4 中学生 5 高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む） 6 学校は卒業した（中退を含む。）		
F7. 現住所で同居しているご家族の構成	1 一人暮らし 2 夫婦のみ 3 あなた（又は夫婦）と親 4 あなた（又は夫婦）と子 5 あなたを含めて三世代 6 その他（ ）		
F8. 要介護者の有無（同居、別居を問わない。）	1 介護を必要とするご家族がいる 2 介護を必要とするご家族はいない		

男女平等意識についておたずねします

すべての方におたずねします。

問1 あなたは次のような場で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧の各々についてお答えください。(○印は1つずつ)

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等になっている	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない あてはまらない
① あなたの家庭では	1	2	3	4	5	6
② あなたの（あなたの家族や 友人などの）職場では	1	2	3	4	5	6
③ あなたの町内会やボラン ティアなどの地域活動では	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたり などでは	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体では	1	2	3	4	5	6

仕事と家庭等の両立についておたずねします

すべての方におたずねします。

問2 仕事との関係において、家庭生活又は町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。①女性について、および②男性について、それぞれお答えください。(○印は1つずつ)

	家庭生活又は地域活動よりも、仕事 に専念する	家庭生活又は地域活動にも携わる が、あくまで仕事を優先させる	家庭生活又は地域活動と仕事を同じ ように両立させる	仕事にも携わるが、家庭生活又は地 域活動を優先させる	仕事よりも、家庭生活又は地域活動 に専念する	わからない
①女性について	1	2	3	4	5	6
②男性について	1	2	3	4	5	6

【現在仕事をしている方におたずねします。】

問2-2 それでは、ご自身の現在の状況についてはいかがですか。(○印は1つ)

- 1 家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念している
- 2 家庭生活又は地域活動にも携^{たずさ}わるが、あくまで仕事を優先させている
- 3 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させている
- 4 仕事にも携^{たずさ}わるが、家庭生活又は地域活動を優先させている
- 5 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念している
- 6 わからない

すべての方におたずねします。

問3 男性の家事・子育て等や地域活動への参加は女性と比べて少ないのが現状です。今後、男性が家事、子育て、介護・看護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印はいくつでも)

- 1 男性が家事などを行うことへの男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などを行うことへの女性の方の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護・看護、地域活動についても、その評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度^{きゅうか}の普及により仕事以外の時間を多くもてるようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護・看護、地域活動に関心^{かんしん}を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により男性の家事や子育て、介護・看護等の技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護・看護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 家庭生活や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 その他（具体的に： _____ ）
- 12 特に必要と思うことはない

はいぐうしゃ
【配偶者又はパートナーと同居している方におたずねします。】

問4 あなたの家庭において、収入を得ることや家事、子育て、介護・看護、地域活動への参加など、どちらが分担していますか。（○印は1つつ）

	夫が中心	夫がどちらかといえば	どちらもほぼ同等	妻がどちらかといえば	妻が中心	それ以外の家族	していない
① 収入を得ること	1	2	3	4	5	6	7
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	7
③ 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
④ 食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 子育て	1	2	3	4	5	6	7
⑥ 学校などの行事への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 介護・看護	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 日常の買い物	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 町内会など地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7

すべての方におたずねします。

問5 1日のうちであなたが、仕事や家事全般（家事、育児、介護を含む）に要する時間は、平日（働いている人は勤務日）どのくらいですか。

① 仕事 （○印は1つつ）

- 1 なし
- 2 3時間未満
- 3 3時間以上5時間未満
- 4 5時間以上7時間未満
- 5 7時間以上9時間未満
- 6 9時間以上11時間未満
- 7 11時間以上

② 家事全般（育児、介護を含む） （○印は1つつ）

- 1 なし
- 2 30分未満
- 3 30分以上1時間未満
- 4 1時間以上2時間未満
- 5 2時間以上3時間未満
- 6 3時間以上4時間未満
- 7 4時間以上5時間未満
- 8 5時間以上

問6 あなたは、次にあげる制度をご存知ですか。また利用したことがありますか。(○印は1つずつ)

	し知 たつ こと が あ る 利 用	い用 知 し た こ と は な 利	知 ら な か っ た
①「育児休業制度」(労働者が原則として1歳未満のこどもを養育するために休業できる制度)	1	2	3
②「介護休業制度」(労働者が家族を介護するために休業できる制度)	1	2	3
③「子の看護 ^{きやうか} 休暇」(小学校就学前のこどもを養育する労働者が請求した場合、子の看護のため年5日(2人以上であれば年10日)までの ^{きやうか} 休暇を取得できる制度)	1	2	3
④「介護 ^{きやうか} 休暇」(労働者が家族を介護や世話をするための ^{きやうか} 休暇を取得できる制度)	1	2	3

問7 問6の制度は、男女とも利用できるようになっていますが、男性の利用者は少ないのが現状です。その理由は何だと思いますか。(○印はいくつでも)

1 子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから 2 男性が子育てや介護・看護に参加することへの周囲の偏見があるから 3 職場での理解が得られないから 4 将来のキャリアアップに影響するから 5 制度利用後の待遇 ^{たいぐうめん} 面が心配だから 6 仕事が忙しく、利用する暇 ^{ひま} がないから 7 収入減になるから 8 子育てや介護・看護に参加することへの男性自身の心理的抵抗があるから 9 同僚 ^{どうりょう} に迷惑 ^{めいわく} をかけるから 10 その他(具体的に： 11 わからない	)
---	---

問8 男女が共に、仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印はいくつでも)

1 労働時間の短縮 2 短時間勤務、在宅勤務やフレックスタイム(時差勤務)の普及 3 家族や配偶 ^{はいぐうしよ} 者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力 4 昇進 ^{しやうしん} 、昇給 ^{しやうききゆう} 、仕事内容などの職場での男女の均等な機会と待遇 ^{たいぐう} の確保について企業への周知徹底 ^{しゅうちてい} 5 保育施設やサービス(一時預かり、病児保育など)の充実 6 介護施設やサービス(デイサービス、配食サービスなど)の充実 7 子育てのための休暇・休業を利用しやすい職場環境 8 介護・看護のための ^{きやうか} 休暇・休業を利用しやすい職場環境 9 育児・介護休業の利用者が、不利な扱い ^{あつか} を受けないようにすること 10 育児・介護休業中の給付金の充実 11 結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及 12 職業訓練の機会の増大 13 転勤制度の見直し 14 その他(具体的に： 15 わからない	)
---	---

就労についておたずねします

すべての方におたずねします。

問9 現在の生活の経済的状況をどう感じていますか。(○印は1つ)

- | | |
|------------|---------|
| 1 大変苦しい | → 問9-2へ |
| 2 やや苦しい | |
| 3 普通 | |
| 4 ややゆとりがある | |
| 5 大変ゆとりがある | |
| 6 わからない | |

【問9で1又は2と回答された方におたずねします。】

問9-2 その理由は何ですか。(○印はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 仕事を探しているが見つからない |
| 2 自分又は配偶者(又はパートナー)が仕事を失った |
| 3 配偶者(又はパートナー)や世帯主から生活費を渡してもらえない |
| 4 子育てのため仕事ができない、又は労働時間に制約がある |
| 5 介護・看護のため仕事ができない、又は労働時間に制約がある |
| 6 子育て、介護・看護以外の家事等のため仕事ができない、又は労働時間に制約がある |
| 7 税制・社会保障制度(税・健康保険の扶養など)の仕組のため仕事ができない又は仕事に限定される、労働時間に制約がある |
| 8 自分の病気・けが等健康上の理由により、仕事ができない、又は労働時間に制約がある |
| 9 収入が不安定である |
| 10 収入が常に少なく、日常生活費に十分でない |
| 11 住宅ローンがある |
| 12 教育費がかかる |
| 13 医療や介護・看護の費用がかかる |
| 14 その他(具体的に：) |

【現在仕事をしている方におたずねします。】

問10 あなたは、仕事と仕事以外の生活の両立について、不安や悩みがありますか。

(○印はいくつでも)

- | |
|----------------------------|
| 1 自分の自由な時間がとれない |
| 2 子育てのための十分な時間がとれない |
| 3 介護・看護のための十分な時間がとれない |
| 4 家族との団らんのための十分な時間がとれない |
| 5 地域活動のための十分な時間がとれない |
| 6 仕事のための十分な時間がとれない |
| 7 自営等のため仕事と家庭生活の境目がはっきりしない |
| 8 休日が少ない、又は休暇制度があってもとれない |
| 9 健康管理が難しい |
| 10 相談者や協力者が、自分の周囲にいない |
| 11 その他(具体的に：) |
| 12 特にない |

すべての方におたずねします。

問 11 あなたはこれまでに、仕事をやめたことがありますか。(○印は1つ)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 やめたことがある→ | 問 11-2・問 11-3 へ |
| 2 やめたことはない | |
| 3 仕事をしたことがない | |

【問 11 で 1 と回答された方におたずねします。】

問 11-2 仕事をやめた理由をお聞かせください。(○印はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 経済的に働く必要がなかったため | 10 職場内での人間関係やハラスメントのため |
| 2 家事や子育てに専念したかったため | 11 配偶者の転勤のため |
| 3 家事や子育てとの両立が困難だったため | 12 定年退職 |
| 4 高齢者や病人の介護・看護のため | 13 家族が望まなかったため |
| 5 健康や体力に自信がなかったため | 14 仕事を持たない方が自由だと思ったため |
| 6 希望どおりの仕事ではなかったため | 15 転職のため |
| 7 希望どおりの労働条件ではなかったため | 16 その他 |
| 8 勤め先の都合 | (具体的に：) |
| 9 職場内に結婚や出産により退職する慣行があったため | 17 特に理由はない |

問 11-3 仕事をやめた後の再就職について(仕事をやめた経験が複数回ある場合は最初の時) お聞かせください。(○印は1つ)

- | |
|---|
| 1 以前は正規雇用労働者で、再就職していない |
| 2 以前は非正規雇用労働者(パートタイム、アルバイト、派遣社員など)で、再就職していない |
| 3 以前は正規雇用労働者で、正規雇用労働者として再就職した |
| 4 以前は正規雇用労働者だが、非正規雇用労働者(パートタイム、アルバイト、派遣社員など)として再就職した |
| 5 以前は非正規雇用労働者(パートタイム、アルバイト、派遣社員など)で、正規雇用労働者として再就職した |
| 6 以前は非正規雇用労働者(パートタイム、アルバイト、派遣社員など)で、非正規雇用労働者(パートタイム、アルバイト、派遣社員など)として再就職した |

すべての方におたずねします。

問 12 あなたは、一般的に女性が働くことについてどのように思いますか。ご自身の考えに最も近いものをお答えください。(○印は1つ)

- | |
|---------------------------------|
| 1 結婚するまでは働く方がよい |
| 2 こどもができるまでは働く方がよい |
| 3 こどもができて、ずっと働き続ける方がよい |
| 4 こどもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい |
| 5 女性は働かない方がよい |
| 6 その他(具体的に：) |

問 13 あなたは、働く意欲のある女性が働き続けたり、再就職したりするために、どのようなことが必要だと思いますか。(○印はいくつでも)

- 1 労働時間の短縮
- 2 短時間勤務、フレックスタイム（時差出勤）の普及
- 3 テレワークなど時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及
- 4 家族や配偶者の理解や同意
- 5 家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力
- 6 職場での男女の均等な機会と待遇の確保
- 7 保育施設やサービス（一時預かり、病児保育など）の充実
- 8 介護施設やサービス（デイサービス、配食サービスなど）の充実
- 9 子育てのための休暇・休業を取りやすい環境整備
- 10 介護・看護のための休暇・休業を取りやすい環境整備
- 11 男性の意識（「男は仕事、女は家庭」など）を変えること
- 12 女性の意識（「男は仕事、女は家庭」など）を変えること
- 13 結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及
- 14 能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施
- 15 仕事や職場環境についての相談窓口の充実
- 16 その他（具体的に：)
- 17 わからない

【現在仕事をしている方におたずねします。】

問 14 あなたの職場では女性活躍の取組は進んでいると思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 進んでいる | 4 あまり進んでいない |
| 2 どちらかといえば進んでいる | 5 進んでいない |
| 3 どちらともいえない | 6 わからない |

問 15 あなたは管理職（課長相当職以上）への昇格を希望していますか。(○印は1つ)

- 1 希望する
- 2 希望しない → 問 15-2 へ
- 3 現在管理職である
- 4 わからない

【問 15 で 2 と回答された方におたずねします。】

問 15-2 その理由をお答えください。(○印は1つ)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 仕事と家庭の両立が困難だから | 4 自分の能力に自信がないから |
| 2 趣味などの自分の時間を大切にしたいから | 5 現在の職場で長く働き続けるつもりがないから |
| 3 管理職の仕事に魅力を感じないから | 6 その他（具体的に：) |

地域での男女共同参画についておたずねします

すべての方におたずねします。

問 16 町内会、ボランティアなどの地域活動での男女共同参画についてどのように思いますか。

(○印はいくつでも)

- | | | | |
|---|------------------------|----|--------------------|
| 1 | 男性の参加が少ない | 7 | 団体の会長には男性が就き、 |
| 2 | 女性の参加が少ない | | 女性は補助的役職に就く慣行がある |
| 3 | 男性が女性を対等なパートナーとして見ていない | 8 | 活動の準備や後片付けなどは女性が行う |
| 4 | 女性が表に出るべきでないという雰囲気がある | | 慣行がある |
| 5 | 女性には発言の機会が与えられなかったり、 | 9 | 特に問題を感じない |
| | 女性の意見が聞き入れられたりしない | 10 | その他（具体的に：) |
| 6 | 女性が役職に就きたがらない | 11 | わからない |

問 17 地域活動において、町内会長や役員など方針を決定する立場の女性が少ない現状があります。

このような立場の女性を増やすために具体的な施策としてどのようなことが効果的だと思いますか。(○印はいくつでも)

- | | | | |
|---|----------------------|----|--------------------|
| 1 | 女性のリーダー研修 | 7 | 男女共同参画を推進した団体の取組や |
| 2 | 男性の意識啓発のための研修 | | 地域で活躍している女性についての広報 |
| 3 | 女性の意識啓発のための研修 | 8 | 男性優位の組織運営の改善 |
| 4 | 地域で開催する男女共同参画についての研修 | 9 | その他(具体的に：) |
| 5 | 役職に占める女性の割合の目標値の設定 | 10 | わからない |
| 6 | 女性の活動を支援する組織や連携づくり | | |

問 18 能登半島地震などの災害対応では、授乳や着替えをする場所がなかったり、食事準備などを当然のように女性に割り振ったりするなど、女性への配慮が不足した避難所が見られました。あなたは、男女共同参画の視点からの災害対応として、日頃から、どのようなことを行っていく必要があると思いますか。

(○印はいくつでも)

- | | | |
|---|--------------------------------|---|
| 1 | 防災に関する会議の女性委員の割合を増やす | |
| 2 | 男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施 | |
| 3 | 女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルや手引などの作成 | |
| 4 | 女性が多く参加できる防災訓練の実施 | |
| 5 | 男女共同参画の視点で作成した防災啓発用冊子の配布 | |
| 6 | 女性の地域防災リーダー※の養成 | |
| 7 | その他（具体的に： | ） |
| 8 | わからない | |

※女性の地域防災リーダーとは：

広島市では「防災士養成講座」を受講後、試験に合格し、地域で防災活動を率先して行う方を、地域防災リーダーとして養成しています。防災活動において女性の役割は非常に重要であることから、女性に対しても積極的な受講を呼びかけています。

問 19 あなたが災害時の避難所運営について必要だと思うことは何ですか。(○印はいくつでも)

- 1 避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加する
- 2 女性は炊き出し、男性は力仕事といった特定の活動が特定の性別に偏る性別による役割分担意識の解消
- 3 女性および男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置
- 4 多目的トイレや女性専用スペース、個室の更衣室の設置など、配慮が必要な避難者への対応
- 5 避難所内の定期的な巡回による声掛けや見守りによる安全・安心の確保
- 6 生理用品などを安心して受け取れる配布場所や方法の検討
- 7 災害時だけでなく、平常時から啓発活動
- 8 その他 ()
- 9 特にない
- 10 わからない

配偶者などからの暴力の防止・被害者支援についておたずねします

すべての方におたずねします。

問 20 あなたはこの5年間で配偶者や交際相手に対して次のような行為をしたことがありますか。

※ 問 20～22 の設問にある「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含みます。

(○印は1つ)

1 ある 2 ない

「ある」場合は設問番号1～7に○をし、それぞれ誰に対しての行為か右の「1」「2」に○をしてください。(○印はいくつでも)

	配偶者 に対して	交際相手 に対して
① 相手に殴る、蹴る、叩くなどの身体的暴力をふるったことがある	1	2
② 相手の前で、物を投げる、破壊する、拳を振り上げて威嚇するなどの間接的暴力を頻繁にふるったことがある	1	2
③ 相手を大声で怒鳴ったり、バカにしたことがある	1	2
④ 思い通りにならない場合や意に沿わない場合にあからさまに不機嫌になったり、相手を無視したことがある	1	2
⑤ 相手のメール・LINE や行動をチェックしたり、交友関係を制限したことがある	1	2
⑥ 相手に必要な生活費を渡さなかったり、無理やりに負担させたり、仕事に就かせなかったことがある	1	2
⑦ 相手が同意していないのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しなかったことがある	1	2

問 21 あなたはこの5年間で配偶者や交際相手からの暴力などを経験したことはありますか。

(○印は1つ)

1 ある	2 ない
------	------

「ある」場合は設問番号1～7に○をし、それぞれ誰からの行為か右の「1」「2」に○をしてください。(○印はいくつでも)

	配偶者 から	交際相手 から
① 殴る、蹴る、叩くなどの身体的暴力を受けたことがある	1	2
② 自分の前で、物を投げる、破壊する、拳を振り上げて威嚇するなどの間接的暴力を受けたことがある	1	2
③ 大声で怒鳴られたり、バカにされたことがある	1	2
④ 思い通りにならない場合や意に沿わない場合に、相手があからさまに不機嫌になったり、無視されたことがある	1	2
⑤ メール・LINE や行動をチェックされたり、交友関係を制限されたことがある	1	2
⑥ 必要な生活費を渡されなかったり、無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがある	1	2
⑦ 同意していないのに性的な行為を強要されたり、避妊に協力されなかったことがある	1	2

【問 21 で暴力を経験したことが「1. ある」と回答された方におたずねします。】

問 21-2 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた暴力について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。(○印はいくつでも)

1 広島市配偶者暴力相談支援センター【082-504-2412】に相談した
2 広島市配偶者暴力相談支援センター 休日DV電話相談【082-252-5578】に相談した
3 広島県西部こども家庭センター（女性相談支援センター・配偶者暴力相談支援センター）【082-254-0391】に相談した
4 広島県西部こども家庭センター（女性相談支援センター・配偶者暴力相談支援センター）休日・夜間電話相談【082-254-0399】に相談した
5 警察【110 番又は警察安全相談電話「#9110」】に連絡・相談した
6 女性の人権ホットライン【0570-070-810】に相談した
7 広島市暴力被害相談センター【082-504-2710】に相談した
8 エソール広島相談事業【082-247-1120】に相談した
9 民間の機関（弁護士会、民間シェルターなど）に相談した
10 医師・カウンセラーに相談した
11 民生委員・児童委員に相談した
12 家族や親戚に相談した
13 友人・知人に相談した
14 その他（具体的に： _____）
15 どこ（だれ）にも相談しなかった → 問 21-3 へ

【問 21-2 で 15 と回答された方におたずねします。】

問 21-3 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○印はいくつでも）

- 1 どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
- 2 恥ずかしくて相談できなかったから
- 3 相談しても無駄だと思ったから
- 4 相談したことが相手に分かれると、仕返しにもっとひどい暴力を受けると思ったから
- 5 相手に「誰にも言うな」と脅されたから
- 6 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから
- 7 自分にも悪いところがあると思ったから
- 8 相手の行為は愛情表現だと思ったから
- 9 他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や地域などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 10 他人を巻き込みたくなかったから
- 11 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 12 世間体が悪いと思ったから
- 13 相談するほどのことではないと思ったから
- 14 そのことについて思い出したくなかったから
- 15 その他（具体的に：)

すべての方におたずねします。

問 22 配偶者や交際相手からの暴力、性暴力、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印はいくつでも）

- 1 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
- 2 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
- 3 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
- 4 メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
- 5 SNSを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
- 6 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
- 7 その他（具体的に：)
- 8 わからない

ハラスメントについておたずねします

すべての方におたずねします。

問 23 あなたは、以下のようなハラスメントを経験したり、見聞きしたことはありますか。

(○印はいくつでも)

	自分が受けた ことがある	自分の周りに 受けた人がいる	自分の周りに 受けた人はいない と思う	わからない
① セクシャル・ハラスメント (相手の意に反する性的な言動)	1	2	3	4
② マタニティ・ハラスメント (女性が妊娠・出産・育児休業等を理由とする 嫌がらせや不利益な取扱いを受けること)	1	2	3	4
③ パタニティ・ハラスメント (男性が育児休業等の制度を申出・取得したこと に関して嫌がらせを受けること)	1	2	3	4

生活状況に関しておたずねします

すべての方におたずねします。

問 24 あなたは現在、次のような家庭に関わる問題を抱えていますか。(○印はいくつでも)

1	自分と配偶者・パートナーとの不仲(DVを含む)
2	自分と家族(配偶者・パートナー以外)との不仲(DV、児童虐待、高齢者虐待を含む)
3	孤独・孤立、頼ることができる人がいない
4	安心できる居場所がない
5	家族の介護・看護や育児の負担が大きい
6	家族の問題を抱えている(不登校、非行、依存症、引きこもり、相続争いなど)
7	経済的困窮、不安が大きい
8	その他(具体的に:)
9	不安や問題はない

問 25 あなたは現在、次のような健康に関する不安や問題を抱えていますか。(○印はいくつでも)

1	身体の病気やケガでの不調がある
2	精神的な問題を抱えている
3	体力低下や自身に介護が必要になる不安が大きい
4	望まない又は予期せぬ妊娠・出産の不安がある
5	性被害を受けている、あるいは過去の性被害から回復できない
6	その他(具体的に:)
7	不安や問題はない

問 26 あなたは現在、次のような職場や学校、地域での人間関係に関わる問題を抱えていますか。

(○印はいくつでも)

1	職場や学校、地域での人間関係がうまく築けない	4	近隣トラブルがある
2	職場や学校、地域でいじめやハラスメントを受けている	5	その他(具体的に:)
3	仕事が續かない、安定した収入を得ることができない	6	不安や問題はない

性の多様性についておたずねします

すべての方におたずねします。

問 27 あなたは、L G B T（性的マイノリティ）という言葉を知っていますか。（○印は1つ）

- 1 言葉と内容を知っている
- 2 言葉を知っているが内容はわからない
- 3 知らない

問 28 あなたは、L G B T（性的マイノリティ）の方々への理解の促進や支援にはどのような取組が必要だと思いますか。（○印はいくつでも）

- 1 いじめや差別を禁止する法律や制度の見直し
- 2 職場や学校等における理解の促進
- 3 専門相談窓口の充実
- 4 行政機関による啓発や広報活動の推進
- 5 申請書などの性別欄を削除するなどの配慮
- 6 その他（)
- 7 必要だと思わない
- 8 わからない

女性の健康についておたずねします

すべての方におたずねします。

問 29 あなたは、女性特有の健康課題（生理、妊娠・出産、更年期など）に対してどのような取組が必要だと思いますか。（○印はいくつでも）

- 1 生理に関する理解の促進 [→問 29-2 へ](#)
- 2 生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、更年期症状等）に関する理解の促進
- 3 乳がんや子宮がん検診などの検診未受診者への受診の推奨
- 4 女性特有の健康課題について相談できる窓口を増やす
- 5 生理休暇などの休暇を取得しやすい職場環境の整備
- 6 その他（)
- 7 特にない
- 8 わからない

【問 29 で 1 と回答された方におたずねします。】

問 29-2 生理に関する理解の促進として、どのような取組が必要だと思いますか。

（○印はいくつでも）

- 1 生理に関する教育の充実
- 2 生理に関するセミナーの実施など社会全体の理解を深める取組
- 3 生理に関する行政機関からの広報の推進
- 4 事業主を対象とした働く場における生理に関する理解を深める取組
- 5 生理用品の無料配布
- 6 その他（)
- 7 わからない

すべての方におたずねします。

問 30 あなたは、男女共同参画の推進拠点施設である「広島市男女共同参画推進センター（「ゆいぽーと」）を利用したことがありますか。（○印は1つ）

- 1 施設を知っていて、利用したことがある
- 2 施設は知っているが、利用したことがない
- 3 施設を知らない

問 31 「ゆいぽーと」では次のような男女共同参画に関する業務を行っていますが、どのような役割を期待しますか。（○印はいくつでも）

- 1 男女共同参画についての講演会、シンポジウム、フォーラム等の開催
- 2 男性を対象とした講座の充実
- 3 女性を対象とした講座の充実
- 4 女性を対象としたキャリアアップや就労継続支援の充実
- 5 男性を対象とした相談機能の充実
- 6 女性を対象とした相談機能の充実
- 7 男女共同参画についての幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供
- 8 その他（ ）
- 9 特にない

問 32 男女の人権が尊重され、男女が対等なパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現していくために、あなたは広島市に対してどのようなことを望みますか。（○印はいくつでも）

- 1 条例や制度の面で見直しを行う
- 2 管理職への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 子育てや介護・看護に関するサービスの充実
- 7 女性や男性の生き方や悩みに関する相談窓口の充実
- 8 男性の家事、育児、介護などへの参加を促進する
- 9 男女共同参画に関する情報提供や総合相談、女性の就業支援などを総合的に行う拠点施設の充実
- 10 企業・職場におけるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の支援を進める
- 11 職場における男女の平等な取扱いについて企業への周知徹底
- 12 各国の女性との交流・協力の推進
- 13 その他（具体的に： ）
- 14 特にない

問 33 男女共同参画について、ご意見・ご要望がありましたら、お書きください。

～ご協力ありがとうございました～

※念のため、ご記入漏れがないかどうか、もう一度お確かめの上、同封の返信用封筒にて、ご返送ください。

お知らせ：

男女共同参画推進センター（「ゆいぽーと」）をご利用ください。

未就学のこどもを持つパパ・ママの交流会「育休カフェ」、再就職に備えている方などを対象としたセミナーなど、様々な講座・イベント（託児付きもあり）を開催しています。

お問合せ TEL：082-248-3320 FAX：082-248-4476

中区大手町五丁目6番9号



名 称 広島市男女共同参画に関するアンケート調査報告書
発 行 広島市市民局人権啓発部男女共同参画課
所 在 地 〒730 - 8586 広島市中区国泰寺町一丁目 6-34
電話 082-504-2108
FAX 082-504-2609
E-mail: danjo@city.hiroshima.lg.jp
発行年月 令和7年3月
登録番号 広 G7-2024-452



広島市男女共同参画推進シンボルマーク